

3 災害対応の整理（東日本大震災における応急対応活動の調査及び今後の課題の抽出）

3.1 応急対応活動調査の目的

東日本大震災における救助活動、避難行動等の応急対応活動の状況を把握し、今後の課題を抽出することを目的として、石巻市職員をはじめとした関係機関に対して傾聴ヒアリング、ワークショップ及びアンケートを行った。

3.2 調査の範囲

東日本大震災時の応急対応活動の主体及び担い手となった次の関係機関の職員等を調査対象とした。

- ・石巻市職員（学校教職員含む）
- ・消防署職員
- ・警察署職員
- ・医療機関（医師会、災害拠点病院）
- ・地域住民（自主防災会長）

3.3 石巻市職員の活動

3.3.1 傾聴ヒアリング及びワークショップの方法

石巻市職員の活動を把握するための方法として、傾聴ヒアリング及びワークショップを採用した。

なお、傾聴ヒアリング、ワークショップの具体的方法は、東北大学（佐藤翔輔助教、岩崎雅宏研究員）の助言を受け設定した。

3.3.2 傾聴ヒアリング

(1)調査目的の設定

災害の検証及び初動マニュアルの作成のため、災害発生から主に1週間の行動を把握することを目的とした。

(2)定性的調査手法の採用

災害時における行動の調査には、大きく定量的調査と定性的調査がある。

今回は、職員等の災害後の様々な判断や行動そのものを把握することに主眼を置き、定性的調査を採用することとした。

表 3-1 定量的調査と定性的調査の特徴

区分	適した目的	調査手法の特徴
定量的調査	代表的行動の概要を把握する。	選択肢を用いた調査（仮設検証的なアプローチ）
定性的調査	災害時の様々な判断や行動そのものを把握する。	インタビュー等による調査（事実探索的なアプローチ）

(3)傾聴ヒアリング手法の採用

定性的調査には主に表 3-2 に示す各種の調査方法がある。

今回は、市職員の応急対応活動の状況を把握するとともに、災害時の経験、見聞きした周囲の状況をありのままに把握するため、傾聴ヒアリングの手法を採用した。

また、後述するとおり、傾聴ヒアリングは数名（5 人以内）を 1 グループとして行い、相乗効果を期待するとともに、インタビュー後にワークショップを継続して行い、対象者が災害時に行った行動を把握した。

表 3-2 定性的調査の主な種類

区分	特 徴
パーソナル・インタビュー	一対一のインタビューで、一人の対象者の気持ちや態度を把握することができ、また深層の意識にふれることができる。
グループ・インタビュー	グループを対象としたインタビューで、グループを構成する各メンバー間のグループダイナミクス（相乗効果）が得ることができる。
傾聴ヒアリング （エスノグラフィ）	対象者の自発的回答を傾聴するインタビューで、よりインサイトな情報を得ることができる（心の声、洞察）。

3.3.3 ワークショップ

職員の災害時の救助活動及び周囲の状況を再現するため、地震発生時から概ね1週間の初動期間における行動を振り返ってもらい、その状況を聴取した。

手法としては、通常のインタビュー形式（質問に対する回答）では、質問者の影響や無意識な誘導が対象者に及ぶおそれがあると考え、極力質問を控え、記憶を辿りながらの独白を聴く、傾聴ヒアリング形式を採用した。

傾聴ヒアリングの時間はグループ（5人以内の少人数）を単位として、約1時間程度で行った。

傾聴ヒアリングの記録は、音声と動画として記録し、音声は別途文字に書き起こした。

図 3-1 傾聴ヒアリングの様子



3.3.4 傾聴ヒアリング・ワークショップの期間

ワークショップは、傾聴ヒアリングに続けて、グループの各員が傾聴ヒアリングで語った応急対応活動や災害の状況をカードに記入し、模造紙上に時系列的に整理する方法を採用した。

ワークショップの結果は、音声、動画として記録するとともに、カードを貼り付けた模造紙の画像（写真）を記録した。傾聴ヒアリングと同様に、音声は文字に書き起こしている。また、模造紙はエクセル形式にデジタル化した。

図 3-2 ワークショップの様子



図 3-3 ワークショップでの成果の例（一部）



3.3.5 傾聴ヒアリング・ワークショップの対象者

ヒアリング及びワークショップの対象者は、表 3-3 及び表 3-4 に示す通り、災害対策本部各班の要員、または各施設の所属職員としての応急対応活動に当たった職員を各部班から抽出した。概ね各班から 1 名以上を抽出した。

表 3-3 傾聴ヒアリング及びワークショップの対象者

区分	対象者 (人)	傾聴ヒアリング (人)	ワークショップ (人)
市職員	170	163	154

3.3.6 傾聴ヒアリング及びワークショップ結果

図 3-3 をデジタル化し、巻末資料に添付した（巻末資料 2.2 86 頁参照）。

ヒアリング及びワークショップ結果のうち、市職員の災害時の初動活動に係る部分について、単文（センテンス）として抽出・整理した。ここで、複数の行動や状況、今後の災害対応時の目標等の事象が一文内に含まれる場合には、この文を分割して再整理した。

次に、単文を下表 3-5 に示す各区分に分類した上で、市災害対策本部体制の災対部単位へ振り分けて、行動等一覧表として整理した。

次頁以降にこれらの整理結果を示す。

表 3-5 ヒアリング結果・ワークショップ結果についての再整理区分

ヒアリング結果・ワークショップ 結果についての再整理区分	区 分 の 内 容
実際の対応（行動）	対象者が実際に行った対応（行動）
状況（ハザード）	対象者が把握・認識していた災害（ハザード）の状況
状況（被害）	対象者が把握・認識していた被害の状況
状況（その他）	状況（ハザード）、状況（被害）以外の状況
資源（ヒト）	災害対応に係わる「ヒト」に関する状況
資源（モノ）	災害対応に係わる「モノ」に関する状況
資源（カネ）	災害対応に係わる「カネ」に関する状況
今後の目標	東日本大震災を受け、対象者が次の災害発生時において、実施すべきと考えている目標に関するもの

表 3-4 ヒアリング・ワークショップの対象

月日	曜	班	会場	9:30～11:30	人	会場	13:00～15:00	人	会場	15:00～17:00	人
1月19日	木	A	4階打合せスペース	災対総務部 総務課	1	4階打合せスペース	調整		4階打合せスペース	災対総務部 財政課	欠
				人事課	1					議会事務局	1
				管財課	1						
		B	4階打合せスペース	災対企画部 総合政策課	1	4階打合せスペース	調整		4階打合せスペース	災対生活環境部 環境課	2
				秘書広報課(広報担当)	1					災害廃棄物対策課	1
				市民協働推進課	1					税務課(課税管理室)	2
				情報政策課	1						
				行政改革課	1						
1月20日	金	A	402会議室	災対福祉部 福祉総務課	2	4階消防防室	災対福祉部 保護課	1	4階消防防室	災対福祉部 石巻保育所	
				生活再建支援室	1		避難所運営対策室	1		門脇保育所	
				仮設住宅管理室	1		障害福祉課	1		津波保育所	
				市民相談センター	1		子育て支援課	1		渡波保育所	
		B	402会議室	災対生活環境部 市民課	1				4階消防防室	災対健康部 介護保険課	1
				蛇田支所	1					保健年金課	1
				渡波支所	1					夜間急患センター	1
				稲井支所	1						
				萩浜支所	1						
		C	石巻警察署 9:00～11:00	警察 蛇田交番	2						
				中里交番	1						
1月21日	土										
1月22日	日										
1月23日	月	A	4階打合せスペース	災対福祉部 鹿妻保育所	1	4階打合せスペース	災対福祉部 大川保育所	1	4階打合せスペース	災対福祉部 相川保育所	1
				はまなす保育所	1		雄勝保育所	1		牡鹿第一保育所	1
				萩浜保育所	1		橋浦保育所	1		牡鹿第二保育所	1
							吉浜保育所	1		井内保育所	1
		B	402会議室	災対産業部 商工観光課(商工担当)	1	402会議室	災対産業部 水産課	1	402会議室	災対病院部 石巻市立病院事務部門総務課	1
				商工観光課(観光担当)	1		水産物地方卸売市場管理事務所	1		石巻市立病院看護部門	1
				産業復興課	2		農林課	1		市立牡鹿病院	1
		C	402会議室	災対建設部 都市計画課	1	402会議室	災対建設部 道路課	1	402会議室	災対教育部 教育総務課	1
				河川港湾室	1		建築課	1		学校教育課	1
				基盤整備課	1		建築指導課	1		学校管理課	1
							下水道課	1			
		D							石巻赤十字病院 17:00～18:00		
									災害拠点病院 総括部門		2
1月24日	火	A	河南総合支所	災対河南支所	2	河北総合支所	災対河北支所	2	桃生総合支所	災対桃生支所	2
				災対教育部 河南公民館	1		災対教育部 河北公民館	1			
		B	河南総合支所	消防 矢本消防署河南出張所	1	河北総合支所	消防 河北消防署	1	桃生総合支所	消防 河北消防署桃生出張所	1
		C	4階打合せスペース	災対教育部 生涯学習課	1	4階打合せスペース	災対教育部 中央公民館	1	4階打合せスペース	災対教育部 津学校給食センター	1
				体育振興課	1		渡波公民館	1		渡波学校給食センター	1
				図書館	1		稲井公民館	1		牡鹿学校給食センター	1
				歴史文化資料展示施設整備対策室	1						
				総合運動公園管理事務所	1						
		D	石巻警察署 9:00～11:00	警察 石巻警察署 交通課	1						
				矢本交番	1						
1月25日	水	A	河南総合支所	災対教育部 広瀬小学校	1	河北総合支所	災対教育部 飯野川第一小学校	1	桃生総合支所	災対教育部 中津山第一小学校	1
				須江小学校	1		大谷地小学校	1		中津山第二小学校	1
				新谷地小学校	1		二俣小学校	1		桃生小学校	1
				鹿又小学校	1		大川小学校	1			
				河南東中学校	1		飯野川中学校	1			
							大川中学校	1			
							河北中学校	1			
		B	4階消防防室	災対教育部 石巻小学校	1	4階41作業室	災対教育部 釜小学校	1	4階41作業室	災対教育部 渡波小学校	1
				住吉小学校	1		山下小学校	1		稲井小学校	1
				門脇小学校	1		蛇田小学校	1		向陽小学校	1
				湊小学校	1		東浜小学校	1		貞山小学校	1
				湊第二小学校	1					開北小学校	1
		C	石巻警察署 9:00～11:00	警察 石巻警察署 刑事第一課	1	石巻赤十字病院	災害拠点病院 避難所救護部門	1			
				蛇田交番	1						
1月26日	木	A	牡鹿総合支所	災対牡鹿支所	2	雄勝総合支所	災対雄勝支所	2	北上総合支所	災対北上支所	2
				災対教育部 牡鹿公民館	1		災対教育部 雄勝公民館	1			
		B	牡鹿総合支所	消防 女川消防署牡鹿出張所	1	雄勝総合支所	消防 女川消防署雄勝出張所	1	北上総合支所	消防 河北消防署北上出張所	1
		C	4階打合せスペース	災対教育部 万石浦小学校	1	4階打合せスペース	災対教育部 石巻中学校	1	4階打合せスペース	災対教育部 萩浜中学校	1
				大街道小学校	1		住吉中学校	1		渡波中学校	1
				中里小学校	1		門脇中学校	1		稲井中学校	1
				鹿妻小学校	1		湊中学校	1		山下中学校	1
				万石浦中学校	1		蛇田中学校	1		青葉中学校	1
										萩浜小学校	1
		D	石巻警察署 9:00～11:00	警察 石巻警察署 地域課	1	石巻赤十字病院	災害拠点病院 薬剤部門	1	石巻赤十字病院	災害拠点病院 公衆衛生部門	2
				中央交番	1		避難所救護部門	2		薬剤部門	1
				中里交番	1						
1月27日	金	A	牡鹿総合支所	災対教育部 鮎川小学校	1	雄勝総合支所	災対教育部 雄勝小学校	1	北上総合支所	災対教育部 相川小学校	1
				大原小学校	1		船越小学校	1		橋浦小学校	1
				谷川小学校	1		大須小学校	1		吉浜小学校	1
				牡鹿中学校	1		雄勝中学校	1		北上中学校	1
		B	402会議室	災対健康部 健康推進課	3		大須中学校	1			
1月28日	土										
1月29日	日										
1月30日	月	A	消防本部	消防 消防本部 総務課	1	消防本部	消防 消防本部 予防課	1	消防本部	消防 消防本部 警防課	1
		B	4階打合せスペース	災対教育部 石巻市立女子高等学校	1	4階打合せスペース	災対教育部 住吉幼稚園	1	4階打合せスペース		
				石巻市立女子商業高等学校	1		湊幼稚園	1			
						14:30～16:30	稲井幼稚園	1			
1月31日	火	A	消防本部	消防 消防本部 通信指令課	1	消防本部	消防 石巻消防署	1	消防本部	消防 石巻消防署南分署	1
		B	消防本部	消防 石巻消防署中央出張所	1	消防本部	消防 石巻消防署湊出張所	1	消防本部	消防 石巻消防署渡波出張所	1
2月7日	火	A	402会議室	災対建設部 都市計画課	1	402会議室	災対総務部 防災対策課	3	402会議室	災対福祉部 石巻保育所	1
				河川港湾室	1					門脇保育所	1
				建築課	1					津波保育所	1
										渡波保育所	1
		B	402会議室	災対総務部 防災対策課	3	402会議室	災対総務部 防災対策課	3	402会議室	災対総務部 防災対策課	3
計					81			62			61

3.3.7 ヒアリング・ワークショップのまとめ

表 3-6 市職員の行動等整理一覧表(1) - 災対総務部【総務課、管財課、行政改革課、人事課、議会事務局、防災対策課】

区 分	3 月 11 日(金)1 日目	3 月 12 日(土)2 日目	3 月 13 日(日)3 日目	3 月 14 日(月)4 日目	3 月 15 日(火)5 日目以降
実 際 の 対 応	○議会事務局 ・本庁舎から屋外避難（一時避難） ・二次避難（屋外一時避難から羽黒山） ○総務課 ・本庁収容避難者の状況確認 ・本庁建物の状況確認（写真撮り） ・食料の搬入（本庁 1 F エスタから上階へ） ○管財課 ・庁内の被害状況確認 ・職員の安否確認 ○行政改革課 ・物資の搬入（6 F 倉庫へ） ・食料の搬入(本庁 1 F エスタから上階へ避難者用） ・避難所運営へ職員派遣（市民会館） ○人事課 ・本庁収容避難者の負傷者確認	○議会事務局 ・議員の安否確認 ・議員への情報提供 ○総務課 ・災对本部会議への出席 ○管財課 ・非常発電用燃料（A 重油）の確保 ○行政改革課 ・部内課長会議出席 ○人事課 ・食料の搬入（本庁 1 F エスタから上階へ） ・飲料水の確保 ・燃料の調達（提供者との交渉） ・燃料の配送依頼（自衛隊等） ・公用車への給油	○管財課 ・水の確保（飲料用、トイレ用）	○議会事務局 ・避難所運営へ職員派遣（学校体育館等） ○総務課 ・食料以外の支援物資受付・運搬 ・人員確保（避難所運営要員） ・食料以外の物資調達・購入（避難所用） ・食料以外の物資分配・配送（避難所用） ・家族の安否確認 ○管財課 ・本庁以外の被害の状況把握（支所、総合支所） ○行政改革課 ・食料の配送（指定避難所以外） ・食料配布ニーズの収集 ・食料配布ニーズの伝達（関係各課へ）	○議会事務局 ・市民課窓口業務対応協議 ○総務課 ・災害対応車両の確保 ・公印の押印管理 ・関係各部署への文書配達 ・物資の調達（市内外の小売店から購入） ・避難所運営職員の派遣調整（保護課から要請） ○管財課 ・災害対応車両の確保（レンタカー） ・庁舎応急復旧策の協議（本庁、総合支所、支所） ・施工中の公共工事への対応方法の決定・通知（3/25～3/30） ・電話回線の増設開始（3/23～） ・入浴バスの運行交渉 ○行政改革課 ・情報ファイルの配布（指定避難所以外） ・避難所に滞留する余剰物資の回収 ○人事課 ・支援職員の受入調整開始（3/23～） ・支援団体と石巻市各課との調整開始（3/23～） ・支援物資の受入調整（燃料） ・職員への食事の手配・提供(3/15) ・職員の精神保健活動開始（3/25～） ・物資の配送（燃料、食料） ・人事に関する事務（組織、異動） ・殉職職員の遺族対応（追悼式の開催） ・職員の衣服の確保
状況（ハザード）					
状 況（ 被 害 ）					
状 況（ そ の 他 ）					
資 源（ ヒ ト ）					
資 源（ モ ノ ）					
資 源（ カ ネ ）					
今 後 の 目 標	○総務課・行政改革課・議会事務局 ・被災状況の情報発信（リアルタイム）	○総務課・行政改革課・議会事務局 ・被災状況に応じた臨機応変な職員行動 ・市役所から現場施設へ行くための移動手段（公用車等）の確保 ・情報のタイムラグの解消		○総務課・行政改革課・議会事務局 ・ニーズの分析、発信 ・安否情報の迅速化	

表 3-7 市職員行動等整理一覧表(2) - 災対総務部【総務課、管財課、行政改革課、人事課、議会事務局、防災対策課】

区 分	3 月 11 日(金)1 日目	3 月 12 日(土)2 日目	3 月 13 日(日)3 日目	3 月 14 日(月)4 日目	3 月 15 日(火)5 日目以降
実際の対応	○ 防災対策課 ・ 時系列データ入力 ・ 情報収集、整理（ホワイトボードへ 県防災 FAX 等の情報） ・ 本庁収容避難者への対応（紙おむつ配布など） ・ 情報収集（県防災 FAX 等から消防、日赤、警察の状況を収集） ・ 放送対応（防災無線同報系による） ・ 情報収集（防災無線移動系による） ・ 救助及び患者移送の調整（石巻赤十字病院と調整防災無線による） ・ 自衛隊への救助要請（石巻赤十字病院から） ・ テレドーム入力（結果的に配信されず） ・ 食料の搬入（本庁 1 F エスタから上階へ） ・ 本庁収容避難者用の毛布の手配指示 ・ 本庁収容避難者の食料、物資の調達 ・ 救助活動及び物資調達の調整（宮城県、自衛隊、消防）	○ 防災対策課 ・ 各部からの要請取りまとめ ・ 支援物資の要請（自衛隊へ伝達） ・ 救急の伝達要請対応（駆け込み要請を衛星電話で消防本部へ伝達） ・ 救助要請（自衛隊へ） ・ 避難所への物資配送（羽黒山、日和山の各避難所へ） ・ 出動要請（消防団へ） ・ 連絡調整（本庁と消防団） ・ 避難所情報取りまとめ ・ 避難所・避難者リスト作成開始 ・ 宮城県へ支援物資を要請・調整（衛星電話による） ・ 物資の搬出（7 F から） ・ 石巻赤十字病院から遺体搬送の要請（生活環境部へ転送） ・ 石巻赤十字病院から避難者移送を指示	○ 防災対策課 ・ 市立病院の救援対応 ・ 石巻赤十字病院に滞留する患者の避難所への搬送（マイクロバスの運行） ・ 透析患者、重症患者、寝たきり患者等の受入先の確保 ・ 救出避難者の受入避難所を専修大に開設 ・ 情報収集（衛星電話による） ・ 宮城県へ支援物資を要請（衛星電話による） ・ 道路状況整理（通行可能マップ作成） ・ 支援物資搬送先の伝達（衛星）	○ 防災対策課 ・ 県と石巻市各課との物資調整 ・ 給水の調整 ・ 防災無線の電源確保（バッテリー確保） ・ 向陽小学校に福祉避難所開設を依頼（校長に了承を得る） ・ ボート、胴長（長靴）の調達 ・ 仮設栈橋設置（本庁孤立解消） ・ 消防団の被害状況確認開始（団員の殉死等）	○ 防災対策課 ・ 来客対応、ガソリン緊急車両、安否確認他 ・ ヘリ搬送避難者の移動補助（運動公園へ自衛隊ヘリで搬送される避難者の補助） ・ 運動公園へ派遣（安否確認及び避難者対応） ・ 各部からの要請取りまとめ（受信伝票（様式）の作成） ・ 総合支所との連絡調整開始（衛星） ・ 緊急車両通行許可証発行の開始
状況（ハザード）					
状況（被害）					
状況（その他）	○ 防災対策課 ・ 門脇小学校の火災対応 ・ 避難所の開設 ・		○ 防災対策課 ・ 石巻赤十字病院にトリアージ後の患者が滞留（軽傷患者等） ・ 石巻赤十字病院に避難者が滞留し、病院機能に支障が出る可能性があった	○ 防災対策課 ・ 石巻赤十字病院に認知症、車椅子、寝たきりの避難者が滞留。病院では収容不能となる	
資源（ヒト）					
資源（モノ）			○ 防災対策課 ・ 衛星電話導入開始		
資源（カネ）					
今後の目標	○ 防災対策課 ・ 災害用備品防災グッズの各家庭での備蓄及び啓蒙 ・ 避難所、避難道路の確認 ・ 職員の災害に対する意識啓発 ・ 情報伝達手段の確保 ・ 情報通信の確保 ・ 情報収集後の円滑な活動の確保 ・ 防災無線（屋外型）の広報文の再検討（簡潔明瞭に）	○ 防災対策課 ・ 各部・各課の役割を明確化 ・ 発災直後から行動できる体制が必要 ・ 食料の確保・配給、ボートの確保策の検討 ・ 通信手段の確保 ・ ヘリ運行計画の整備（ヘリ救助要請後の混乱防止） ・ 複数の通信手段の確保 ・ 防災対策課への情報集中の防止 ・ 各部班の初動体制（「何したらいいのか分からない」を無くす） ・ 遠近の医療機関の確保（仙台市など） ・ 避難所の状況把握 ・ 食料・飲料水の確保（市民備蓄も含む）	○ 防災対策課 ・ トリアージされた患者の輸送手段や輸送先の確保 ・ 要援護者（ケガ人ではない）の受入先の確保 ・ 日赤にとどまらなくてよい方々の移送先の基幹病院機能を持つ病院の指定（県内外）（搬送された患者の家族が探しやすくなる）	○ 防災対策課 ・ 各職員に業務を明確に割り当てる（応援職員ではなく） ・ 本部連絡室への問合せの軽減（各部が把握している情報の本部連絡室へ問合せが多い）	○ 防災対策課 ・ マスコミ対応部班の決定（防災対策課 or 広報広聴課）

表 3-8 市職員行動等整理一覧表 - 災対総務部(3)【総務課、管財課、行政改革課、人事課、議会事務局、防災対策課】

区 分	3月11日(金)1日目	3月12日(土)2日目	3月13日(日)3日目	3月14日(月)4日目	3月15日(火)5日目以降
実際の対応	○ 防災対策課 ・ 避難所への職員派遣 ・ 避難所の状況把握と要望対応 ・ 市立病院の患者搬送の要請（自衛隊へ） ・ 門脇小学校の火災消火のための空中散布を要請（自衛隊へ） ・ 携帯電話、FAX による情報収集 ・ 情報収集（防災無線移動系による） ・ 避難所へ毛布配送を指示(向陽小学校から蛇田小学校、蛇田中学校) ・ 放送対応（総合支所、支所、石巻赤十字病院） ・ 災害対策本部の開設 ・ 地震等の状況把握（規模など） ・ 宮城県、自衛隊との連絡調整（仙台にて） ・ 救助要請の受付及び各機関への転送 ・ 支援物資提供申出の受付及び産業部への転送 ・ 避難所からの物資要請の受付及び各部課（産業部、総務部総務課・人事課）への転送 ・ 被害情報の収集 ・ 宮城県にヘリの出動を要請 ・ 消防署へ救助を要請 ・ 宮城県からの情報を災害対策本部へ報告 ・ 報道へ物資提供等に関する依頼	○ 防災対策課 ・ 救助要請（ヘリ） ・ 患者搬送用マイクロバスの調達 ・ 受入患者のための避難所開設及び担当課への連絡 ・ 災害対策本部の開催（定期 1 日 3 回） ・ 自衛隊との情報交換及び依頼 ・ 宮城県からの情報収集及び各部課への転送 ・ 防災無線中継局の復旧のための人員確保（情報政策課へ要請ヘリで発電機、燃料を輸送） ・ 宮城県への物資要請（要請手順のルール作りも並行） ・ 本庁外部の情報収集（職員派遣による） ・ 国及び宮城県への各種要請 ・ 宮城県及び消防へ危険物の処理を要請 ・ 防災無線対応（移動局で通信業務） ・ 自衛隊へ救助要請（昼は救助活動、夜は避難所への物資の配送を依頼） ・ 外部からの各種要請を担当部課へ転送 ・ 自衛隊へ毛布、水の配送を要請	○ 防災対策課 ・ 避難所への物資配送（羽黒山、日和山の各避難所へ） ・ 自衛隊への安否確認要請（市民等からの安否情報確認のため） ・ 県との物資調整 ・ 石巻赤十字病院に滞留する患者の搬送		
状況（ハザード）					
状況（被害）					
状況（その他）	○ 防災対策課 ・ 日和山各避難所に避難者多数	○ 防災対策課 ・ 被害状況が整理されてくる ・ 防災無線中継局がダウン	○ 防災対策課 ・ 仮設栈橋設置される ・ 港湾病院からの救援要請		
資源（ヒト）					
資源（モノ）					
資源（カネ）					
今後の目標			○ 防災対策課 ・ 災害対策会議での報告事項の徹底 ・ 事前の各災対部の対応確認（物資支援、避難所運営など） ・ 安否確認手法の整理（避難所名簿）		

表 3-9 市職員行動ほか整理表 - 災対企画部（総合政策課・秘書広報課・市民協働推進課・情報政策課・行政改革課）

区 分	3 月 11 日(金)1 日目	3 月 12 日(土)2 日目	3 月 13 日(日)3 日目	3 月 14 日(月)4 日目	3 月 15 日(火)5 日目以降
実際の対応	- 情報の整理（模造紙へ書き込み）（14：00） - 情報収集を開始（14：46） - 駅前広場への避難(14：50) - 庁内点検(15：00) - 家族の安否確認(15：00) - 本庁舎から屋外避難（一時避難）（15：10） 2 班体制で広報班派遣(15：20) - 情報整理の準備(15：30) - 本庁収容避難者用の椅子の設置（本庁 2 F, 3 F） - 食料の搬入（本庁 1 F エスタから上階へ） - 情報収集（テレビ等） - 本部情報、記者投込開始（18：00） - 事務室の片付け - 庁議室の作業を交替（21：00）	食料確保の指示受領	- 支援物資受け取りに出動（石巻専修大学で自衛隊から。）(10：30) - 避難所対応（専修大） - 避難所状況報告（石巻専修大の状況を石巻赤十字病院から本庁へ） - 避難所開設準備（専修大）(20：00)	避難所運営支援	- 情報掲示の開始（本庁 2 F）(3/15) - 任務変更（専修大→本庁） - 避難所での情報掲示開始（ライフライン復旧状況、避難所情報等）（3/16～） - 食料・物資の配送（避難所、病院、在宅避難者へ）(3/15～3/17) - 食料・物資の配送（避難所以外の被災者へ）(3/16～) - 食料の配送（トラックで避難所へ）(3/16～) - 本庁での市民対応（問合せ、苦情等）(3/17～) - 情報掲示の開始（本庁 2 F 道路通行止等）(3/17～) - 避難所情報の整理指示(3/17) - 避難所情報の整理開始(3/17) - 避難所からの物資要望の整理指示(3/17) - 避難所からの物資要望の整理開始(3/17) - 指定避難所以外（民間倉庫）への避難状況報告（専修大学→本庁）(3/18) - 自治会長訪問調査(3/18) - 自治会への食料等の配送(3/19) - 総合支所への応援（3/20～4/20） - 情報掲示の開始（避難者名簿本庁 2 F） - 総合案内窓口開設（3/24） - 市報臨時増刊発行（3/27～） - 市報臨時増刊配布（避難所へ）(3/27～)
状況（ハザード）		周辺状況を目視で確認(5:00)			
状況（被害）	電話不通（15：00）				
状況（その他）			ソフトバンク中継局設置（専修大）		- 全国メディア取材ラッシュ始まる（3/16～） - 避難所 251 ヶ所、避難者 5 万人（3/17 の日最大） - 町内会長来庁→食料配布の要望（3/17） - NTT 衛星電話（専修大に 10 台程度設置）(3/17) - ソフトバンク中継局設置（専修大）(3/17) - 診療所設置（於：専修大学、実施：石巻赤十字病院）(3/18) - 指定難所以外（民間倉庫）に避難者有り(3/18)
資源（ヒト）				避難者の搬送（入）・受入（専修大）	
資源（モノ）		支援物資届かず（自衛隊へリ専修大）		石巻（FM）の放送開始（19：00）	
資源（カネ）					
今後の目標					

表 3-10 市職員行動ほか整理表 - 災対生活環境部(1)【市民課、稲井支所、環境課、税務課、避難所運営対策室、蛇田支所、渡波支所】

区 分	3月11日(金)1日目	3月12日(土)2日目	3月13日(日)3日目	3月14日(月)4日目	3月15日(火)5日目以降
実際の対応	○市民課・稲井支所 ・行方不明者届けの突合（警察との連携） ○稲井支所 ・避難指示（職員へ） ・避難勧告（支所周辺へ） ・一時避難（庁舎屋上へ） ○環境課 ・一時避難（総合体育館へ） ・職員の確認 ・災対生活環境部で待機 ・情報の収集と職員の安全確認 ○市民課 ・一時避難（駅前広場へ） ・遺体処理手順の確認、準備 ・行方不明者届出について処理方法検討 ・証明書自動交付機の現金を抽出 ・精算処理窓口の現金を確認 ・指示により石中体育館から職員を戻す ○蛇田支所 ・行政委員役員の安全確保 ・来庁者の安全確保 ・来庁者への業務停止案内 ・避難所開設支援（蛇田小学校） ・避難所へ職員派遣（蛇田公民館） ・避難者への案内対応	○稲井支所 ・食料調達 ○環境課 ・情報の収集 ○蛇田支所 ・安否確認者の窓口対応（情報収集と提供） ・病人の搬送（避難所から石巻赤十字病院へ）	○稲井支所 ・各避難所の状況確認（要望、汲み取りなど） ・地域の被害状況確認（道路、家屋など） ○環境課 ・被災情報班編成 ・浸水状況調査 ・遺体収容班編成 ・遺体安置所準備 ○市民課 ・石巻中学校、門脇中学校にいる市職員と連絡 ・総合体育館に仮遺体安置所開設のため職員を派遣 ○蛇田支所 ・行政委員に炊き出しの依頼（蛇田小学校） ・職員による炊き出し（蛇田小学校） ・調達物資の搬送（ツルハ、ホームックなどから総合運動公園へ）	○稲井支所 ・水、食物、衣類の支援を依頼 ・ボランティア受け入れの手伝い ・燃料の木片の確保 ・避難者の要望対応 ○環境課 ・ごみ、し尿処理施設の状況、復旧の見通し確認 ・用品の確保（簡易トイレ、ドライアイス、棺、白布等） ・汲み取り依頼 ・遺体搬送を要請（河北・北上・雄勝） ・仮埋葬の検討 ○市民課 ・総合体育館（遺体安置所）の人員配置を検討 ・避難所運営（山の手避難所） ・遺体安置所運営のため職員を引き戻す ・捜索者の受付を分ける ・捜索者対応を市民課→保険年金課へ ○蛇田支所 ・蛇田小学校炊き出し開始 ・窓口対応 ・炊き出し支援 ・病人の搬送（蛇田小学校、向陽小学校から石巻赤十字病院へ） ・市民へ毛布の提供を依頼 ・市民からの提供毛布を蛇田小学校、向陽小学校へ搬送	○環境課 ・遺体収容を警察と協議（3/15） ○市民課 ・遺体安置所の運営のため人員配置 ・遺体安置所の運営 ・証明書発行体制を検討 ・総合体育館の遺体安置収容力を超える。第二安置所開設
状況（ハザード）					
状況（被害）					
状況（その他）	○市民課 ・PCネットワークは使用不可	○蛇田支所 ・防災無線、通信不能（3/12AM 7:00）		○環境課 ・避難所に毛布が不足 ○市民課 ・避難者（捜索者）が本庁へ集まる	○環境課 ・石巻斎場再開（東北電力が電力車を配置）（3/15） ○蛇田支所 ・支所に通電（3/16の12:00） ・避難所の名簿が送付される（窓口で提供）（3/16夕方） ・衛星電話の通話開始（3/18の10:45） ・水道復旧（3/18の16:00）
資源（ヒト）					
資源（モノ）					
資源（カネ）					
今後の目標					○農林課 ・人員（マンパワー）の確保

表 3-11 市職員行動ほか整理表 - 災対生活環境部(2)【市民課、稲井支所、環境課、税務課、避難所運営対策室、蛇田支所、渡波支所】

区 分	3 月 11 日(金)1 日目	3 月 12 日(土)2 日目	3 月 13 日(日)3 日目	3 月 14 日(月)4 日目	3 月 15 日(火)5 日目以降
実際の対応	○税務課 ・一時避難（ふれあい広場へ） ・地震後庁内の状況確認 ・市民の安全確保、確認 ・駅前広場に集合 ・金庫内の現金確認及び保管を指示 ・一時避難（駅前広場へ） ・来庁者へ安全行動の指示 ・市民に避難指示 ○渡波支所 ・広報の指示 ・一次避難所の開設準備 ・仮設トイレ設置を指示 ・避難者名簿作成を指示 ○避難所運営対策室 ・床に段ボールを敷いて寝た ・避難所へ移動	○税務課 ・遺体安置所の開設 ○渡波支所 ・食料の調達指示 ・炊き出し等の指示	○税務課 ・データ確認チェック ○渡波支所 ・支所修理と片付け ・提供物資の運搬補助 ○避難所運営対策室 ・緊急事態の伝達		○渡波支所 ・被害状況調査（聞き取り）（3/16から） ○避難所運営対策室 ・避難所の要望を毎日、書面で本部に報告 ・避難場所、遺体安置所のサポート
状況（ハザード）					
状況（被害）					
状況（その他）	○税務課 ・地震発生時、ロッカーを押さえていた ・駅前広場に集合（20～30分は指示がなかったと思う） ○渡波支所 ・机上のパソコンを押さえていた	○避難所運営対策室 ・避難所では全ての物品が不足（食品・毛布・トイレ、人）	○税務課 ・1日目は緊急食なし、2日目パン、おにぎり		
資源（ヒト）					
資源（モノ）					
資源（カネ）					
今後の目標					

表 3-12 市職員行動ほか整理表 - 災対福祉部(1)【福祉総務課、市民相談センター、保護課、障害福祉課、子育て支援課】

区 分	3 月 11 日(金)1 日目	3 月 12 日(土)2 日目	3 月 13 日(日)3 日目	3 月 14 日(月)4 日目	3 月 15 日(火)5 日目以降
実際の対応	○福祉総務課 ・庁舎内の避難者に毛布を配布 ・避難者に物資を配布 ・内陸部で米等の食料を購入 ・炊き出しの補助 ・日赤に毛布を配付 ・避難所に毛布を配付 ・夜 7 時頃庁舎外に食料を搬出 ・本庁者前の広場に避難 ・広場で避難者を日和山へ誘導 ・テレビで情報収集 ・市民から救出の依頼を受領 ・駅前広場へ避難、1 時間程度待機 ・テレビ等で情報収集 ・部内情報の取りまとめ ・エスタの物資確保補助 ・災害対策本部連絡員として会議に出席 ・本部と福祉部と連絡調整 ○障害福祉課 ・高台の備蓄品の搬出 ○子育て支援課 ・一時避難（屋外へ） ・食料調達の指示	○福祉総務課 ・夜間 庁舎内の避難者へ食料を配付（3/12） ○障害福祉課 ・断水のためトイレ用水の運搬 ○保護課 ・食料配給 ○子育て支援課 ・非常食（炊出）配付 ・炊き出し準備	○障害福祉課 ・市内の商店で食料調達 ・避難所での勤務開始 ○保護課 ・指定避難所へ出向 ・避難所毎の名簿作成 ○子育て支援課 ・避難所へ配置	○福祉総務課 ・避難所名簿作成の準備 ・災害ボランティアセンターに補助金の支払い ・災害ボランティアセンター開設に伴う連絡体制の確保（無線） ・住民からの電話対応 ・災害義捐金の受入準備 ・20 時頃渡波小避難所勤務へ出発 ・死亡者・病人の対応のため、交番や消防に連絡 ・公用車の被害状況の確認を試みるが、浸水のため断念 ○障害福祉課 ・福祉避難所の入所調整開始 ○保護課 ・食料調達の要望を受領 ○子育て支援課 ・各保育所へ児童の安否確認の指示 ・保育所施設を徒歩で現地調査	○福祉総務課 ・各避難所へ名簿写しを送付 ・各避難所へ名簿を随時追加 ・生活再建支援金、災害弔慰金等の申請準備 ・庁舎内避難者への物資配布 ○障害福祉課 ・手話通訳者の派遣受入 ・福祉用具の調達開始 ・ガソリン優遇証明書の発行開始（人工透析患者用） ・送迎バスの運行開始（人工透析患者用） ・市内障害福祉施設の被害状況調査 ・障害者相談支援窓口を開設（庁舎内） ・障害者通所事業所利用者等の安否確認 ○子育て支援課 ・児童引渡し完了
状況（ハザード）					
状況（被害）	○福祉総務課 ・元倉の高齢者アパートで被災				
状況（その他）	○福祉総務課 ・庁舎前の道路で水位が 1m に上昇 ○保護課 ・庁外へ避難（15:30～庁舎に戻る） ○子育て支援課 ・震災発生、6F 通路扉抑え、収まるのを待つ ・火災誤報後、津波により高台避難の広報			○福祉総務課 ・湊、渡波方面に通行可能となる ・名簿作成の対応ができなかった	○福祉総務課 ・教職員から避難所の運営を全て依頼される ○障害福祉課 ・避難所を移動（環境条件が良い場所へ）
資源（ヒト）					
資源（モノ）					
資源（カネ）					
今後の目標					

表 3-13 市職員行動等整理一覧表 - 災対福祉部(2)【福祉総務課、市民相談センター、保護課、障害福祉課、子育て支援課】

区 分	3 月 11 日(金)1 日目	3 月 12 日(土)2 日目	3 月 13 日(日)3 日目	3 月 14 日(月)4 日目	3 月 15 日(火)5 日目以降
実際の対応	○市民相談センター ・他職員と駅前広場に避難 ・男子職員と女子職員 10 人くらいでロッカーに戻る ・誰かの避難指示で日和山へ向う ・門脇中に避難 ・相談センター主査から庁舎への帰庁命令を受領 ・避難所の門脇中に留まる ・夜間も避難者を誘導・要望や世話対応 ・高齢者の介護 ・家族を捜索している方々への対応 ・体育館内の避難者のみに物資を配布 ・避難者名簿の作成 ・透析患者に対応 ・避難者からの苦情・要望に対応 ・学校側と避難者対応の協議			○市民相談センター ・避難所対応 ・仮設トイレの設置 ・名簿作成	○市民相談センター ・震災孤児対応 ・コールセンター応援 ・避難所からの DV、要保護児童の対応
状況（ハザード）					
状況（被害）					
状況（その他）	○市民相談センター ・学校トイレが満杯となり最悪の状況 ・学校から市へ不満			○市民相談センター ・囑託は自宅待機	
資源（ヒト）					
資源（モノ）					
資源（カネ）					
今後の目標	○福祉総務課・市民相談センター ・避難所（学校）と市の役割を明確化 ・避難所への仮設トイレ設置 ・庁舎（災害本部）避難所との通信確保 ・情報収集手段の確保（媒体、電源など） ・非常用発電装置 ・大規模災害発生時の個々の職員の役割明確化 ・市職員の確認と学校職員等の人数確認と役割分担の確認 ○保護課・障害福祉課・子育て支援課 ・食料の確保 ・情報収集手段の確保（媒体、電源など） ・人員（マンパワー）の確保（臨時の雇用等） ・津波を想定した避難所指定の検討	○保護課・障害福祉課・子育て支援課 ・指定避難所の学校教員の立場の明確化 ・災害対応の調整部署の一元化	○保護課・障害福祉課・子育て支援課 ・市街地避難の決定のタイミング ・備蓄物を各保育所に配置（現在、水のみ対応）	○福祉総務課・市民相談センター ・情報収集手段の確保（テレビ、ラジオから） ・企業との連携（事前協定）	○福祉総務課・市民相談センター ・市庁舎への避難者収容の回避（市庁舎機能の確保）

表 3-14 市職員行動等整理一覧表 - 災対福祉部(3) 【保育所】

区 分	3 月 11 日(金)1 日目	3 月 12 日(土)2 日目	3 月 13 日(日)3 日目	3 月 14 日(月)4 日目	3 月 15 日(火)5 日目以降	
実際の対応	○ はまなす保育所 ・ 2 階に避難 ・ 児童の引渡し ・ 児童、職員と渡波公民館へ避難 ○ 牡鹿第一保育所 ・ 揺れている最中は部屋で待機（3、4、5 才児） ・ 所庭に避難する（1、2 歳児） ・ 電力駐車場に避難し総合支所へ移動 ・ 総合支所、駐車場にてブルーシートテントの中にいる（15：15） ・ 支所の中に入る、出入口の所で地震の様子をうかがう（16：00 過ぎ） ○ 牡鹿第二保育所 ・ 布団をかぶせ揺れがおさまるのを待つ（ホール中央） ・ 児童引渡し ・ 高台に避難 ・ 避難所である保育所へ戻り、避難所受入準備 ・ 再び避難、児童引渡し（2 名） ・ コンビニより食料を受領し、家に宿泊	○ はまなす保育所 ・ 児童、職員と渡波小学校体育館から 2 階校舎へ避難 ○ 牡鹿第一保育所 ・ 保護者・地域住民と鮎川の山越えし、清優館に到着 ○ 牡鹿第二保育所 ・ 児童引渡し ・ 高台の牡鹿モータースに避難 ・ 炊き出し、宿泊	○ はまなす保育所 ・ 渡波公民館にて炊き出し ○ 牡鹿第一保育所 ・ 職員と子供たちで、部屋で絵本を見たり食事(保育所用の部屋がある) ○ 牡鹿第二保育所 ・ 地域避難者と共に炊き出し（牡鹿モータース） ・ 全児童引渡し完了	○ はまなす保育所 ・ 他施設の安否確認（渡波保、渡波公民館、渡波小学校、鹿妻小学校、万石浦中学校） ○ 牡鹿第一保育所 ・ 分担した作業を実施	○ はまなす保育所 ・ 保育所へ確認のため移動 ・ 保育証等を回収し公民館に保管 ・ 渡波保育所の片付け ・ 安否確認・保護者への連絡（来年度入所について） ○ 牡鹿第一保育所 ・ 全児童引渡し完了後、帰宅（一部宿泊） ・ 全員泊っていたが子どもが全員親元に帰った ○ 牡鹿第二保育所 ・ 3/15 以降 ・牡鹿在住職員は牡鹿清優館、鮎川集会所にて避難所勤務 ・ 石巻在住職員は蛇田保育所、鹿妻小、渡波小避難所勤務を行う	
状況（ハザード）						
状況（被害）						
状況（その他）					○ はまなす保育所 ・ 児童 3 名の安否不明（後日無事を確認）(3/25) ・ 職員全員の安否確認修了（3/26） ○ 牡鹿第二保育所 ・ 最終的に全員無事が確認できたのは 3/20 頃	
資源（ヒト）						
資源（モノ）						
資源（カネ）						
今後の目標	○ 大川保育所・雄勝保育所 ・ 情報通信手段の確保(電話不通時の対応、安否確認など困難) ・ 停電時の警報の広報手段（手回しサイレンなど） ・ 人員配置の再検討 ・ 季節に応じた避難訓練の実施 ・ 津波からの避難場所の再検討（高台など建物以外も検討） ・ 地域住民とのつながり ・ 保護者への引渡し基準（児童を渡さず一緒に逃げる） ○ 牡鹿第一保育所・牡鹿第二保育所・相川保育所 ・ 児童の防寒対策 ・ トイレの確保（使い捨てトイレなど） ○ はまなす保育所・荻浜保育所 ・ 就睡時に服を枕元に置く（地震当時はなかったのでパジャマのまま避難した、防寒着着用したが） ・ 津波到達時間の把握	○ 牡鹿第一保育所・牡鹿第二保育所・相川保育所 ・ 非常持ち出し品の再検討（ノートが必要） ・ 警報の広報手段（より早い避難のため） ・ 避難所指定の検討 ・ 情報収集手段の確保（テレビ、ラジオから） ・ 通信手段の確保（経路も 総合支所が全壊していた） ○ はまなす保育所・荻浜保育所 ・ 津波を想定した避難所指定の検討 ・ 施設立地条件（安全性）(今後施設を新設、移設する場合)				○ 大川保育所・雄勝保育所 ・ 避難時の児童の安否確認方法 ・ 緊急連絡名簿の作成 ・ 緊急持ち出し品のリストアップ ○ 牡鹿第一保育所・牡鹿第二保育所・相川保育所 ・ 自動車用燃料の備蓄 ・ 自主防災組織の育成（市営住宅、県営住宅など地域コミュニティが弱い地域） ・ 避難施設の新設（根岸地区）

表 3.15 市職員行動ほか整理表 - 災対健康部(1)【健康推進課、介護保険課、保険年金課、夜間急患センター】

区 分	3月11日(金)1日目	3月12日(土)2日目	3月13日(日)3日目	3月14日(月)4日目	3月15日(火)5日目以降
実際の対応	- 健康推進課 - 避難所の対応 - 応援保健師要請	- 健康推進課 - 救護班の配置 - 診療支援 - 救急患者への受入先の確保 - 救急患者の搬送	- 健康推進課 - 保健師の集約 - 医療施設への物的支援（照明、電源、暖房 etc） - 薬剤の調達 - 医師会と救護班の編成について協議	- 健康推進課 - 救護所設置 - 情報の広報	- 健康推進課 - 避難所へ巡回（3/16～） - 心ケアチーム活動開始（3/18） - 医療機関再開情報の把握(3/15～） - 感染症予防活動 - マスク、パンフの配布 - 要介護者の健康相談表作成（3/20 前後） - 避難所支援（3/24） - 日赤医療ミーティングに参加（3月下旬） - 情報収集（3月下旬） - 要望対応（3月下旬） - 物資を県から調達（3/下旬～4/月上旬） - 在宅避難世帯、全戸訪問調査(3/30～） - 保健師エリア担当制に、朝ミーティング開始 - 感染症予防 - ノロウイルスグッズを避難所へ配布（3/22） - 在宅避難者の全戸調査（4/15～4/17） - 歯科診療の提供（4月上旬） - 避難所の栄養バランスの検討（4月中旬） - 看護協会の災害支援ナースの集約化（4/7） - 救護班と PHN との話し合いで救護所設置 - 避難所の一斉清掃（4/16） - 石巻日赤で要介護者に関する会議に出席（4/7） - 福祉避難所開設決定（4/16） - 福祉避難所入所開始（4/16） - 福祉避難所入所開始（4/25～） - 保健計画作成（5月） - 石井 Dr と保健師で説得して歩いた（6月初旬） - 防虫剤散布キャンペーンを行う（6/4）
状況（ハザード）					
状況（被害）					
状況（その他）					- 健康推進課 - 要介護者の問題が次々あがってきた（認知症、寝たきり、要医療） - トイレの汚染がひどくトイレを我慢する人、水を我慢し体調を崩す人もでる - 一般避難所にベットやポータブルトイレがなく要介護（寝たきり）が増えていった（3/20） - 災対本部、心のチーム Dr.講話 - リハビリテーション支援団体が各避難所に入る（3/22～） - 国から介護施設の福祉避難所としての取り扱い指示がなかった - エコノミークラス症候群予防の運動指導の支援が入る（3月末） - 看護協会の災害支援ナースの集約化（一般避難所から不満、苦情が多かった）（4/7）
資源（ヒト）					
資源（モノ）					
資源（カネ）					
今後の目標					

表 3-16 市職員行動ほか整理表 - 災対健康部(2)【健康推進課、介護保険課、保険年金課、夜間急患センター】

区 分	3月11日(金)1日目	3月12日(土)2日目	3月13日(日)3日目	3月14日(月)4日目	3月15日(火)5日目以降
実際の対応	○介護保険課 ・一時避難(駅前広場へ) ○保険年金課 ・一時避難(駅前広場へ) ・保健師を避難所へ派遣 ○夜間急患センター ・職員の避難連絡を受ける ・職場に参集 ・スタッフとの安否確認 ・引き返しの指示	○保険年金課 ・炊き出しの応援 ○夜間急患センター ・自宅待機 ・避難指示	○介護保険課 ・介護物資(おむつ等)の調達 ○保険年金課 ・トイレへの水くみ ○夜間急患センター ・食料の搬出 ・薬品等の提供	○介護保険課 ・在宅要介護者、家族からの相談対応 ・避難所の要介護者の対応 ・介護施設の被害状況確認(自転車等) ○保険年金課 ・来庁者への総合案内 ・薬を手配 ○夜間急患センター ・近隣の情報収集 ・本庁の活動状況把握 ・徒歩にて本庁推進課へ移動	○介護保険課 ・福祉避難所設営(3/17) ・介護ボランティアの調整(3/17) ○保険年金課 ・避難所の応援(3/15~) ○夜間急患センター ・本庁へ登庁(3/15) ・スタッフの招集(3/15) ・専修大へ応援手伝い(3/15)
状況(ハザード)					
状況(被害)					
状況(その他)	○夜間急患センター ・深夜勤務明け、自宅で被災				
資源(ヒト)					
資源(モノ)					
資源(カネ)					
今後の目標					○夜間急患センター ・情報の報告先を分かり易く(3/15~)

表 3-17 市職員行動ほか整理表 - 災対産業部【水産課、農林課、商工観光課、産業振興課、水産課、農林課】

区 分	3 月 11 日(金)1 日目	3 月 12 日(土)2 日目	3 月 13 日(日)3 日目	3 月 14 日(月)4 日目	3 月 15 日(火)5 日目以降
実際の対応	○商工観光課・産業振興課 ・食料の分別 ・食料の運搬 ○水産課 ・一時避難（市体育館へ） ・食料調達 ・物資の積み降ろし ・物資の供給 ・物資輸送班に合流して対応	○商工観光課・産業振興課 ・物資の収集 ・民間から車両の借用 ・物資の配送 ・スーパー等店舗から提供できる物資のすべてを提供依頼 ・孤立被災者の確認を自衛隊に依頼 ・物資の配布 ・配布一覧作成 ・応援をとりかわしている団体に食料、水等の提供依頼 ・支援物資受入の受付業務開始 ・食料について自宅避難者への提供が必要との話が出て対応 ・支援物資受入と必要物資要望に対応			○商工観光課・産業振興課 ・米の提供依頼 ・聞き取り表作成 ・自衛隊に協力を依頼 ・再建計画を作成 ・弁当配布（4 月下旬） ・要望表を作成（6 月） ○水産課 ・避難所回り ・市場被害状況調査 ・農協、土地改良区との協議(4 月期) ・物資の供給(4 月期) ・漁港の災害調査(4 月期) ・市場災害業務打合せ(4 月期) ・物資の供給(5 月以降) ・漁港利用者と意見交換(5 月以降) ・物資の搬入(5 月以降) ・漁港内のガレキ撤去(5 月以降) ・応急仮設工事(5 月以降) ・応急仮設工事の契約手続き(5 月以降)
状況（ハザード）					
状況（被害）					
状況（その他）	○商工観光課・産業振興課 ・電話が不通のため店舗等へ依頼が出来ない ○農林課 ・来庁者を高台に避難指示 ・避難者へ食料配給 ・蛇田支所及び日赤病院にて市連絡員としての対応（個人） ・日赤病院との連絡調整 ・救護室の設営 ・1F 商業施設、郊外スーパーより物資搬入・配送	○商工観光課・産業振興課 ・支援物資の誤配送、未配送が多い（前日夜に確保できたはずの食料が不足する事態が続く） ・電話開通後に生協、イオン等災害時応援協定締結先を中心におにぎり、パン、水等を要請（被災により対応出来ないところ多い） ・地域によっては炊き出しにより対応が可能なおところもある（米等材料の準備の依頼への対応に苦慮） ・電話開通後も電話が繋がらないとの苦情多い（直接、市役所に来る人も多い）		○商工観光課・産業振興課 ・運動公園に物資の拠点ができる	○商工観光課・産業振興課 ・賞味期限が短いおにぎりが問題になった ・農協からダンボールに入った 100 人分のご飯が届くようになり配布に苦慮（3 月下旬） ・ごはんだけ 100 人分×180 箱位届いた記録あり（3/27） ・佐川急便が支援に入り、自衛隊とによる配送が一部確立される ・薬品の配布について一部薬剤師が扱わなければならないものに気づく（ヒアリング） ・佐川急便が 100 名を雇用し支援（6/20） ・気温上昇につれ弁当等の品質管理が大変
資源（ヒト）					
資源（モノ）					
資源（カネ）					
今後の目標	○水産課・農林課 ・命令系統の一本化 ・連絡手段の確保 ・移動手段の確保 ○商工観光課・産業振興課 ・ストーブの確保 ・地域コミュニティの形成 ・情報通信手段の確保（防災無線が通じない地域）				○水産課・農林課 ・人員（マンパワー）の確保(3 月～5 月) ・職員の役割分担の明確化 ○農林課 ・支援物資の受付(3 月期) ・農業被害調査(3 月期) ・国・県との連絡調整(3 月期) ・林業被害調査(3 月期) ・物資の供給(3 月期) ・災害復旧業務(4 月期)

表 3-18 市職員行動ほか整理表 - 災対建設部【下水道課、河川港湾室、建築課、建築指導課、都市計画課、道路課】

区 分	3 月 11 日(金)1 日目	3 月 12 日(土)2 日目	3 月 13 日(日)3 日目	3 月 14 日(月)4 日目	3 月 15 日(火)5 日目以降
実際の対応	○下水道課 ・外出先から本庁舎へ帰庁 ・部内会議（職員の人員確認） ○河川港湾室 ・一時避難（駅前広場から日和山へ） ・情報収集（テレビ等） ○建築課 ・庁舎内調査 ・被害調査の準備（段取り） ・公共施設の被害情報の収集 ・市長室の電源復旧の打合せ ○建築指導課 ・他課への応援 ○都市計画課 ・一時避難（にぎわい交流広場から本庁へ） ・住民の避難誘導 ○道路課 ・一時避難（羽黒山へ） ・津波の救助12名派遣（2名帰庁）	○下水道課 ・住吉排水ポンプ場の確認 ・国土交通省の排水ポンプ車設置箇所の指示 ・国土交通省の排水ポンプ車の運搬立会 ・国土交通省の排水ポンプ車の燃料確保（ガソリンスタンドと交渉） ・住吉排水ポンプ場の状況説明、復旧指示 ○河川港湾室 ・衛星電話の入手（国土交通省から） ・関係機関及び支所と連絡 ・排水ポンプ車の出動要請（国土交通省へ） ○建築課 ・被害状況調査の準備（巡回コース検討など） ・庁舎給水設備、庁舎受電設備の維持 ・応急危険度判定の準備（公共施設） ・市営住宅（旧市内）の安否確認 ○建築指導課 ・情報収集（3/12 から 3/13） ○都市計画課 ・本庁舎へ復帰（冠水地帯を渡渉） ・食料、物資の搬出 ・食料配布作業（3/11 から継続） ○道路課 ・物資搬入作業	○下水道課 ・排水ポンプ車の燃料確保（河北地区の農家回って確保） ○河川港湾室 ・関係機関との連絡調整（3/12 から継続） ○建築課 ・学校施設の応急仮復旧の打合せ ・庁舎給水、消火設備の復旧調査 ・市営住宅の被害状況調査 ・各総合支所の被害状況調査 ・仮庁舎建設に係る手続き確認 ○建築指導課 ・情報収集（3/12 から 3/13） ○都市計画課 ・稲井公民館へ移動（市議員に同行） ○道路課 ・職員 10 名ボートで帰庁 ・市役所に仮棧橋を架設 ・道路状況の調査 ・ガソリン等の入手 ・東部・西部地区の土木業者へガレキ除去を依頼	○河川港湾室 ・排水ポンプ車の燃料確保（河北地区の農家を回って確保） ・被災状況の現地調査（新北上川へ） ○建築課 ・応急仮設住宅建設スケジュール確認 ・応急仮設住宅の設置箇所の現地確認（牡鹿、雄勝） ・応急仮設住宅建設手続き確認 ・庁舎内給水加圧ポンプの補修 ・自家発電機燃料補給 ・庁舎内節電広報 ・庁舎内修繕対応 ・各公共施設の復旧段取り ○都市計画課 ・道路啓開状況の図面作成、周知 ・急患の搬送 ○道路課 ・被災状況の確認	○下水道課 ・各ポンプ場の一次点検（職員による）（3/21 まで） ・道路調査開始（4 月上旬） ・ポンプ場関係の対応（5 月上旬） ○建築課 ・市営鹿妻住宅の仮復旧対応 ・市営鹿妻住宅の営繕対応（扉解錠） ・避難場所の状況確認 ・庁舎内応急修繕の準備 ・仮庁舎図面入手（インフラ摺合） ・市内全域のインフラ復旧確認 ○建築指導課 ・応急危険度判定開始（3/16 から 3/17） ・建築基準法第 85 条指定対応（3/21） ・被災市街地の建築制限（5/12 から 9/11） ・建築制限指定区域、指定期間の変更（9/12） ・建築基準法第 84 条指定対応（4/8，4/12） ・住宅の応急修理受付開始（4/18 から 4 月上旬） ・建築制限追加指定（5/28） ・被災市街地復興推進地域の決定（9/12） ○都市計画課 ・協力者申出の窓口対応（3/16 から） ・下水道検査資料の作成（3/18 から） ・公園被災調査（3/21 から） ・災害廃棄物の一次仮置場の開設（3/21 から） ・車移動の初期対応（3/27 から） ・被災市街地調査（3/27） ○道路課 ・自衛隊に道路啓開作業を依頼 ・道路補修作業 ・災害復旧工事対応
状況（ハザード）					
状況（被害）					
状況（その他）		○下水道課 ・住吉排水ポンプ場一部稼働開始			
資源（ヒト）					
資源（モノ）					
資源（カネ）					
今後の目標					

表 3-19 市職員行動ほか整理表 - 災対病院部【石巻市立病院・牡鹿病院・牡鹿総合支所】

区 分	3 月 11 日(金)1 日目	3 月 12 日(土)2 日目	3 月 13 日(日)3 日目	3 月 14 日(月)4 日目	3 月 15 日(火)5 日目以降
実際の対応	○牡鹿総合支所（不明確） ・患者以外の避難者の移動（3/11～3/12） ・入院患者には通常体制で対応（3/11～） ○市立牡鹿病院 ・職員の把握（確認） ・トリアージの準備（3/11～12） ○石巻市立病院 ・災害対策本部設置（市立病院 2 F） ・隣接グループホームより避難誘導 ・トリアージの準備（1 F にトリアージスペース設置） ・患者を 4 F へ移動 ・災対病院部開催 ・3・4 階東病棟患者を西病棟に移動（近隣火災）	○牡鹿総合支所（不明確） ・避難所まわり（独自）医師（3/12 午後） ○石巻市立病院 ・患者への食事配布 ・現状を報告（本庁へ徒歩で） ・現状報告（県警ヘリへ）	○牡鹿総合支所（不明確） ・薬の外来患者の対応 ○石巻市立病院 ・DMAT による患者移送計画会議（3/13～14） ・衛星電話設置（3/13～14）		○牡鹿総合支所（不明確） ・本庁内に診療室設置（3/23～5/31） ○市立牡鹿病院 ・霊安室の変更（3/24） ○石巻市立病院 ・災対病院部を本庁 202 に設置（3/17） ・医療スタッフ全員避難（自衛隊ヘリ）（3/15） ・現状を報告（事務次長、外部部長が本庁へ） ・医療スタッフ等派遣 救護所（稻中、遊楽館）診療所（石高、蛇中、専修大）（3/17） ・患者照会、投薬業務を本庁舎で開始（3/18～4/6） ・仮診療所開設（4/7） ・二次避難者の健康状態チェックに巡回（4/19～4/21） ・仮設住宅巡回（10 月以降）
状況（ハザード）					
状況（被害）					
状況（その他）		○石巻市立病院 ・海上自衛隊ヘリ到着するも吊り上げ救助を患者負担を考慮して断念	○石巻市立病院 ・DMAT による患者移送（3/13～3/14）		○牡鹿総合支所（不明確） ・全職員出勤（可能）（3/23） ・電気復旧（4/11） ○市立牡鹿病院 ・ドコモ中継局設置（ドコモ通話可）（3/20） ・全職員出勤（3/23） ・水道復旧（4/11） ・水洗トイレ使用可（4/12）
資源（ヒト）					
資源（モノ）					
資源（カネ）					
今後の目標	○石巻市立病院・牡鹿病院・牡鹿総合支所 ・通信手段の確保（衛星電話等） ・備蓄場所を上層の階に配置（浸水対策） ・施設機能を上層の階に配置（浸水対策）	○石巻市立病院・牡鹿病院・牡鹿総合支所 ・ヘリコプターの横の連絡（県警、自衛隊）			○石巻市立病院・牡鹿病院・牡鹿総合支所 ・医療関係者の配置

表 3-20 市職員行動ほか整理表 - 災対教育部(1)【教育事務(教育総務課・学校教育課・学校管理課・生涯学習課・体育振興課・地域振興課・雄勝公民館)】

区 分	3月11日(金)1日目	3月12日(土)2日目	3月13日(日)3日目	3月14日(月)4日目	3月15日(火)5日目以降
実際の対応	○生涯学習課 ・来庁者の避難誘導 ・避難所開設準備 ・ストーブ、ローソクの確保 ・情報収集 ・避難者名簿の作成(3/11～17) ・水の確保(3/11～17) ・安否確認者への対応(3/11～17) ・ボランティア対応 ・管内清掃(汚泥対策) ・避難者同士のコミュニケーション対策 ○体育振興課 ・総合体育館の被害状況の確認 ・総合体育館の被害から避難所指定解除を要請(本部へ) ・総合体育館で避難者への対応(約200人。遺体安置所としての指定前) ・遺体安置所とし遺体収容(総合体育館を遺体安置所として指定する旨の連絡) ・総合体育館から避難者を移送完了(3/11～3/17) ・遺体搬入(県警から15体)(3/11～3/17) ・施設の管理(3/11～3/17) ・遺体収容の補助(県警作業の補助)(3/11～3/17) ○教育総務課・学校教育課・学校管理課 ・部内会議を開催(議題は、児童の安否確認、臨時休校等) ・総合体育館を遺体安置所に指定 ・情報収集(防災無線、テレビ等から) ・情報の整理(模造紙、エクセル表などに整理) ・各校の被害状況の確認(電話で問合せ、一部通じる) ・今後の対応を局長から指示される(児童安否確認、臨時休校、卒業式、社会施設閉鎖、被害状況把握など) ・避難所開設指示のため職員派遣(3日目まで戻れなくなる) ○地域振興課 ・避難者用、休憩場作り、支所(3F) ○雄勝公民館 ・一時避難(避難所へ)	○教育総務課・学校教育課・学校管理課 ・児童の安否確認 ・避難所運営支援(職員派遣) ・各学校の状況把握(2チームで、石巻小学校、住吉小学校、門脇小学校、山下小学校、蛇田小学校他を回る) ・避難所となった学校からの要望を保護課へ連絡 ○地域振興課 ・避難者、行方不明者、被害状況の把握 ・河北総合支所からの物資の受け取り ○雄勝公民館 ・災対本部へ合流 ・雄勝地区の避難所の安否確認 ・雄勝地区の避難者名簿作成	○教育総務課・学校教育課・学校管理課 ・避難所運営支援(職員派遣) ・所管施設の被害状況の把握(情報収集) ・避難所用物資の調達 ○地域振興課 ・河北地区へ避難者移動 ・災害対策本部をクリーンセンターへ移動 ・大浜港で物資受け取り(海上自衛隊) ・自衛隊案内(先遣隊を大原へ)	○教育総務課・学校教育課・学校管理課 ・避難所への物資配送 ・各学校の状況把握 ○地域振興課 ・石巻赤十字病院の薬品等配布に同行 ・避難所調査(3/14～) ・避難所への物資配布(3/14～) ○雄勝公民館 ・物資の受け取り(ヘリコプターから大須小学校へ搬入) ・避難所への物資配布	○生涯学習課 ・職員の安否確認(～3/31) ・不審者対応(～3/31) ・避難者への学習機会の提供(「スクールの開催」)(～4/30) ・避難者への情報提供(「だより」の発行)(～4/30) ・避難者への娯楽提供(映画劇場開催)(～4/30) ○体育振興課 ・施設管理(～3/30) ・遺体収容の補助(県警作業の補助) ・全遺体搬送完了(4/8) ・アリーナ洗浄(4/9 ボランティア5名の支援受ける) ○教育総務課・学校教育課・学校管理課 ・人事文書を各校へ配布(3/17) ・各校からの要望等を保護課と調整(3/16) ・各学校の状況把握(3/15) ・各学校の日程把握(授業日、卒業式)(3/15) ・学校再開の検討開始(3/17) ・職員安否の最終判断(3/17) ・学校再開時期の決定(3/20) ・地元業者に学校施設の災害復旧を要請(3/20) ・学校施設の応急危険度判定の準備(3/21) ・人事課へ職員の安否報告(3/20) ・公用車の給油可能となる(3/17) ・教員支援の調整(コーディネート)(4月) ・校舎間借り校の相手校との調整(4月) ○雄勝公民館 ・災対本部から支援物資到着(3/15)
状況(ハザード)					
状況(被害)					
状況(その他)					・職員の当直制へ移行(夜間は帰宅)(3/24) ・新学期開始(4/21) ・転出入手続き多数 ・渉外業務が大変(支援の申し出等) ・支援物資集積場として稼動(4/16～7月)
資源(ヒト)					
資源(モノ)					
資源(カネ)					
今後の目標					・マスコミ取材への対応(3/16) 情報提供一本化が困難

表 3-21 市職員行動ほか整理表 - 災対教育部(2)【小学校 - (1)】

区 分	3月11日(金)1日目	3月12日(土)2日目	3月13日(日)3日目	3月14日(月)4日目	3月15日(火)5日目以降
実際の対応	○鮎川小学校 ・下校児童の安否確認 ・生徒の安全を確認 ・体育館に電話設置（避難所として利用するため） ・校庭にテント設置（避難所として利用するため） ・体育館に避難者を収容 ・避難者の収容スペースを確保（暖房器具、マット、暗幕など準備） ○広淵小学校 ・児童の安全確保（校庭へ避難） ・児童を保護者へ引き渡し開始 ・炊き出しなどの打合せ（防災コーディネータが来校し打合せ） ・児童と体育館に宿泊（保護者へ引き渡しできない児童が3名） ・炊き出し開始（避難者から手伝いを募集）(汁物付) ○石巻小学校 ・生徒の安全確保（一時避難 机の下） ・生徒の安全確保（二次避難 校庭プール側） ・避難者の誘導、避難者（児童）の対応 ・児童引渡しを保護者へ連絡（携帯からメール配信） ・情報収集（ラジオから） ○山下小学校 ・避難所運営 ・送迎待ち児童に付き添い（10名）	○鮎川小学校 ・避難所開設準備（教室清掃など） ○広淵小学校 ・児童の安全確認 ・病人を石巻赤十字病院へ搬送 ・トイレの使用ルール設定 ○石巻小学校 ・食料の確保 ・避難者への対応（職員を4班に編成して対応） ・避難者の避難所運営開始（民生委員が代表） ○山下小学校 ・土足禁止区域の設定	○鮎川小学校 ・避難所運営のための会議開催 ○広淵小学校 ・給水活動（プールの水をトイレに使用） ・自警団による夜回り ○石巻小学校 ・児童の安否確認（引渡し後の安否確認） ・校舎の復旧作業 ○山下小学校 ・飲料水の確保（石巻中学校向かいの配水池から） ・インフルエンザ患者を隔離（図書室へ）	○鮎川小学校 ・大原避難所運営委員会が活動開始 ○広淵小学校 ・食事の配布 ・教員の勤務の明示 ○山下小学校 ・児童の安否確認 ・給水車到着（滋賀県）	○鮎川小学校 ・避難所運営委員会会議を定時開催（毎日夕方18時） ○山下小学校 ・避難所でのタバコ、飲酒ルールを設定（3/16） ・インフルエンザ患者を隔離（放送室へ）(3/16)
状況（ハザード）					
状況（被害）	・				
状況（その他）	○広淵小学校 ・デイサービスから車で高齢者が避難してくる	○広淵小学校 ・支援食料品、(地元よりまんじゅう、さばかん、ゼリー) ○山下小学校 ・山下小学校が避難所指定されていないことが判明		○山下小学校 ・市からおにぎり配給	○広淵小学校 ・自衛隊が来る（3/16） ・水道、電気回復（3/16） ○山下小学校 ・地震情報が入る（本震の大きさ、今後 M7 程度の余震の恐れ 3 日以内 70%）(3/15) ・パソコン復旧（3/17） ・ゴミ収集車でゴミ搬送（3/17） ・ドコモアンテナ設置し、携帯電話復旧（3/18）
資源（ヒト）					
資源（モノ）					
資源（カネ）					
今後の目標	○広淵・須江・鹿又小学校 ・避難所運営用資機材の備蓄（毛布、水、食料、トイレ、発電機など） ・通信手段の確保 ・発電機と灯油の確保 ○石巻・住吉・湊小学校 ・通信手段の確保（避難所へ連絡可能な手段） ・避難所運営用資機材の備蓄（食料） ○山下小学校 ・避難所運営用資機材の備蓄（衣料、寝具、食料、ろうそく等を2、3日分(1,000人分程度）	○広淵・須江・鹿又小学校 ・燃料の備蓄(ガソリン、軽油、灯油など)			

表 3-22 市職員行動ほか整理表 - 災対教育部(3)【小学校 - (2)】

区 分	3 月 11 日(金)1 日目	3 月 12 日(土)2 日目	3 月 13 日(日)3 日目	3 月 14 日(月)4 日目	3 月 15 日(火)5 日目以降
実際の対応	○鹿又小学校 ・児童引渡し完了 ・今後の方針検討（職員シフト：宿泊対応/帰宅） ・避難者を誘導（鹿又小学校から石巻北高校へ） ○須江小学校 ・体育館に避難 ・児童の安否確認（全員無事を確認） ・児童の保護者への引渡し ・避難所開設（体育館へ受入） ・避難所開設（河南総合支所職員来校） ・児童と体育館に宿泊（保護者へ引き渡しできない児童が4～5名） ○前谷地小学校 ・児童引渡し完了 ・下校児童の安否確認（一人不明） ・避難者対応（学校へ避難してきた住民） ・学校内外の安全確認 ・地域の状況把握 ○東浜小学校 ・生徒の安全確保（一時避難（机の下）） ・生徒の安全確保（二次避難（校庭）） ・児童引渡し（終了） ・校庭に仮設避難所設営（運動会テントをブルーシートで囲う）	○鹿又小学校 ・避難所開設（多目的ホール） ・自衛隊が避難者を搬入 ○須江小学校 ・炊き出し開始 ・児童を保護者へ引き渡し完了（全児童） ○前谷地小学校 ・地域の状況把握 ・下校児童の安否確認（不明だった一人） ・施設の後片付け ・支所へ臨時休業を連絡 ○東浜小学校 ・避難所に校舎1Fを指定	○須江小学校 ・避難所運営補助 ○前谷地小学校 ・校舎、施設の後片付け ・情報収集 ○東浜小学校 ・各地区の災害対策本部設置	○鹿又小学校 ・体育館に避難所を開放（避難者増加により） ・避難者自治システム立ち上げ（多目的ホール班、体育館班） ○須江小学校 ・避難所運営（支所職員が運営、消防団・町内会が支援） ○前谷地小学校 ・避難所開設	○鹿又小学校 ・ボランティア（ヨハン協会）炊き出しへ学校施設を提供（家庭科室） ・避難者を体育館に集約 ○前谷地小学校 ・炊き出し（職員による炊き出し） ・自衛隊来校（物資要請）
状況（ハザード）					
状況（被害）					
状況（その他）	○鹿妻小学校 ・食料なし	○前谷地小学校 ・自宅近隣から学校に戻った職員から被害の様子を知る		○釜・山下・東浜小学校 ・ボランティア、自衛隊の方々に感謝	○鹿妻小学校 ・水の配給（3/15） ・陸路の連絡路を確保（3/16） ○東浜小学校 ・自衛隊物資搬入（3/15）
資源（ヒト）					
資源（モノ）					
資源（カネ）					
今後の目標	○鹿妻小学校 ・避難所の部屋割りの必要性 ・防寒対策 ・遺体安置所の確保 ・被害の安全確認（避難所） ・連絡手段の確保 ・緊急時の市職員の配置 ○釜・山下・東浜小学校 ・避難所開設、運営要員を近くの支所から派遣 ○釜小学校 ・情報収集手段の確保（津波警報等、児童・生徒の下校判断） ・避難所運営用資機材の備蓄（水、食料、毛布） ・通信手段の確保	○鹿妻小学校 ・避難所運営の手続き、方法の確認 ・避難所でのトイレ使用ルールの検討（衛生面の心配） ○釜・山下・東浜小学校 ・緊急車両の確保（ガソリン配給含む） ○釜小学校 ・市職員の常時駐留（平常時から）	○釜・山下・東浜小学校 ・避難所指定学校への養護教諭、保健師の配置（または資格の取得）	○鹿妻小学校 ・ライフラインの確保（電源など） ○釜・山下・東浜小学校 ・東浜地区災害対策本部設置（3/14）？	○鹿妻小学校 ・ライフラインの確保（電源など） ・発電機の設置（公的な場所へ） ・飲料水の備蓄 ・緊急輸送非常用発電機の設置 ・輸送路の確保 ○釜・山下・東浜小学校 ・緊急派遣職員の権限の明確化

表 3-23 市職員行動ほか整理表 - 災対教育部(4)【小学校 - (3)】

区 分	3月11日(金)1日目	3月12日(土)2日目	3月13日(日)3日目	3月14日(月)4日目	3月15日(火)5日目以降
実際の対応	○大街道小学校 ・避難者名簿の作成(各教室へ回る) ○大原小学校 ・校庭へ避難 ・清優館へ避難(3~5年生) ・雪が降ってきたので校庭へテントを張る ・毛布を清優館へ運搬(備蓄倉庫から) ・ストーブ、食料、燃料(灯油)等を清優館へ運搬(学校から) ・清優館で保護者と児童の安否確認 ○谷川小学校 ・清優館へ移動(スクールバス使用) ・生徒の安全確保(体育館の生徒) ・生徒の安全確保(校庭へ避難) ・清優館で宿泊準備 ○中津山第一小学校 ・児童の安否確認 ・児童の全員無事帰宅を確認 ・体育館の鍵を桃生総合支所へ届ける ・中津第二小学校を避難所とし、住民をマイクロバスで移動(中津第一小学校→中津第二小学校)	○大原小学校 ・支所に状況報告(3/12朝) ・児童の安否確認(自宅訪問) ・総合支所に避難した保護者、児童を清優館へ誘導(引率) ・校舎の被害状況を確認 ・情報収集のため職員派遣(市街地状況の把握) ○谷川小学校 ・生徒の引渡し(保護者へ) ・清優館から「ホッとまる」に移動、宿泊準備、生徒39名宿泊 ○中津山第一小学校 ・体育館を避難所に開放 ・職員家族の安否確認、自宅の被害確認 ・学校内外の点検 ・避難者への対応(保健室から体育館へマット、ベットを搬入)	○大原小学校 ・児童、保護者の全員無事を確認 ○谷川小学校 ・生徒の引渡し(保護者へ) ○中津山第一小学校 ・避難所の手伝い(職員及び家族が手伝い)	○大街道小学校 ・避難所を市からの派遣職員へ移行 ○大原小学校 ・清優館で保護者、児童と避難生活 ○谷川小学校 ・生徒の引渡し(保護者へ) ・午後職員も退出 ○中津山第一小学校 ・避難所の手伝い(トイレ掃除、食事配布、話し相手)	○大原小学校 ・学校に本部を戻す(清優館へは職員を派遣)(3/15) ・職員を清優館へ派遣(3/15) ・学校職員を班分け(3/15) ・児童の管理 ・配給物資の受け取り、荷物運び ○谷川小学校 ・保健室に本部を設置 ・3年生の安否確認作業 ・牡鹿中学校体育館を物資集積所に使用(牡鹿総合支所から要請、職員手伝う) ○中津山第一小学校 ・地区の巡回(児童の様子確認、通学路の状況確認) ・通学路での安全指導 ・通学路の安全確認
状況(ハザード)					
状況(被害)					
状況(その他)	○大街道小学校 ・防災無線途中から聞こえなくなる(サイレンのみ聞こえた記憶がある) ・外部との連絡取れない ・大街道小学校は全員流されたという情報が流れていた ・食料・飲料水の備蓄がない(大街道小学校、避難所に指定されていた) ○中津山第一小学校 ・地域住民が体育館へ避難してくる(17:10)	○大街道小学校 ・児童の安否確認が遅れる(4日目以降スタート)避難所運営の負担が大きいことが原因(3/11~4/2) ・一部避難者が危険を承知で自宅に食料や毛布を取りに戻る(3/12~13) ○大原小学校 ・自衛隊の先鋒隊数名、鮎小へ		○大街道小学校 ・学校職員は3/11~3/16まで誰一人、帰宅出来なかった(避難者を置いて帰れない) ・要望は出しても市に伝わるのは1日遅れ(3/14~18) ・クレーム対応は全て学校でうける(3/14~18) ・市職員第一声「運営のお邪魔にならないようにします」	○大街道小学校 ・トイレ用の水汲み(職員と一部避難者で行う) ・市からの救援物資(ジャガイモ、タマネギ、ニンジンなど炊き出し能力がない場所にミスマッチ)(3/15) ・仮設トイレ(3/19) ・水道一部(3/20) ・トイレ用水の確保(職員と避難者) ・電力復旧(3/30) ・学校だけ停電なのに避難所指定 ・緊急用電話設置(3/25)
資源(ヒト)					
資源(モノ)					
資源(カネ)					
今後の目標	○大原・谷川小学校 ・通信手段の確保 ・地域一体の防災訓練 ・避難所運営訓練研修 ○中津山第一・中津山第二・桃生小学校 ・教育委員会から学校への連絡の迅速化		○大原・谷川小学校 ・学校と市の定期連絡会の設置 ・バス会社との連絡の緊密化(発生時の初動を決めたい) ○中津山第一・中津山第二・桃生小学校 ・避難所運営用資機材の備蓄(1週間分)		

表 3-24 市職員行動ほか整理表 - 災対教育部（５）【小学校 - (4)】

区 分	3 月 11 日(金)1 日目	3 月 12 日(土)2 日目	3 月 13 日(日)3 日目	3 月 14 日(月)4 日目	3 月 15 日(火)5 日目以降
実際の対応	○中津山第二小学校 ・児童の安否確認 ・児童の安否確認結果を桃生総合支所へ報告 ・体育館へ児童移動 ・メール連絡網で児童の移動（体育館へ）を保護者へ連絡 ・避難者への対応（体育館へマット、ベットを搬入） ・避難所開設及び運営の補助 ○桃生小学校 ・生徒の安全確保（一時避難：教室、二次避難：校庭、安否確認：点呼） ・体育館へ児童移動 ・児童を保護者へ引き渡し開始 ・全児童を保護者へ引き渡し完了 ・避難所開設に備えて職員 5 名を残し、他は帰宅 ○湊小学校 ・生徒の安全確保 ・児童の安全確保（津波に備えて校舎 3 F 以上へ避難） ・救出された被災者の救護（着替えなど） ・避難所運営本部を設置（2 F 家庭科室） ・生徒の安全確保（一時避難：机の下） ・避難所の部屋割り（地区ごとに教室を配分、病人用に 2 部屋を確保） ・避難所各部屋の巡回（夜間） ・焚き火（ダンボールを燃やして暖をとる）	○中津山第二小学校 ・児童の安否確認（地区巡回） ・校舎内の片付け ○中里小学校 ・保護者の対応 ・避難者の受入 ○桃生小学校 ・体育館を避難所とする指示を受ける ・避難所開設準備（市職員、消防団と協力） ・学校備品（ストーブ）を貸し出し ○湊小学校 ・備蓄飲料水の配布 ・周辺被災者の救出（校舎にしがみついている人）	○中津山第二小学校 ・児童の安否確認 ・校舎内の片付け ○桃生小学校 ・校長が避難所の運営管理、指揮を確認	○中津山第二小学校 ・校舎内の片付け ○桃生小学校 ・避難所運営の補助（4 日目以降）	
状況（ハザード）					
状況（被害）					
状況（その他）	○湊小学校 ・各教室はすしづめ状態で暖かかった。本部は非常に寒くごみ袋を何枚も重ねて着た		○湊小学校 ・ヘリが来校（情報把握のためで食料支援ではなく落胆）	○湊小学校 ・学校近くのかまぼこ屋さんからかまぼこの支援を受ける	○湊小学校 ・安定的に食料支援が入るようになる
資源（ヒト）					
資源（モノ）					
資源（カネ）					
今後の目標	○中里小学校 ・職員が配置されない避難所の解消 ・避難所運営要員の確保 ・避難所運営用資機材の備蓄 ・停電時に使用できる無線通信の確保 ○蛇田小学校 ・避難所運営用資機材の備蓄（水、食料、毛布）	○中里小学校 ・防寒対策（毛布、暖房器具） ・飲料水、食料の備蓄 ・乳幼児用品の確保	○中里小学校 ・ボートの確保策の検討 ・薬品の備蓄 ・避難所浸水時の仮設棧橋の設置 ・発電機の設置 ・太陽光発電設備の設置（屋上に） ・ガソリンの確保（急病者搬送用） ・湯沸器具の確保（電気ポットは停電時不可）ミルク用など利用頻度がある	○中里小学校 ・仮設トイレの確保 ・ポリタンクの確保（給水用） ・医療関係者の配置 ・カウンセラー、相談員の配置 ・避難所での食料配布基準（収容者のみか、地域住民までか） ・消毒薬の確保（手、トイレ）	○中里小学校 ・介護用品の確保（成人用オムツ、薬品など） ・土足禁止区域の設定（校舎内はスリッパへ） ・着替えの確保（避難者用の下着） ・学校施設は早期に避難所として閉鎖 ・停電時に使用できる無線通信の確保 ・発電機の設置（公的な場所へ） ・学校施設の修理修繕対応の迅速化

表 3-25 市職員行動ほか整理表 - 災対教育部(6)【小学校 - (5)】

区 分	3月11日(金)1日目	3月12日(土)2日目	3月13日(日)3日目	3月14日(月)4日目	3月15日(火)5日目以降
実際の対応					○住吉小学校 ・校舎等の復旧作業
状況(ハザード)					
状況(被害)					
状況(その他)		○荻浜小学校 ・地区住民は協力的 ・道路の復旧(地区民の作業で通行できるようになる)			○荻浜小学校 ・医療救護班来校(3/16以降) ・3月中に1回のみ自衛隊衛生班がトイレ消毒
資源(ヒト)					
資源(モノ)					
資源(カネ)					
今後の目標	○荻浜小学校 ・避難所運営用資機材の備蓄(水、食料、ストーブ、ろうそく、発電機、燃料、通信手段) ・市職員の配置 ○住吉小学校 ・地域との連携(日ごろから) ・避難所開設、運営等にかかわる事前の協議、連携 ・避難所開設、運営のシミュレーション訓練、研修 ・備品等の充実 ・職員の意識改革(意識、行動) ・避難所開設、運営等への関係機関の関与 ○万石浦小学校 ・学校と市役所等を結ぶ緊急通信回線の設置 ・防災無線(屋外型)での広報の方法(緊急性を伝える、音量を大きく) ・避難所運営用資機材の備蓄(水、食料、毛布、ランタン、発電機)	○住吉小学校 ・保護者への学校の防災への方針の周知(保護者用マニュアル作成、配布) ・児童への安全防災教育の充実(具体的な避難方法等も含めて) ・児童の安否確認の手段、方法 ・情報の不足、災害時の情報収集手段の確保 ・最低限のライフラインの確保、準備、備え	○荻浜小学校 ・自動車用燃料の確保 ○万石浦小学校 ・避難所運営の移管時期(学校職員から対策本部への移管を3日以内) ・ライフラインの回復見込み広報 ・避難所の応急危険度判定(避難者を収容しても安全かどうかの判断)	○万石浦小学校 ・情報伝達経路の整理(窓口の一本化、支援物資の配送、受入など) ・ガソリンの確保(緊急車両として学校の車を認定)	○荻浜小学校 ・土足区域の設定 ・避難所でのトイレ使用ルールの検討(衛生面の心配) ○住吉小学校 ・職員の健康面のケア ・避難した方々への対応(心の問題含む)

表 3-26 市職員行動ほか整理表 - 災対教育部 (7)【中学校 - (1)】

区 分	3 月 11 日(金)1 日目	3 月 12 日(土)2 日目	3 月 13 日(日)3 日目	3 月 14 日(月)4 日目	3 月 15 日(火)5 日目以降
実際の対応	○ 牡鹿中学校 ・ 津波からの避難 (第一波) (県道へ) ・ 津波からの避難 (第一波) (駐車場から車を移動) ・ 津波からの避難 (第二波) (山へ) ・ 学校裏山へ避難 (消防団、地域住民、学校で協議) ・ 学校裏山 (神社) に一晚滞在 ・ 生徒の安全確保 (校庭へ避難) ・ 避難者の受入 (地域住民、保護者の受入) ・ 体育館に避難所開設 ○ 河南東中学校 ・ 避難所開設 (緊急電話設置、ストーブ、毛布、ブルーシート、スリッパの搬入) ・ 避難所に設備設置 (発電機、投光機) 消防職員が来校し実施 ・ 体育館の器具庫、教官室片付け ・ トイレの水の搬入 (プールから) ・ 授乳室設置	○ 牡鹿中学校 ・ 学校の被害状況確認 ・ 校庭に移動し救助を待つ ・ 生徒の引渡し (保護者へ) ・ 高台の避難所へ移動 ・ 徒歩と車で二次避難 (泊地区へ) ・ 児童を保護者へ引き渡し (泊地区の児童、谷川・大谷川地区の児童の 3/4) ・ 避難所で待機 (於: 泊地区 児童、保護者及び地区の人とともに) ○ 河南東中学校 ・ 学校職員によるボランティアセンター開設 ・ 情報収集 ・ フロアーの配置 ・ 市職員との打合せ ・ トイレの水の搬入 (プールから) (「衛生班」を編成) ・ 給食、給湯計画 (「食事班」を編成) ・ 食料の管理 (「食事班」を編成) ・ 乳児に対するケア (「女性・こども班」を編成) ・ 乳幼児に遊びを提供 (「女性・こども班」を編成) ・ 健康相談・血圧測定 (「女性・こども班」を編成)	○ 牡鹿中学校 ・ 児童を保護者へ引き渡し (全児童) ・ 職員住宅の状況確認 (大原地区) ・ 各自帰宅 (車に便乗) ・ 校長仙台へ秋田県職員を送る ○ 河南東中学校 ・ 情報提供ボード (生徒、保護者への情報提供、物資提供の呼びかけ) ・ 安否確認ボードの設置 (避難者用)	○ 牡鹿中学校 ・ 本庁教育委員会への連絡方法を相談 (支所にて) ・ 本庁へ向かうが、浸水で到達できず ・ 支所から牡鹿地区の状況を本庁へ FAX ○ 河南東中学校 ・ 職員打合せの定期化 ・ 学校のプロパンガス点検 (業者来校 ガス使用再開)	○ 牡鹿中学校 ・ 市役所への連絡路を探す (一日中 45 号線を大街道方面から市役所に向かうが途中で戻る) ・ 本庁へ向かうが到達できず (蛇田、45 号、大街道経由のルートを試すが不可) ・ 本庁へ到着 (大街道経由) ・ 児童の教育相談 (避難所を移動した児童) ○ 河南東中学校 ・ 全校生徒の無事確認
状況 (ハザード)					
状況 (被害)	○ 牡鹿中学校 ・ 第二波到達 (20m 以上) 体育館、校舎全壊 (15:25)				
状況 (その他)	○ 稲井中学校 ・ 地震による地盤沈下 ○ 牡鹿中学校 ・ 一晚中津波、地震が続く	○ 牡鹿中学校 ・ 地震後はじめておにぎりを食べる (1 個) ○ 河南東中学校 ・ 食品の差入れ (大沼製菓 (おはぎ、かしわもち、シュークリーム) 以降、地域よりおにぎり、きゅうり)		○ 稲井中学校 ・ 避難解除後の使用目的が二転三転	
資源 (ヒト)					
資源 (モノ)					
資源 (カネ)					
今後の目標	○ 稲井中学校 ・ 避難所運営用資機材の備蓄 (水、食料、ストーブ、発電機、灯油、ガソリン) ・ 情報の安定的な入手 ・ 情報発信手段の確保 ・ 保護者への引渡し方法の確認	○ 稲井中学校 ・ 生徒の所在、安否確認 ・ 市役所職員の支援		○ 稲井中学校 ・ 職員家族の安否確認 ・ 避難所解除後の職員の食料確保	

表 3-27 市職員行動ほか整理表 - 災対教育部(8)【中学校 - (2)】

区 分	3 月 11 日(金)1 日目	3 月 12 日(土)2 日目	3 月 13 日(日)3 日目	3 月 14 日(月)4 日目	3 月 15 日(火)5 日目以降
実際の対応					○ 山下中学校 ・ 市教委、他の学校の PC を借りて作業する ○ 青葉中学校 ・ 他県職員、泊りこみで避難所対応(3 月下旬) ・ 市職員による避難所運営開始(3/16?) ・ 市職員による二次避難の説明(うまくいかない)
状況(ハザード)					
状況(被害)					
状況(その他)	○ 蛇田中学校 ・ 食料がイオンから来た(後で知る) ○ 青葉中学校 ・ 避難所運営、学校職員 + 地域の方、1 週間は不眠不休 ・ 避難者 1500 人 ○ 渡波中学校 ・ 学校にあったラジオだけが唯一の情報源(周囲の状況がよくわからない)	○ 山下中学校 ・ 暖房が使用不能(集中暖房のボイラーが損傷のため) ・ いち早く自衛隊が救援に来た ○ 青葉中学校 ・ 当日は卒業式、生徒は全員下校 ・ 水、食料の配備、備蓄なし、地域住民の炊き出し開始 ・ 避難者 3,500 人	○ 山下中学校 ・ 生徒が避難所の運営の力になった ○ 青葉中学校 ・ 避難者 4,500 人	○ 渡波中学校 ・ 教員が避難所の対応にかかりきりで生徒安否確認や家族の安否確認が後回しになる	○ 山下中学校 ・ 5 月以降、再度、避難所となる
資源(ヒト)					
資源(モノ)					
資源(カネ)					
今後の目標	○ 山下中学校 ・ 非常用発電装置(停電時に非常用発電に切り替え) ・ 通信手段の確保 ・ ボートの配備 ○ 蛇田中学校 ・ 津波警報を学校に必ず知らせる ・ 非常用発電装置(停電時に非常用発電に切り替え) ・ 避難所への避難所運営の指示の明確化 ・ 教育委員会から学校への連絡の迅速化 ○ 住吉中学校 ・ 石巻の公式ツイッターの開設 ・ 長靴、胴長の配備 ・ 防災対策の組織図 ・ 戸別同報無線(防災無線)の整備 ・ 避難所運営用資機材の備蓄 ・ 通信手段の確保(災害対策本部との連絡) ○ 渡波中学校 ・ 避難所運営用資機材の備蓄(水、食料、ライト、毛布など) ○ 青葉中学校 ・ 避難所運営マニュアルの作成	○ 山下中学校 ・ 緊急車両の確保(ガソリン配給含む) ○ 蛇田中学校 ・ 情報の伝達(飲料水、生活用品の状況) ・ 炊き出し設備の整備 ・ 災害ボランティアの早期配置 ・ ヘリポートの整備(学校屋上) ○ 住吉中学校 ・ 仮設トイレの確保(必要な数量) ・ 消毒薬の確保(感染症対策 アルコール、次亜塩素系) ○ 渡波中学校 ・ 通信手段の確保(衛星電話) ・ 医療救護班の巡回	○ 山下中学校 ・ 避難所の自治組織の早期立ち上げ ・ 学校の防災計画と地域防災計画のすりあわせ ○ 蛇田中学校 ・ ペットを持つ避難者の扱い(部屋割りなど) ・ 避難所での専門的ボランティアの配置(医者、看護師等) ○ 住吉中学校 ・ 避難所間の連絡網の早期確立 ○ 渡波中学校 ・ 地域の自主防災会機能の強化 ・ 物資配布の迅速化(飲料水、食料、毛布など)	○ 山下中学校 ・ 避難所名簿の様式等の統一 ・ 養護職員への負担の軽減 ○ 蛇田中学校 ・ 避難者名簿の共有システム(人探しの省力化、迅速化) ・ 避難所間の情報連絡(物資の融通など) ○ 住吉中学校 ・ 動物のゲージ、えさへの対応 ○ 渡波中学校 ・ 避難所運営への市職員の早期派遣	○ 山下中学校 ・ 県立高校の避難所指定 ○ 住吉中学校 ・ 避難所運営用資機材の備蓄(毛布、薬品、カイロ、飲料水) ○ 渡波中学校 ・ 仮設トイレ、水道タンクの早期設置 ・ 非常用発電装置 ・ 避難所運営の移管時期(学校職員から対策本部へ少しずつが理想)

表 3-28 市職員行動ほか整理表 - 災対教育部(9)【中学校 - (3)】

区 分	3月11日(金)1日目	3月12日(土)2日目	3月13日(日)3日目	3月14日(月)4日目	3月15日(火)5日目以降
実際の対応			○万石浦中学校 ・トイレ用水をプールからくみ上げ		
状況(ハザード)					
状況(被害)	○万石浦中学校 ・外へ投げ出される ・ライフラインが寸断(飲料水確保できず) ・電話、携帯電話使用できず(通信手段の喪失)	○万石浦中学校 ・道路寸断により徒歩での連絡も不可能 ・外国人の避難者が多く、通訳不足(中国人が多かった) ・養護教員への負担が過大			
状況(その他)	○万石浦中学校 ・避難者に提供する食料なし	○荻浜中学校 ・生徒や卒業生、地域の方がとても協力的で避難所運営の負荷が軽減 ○万石浦中学校 ・急患を病院に搬送する方法なし	○万石浦中学校 ・トイレ用の水の確保に苦労(生徒、避難者がプールの水を運搬) ・支援物資にお湯を必要とする物資が多い。(実際に使えない物も多かった) ・生徒が他の避難所に避難していたため、安否確認に手間取った	○万石浦中学校 ・イオン東店からの物資提供があり配布(配給が早かったせいか避難者だけでなく周辺地域から配給をうけようとする住民が多く対応に苦慮) ・市を通さない支援物資の提供で押し売りの的に置いていく団体?への対応に苦慮	○湊中学校 ・ボランティアの方々に感謝
資源(ヒト)					
資源(モノ)					
資源(カネ)					
今後の目標	○荻浜中学校 ・避難所運営用資機材の備蓄(食料、薬品など) ・衛星電話を常時設置 ・避難所運営用資機材の備蓄(発電機、反射式ストーブ) ○万石浦中学校 ・発電機の確保(照明用など) ・停電時に使用できる校内放送設備 ・飲料水の備蓄、確保 ・停電時に使用できる無線通信の確保(トランシーバなど) ○門脇中学校 ・災害対策本部からの指揮系統の明確化 ・停電時に使用できる無線通信の確保 ・避難所運営用資機材の備蓄(衣料、寝具、食料を3日分) ○石巻中学校 ・食料、飲料水の備蓄(最低3日分) ○湊中学校 ・発電機の設置(ガソリン、オイル)	○荻浜中学校 ・医療関係者の配置(派遣) ○万石浦中学校 ・通信手段の確保(道路が寸断された場合) ・通訳の確保(外国人対応 中国人が多かった) ・避難所での救護活動の迅速化(病人、けが人の対応) ○石巻中学校 ・避難所配備職員の貼り付け(日替わりで人が変わらないように) ・通信手段の確保 ○湊中学校 ・通信手段の確保 ・食料の配布	○荻浜中学校 ・病人の搬送手段の確保 ○万石浦中学校 ・避難所間の連携(生徒が他の避難所に移動した場合の安否確認) ・避難所運営職員の派遣(市役所から) ○門脇中学校 ・避難者マニュアルの作成 ・避難所の自治組織の確立 ○湊中学校 ・トリアージの必要性	○荻浜中学校 ・精神的不調を訴える方への対応 ○門脇中学校 ・情報の伝達(地域の状況、災害対策本部からの指示) ・マスコミ対応方針の検討	○荻浜中学校 ・災害対策本部設置場所の検討 ○石巻中学校 ・避難者収容スペースの早期開放(授業再開のため)

表 3-29 市職員行動ほか整理表 - 災対教育部 (10)【高校 - (1)】

区 分	3 月 11 日(金)1 日目	3 月 12 日(土)2 日目	3 月 13 日(日)3 日目	3 月 14 日(月)4 日目	3 月 15 日(火)5 日目以降
実際の対応	○石巻市立女子高等学校 ・避難者への応急衣料、防寒具の提供（カーテン、ジャージなど） ・開業医へ診療を依頼 ○石巻市女子商業高等学校 ・生徒の安全確保（一時避難、人員確認） ・校舎の点検 ・保護者への引渡し ・生徒の避難誘導（鹿妻小学校へ） ・生徒の二次避難（鹿妻小学校から菅原神社へ） ・菅原神社で待機 ・避難所運営（鹿妻小学校）	○石巻市立女子高等学校 ・避難者の二次避難を誘導（門脇小学校火災のため、石巻中学校、門脇中学校へ） ○石巻市女子商業高等学校 ・二次避難先での生徒の人員確認 ・避難所運営（鹿妻小学校） ・食料の調達 ・職員の大半が帰宅（家族の安否確認のため） ・職員は帰宅後、自宅付近の避難所で避難所運営に参画 ・教頭と一部職員は鹿妻小での協力を継続	○石巻市立女子高等学校 ・避難者の受入（湊中学校の二次避難者、市立病院からの避難者） ○石巻市女子商業高等学校 ・避難所運営（鹿妻小学校） ・鹿妻小にとどまっていた職員が女子商にはじめて到達（3/13 7:00）	○石巻市立女子高等学校 ・生徒の安否確認（本格化） ○石巻市女子商業高等学校 ・生徒の安否確認（鹿妻小学校にて） ・臨時職員室を開設	○石巻市女子商業高等学校 ・石巻市立女子商業高校の後片付けはじめる（3/16） 出勤した数名 ・市立女子高に職員を常駐させ生徒の安否情報収集を一本化（3/22） ・臨時職員会議を開催（今後の対応協議）（3/22） ・在校生の安否確認（テレビテロップ、電話、避難所巡回で状況把握）
状況（ハザード）					
状況（被害）	○石巻市立女子高等学校 ・生徒の一次避難（校庭） 人員確認 ・避難者が石巻市立女子高等学校に集まる（午後3時半以降）	○石巻市立女子高等学校 ・門脇小学校火災 ・石巻市立女子高等学校に重度障害者13名を残置			
状況（その他）	○石巻市立女子高等学校 ・門小生徒等が本校校舎脇を通り、日和山へ避難 ・60名の生徒は保護者へ引き渡し 40名が学校に残る。 ・校長はじめ職員 25名程が運営に当たる ・夕方までに 700名の方が避難 カーテン、ジャージなど寒さをしのげるものをすべて利用する		○石巻市立女子高等学校 ・支援物資の配布がある（3/14 23:00頃） ・本庁（役所）との連絡がはじめてとれる ○石巻市女子商業高等学校 ・教頭は鹿妻小に戻り、一部職員とともに避難所運営に協力（3/13 13:00）		○石巻市立女子高等学校 ・全職員の安否判明（3/18） ・生徒の安否判明（3/29） ・避難者の班編成による運営が始まる（3/19～） ・兵庫県医療チーム巡回始まる（3/20～） ・ボランティア看護師が合流（3/23～）
資源（ヒト）					
資源（モノ）					
資源（カネ）					
今後の目標					

表 3-30 市職員行動ほか整理表 - 災対教育部(11)【幼稚園】

区 分	3月11日(金)1日目	3月12日(土)2日目	3月13日(日)3日目	3月14日(月)4日目	3月15日(火)5日目以降
実際の対応	○稲井幼稚園 ・職員会議を開催 ・児童及び職員等の一時避難(幼稚園庭へ) ・ブルーシート、児童防寒具を準備 ・園舎の被害状況の確認 ・臨時職員、パート職員の帰宅指示 ・稲井中学校体育館へ移動 ○住吉幼稚園 ・屋外への一時的避難 ・周辺住民の誘導(園庭へ) ・ブルーシートで仮設し雪を避ける(雲梯、太鼓橋にシートをかける) ・住吉中学校へ避難(石巻市広報に従う) ・物資を持って住吉中学校へ避難(ティッシュ、救急箱、菓子、牛乳、防災マスクなど) ・園児の安否確認(住吉中学校に避難した園児の把握) 菓子牛乳の配布 ○湊幼稚園 ・児童の安全確保と避難準備 ・小学校へ避難(訓練どおり「みなと荘」にはいけず) ・近隣住民の避難誘導(副園長は小学校へ) ・保育所から持ち出した食品を児童へ配布	○稲井幼稚園 ・園児の安否情報の収集(幼稚園玄関にメモ用紙を張り出し安否を記入してもらう) ・幼稚園の予定を掲示(玄関にメモを掲示 卒園式未定など) ・簡易水道のある農家で水をもらう ○住吉幼稚園 ・児童の状況確認(住吉中学校へ避難中の園児の状況確認) ・職員が帰宅し、毛布、衣類、食料を住吉中学校へ搬送 ○湊幼稚園 ・併設保育所の児童の世話 ・避難所の手伝い ・児童への対応(3/12~19)	○稲井幼稚園 ・LPガス点検 ○住吉幼稚園 ・物資の搬送(住吉中学校にて) ・園児の安否確認(保護者から情報収集) ○湊幼稚園 ・主任教諭、パートの帰宅指示 ・児童を日赤へ搬送(発熱のため) ・日赤から戻れず日赤に滞留(一泊)(児童を搬送した後、湊幼稚園に戻れず)	○稲井幼稚園 ・本庁から派遣された職員(教育委員会)から地域の被害状況を知らされる ・避難所で避難者へ声かけ ○住吉幼稚園 ・住吉中学校に出勤し、受命(園長が住吉中学校で災害対応) ・避難所及び家庭訪問により園児の安否確認(住吉小学校、中里小学校、住吉中学校など) ・自主避難者に退出要請(教育委員会から) ・職員室に張り紙、郵便ポストにメモを置き、保護者からの安否情報を募る。 ・自主避難者退去後、幼稚園、庭の掃除 ○湊幼稚園 ・園児の安否確認に回る(避難所名簿確認、自宅訪問) ・日赤から湊へ戻ろうとするが、道路不通(FM石巻に一泊)(蛇田支所から本庁教育委員会、子育て支援課へ状況報告) ・幼稚園の掃除(トイレ、廊下、階段) ・支援物資の運搬・物資の管理(オムツなど) ・避難所運営(炊き出しなど)	○稲井幼稚園 ・幼稚園打合せ(3/15) (3/21卒園式、3/23ALT 遺族対応、3/24お別れ会) ○住吉幼稚園 ・全園児の安否把握(携帯電話が開通) ・修了式、卒園式の日程掲示(職員室) ・児童園児家庭に携帯電話で連絡 ・幼稚園前の自動車の移動を依頼(近隣住民へ) ・修了式、卒園式(3/30) ○湊幼稚園 ・保育所と避難所の運営(~3/19) ・職員の集合(各避難所の職員が湊に集合)(3/28) ・卒園式(3/31) ・安否確認終了(3/23)
状況(ハザード)					
状況(被害)	○湊幼稚園 ・夜間、火災の火(あかり)が見える 余震多い	○稲井幼稚園 ・断水		○稲井幼稚園 ・本庁から被害確認のための職員が派遣される(教育委員会から2名)	
状況(その他)	○稲井幼稚園 ・冠水のため住民避難してくる ・幼稚園に出勤し、地域の被害状況を知る(保護者、避難者の情報を収集) ・防災無線がはっきり聞こえない ○湊幼稚園 ・職員会議中 震度6強地震発生 ・建物上階へ一時避難(津波によりさらに上階へ避難) ・398号渋滞 電線落下			○住吉幼稚園 ・自主避難者が住吉幼稚園にいた ○湊幼稚園 ・市教委が訪問	○稲井幼稚園 ・井内保育所水道復旧(4/3) ○湊幼稚園 ・安否確認の呼びかけ(テレビで行う)
資源(ヒト)					
資源(モノ)		○稲井幼稚園 ・備蓄食料がない(持ち寄りでのぐ)			○稲井幼稚園 ・支援食料、飲料水を備蓄(消費期限が切れた場合の経費は要検討)
資源(カネ)					
今後の目標					○稲井幼稚園 ・地域情報の収集における地域住民との連携

表 3-31 市職員行動ほか整理表 - 災対教育部 (12)【教育関連機関】

区 分	3 月 11 日(金)1 日目	3 月 12 日(土)2 日目	3 月 13 日(日)3 日目	3 月 14 日(月)4 日目	3 月 15 日(火)5 日目以降
実際の対応	○ 牡鹿学校給食センター ・ 職員等の帰宅指示 (職員、パート計 5 名帰宅) ・ 所長、栄養士は職場に待機の後、栄養士は教職員と避難所へ移動 ○ 渡波学校給食センター ・ 施設、職員等 (職員、パート、搬送員) の安全確認 ・ 職員等へ避難を指示 ○ 湊学校給食センター ・ 職員等の帰宅指示 (職員、パート帰宅。所長、栄養士湊第二小へ) ○ 図書館 ・ 図書館の被害状況を報告 (教育委員会へ) ・ 図書館の避難所指定を要請 ・ 水、燃料 (灯油、重油、ガス) 等の残量確認 ・ 図書館利用者の避難誘導 ・ 図書館の臨時休館 ・ 図書館の被害状況の把握 ・ 図書館への避難者受入 ・ 図書館への避難者名簿作成 ・ 夜間は職員が見回り (交代で行う) ・ 早朝に情報の収集 ・ 灯油受け取り (18 リットル) ・ 図書館避難者から避難所運営ボランティアを募集 ○ 総合運動公園 ・ 事務所の清掃 ・ 休息スペースの確保 (ダンボール、フトン等の確保) ・ 総合運動公園で応援消防隊、自衛隊の対応 ・ 総合運動公園で応援消防隊、自衛隊の駐屯場所の割り振り ・ 総合運動公園で救援物資の受け取り ・ 総合運動公園で水道・下水道の調査 ・ 総合運動公園で救助された被災者のお世話 (どこへ行きたいか) ・ 総合運動公園で救援物資の搬入 ・ 総合運動公園 (競技場) への車両進入、テント設置の調整	○ 牡鹿学校給食センター ・ 施設の損傷状況の確認 ・ 施設の損傷箇所の応急処置 ○ 渡波学校給食センター ・ 渡波給食センターに待機 ○ 湊学校給食センター ・ 所長、栄養士が湊第二小で災害対応 (3/12 ~ 13) ○ 図書館 ・ 最初の配給 (3/12 夜)	○ 牡鹿学校給食センター ・ 片付け ・ 給食センター物資の提供及び運搬支援 ○ 渡波学校給食センター ・ 湊第二小学校へ移動 (05 : 10 発 06 : 00 着) ・ 湊第二小の校長から避難所応援要請を受ける ○ 湊学校給食センター ・ 湊第二小学校で災害対応 (湊第二小、県費職員) (3/16 まで) ○ 図書館 ・ 図書館職員の班分け ・ 駐車場で炊き出し開始 ・ 給水所で給水開始 ・ 毎朝打合せ、情報交換 (3/13 ~ 7 月末)	○ 牡鹿学校給食センター ・ 物資の提供と施設の応急処置 (3/14 ~ 20) (盗難防止をかねて待機) ○ 渡波学校給食センター ・ 避難所の水管理 (飲料水、トイレ用水) ・ 避難所の清掃 (教室、廊下) (3/14 ~ 17) ○ 湊学校給食センター ・ 所長が教育委員会へ登庁 (今後の指示の受命)	○ 渡波学校給食センター ・ 住吉給食センターへ集合 (3/18) ・ 職員の安否確認 (3/18) ・ 避難所応援業務の開始 (3/18) ○ 湊学校給食センター ・ 職員等の安否確認 (3/15 ~) 電話不通 ・ 避難所対応 (全職員) (3/16 ~ 5/13) ○ 図書館 ・ 避難者を班分けして避難所清掃等の調整 ○ 総合運動公園 ・ 応援消防隊、自衛隊への指示 (清掃など) ・ 救援物資の搬入出 ・ 商工観光課への協力要請 ・ 総合運動公園で臨時職員への対応 ・ 施設の維持業務 ・ 復興イベント開催への対応 (復興市、みんなの祭、ほっこり祭、メジャーリーグ B) ・ 視察対応 (フランス大使館等)
状況 (ハザード)					
状況 (被害)					
状況 (その他)	○ 渡波学校給食センター ・ 津波襲来、1F の一部床まで浸水 (3/11 3 : 20 ~ 3 : 50 頃)				○ 図書館 ・ 体調不調者続出 (1 週間後から) (3 月末現在 84 名) ○ 総合運動公園 ・ 3 月中旬に水、食料が不足
資源 (ヒト)					
資源 (モノ)			○ 図書館 ・ 中央商店会から炊き出しを受ける		
資源 (カネ)					
今後の目標	○ 渡波学校給食センター・湊学校給食センター・牡鹿学校給食センター ・ 小中学校、保育所、幼稚園の児童、生徒、園児の津波警報時の引渡基準の明確化				

表 3-32 市職員行動ほか整理表 - 災対教育部（12）【教育関連機関】

区 分	3 月 11 日(金)1 日目	3 月 12 日(土)2 日目	3 月 13 日(日)3 日目	3 月 14 日(月)4 日目	3 月 15 日(火)5 日目以降
実際の対応	○ 歴史文化資料展示施設整備対策室 ・ 一時避難（総合体育館へ） ・ 防災用物資の搬送手伝い ・ 所属課の職員安否確認	○ 歴史文化資料展示施設整備対策室 ・ 情報収集（テレビ、外部の目視等による）	○ 歴史文化資料展示施設整備対策室 ・ 避難所対応（向陽小学校にて）	○ 歴史文化資料展示施設整備対策室 ・ 避難所対応（向陽小学校にて）夜は本庁へ戻る	○ 歴史文化資料展示施設整備対策室 ・ 避難所への物資配送（湊中学校、湊第二小学校）(3/15) ・ 学校へ聞き取り、物資移送（旧石巻市東部地区）(3/16) ・ 住吉幼稚園の避難所閉鎖（ 3/17 ） ・ 文化財の確認（ 3/17 ） ・ 文化センターヘトラロープ設置（ 3/18 ） ・ 文化財の確認（ 3/18 ） ・ 文化センター片付け ・ 避難所対応（石巻市立女子高） ・ 文化財レスキュー開始 ・ 避難所運営プロジェクトへ参画（ 4/20 ） ・ 避難所対応（図書館）
状況（ハザード）					
状況（被害）					
状況（その他）				○ 災対教育部の要望他 マスコミ対応に苦慮	
資源（ヒト）					
資源（モノ）					
資源（カネ）					
今後の目標	○ 災対教育部の要望他 ・ 暖房器具はあったが、ファンヒーター集中暖房の為、停電で使用不可、暖房器具必要 ・ 津波などの正しい情報を正確に知ることができるシステムを構築してほしい ・ 要望：無線機を各校に配備 ・ 避難者に配布する防寒着がなかった（毛布、衣類等）				

3.4 消防職員の活動

3.4.1 方法（傾聴ヒアリング）

災害時の応急対応活動の中核であり、市の応急対応活動と密接な連携を必要とする消防職員に対し、災害時に体験し、見聞きした周囲の状況を把握するため、傾聴ヒアリングを行った。

表 3-33 消防職員の傾聴ヒアリング対象者

区分	対象者 （人）	傾聴ヒアリング （人）
消防職員	15	15

消防職員へのヒアリングは、基本的に市職員への傾聴ヒアリングと同様に傾聴ヒアリングの手法を用いて行い、災害時の応急対応活動及び周囲の状況を再現するため、地震発生時から概ね1週間の初動期間における行動を振り返ってもらい、その状況を聴取した。

なお、傾聴ヒアリングは、1対1で行い、約1時間弱の時間で行った。

ヒアリングの記録は、音声と動画として記録し、音声は別途文字に書き起こした。

図 3-4 消防職員への傾聴ヒアリングの様子



3.4.2 期間

2012年1月24日,26日,30日,31日の4日間で行った。

3.4.3 対象者

対象者は、市域で活動を行った各部署から抽出して行った。

対象者の所属は次のとおり。

表 3-34 消防職員のヒアリング対象者

順番は、実施日順

番号	所属	人数	実施日時
1	矢本消防署 河南出張所	1 名	1 月 24 日
2	河北消防署	1 名	1 月 24 日
3	河北消防署桃生出張所	1 名	1 月 24 日
4	女川消防署牡鹿出張所	1 名	1 月 26 日
5	女川消防署雄勝出張所	1 名	1 月 26 日
6	河北消防署北上出張所	1 名	1 月 26 日
7	消防本部総務課	1 名	1 月 30 日
8	消防本部予防課	1 名	1 月 30 日
9	消防本部警防課	1 名	1 月 30 日
10	消防本部通信指令課	1 名	1 月 31 日
11	石巻消防署	1 名	1 月 31 日
12	石巻消防署南分署	1 名	1 月 31 日
13	石巻消防署中央出張所	1 名	1 月 31 日
14	石巻消防署湊出張所	1 名	1 月 31 日
15	石巻消防署渡波出張所	1 名	1 月 31 日

3.4.4 ヒアリング結果

ヒアリング結果は、警察、消防、医療の各機関のとりまとめ方法と同様に、ヒアリング音声を書き起こした記録紙から、東日本大震災に係る発言を一つの文章（センテンス）として抽出し、「ID1」、「ID2」、「地区」、「日」、「区分」、「発言内容」に分類した。

その分類については下記の通りである。

ID1：仮の整理番号（ID 番号）

ID2：ヒアリング対象者の名前

地区：ヒアリング対象者が所属する地区

日：発言内容の時点が特定できる日にち（但し、特定の時点に係わないものは「 - 」、
時点が不明確または確定できない場合には「不明」とした）

区分：「行動」、「状況 A」、「状況 B」、「その他」に区分した。

発言内容：センテンスとして抽出し、これらを簡略化または一部補足（センテンスに分解

すると意味がわからなくなるもののみ)した。

なお、「区分」の定義については、下記の通りである。

区 分	分類する際の基本的な考え方
行動	・ヒアリング対象者の単独行動 ・ヒアリング対象者が属する地域、団体、組織の行動
状況(A)	・自然現象の状況 (地震、津波、浸水、地面の亀裂などの状況)
状況(B)	・社会現象の状況 社会基盤の被害状況：道路交通、断水、停電など被害や復旧の状況 救助活動：市、消防、警察、自衛隊、ボランティアなどによる救助活動 地域住民：周囲の人の様子、避難所の様子
その他	・ヒアリング対象者の見解または感想 ・市や災害対策関係機関への要望 ・ その他、災害対策に関する意見や提案

次ページ以降に、表として整理する。

表-3.35 消防部門ヒアリングからの行動整理表（その１）

日 所属部門 （地区）	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日以降	行動時点が特定できないもの
石巻消防署 （石巻）	- 地震発生時、消防車両（ポンプ車）で中里地区に向かっていた。 - 周辺の被害状況を確認した。 - 水押地区で消防車両の拡声器マイクで大津波警報が発令されたと広報した。 - 火災出動した（消防本部の指示により）。 - 湊小学校近くで消火活動をした。 - 火事の野次馬に「高台に避難して下さい」と広報した。 - 津波の逃げ場を確保しながら消火活動をした。 「津波が来た」と大声で叫んでいる人がいたので消火活動を止めて、山へ避難した。 - 近くで救助要請があったので被災者を救助した（胸まで水に浸かりながら）。 - 火災危険のないところで火を起して一晩過ごした。 - 消防署長に活動状況と隊員の生存状況を伝えた。	湊小学校にある高架水槽で水を確保した。	- 自衛隊のヘリコプターがきたので水とミルク、オムツ、女性の生理用品が必要と伝えた。 - 看護学生に避難者のトリアージをしてくれと依頼した。	石巻消防署へ歩いて戻った。		- 署員の所在を確認しながら救助活動をしていた。 - 公民館から石油ストーブ、灯油の搬出をした。 - 燃料漏れの場所で危険排除を行った。 - ガス漏れ、異臭調査を行った。 - 遺体収容のお手伝いをした。 - 火災の救助活動をした。 - 石巻ガスの漏えいで爆発するとの噂話があったので制止した。 - 一旦戻りたいという方がいたが制止した。
石巻消防署 中央出張所 （石巻）	- 地震発生時、中央出張所にいた。 - 消防車両を出した。 - 建物内外の確認をした。 - 電話、内線電話、無線の確認をした。 - ガスの確認をした。 - 周辺住民を公民館の方へ避難誘導した。 - ニチロ工場の屋根に何人か人が残っていたのでヘリコプターへ救助要請をした。 - 石巻港湾病院から患者さんを動かしたいとの依頼があったが署員全員消火活動に出てしまったので今は対応出来ない旨を伝えた。					- 消火のための防災ヘリコプターの依頼をした。 - 隊員の増強、部隊の増強をお願いした。 - 南浜町、門脇町の搜索活動を行った。
石巻消防署 湊出張所 （石巻）	- 地震発生時、湊出張所にいた。 - ストーブを消して上のやかんをおろした。 - 車庫前に移動した。 - 広報車を車庫前に移動した。 - 無線を開局してラジオつけ、情報聞きながら周囲に広報した。 - 車の渋滞を誘導した。 - 津波が来たことを、渋滞している運転手に伝えた。 - 津波で車が転がってきたので住民を高い所に登らせ、自身も避難した。 - ひさしに上がっている人を3名救助した。		体力消耗している人が1名いたのでヘリコプターを要請した（病院に搬送）。			- 消防団で被災を免れたポンプ車があったので借りて、移動した。 - 津波警報から注意報に切り替わったことを広報した。 - 遺体の回収作業をした。

表-3.36 消防部門ヒアリングからの行動整理表（その2）

日 所属部門 （地区）	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日以降	行動時点が特定できないもの
石巻消防署 南分署 （石巻）	- 地震発生時、石巻消防署に代車を借りて帰る途中だった。 - すぐに署に戻った。 - 付近の見回りをした。 - 市の体育館に行った（避難者が集まっていた）。 - 消防署に戻り一時待機した。 - ホースや装備を持って日和山の方に向かった（21 時頃ひざ下くらいまで水がひいたので）。 - 門脇小学校付近の火災の消火活動をした。					- 警戒、巡視、救助を行った。 - 日本製紙の社宅がある付近で消火活動を行った。
石巻消防 渡波出張所 （石巻）	- 地震発生時、蛇田の自宅にいた。 - 自家用車で出張所に向かった。 - 家へ引き返し 250cc のバイクで出張所に向かった。 - 住民を渡波小学校へ避難誘導した。 - 資機材の点検を行った。 - 渡波出張所に避難してきた住民の負傷などを確認した。 - 渡波出張所 2 階以上に津波があがってこないか警戒に当たっていた。 - 渡波出張所前の民家で被災者を発見、大声で励ました（津波で今は救助に行けないので）。 - 消防車両からロープとライフジャケットを取り出した。 - ロープを命綱にして、声のする方向に救助に向かった。 - キュービクルの上に避難者が 3 名いたので救助した。 - 近くのセブンイレブンの公衆電話を確認しに行った（たぶん使えないだろうが）。 - 近隣の状況を確認した。 - 近隣の搜索をした。 - トラックの運転席から男性の方のかすかな声が聞こえたので救助した（閉じ込められている状態）。 - おじいさんとおばあさんが被災しているとの情報で、一旦渡波出張所に戻り、所長以下 3 名で救助した。 - 渡波出張所に避難している住民に非常食があるので自分たちで作って食べて下さいと依頼した（自分たちは救助作業があるので）。 - 警戒中の職員の安否確認を行った。 - 宮城水産高等学校に状況の確認に行った。 - 渡波出張所のベランダに段ボールにビニール袋で仮設のトイレを設置した。 - 渡波小学校に状況の確認に行った。	- 渡波小学校避難者の災害時要援護者の確認をした。 - お湯をボトルに入れクリープをミルク代わりに赤ちゃんを連れている親に配った。 - 渡波駅裏方面に搜索に行った。 - 遺体に場所をメモして上にかけるものを探してかけて行動した。 - 状況報告とミーティングを行った。 - 市役所の渡波支所に状況を確認しに行った。 - 避難所からきた避難者の駆けつけの対応をした。 - 透析患者が相当数いたので渡波出張所にある酸素や応急処置ができるのがあるかどうか確認しに行った。	- 宮城水産高校と万石浦中学校の避難所で傷病者等の確認を行った。 - 宮城水産高校の状況を確認しに行った（先生の指示のもと生徒が一生懸命活動していた）。	- 搜索活動をした。 - 渡波出張所は避難者で寝るスペースがないので椅子で仮眠をとった。	- 湊地区と渡波地区の搜索活動をした。 - 牧山地区の神社に 20 名の救急患者がいるという情報で消防団車両に乗って向かった。 - 救急要請を無線で行った。 - 半島部で避難所に取り残された方たちが 20 名ほどいる情報で確認しに行った。 - 石巻赤十字病院に職員を乗せ治療しに向かった。 - 情報を得ようとして本部に立ち寄った。	- 遺体の搬送を消防団に依頼した。 - 渡波出張所内の自力避難困難者を布団ごと避難所に運んでほしいと依頼した。 - 石巻赤十字病院と救急隊の調整役にあたった（救急隊長だったので）。 - 石巻赤十字病院で活動していた。

表-3.37 消防部門ヒアリングからの行動整理表（その３）

日 所属部門 （地区）	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日以降	行動時点が特定できないもの
消防本部 警防課 （石巻）	- 地震発生時、消防本部にいた。 - 警防対策本部（市で言えば災害対策本部）に入って、各構成市町との連絡、各署との連絡をした。 - 所署の状況、市町の状況の情報連絡を受けていた。 - 救急要請や災害要請をやり取りし、全部司令センターに振り分けてやる作業をしていた。 - 応援隊である緊急消防援助隊との調整をしていた。					市、緊急援護隊、病院との連絡調整を行っていた（1週間ほど）。 - 運動公園に警防対策本部の人達と一緒に入った。 - 連絡の遣り取りをしていた。
消防本部 総務課 （石巻）	- 地震発生時、消防本部内にいた。 - 車庫から車両を出す作業を行った。 - 囑託の防火指導職員に声がけをした。 - 建物に避難してくる方を避難誘導した（市で指定されている避難場所ではないが）。 - 災害対策室でどのように対応するかを協議した。 - 石巻商業高校に避難者の確認に行った。 - 屋上から火が上がってるところがないか監視した。	- 新潟県の緊急援助隊に案内をしに行った。 - ガソリンスタンドに自家発電の燃料の手配に行った。		排水している車両の誘導をした。		旧青果市場に遺体の搬送を行った。
消防本部 通信指令課 （石巻）	- 地震発生時、非番で自宅にいた。 - 自宅の父親、母親に自家用車に入れて車でいなさいと指示をした。 - 車で消防本部に向かった。 - 消防本部に到着した（40分から1時間くらいかかった）。 119番の扱いとか、指令などをやっていた。 - 全国の支援隊の方々の調整を行っていた。 - 山の上にある発電機で動くアンテナに交替制で燃料を運んだ。 - 署員の安否確認のため、近くの署を歩いて回った。		- 全国から来た各隊の案内を同乗して行った（上手く行っていた）。 - 渡波出張所に行き現場で活動した。			- 外に出ないので調整など繰り返しをしていた。 3月いっぱい消防本部にいて活動した。 4月頃から2班体制になった。
消防本部 予防課 （石巻）	- 地震発生時、消防本部内にいた。 - 署の被害状況の確認をした。 - 災害対策本部に被害状況を報告した。 - 避難住民の対応に当たった（署は指定避難場所ではないが）。 - 避難誘導をした（夕方まで）。					- 遺体搜索をした。 - 遺体搬送をした。 - カメラを持って浸水や道路状況を確認した。

表-3.38 消防部門ヒアリングからの行動整理表（その４）

日 所属部門 （地区）	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日以降	行動時点が特定できないもの
女川消防署 雄勝出張所 （雄勝）	・地震発生時、雄勝出張所内にいた（勤務員は6名）。 ・出張所の被害確認を行った。 ・周囲の状況の被害確認を行った。 ・雄勝総合支所の高台に車両を退避させた（発電機や消防の資機材を乗せて）。 ・避難の声かけを行った。 ・サイレンを鳴らして総合支所までマイクで叫びながら退避した。 ・裏山に退避した。 ・消防無線で見たこともない津波が来たということと消防車両が流されたことを報告した。 ・たき火をした（濡れた避難者多数いたため）。 ・瓦礫の中で燃えないトタンや鉄板、シャッターの残骸などで燃えているところに囲って飛び火しないようにした。	・野営した（朝5時頃まで）。 ・小隊を3グループに分けて歩いて周辺の状況確認を行った。 ・明神地区避難所、名振地区避難所、船越地区避難所の状況確認を行った。 ・大須小学校に立ち寄り、災害対策の打合せを行った。 ・行政が各浜に支援や救助にはとても行かない状況を役場職員、自主防災会長、消防団幹部に伝えた。 ・海上から2名の遺体を収容した。 ・大浜地区で4、5名の遺体を収容した。 ・雄勝病院の状況を確認しに行った（20人の死亡を確認） ・総合支所の駐車場で野営した。	・車での行き来ができない地域になっているので、医療機関をどうにかしてほしいと鳥取の防災航空隊に依頼した。 ・ヘリポートの確保を行った。 ・搬送の手伝いを行った。	・搜索活動を行った。	・搜索活動を行った。	
女川消防署 牡鹿出張所 （牡鹿）	・地震発生時、牡鹿出張所内にいた（勤務員は5名）。 ・「高台に逃げてください」と声だしをした。 ・住民の手を引っ張ったりして、避難誘導をした。 ・保育所の安否及び状況確認を行った。 ・周辺住宅の2階におばあさんが残っていて助けてくれというのを聞きつけ救助し総合支所へ連れて行った。 ・津波を監視していた（夜間）。 ・町を消防車両の照明で照らしていた（津波と周辺の状況確認）。 ・総合支所の幹部の方と会議をした。 ・牡鹿半島に津波が来ると予測し津波襲来の広報をした（7mの津波が襲来したとの一報があったので）。	・人命搜索を行った。 ・漁民アパート内に何か人が閉じ込められていたのでエンジンカッターで壊して2人救助した。 ・2体遺体を収容した。 航空	・1体遺体を収容した。			・水槽付きのポンプ車で給水作業を行った
矢本消防署 河南出張所 （河南）	・地震発生時、出張所の事務室にいた。 ・職員の数と負傷者の確認をした。 ・職員の負傷の数と庁舎の被害の確認をした。 ・職員の安否確認をした。 ・被害調査をした。 ・現場の見回りをした。	・軽油をポリ容器で10本ほど確保に歩いた。	・地域周辺の被害調査を行った（家屋の被害、消防施設など）。			・救助隊の給油確保に出回った。

表-3.39 消防部門ヒアリングからの行動整理表（その5）

日 所属部門 （地区）	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日以降	行動時点が特定できないもの
河北消防署 （河北）	・ピックアップまで寝たきりの人を徒歩で搬送した。		・大川、釜谷地区周辺で遺体を何体か収容した。 ・長面の避難者に食糧や物資（毛布等）を搬送した。			・遺体の収容をした。
河北消防署 北上出張所 （河北）	・地震発生時、観音寺の防火対象物の立入検査をしていた。 ・観音寺の方と自己の安全確認を行った。 ・消防車両の確認を行った。 ・月浜の事務所に戻った。 ・所属地までサイレン吹鳴しながら「大津波警報が出ています」と広報した。 ・装備を整え高台に移動した。 ・高台で津波を監視した。 ・立神、長塩谷地区に広報した。 ・高台に移動して待機した。 ・「5m以上の津波が来ていますと」周辺住民に伝えた。 ・けが人がいるとの情報で救助活動を行った（60代の女性が骨折）。 ・運送会社の幌付きの車に骨折した女性を入れさせてほしいということをお願いした。	・救助要請を行っていた。 ・月浜の事務所に徒歩で移動した。 ・白浜荘で裸足で避難していた人が3名いたので隊員2名でおぶって降ろし、にっこりサンパークに搬送した。	・徒歩で搜索活動を行った。			・避難所での要望聞きをした。
河北消防署 桃生出張所 （桃生）	・地震発生時、石巻市内にいた。 ・自家用車で出張所に参集した。 ・桃生町内の被害調査に出向いた。					

表-3.40 消防部門ヒアリングからの【地震、津波、浸水、地面の亀裂等の自然現象】整理表（その１）

日 所属部門 （地区）	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日以降	行動時点が特定できないもの
石巻消防署 （石巻）	・震災直後に停電が発生した。 ・道路の起伏が次々に出ていた。					
石巻消防署 中央出張所 （石巻）						・道路は流された建物や瓦礫で車が動ける状況ではなかった。
石巻消防署 湊出張所 （石巻）	・側溝に水が来ていた。					・2日ぐらいで水がひけ歩ける状況になった。
石巻消防署 南分署	・門脇南側地区で火災が発生した。					
石巻消防 渡波出張所	・石巻市内の方向から女川方向に津波が来た。					
女川消防署 雄勝出張所 （雄勝）	・目算で15m以上の津波が襲来した。 ・瓦礫が周囲を全部覆ってしまっていた。 ・総合支所の脇で火災が発生した（17時頃）。 ・津波で火事が消えた。					・電気、ガス、水道全部のライフラインが使えなかった。 ・水浜地区で火災が発生した。
消防本部 総務課 （石巻）	・北上川がものすごい勢いで水が引いていた。	・水は来ていなかった。				
消防本部 通信指令課 （石巻）	・暗くなって外を見た時に水が来ているのがわかった。 ・コバルトラインでは大分地割れがあった。					
消防本部 予防課 （石巻）	・署舎裏の道路側からの水がだんだんきているのはわかった。					
女川消防署 牡鹿出張所 （牡鹿）	・出張所の裏山が崩れた。 ・周辺は少し水が湧いているような状況（道路の亀裂と水道管の破裂があったと認識）。 ・津波は沿岸部の家がなぎ倒され壊されながら押し寄せている状況だった。					
河北消防署 （河北）	・牧野巣でがけ崩れが発生した。 ・石巻で火災が発生した（門脇小学校付近の火災）。 ・水が余りにも多くて車が入れる状態ではなかった。 ・蛇田地区方面で火災を発見した。 ・河北消防署前は水であふれていた。 ・河北消防署北上出張所が壊滅状態との連絡があった。 ・女川消防署雄勝出張所が壊滅状態との連絡があった。	・堤防が決壊した。 ・門脇小学校の火災は3月12日も燃え続けていた。				・女川消防署が壊滅状態との連絡があった。 ・龍谷院のお寺は壊滅していた。
河北消防署 北上出張所 （北上）	・海岸線でがけ崩れが発生した。 ・海の底が全部見えるぐらい、範囲全部すべて海水が無くなった状態（引き潮で）。 ・津波は6回以上来ていた。					
河北消防署 桃生出張所 （桃生）	・桃生地区は建物の全壊や大規模半壊が多数あった。 ・夜半に電話回線が不通になった。 ・断水、停電になっていた。					・沿岸部の消防署、出張所は津波で壊滅状態だった（緊急援助隊に頼らざるを得ない事態）。

表-3.41 消防部門ヒアリングからの【地震、津波、浸水、地面の亀裂等の自然現象】整理表（その2）

日						行動時点が特定できないもの
所属部門 （地区）	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日以降	
矢本消防署 河南出張所 （河南）	・ 15 時頃にガス漏れが 1 件発生した。 ・ 建物の全壊とかはほとんどなかった。 ・ ハウスのタンクの配管が壊れて、用水に重油が流れた事象があった。				・ 建物は全壊 4 棟、半壊 400 棟、一部損壊 192 棟だった （4 月 12 日時点）	・ 市立病院は被災していた。 ・ 電気、水道は使えなかった。

表-3.42 消防部門ヒアリングからの【社会基盤の被害状況、救助活動、地域住民の様子等の社会現象】整理表（その１）

日 所属部門 （地区）	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日以降	行動時点が特定できないもの
石巻消防署 （石巻）	- 消防本部との連絡は一切取れなかった。 - 消防署長と唯一、携帯電話が通じた。 - 湊地区の防災無線は聞こえたが何を言っているか、わからなかった。	- 湊小学校を我々消防隊の活動の拠点にした。 - 湊小学校の先生、看護学生とで避難所を立ち上げた。 - 湊小学校の避難者は大体500人から700人ほどだった。	100名分の食料が昼頃に搬送された。 - 高架水槽の水は、避難者に公表しなかった（すぐにパンクしてしまうので）。 - 広島県の防災ヘリコプターが来てくれ、急病人と怪我人の搬送をしてくれた。 - 陸上自衛隊が水、食料、毛布等の物資を運んでくれた。			- 湊地区で人命救助、災害活動を行った。 - 協力できる方が物資の搬入の手伝いをしてくれた。 - プールの水をバケツリレーし、トイレの掃除をした。 - 道路の瓦礫を撤去してもらった（重機を持っている消防団がいたので）。 - 校庭内の車や瓦礫を撤去した（ヘリコプターが1台降りれる分のスペースを確保するため）。
石巻消防署 中央出張所 （石巻）	- ポンプ車で門脇町、南浜町方面に広報した。 - 広報車で日和山方面へ津波の観測に行った。 - 防災無線は聞こえた。 - 日和山から津波が見えたので無線で報告した。 - 指令課から火災の指令が入った（南浜町に広報に行っている時に）。 - ものすごく車が渋滞していた。 - 火災の消火活動を終え、撤収作業をした（その後、このチームとは連絡が途絶える）。 「色々な災害が発生しているので現状で頑張っ現場対応してください」と無線連絡が入った。	石巻市の防災対策課と連絡をとれる状態ではなかった。				- 出張所に住民が避難してきた。 - 公民館のトイレ用に石巻小学校のプールの水を運んだ。 - 火災現場は自衛隊の方でやってもらった。
石巻消防署 湊出張所 （石巻）	- 他の隊員たちは魚市場の方に消防設備の検査に行っていた。 - 大津波警報の防災無線が鳴った。					
石巻消防署 南分署 （石巻）	- 日本製紙では避難が始まっていた。 - 市防災無線が鳴ったのか記憶にない。 - 車で流されてきた人たち、ブロック塀に上がったり、車から出て、車の屋根とかに上がっている方を署員が救助した。 - 南分署に避難してきた人は84名だった。					- 新潟県緊急援助隊の誘導案内（ナビゲーション）をした。 - 分署地下の水槽の水は80名の避難者がいて1日しかもたなかった。
石巻消防 渡波出張所 （石巻）	- 車が大渋滞していた。 - 消防無線と発電機は渡波出張所1階にあったので津波によって流され使用できなかった。 - 住民16名が渡波出張所に避難してきた。 - 渡波小学校体育館は避難者が相当数いた（暖をとれるものがなく、ギュウギュウ詰めの感じ）。	- 人に呼び止められると必ずそこには遺体があった（救助という次元ではない状態）。 30名の遺体は見ている。	万石浦中学校では津波は来てなく、医務室の方もベッドも使える状態だった。	- 渡波出張所職員は全員、湊地区に集合せよとの指示があった。 - ヘリコプターからの情報で津波の騒ぎがあった。	- 神社の宮司が救急患者避難者のそれぞれの病歴、お薬の一覧を作成していた。 3人のバイタルチェックを行った（内2名が心疾患だった）。	- 臨時の遺体安置所を渡波支所隣の公民館に設置した。 6日目ぐらいで食料の支給があった。 - 渡波地区はかなり劣悪な状態だった。 - 避難所では先生、避難者、医療関係者、地元の看護師、保健師たちがまとまって一生懸命頑張っていた。

表-3.43 消防部門ヒアリングからの【社会基盤の被害状況、救助活動、地域住民の様子等の社会現象】整理表（その2）

日 所属部門 （地区）	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日以降	行動時点が特定できないもの
消防本部 警防課 （石巻）	・有線が途絶した。 ・無線でやり取りしていたが、なかなかできなかった。 ・県の防災衛星ネットワークというのが1回線しかなく、それが遣り取り出来なかった。 ・回線が1つしかないので、災害事象の受付も含めて、1回の事象に20回も50回も電話かけて、ようやく繋がる状態だった。 ・防災無線は聞こえた。 ・消防本部は自家発電なのでテレビは途絶しなかった。 ・津波のイメージがつかめなかった（どのくらい高くなったらどこまでなくなるのか）。					・消防本部の2階に指揮支援隊のブースを作った（470人ほどで廊下も占拠されてしまい困った）。 ・時間的にロスがあって、後手に回るところが十分あった。 ・情報が不確定なものが入ってきて、うまく対応できなかった。 ・火災救急救助以外の情報が沢山入ってきた（これが欲しいや今、こうゆう状況とか）。 ・119番の回線が回復したのが1週間くらい経ってからだった。 ・一般電話は2週間以上使えなかった。 ・市の災対支部に行っている情報と、直接この119番にかかってきているだぶった情報が沢山あった。 ・消防本部2名を市に常駐させるというのは、かなり有効であった。 ・市が対応できないという日が3日ぐらい続いた。 ・食料や寒さ対策の連絡手段がとれなかった。 ・警察、自衛隊、消防の三者の会議で情報の共有は図っていた（市の災対本部の会議の中に消防職員が連絡員となって）。
消防本部 総務課 （石巻）	・災害対策室の方に消防対策本部を立ち上げた。 ・防災無線は鳴っていた。 ・大津波警報は、はっきり聞こえた。 ・火事の連絡、通報があった。	・桃生あたりは浸水していなかった。	・他県から消防車や救急車の応援部隊を案内（ナビゲート）した。	・国土交通省のギアポンプ車でパイパスの排水作業が始まった。		・大橋地区では生協が物資を避難していた方に提供していた。 ・ナビゲートで行く隊員が浸水状況を地図にまとめ情報を共有した。 ・4月いっぱいまで消防本部に避難された方がいた。
消防本部 通信指令課 （石巻）	・車は結構流れていた（渋滞になり始めたのが蛇田のバイパスの中間付近からだった）。 ・防災無線は鳴っていた。 ・窓を開けていたがラジオもつけていたということもあって防災無線の内容はわからなかった。 ・屋根の上にいる助けてほしいという情報が多数あった。 ・被災者に「各隊が行くまで何とか我慢しろ」という対応をしていた。 ・119番の回線が全部切れてしまった。 ・2名ほど通信指令課の中に入ってもらって緊急消防援助隊への指令は支援隊がやっていた。 ・水も食料もなかった。					・発電機があったので電気は使えた。 ・アンテナからの光回線が、1ヶ所切れてしまい、各隊に連絡する時に時間を要した。 ・連絡系統、通信指令系統で断線があり指令が流れないトラブルがあった。 ・状況把握をするのに相当時間を要した。 ・機械が壊れてしまって情報が（津波など）入ってこなかった。 ・テレビ、ラジオ、現場の情報、三つ合わせながら津波というすごいのが来ているなという感じだった。 ・指令をかけると、無線、指令所（内容と地図）、庁内の音声と3つに出るが、その中の2つがだめになり、残ったのが無線だけだった（その状態が1ヶ月ぐらい続いた）。 ・通行止め（水がまだあって行けない、歩いてはいけるという情報）があって、指令を出す時は普段は1隊や2隊で行くのも倍の4隊で出して何とか対応していた。 ・対応する新しい部署ができたりしたが正確に情報が伝わってこないの、二度手間、三度手間をかけ連絡していた。 ・道路上の信号は止まっていて、警察官が対応していた（余りトラブルなかったような感じだった）。 ・騒然とはしていたが、物すごい大騒ぎになっているという感じではなかった。

表-3.44 消防部門ヒアリングからの【社会基盤の被害状況、救助活動、地域住民の様子等の社会現象】整理表（その3）

日 所属部門 （地区）	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日以降	行動時点が特定できないもの
消防本部 予防課 （石巻）	- 署所の参集状況を確認した。 - 自家発電なので暖房もついていた。 - 市から総合運動場を借りて緊急消防援助隊（北海道、新潟、和歌山、鹿児島、山口）の野営場にした。 - 屋上に上がって火災の監視を行った。 - 防災無線が聞こえた記憶はなかった。					- 避難者 450 名分、近隣の生協、スーパーがお店の中の品物をすべてこちらに無償提供してくれた。 - 地元町内会長さん初め幹部の皆さんにお願いをして避難住民の方の対応をしていただいた。 - ペットは訓練棟の 2 階を開放し対応した（他の避難者よりクレームがあったため）。 - 緊急消防援助隊の案内（ナビゲーション）を行った（本部車両が流されたので）。 - 衛星電話で市の職員と連絡を取った。 - 浸水状況は案内に行った隊員から情報を聞き、地図に書いてチェックした。 - 署内の避難者は最大で 450 名になった（自家発電で明かりもある暖房もあるので）。
女川消防署 雄勝出張所 （雄勝）	- 屋外の防災行政無線から 5m の大津波警報を確認した。 - 総合支所の災害対策部と合流し情報収集した（津波、門扉の閉鎖状況など）。 - 総合支所前の車庫上に署員を登らせ津波を監視させた。 - ラジオで津波の規模が 10m 以上に切りかわった。 - 総合支所の状況を確認した。 - 総合支所から水と食料を分けてもらった。	ラジオでは別の被災地の情報が入ったが石巻市の情報はなかった。	- 河北消防署を目指して移動した（外部から何もこないの）。 - 総合支所内や地区の避難所で具合の悪い方が多数いた。 - 警察の無線でヘリコプターの救急を要請した（駐在が持っていた無線にて）。 - 消防の防災ヘリコプターが到着した（鳥取県の防災航空隊）。 - 京都 DMAT と国士舘大学医療チームが到着した。 - 自衛隊に生き残っていた重機で幹線道路を車 1 台分通れるように瓦礫を除去してもらった。	海上自衛隊から発電機とガソリンを借りた。	- 役場に衛星電話が入った(3/17)。 - 緊急消防援助隊山口県隊が到着した(3/17)。 - NTT 愛媛が仮設の公衆電話を設置してくれた(3/18)。	- 総合支所を仮拠点として活動した。 - 非難、罵倒がなく住民も行政も一体となって災害に対応していた。
女川消防署 牡鹿出張所 （牡鹿）	- 車両が出動可能か確認した。 - 消防車を移動できなかった（裏山が崩れ軽自動車サイズの石が乗っかっていたため）。 - 消防本部からの無線連絡があった（大津波警報）。 - 総合支所に消防車両で広報した。 - 総合支所の消防担当の方に大津波警報の防災無線を流してもらった。					- 牡鹿半島各浜で 100 人ずつ遺体があがっている情報がラジオで放送されていた。 - 地元の土木業者が重機でがれきを移して道路をつくろうと動いていた。 2 チームに分かれて捜索活動を始めた。 - 業者が道路を復旧させていた。 - 泊のコミュニティセンターに住民が避難していた。 - ガソリンや食事は総合支所の方でみんな手配していただいた。 - 牡鹿地区に火災はなかった。 - 電話はしばらく使えなかった。

表-3.45 消防部門ヒアリングからの【社会基盤の被害状況、救助活動、地域住民の様子等の社会現象】整理表（その４）

日 所属部門 （地区）	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日以降	行動時点が特定できないもの
河北消防署 （河北）	・ 署員全員を招集した。 ・ 広報連絡車で津波の広報をした。 ・ 龍谷院に人が集まっていた。 ・ 尾崎橋で広報連絡車の車両マイクで津波の広報をした。 ・ 尾崎地区で海の様子を見に行った人がかなりいた。 ・ 尾崎地区の人たちを避難誘導した。 ・ 山の上の五十鈴神社避難所に20人ぐらいの人がいた。 ・ 消防職員が署内の安全確認をした（壊れたところがないか）。 ・ 発電機の準備をした。 ・ 消防署内の人員の安全・安否確認を行った。 ・ 住民に広報して歩いた。	・ 通信手段は消防無線のみだった。 ・ 急病人を木村医院に搬送した。 ・ 10時頃大川小学校の子供が流されたとの一報が入った。 ・ 緊急救助隊の先発隊が到着した。	・ ポンプ車で現場に出動した。 ・ 間垣周辺の救助活動を行った（夕方まで）。 ・ 搜索活動をした。 ・ 石巻市内伊原津工場付近で救急のための緊急出動があった。			・ 大川小学校に残っていた生徒を船で避難所に搬送した。 ・ 谷地中の中洲で女性が助けを求めているとの通報でヘリコプターを要請した。 ・ 龍谷院避難所には100人ぐらい避難していた。 ・ 入釜谷に透析患者がいるとの情報でヘリコプターを要請した。 ・ 長面、尾崎地区には180人ぐらいの避難者がいた。 ・ 飯野川中学校に取り残された人はヘリコプターでピストン輸送していた。
河北消防署 北上出張所 （河北）	・ 大津波警報をラジオから得た。 ・ 災害対策本部に出向いた。 ・ 防災無線は聞こえていた。					・ 北上地区では火災は発生しなかった。 ・ にっこりサンパークのクラブハウスに本部機能を移動させた。 ・ 市の災害対策本部、消防署、消防団、警察、自衛隊、5機関が集まって会議を行った。
河北消防署 桃生出張所 （桃生）	・ ポンプ車で署員3名被害調査に向かった。 ・ 桃生地区は海に全く面していないので津波の被害は全くなかった。 ・ 沿岸部が大変なことになっているという無線を傍受した。 ・ 電話は被災地内では込み合っていないが遠方に発信するとつながるケースがあった。 ・ 本部から被災地に3名支援部隊を出動の指示があり支援隊が出動した（20時過ぎ）。 ・ 水に腰までつかりながら火災対応した。	・ 食料調達に署員を出した（災害活動はかなりの期間の長期化が予想されたので）。 ・ 水利がどこまでの範囲使用できるか調査にいった。 ・ 救急要請が5件あった。	・ 救急要請が6件あった。 ・ 出張所内の自家発電が3日でオーバーヒートした。			・ 石巻赤十字病院から重症度の低い患者を小学校に振り分ける活動があった。 ・ 生活用水の確保を行った。 ・ 避難所の情報源はラジオのみだった。 ・ 倒壊危険がある建物が多数あったので呼びかけを行った。 ・ 更なる倒壊救助事案を未然に防ぐために頻繁に出歩いた。 ・ 生活用水の確保に行った。 ・ 避難所の情報源はラジオのみだった。 ・ 倒壊危険がある建物が多数あったので呼びかけを行った。 ・ 署員が家庭からキャンプ用品、ランタン、メルブルを持ち寄った。 ・ 全国から来た緊急援助隊の案内をした。 ・ 県の防災ヘリコプターを誘導した。 ・ 家族の安否がわからない中での勤務で動揺している署員がいた。

表-3.46 消防部門ヒアリングからの【社会基盤の被害状況、救助活動、地域住民の様子等の社会現象】整理表（その5）

日 所属部門 （地区）	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日以降	行動時点が特定できないもの
矢本消防署 河南出張所 （河南）	・旧河南地区においては救助要請がなかった。 ・通信手段は無線、消防無線だけしかなかった。 ・職員17名全員18時57分に集合完了した。 ・救急要請が地震によって12件あり、15人搬送した。 ・津波被害は河南地区ではなかった。 ・消防署として正規に機能していた。 ・病院は1ヶ所しか機能していなかった。 ・ヘリポートに署員2名が出向して、ヘリの誘導をした。 ・消防本部に出向していた3名の隊員が蛇田であった火災の消火活動をした。	・近県援助隊の案内のため署員3名が出向した。 ・消防本部から車両用燃料を河南出張所で確保してとの指示があった。 ・救急出動が10件あった。	・救急要請が9件あった。 ・日赤病院は患者で溢れていた。	・救急要請が5件あった。	・救急要請が3件あった。 ・停電が解除された(3/19)。 ・火災が1件発生した(3/31)。	・ガソリンスタンドは被災していなかった(ただ停電により給油が出来ないので発電機を使って給油した)。 ・南郷、鹿島台、涌谷国保で何名か収容できないか医療調査に署員が出向いた(日赤病院がバンク状態なので)。 ・緊急車両に給油の手配をした(消防品部からの要請)。

表-3.47 消防部門ヒアリングからの【その他、ヒアリング対象者の見解または感想、市なや災害対策関係機関への要望、その他】整理表

ID	地区	所属	日	区分	発言内容
sbu0319	石巻	石巻消防署	-	その他	車で避難してきている方のラジオが唯一の情報源
sbu0345	石巻	石巻消防署	-	その他	保健室とか1階じゃないなければ医療器具が使えたはず
sbu0346	石巻	石巻消防署	-	その他	備蓄するものも1階じゃなければもっと何とかなったのでは
sbu0348	石巻	石巻消防署	-	その他	大きい学校とか、公共機関には防災無線の子機があってもいい
sbu0350	石巻	石巻消防署	-	その他	衛星電話があれば
sbu0394	石巻	石巻消防署中央出張所	-	その他	1ヶ所に電話は通報されて分散するシステムはどうかと思う
sbu0395	石巻	石巻消防署中央出張所	-	その他	消防団でも備蓄したほうが良いのではないか
sbu0396	石巻	石巻消防署中央出張所	-	その他	車両燃料の確保
sbu0397	石巻	石巻消防署中央出張所	-	その他	発電機の確保
sbu0415	石巻	石巻消防署湊出張所	-	その他	防災無線が個別に入ったり、聞こえないという人もいた
sbu0416	石巻	石巻消防署湊出張所	-	その他	情報伝達が重要（今回はうまく機能していなかった）
sbu0417	石巻	石巻消防署湊出張所	-	その他	なかなか逃げる人がいない
sbu0418	石巻	石巻消防署湊出張所	-	その他	防災無線の話し方（緊迫感のない話し方、時間的に最初から最後まで聞き取れない）
sbu0419	石巻	石巻消防署湊出張所	-	その他	隊員が潮位観測をしていると消防がいるからまだ安心だという住民の意識（どう危機意識を持たせたらよいのか）
sbu0366	石巻	石巻消防署南分署	-	その他	分署には個人持ちの食料備蓄が3日分しかない
sbu0368	石巻	石巻消防署南分署	-	その他	防災無線はもう少し色々な情報を出してもいい（生活情報やライフラインの復旧状況など）
sbu0369	石巻	石巻消防署南分署	-	その他	備蓄はある程度必要
sbu0444	石巻	石巻消防渡波出張所	-	その他	浸水した冷たい水はかなり体にこたえている
sbu0477	石巻	石巻消防渡波出張所	-	その他	東松島地区が以前の地震で各避難所に災害用無線を設置している
sbu0478	石巻	石巻消防渡波出張所	-	その他	避難所の地域格差がかなりある
sbu0480	石巻	石巻消防渡波出張所	-	その他	衛星携帯的なものの手段
sbu0481	石巻	石巻消防渡波出張所	-	その他	情報発信の何かそういったものがあれば
sbu0209	雄勝	女川消防署雄勝出張所	-	その他	津波で装備全部無くしてしまったのが致命傷
sbu0210	雄勝	女川消防署雄勝出張所	-	その他	自分が生きていることが家族がわかっているのかどうかというのがわからない状態で仕事していた
sbu0212	雄勝	女川消防署雄勝出張所	-	その他	大津波警報の精度（6mの警報が実際は10m以上だった）
sbu0213	雄勝	女川消防署雄勝出張所	-	その他	スマトラの津波の映像で色々勉強して、シミュレーションしていたつもりだったが（人知を超えていた）
sbu0214	雄勝	女川消防署雄勝出張所	-	その他	勉強不足、危機管理能力が足りなかっただろうと思う
sbu0215	雄勝	女川消防署雄勝出張所	-	その他	何かあった時には避難場所を定めておいて動く
sbu0127	牡鹿	女川消防署牡鹿出張所	-	その他	災害発生時には総合支所の方に車両を持っていく取り決めがある
sbu0156	牡鹿	女川消防署牡鹿出張所	-	その他	住民の人たちにどう意識づけを持たせるか
sbu0157	牡鹿	女川消防署牡鹿出張所	-	その他	地震発生から5分以内に消防署を発つ計画があった
sbu0158	牡鹿	女川消防署牡鹿出張所	-	その他	住民の皆さんに防災対策をしていくことが必要
sbu0074	河北	河北消防署	-	その他	緊急援助隊は全国で大規模災害があると応援に来る部隊
sbu0076	河北	河北消防署	-	その他	一番困ったのは消防車両の燃料の問題
sbu0082	河北	河北消防署	-	その他	市のハザードマップの予想がかなり違っていた
sbu0083	河北	河北消防署	-	その他	広報に行ってもなかなか避難してくれない
sbu0084	河北	河北消防署	-	その他	大きな津波はこないだろうというイメージが住民にはあったのではないか
sbu0241	北上	河北消防署北上出張所	-	その他	飲料水と食料の不足
sbu0242	北上	河北消防署北上出張所	-	その他	空腹がひどくて動けない（食料の不足）
sbu0243	北上	河北消防署北上出張所	-	その他	食料の備蓄
sbu0244	北上	河北消防署北上出張所	-	その他	興味本位で災害や津波を見たいというのを阻止する手立て
sbu0245	北上	河北消防署北上出張所	-	その他	「津波が来なきゃ来なくて良かったじゃないですか」というふうな状況を作る
sbu0087	桃生	河北消防署桃生出張所	-	その他	阪神・淡路地震の教訓から、大きな地震が発生した場合は火災優先の原則がある
sbu0098	桃生	河北消防署桃生出張所	-	その他	消防署では1週間程度、署員全員が食べられる備蓄がある
sbu0105	桃生	河北消防署桃生出張所	-	その他	避難住民から福島原発の影響の質問が多数あった
sbu0115	桃生	河北消防署桃生出張所	-	その他	もっと多くのマンパワーを被災地へ投入するべきではないのか
sbu0116	桃生	河北消防署桃生出張所	-	その他	大きな災害が起きている現場に、より多くの戦力を投入したほうがよい
sbu0117	桃生	河北消防署桃生出張所	-	その他	圧倒的なマンパワー不足
sbu0118	桃生	河北消防署桃生出張所	-	その他	油断があったのではないかと（まさか津波がここまで来ないだろうという）
sbu0119	桃生	河北消防署桃生出張所	-	その他	ゴムボート、ウェットスーツ、水難に備える資機材の備蓄が必要
sbu0120	桃生	河北消防署桃生出張所	-	その他	津波の被害がないところに備蓄の必要があるのではないかと
sbu0121	桃生	河北消防署桃生出張所	-	その他	安定した電力の供給手段
sbu0122	桃生	河北消防署桃生出張所	-	その他	大容量の発電設備
sbu0123	桃生	河北消防署桃生出張所	-	その他	アンテナの増設（無線がままならない状態があったので）
sbu0124	桃生	河北消防署桃生出張所	-	その他	衛星電話を配備
sbu0528	石巻	消防本部警防課	-	その他	市に対して情報連絡員を派遣していた
sbu0531	石巻	消防本部警防課	-	その他	二重、三重の伝達手段があれば、やりとりが出来ないこともなかった
sbu0533	石巻	消防本部警防課	-	その他	市役所の通信連絡体制の確保が大きな問題
sbu0542	石巻	消防本部警防課	-	その他	連絡体制の確保
sbu0543	石巻	消防本部警防課	-	その他	4から5回線受けるところがあって、それを振り分けるというようなところがあったらよい
sbu0551	石巻	消防本部警防課	-	その他	食料とか寒さ対策が必要
sbu0269	石巻	消防本部総務課	-	その他	連絡のタイムラグをなくす（現場にいても空振りが多かった）
sbu0272	石巻	消防本部総務課	-	その他	細部の事案は消防団に回してもらいたい
sbu0515	石巻	消防本部通信指令課	-	その他	2系統や3系統ぐらいの情報交換できるようなシステム
sbu0519	石巻	消防本部通信指令課	-	その他	防災無線に関して中身がわからない
sbu0279	石巻	消防本部予防課	-	その他	自家発電は暖房も電気も24時間稼働で1週間はもつ
sbu0280	石巻	消防本部予防課	-	その他	防災拠点だが避難された方々が来たので、防災対応がなかなかできなかった
sbu0282	石巻	消防本部予防課	-	その他	避難場所はあらかじめ指定があるので、そこに住民の方が避難するのを大前提にしてもらいたい
sbu0283	石巻	消防本部予防課	-	その他	住民の方の初動体制をお願いしたい
sbu0293	石巻	消防本部予防課	-	その他	衛星電話があっても問い合わせる電話番号がわからなければ意味がない
sbu0298	石巻	消防本部予防課	-	その他	被害規模が大きかったので職員の派遣が難しかった
sbu0300	石巻	消防本部予防課	-	その他	連絡がとれない県や国にどんな手段でも直接出向いて行って、石巻はこういう状況でしたというのを報告しないとうまくない
sbu0301	石巻	消防本部予防課	-	その他	姉妹都市とかに応援協定結べばいい（例えば反対側、日本海側の都市であるとか）
sbu0302	石巻	消防本部予防課	-	その他	避難所と指定があった場所に避難の周知をお願いしたい（警察、消防という公共機関については、その後の活動があるので）
sbu0303	石巻	消防本部予防課	-	その他	防災拠点は被害が及ばない場所に建てるべき（今回みたいに流されては意味がない）
sbu0304	石巻	消防本部予防課	-	その他	消防団をうまく使ったほうがよい
sbu0023	河南	矢本消防署河南出張所	-	その他	消防本部で一括で指令している（津波があったからといって救助にすぐには行けない）
sbu0038	河南	矢本消防署河南出張所	-	その他	マニュアルに従ってしまうことによって、臨機応変な対応ができない
sbu0039	河南	矢本消防署河南出張所	-	その他	非常食として備蓄が必要

3.5 警察職員の活動

3.5.1 方法（傾聴ヒアリング）

災害時の応急対応活動及び警備活動の中核であり、市の応急対応活動と密接な連携を必要とする警察職員に対し、災害時に体験し、見聞きした周囲の状況を把握するため、傾聴ヒアリングを行った。

表 3-48 警察職員の傾聴ヒアリング対象者

区分	対象者 (人)	傾聴ヒアリング (人)
警察職員	10	10

警察職員へのヒアリングは、基本的に市職員への傾聴ヒアリングと同様に傾聴ヒアリングの手法を用いて行い、災害時の応急対策活動、警備活動及び周囲の状況を再現するため、地震発生時から概ね 1 週間の初動期間における行動を振り返ってもらい、その状況を聴取した。

なお、傾聴ヒアリングは、1 対 1 で行い、約 1 時間弱の時間で行った。

ヒアリングの記録は、メモとして書き起こした（音声、動画、写真はとっていない）。

3.5.2 期間

2012 年 1 月 20 日、24 日、25 日、26 日の 4 日間で行った。

3.5.3 対象者

対象者は、主に地域において活動し、市民の避難行動などを観察している警察官から抽出した。

対象者の所属は次のとおり。

表 3-49 警察職員のヒアリング対象者

順番は、実施日順

番号	所 属	人 数	実施日時
1	石巻警察署 蛇田交番	1 名	1 月 20 日
2	石巻警察署 蛇田交番	1 名	1 月 20 日
3	石巻警察署 中里交番	1 名	1 月 20 日
4	石巻警察署 交通課	1 名	1 月 24 日
5	石巻警察署 矢本交番	1 名	1 月 24 日
6	石巻警察署 刑事第一課	1 名	1 月 25 日
7	石巻警察署 蛇田交番	1 名	1 月 25 日
8	石巻警察署 地域課自動車警ら係	1 名	1 月 26 日
9	石巻警察署 中央交番	1 名	1 月 26 日
10	石巻警察署 中里交番	1 名	1 月 26 日

3.5.4 ヒアリング結果

ヒアリングの結果については、インタビューから書き起こしたメモを元に、東日本大震災に関する事項について 1 文として整理し、

- (1) ヒアリング対象者が 3 月 11 日の地震発生後から取った行動
- (2) ヒアリング対象者が 3 月 11 日の地震発生後から覚知した地震、津波、浸水、地面の亀裂等の自然現象
- (3) ヒアリング対象者が 3 月 11 日の地震発生後から覚知した社会基盤の被害状況、救助活動、地域住民の様子等の社会現象
- (4) ヒアリング対象者の見解または感想、市や災害対策関係機関への要望、その他

の項目に大きく分類した上で、時系列で整理した。

次ページ以降に、表として整理する。

表-3.50 警察部門ヒアリングからの行動整理表（その１）

日 所属部門	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日以降	行動時点が特定できないもの
大街道交番	・地震発生時、大街道交番で落し物の処理をしていた。 ・交番の扉を開放し出口を確保した（来庁者の安全を確保しながら）。 ・倒れたロッカー、什器を建て直した。 ・大街道交番から外へ出た。 ・大街道交番周辺の交通整理を行った。 ・避難者を釜小学校へ誘導した。 ・大街道交番の浸水を危惧したため、交番１階の物品を２階へ移動した。 ・浮き輪、救命胴衣、ラジオを持って２階に避難した。 ・警察署に無線で周辺の状況報告をした。 ・灯油ストーブをつけた（余震のたび消す必要があった）。 ・毛布を救出者に提供した（救出者に低体温の症状があり、一時危険な状態にあった）。 ・夜間上空ヘリコプターに懐中電灯で救援の合図をした（救援は得られなかった）。	・大街道交番の戸締りをし、警察署へ向かった（道路は浸水し棒で道を探りながら進む状態）。				・門脇地区の救出、捜索活動に参加した。
刑事第一課	・地震発生時、警察署内にいた。 ・渡波地区で落下物による死者があったとの連絡があり、現場へ向かった。 ・パトカーから降りて付近の車に避難を呼びかけた（付近の車の人は車を捨てて避難する）。 ・付近のセブンイレブンの屋根に上り避難した。 ・付近の住民を救助し、水のない場所へ誘導した。 ・牧山トンネルの両側とも浸水しており警察署へ戻ることが困難なため、トンネル内で一夜を過ごした。	・警察署への道を探した（水につかりながら）。 ・浸水地帯を歩き警察署へ戻った。 ・遺体の回収任務を行った。 ・大街道の南側を暗くなるまで集中的に捜索した（停電により暗くなると捜索できない）。				・総合体育館で検視任務を行った。 ・身元不明の遺体は石巻市へ引き渡した。 ・検視前でも身元の確認をしたいという遺族があり、その対応を行った。 ・青果市場で遺体の対応をしていた。
交通課	・地震発生時、万石浦小学校付近で交通指導の取り締まりをしていた。 ・下校中の小学生を揺れがおさまるまで集まって待機させた。 ・下校中の小学生を万石浦小学校の先生に引渡した。 ・石巻警察署に戻った。 ・末広町交差点の五差路で交通整理を行った。 ・津波を目視で確認したため、付近の車を日和山方面へと誘導した。 ・警察車両で山の上へ避難した。 ・警察車両を日和山方向に向けて置いた。 ・交通整理をしていた五差路に戻った（浸水していた）。 ・浸水している南浜町方面と大街道方面への侵入を規制していた。 ・山側から降りてこようとする車を来た方向へ引き返させる作業をしていた（翌朝まで）。					・五差路で交通整理を行った。 ・浸水している南浜町方面と大街道方面への侵入を規制していた。 ・昼は交通整理に従事し、夜は署に帰るという往復を繰り返していた。

表-3.51 警察部門ヒアリングからの行動整理表（その2）

日 所属部門	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日以降	行動時点が特定できないもの
自動車 警ら係	・地震発生時、警察署内にいた。 ・パトカーで石巻駅→中央交番→内海橋→湊町へ行った。 ・パトカーの拡声器で、声かけで避難を呼びかけた。 ・門脇方面へ向かった。 ・日和山へ上がった（五差路付近には自動車が若干いた）。 ・パトカーを置いて走って神社へ向かった。 ・避難者の処置をした。 ・校舎の屋上へ上がり周囲を観察した（雪が降っていて望見できなかった）。 ・周囲が冠水していることを確認し、警察署へ報告した。 ・警察署へ戻った。					・警察署周辺の警備を行った。
中央交番 A	・地震発生時、中央交番にいた。 ・川の水位を観察に行った。 ・ガス漏れの状況を直接石巻ガスへ伝えるよう指示を受けたため、石巻ガスへ向かった。 ・渋滞していた車や人に避難を呼びかけた（津波で車が流されてくるのを確認したため）。 ・山に登る道路上に退避した。 ・足の不自由な人、車中に取り残された母子を救出し山へ搬送した（付近の市民の協力をうけながら）。 ・市街地を見回った（津波が引き、くるぶし程度までの水深となったため）。 ・取り残された住民を救出したり山へ誘導した（木の上、電柱の上などにしがみついた人もいた）。	・398号へ戻り待機していた。				・警察署へ戻った（水の浅いところを探して）。
中央交番 B	・地震発生時、中里交番にいた。 ・PCを押さえ、設備の転倒を防いでいた。 ・パトカーで広報、避難の呼びかけを行った（水明、開北地区）。 ・周辺住民に避難を懸命に呼びかけた（聞いてくれない人も多かった）。 ・中里交番に戻った。 ・中里交番周辺の交通整理を行った（夕方くらいまで）。 ・浸水深が不明なため中里方面は立入禁止措置をとった。					・清水町で捜索活動を行った（警察、消防、市職員で連携して）。 ・遺体を総合体育館に搬送した。 ・遺体の身元を確認し、メモを作成、市役所へ引き継いだ。 ・蛇田交番へ移動し勤務にあたった。
蛇田交番 A	・地震発生時、交通事故の処理を行っていた（蛇田交番から4kmから5km離れた地点）。 ・人身事故の病人をパトカーで石巻赤十字病院へ搬送した。 ・須江の交差点に戻った。 ・須江の交差点の交通整理をした。 ・警察署からの指示を待った。 ・蛇田交番周辺で交通整理をした。 ・来庁者に行方不明、安否確認のカードを記入してもらい交番内の壁に貼り出した。					・避難所内トラブルが発生したため駆けつけた（たびたび）。
蛇田交番 B	・地震発生時、万石浦付近をパトロールしていた。 ・牡鹿駐在所へ向かった。 ・たまたま付近にいた土木作業の人に倒木撤去の依頼をした（道路は再開通した）。 ・桃浦駐在所に行った。 ・桃浦駐在所付近にいる住民に、地域住民の避難状況を聞いた。 ・万石橋付近まで戻った（橋付近が冠水し、牡鹿半島から市街地部へ出られない状態となる）。	・渡波地区に移動した。 ・蛇田交番へ移動した。 ・冠水の状況、被害の状況を確認してまわった。				

表 3-52 警察部門ヒアリングからの行動整理表（その 3）

日 所属部門	3 月 11 日	3 月 12 日	3 月 13 日	3 月 14 日	3 月 15 日以降	行動時点が特定できないもの
矢本交番	・地震発生時、官舎にいた。 ・警察署へ移動中、避難の呼びかけをした。 ・車で警察署に向かった（自主参集の基準に従い）。 ・1 階の備品や食料を上階に移動させた。 ・三角茶屋前でパトカーを止め、山下小学校へ避難者を誘導した。 ・警察署へ戻った。 ・パトカーのスピーカーで広報しながら巡回した。 ・夜 19 時頃、中央通りと立町交差点付近にパトカーで出動した（取り残された人がいるとの情報で）。 ・道路上の車に声をかけた（返事はなかった）。 ・交差点付近の店舗 2 階に人が残っておりパトカーに収容搬送しようと試みた（出来なかった、水が押しよせたため）。 ・取り残された住民を 2 階に退避させ、パトカーに戻った。 ・付近のビルに一時避難した（水深が腰ぐらいまで上昇したため）。 ・一時避難したビルで 2 時間ほど待機した。 ・無線で警察署に状況報告した。 ・市役所、羽黒山経由で警察署へ戻った。	・日和山に登り、状況の確認をした。 ・東北電力周辺に遺体があったため収容した。 ・門脇、南浜の遺体の収容にあたった（約 20 人ほどで対応）。 ・門脇、南浜で自宅の様子を見に来る人がいたので避難するよう呼びかけた。				・門脇、南浜で遺体の収容にあたった（自衛隊と協力）。 ・大街道交番に移動し付近の老人ホームの人を北京飯店上階に搬送した。 ・家に取り残された住民の救助活動を行った。 ・通りかかった車の運転手に怪我人の搬送を依頼した。 ・パトカーで怪我人の搬送をした。 ・矢本交番に移動し、勤務にあたった。
石巻駅前 交番	・地震発生時、石巻駅前交番にいた。 ・市役所庁舎から退避してくる人を広場へ誘導した。 ・建物の安全を確認した。 ・パトカーに乗り、駅前北通りの被害を確認して回った。 ・地域住民に避難を呼びかけた（警察無線で大津波警報を聞いたので）。 ・パトカーで避難の呼びかけ、被害の確認を行った。 ・周辺の住民、自動車の人に、直ちにビルへ避難するよう指示した。 ・ビルへ避難した。 ・踊り場で待機していたが、一室の住民が部屋へ入れてくれたため、一晩当該マンションで待機した。			・警察署へ戻った（水位が下がってきたため）。 ・一旦帰宅をゆるされたため帰宅し着替える		・地域を見回っていた（見回り班に編入され）。 ・住民からは被害状況の問い合わせが多かったが、回答する情報を持っていなかったため、市役所へ聞くように伝えた。

表-3.53 警察部門ヒアリングからの【地震、津波、浸水、地面の亀裂等の自然現象】整理表

日 所属部門	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日以降	行動時点が特定できないもの
大街道交番	・大街道交番前の信号は停電していた。 ・大街道交番前、T字路の側溝から水が溢れ始めた（水道管の破裂と思った）。 ・門脇方向が火災で赤くなっているを見た。	・津波の水が引き、ひざ上くらいになっていた（朝）。 ・大街道交番周辺の住宅の倒壊はあまりなかった。				
刑事第一課	・渋滞中に津波が到達し付近の車が流され始めた。 ・浸水深は1.4m程度で、首までの深さだった。					
交通課	・地震発生直後の5分間程度は信号が停電により消えていた。 ・津波は水位が上がってくるような感じで、波の勢いはそれほど強くはないように見えた。					・日和山は水に囲まれて孤立状態になっていた。
自動車 警ら係	・日和山から階段を下っていくところでは、車、家が押流され重なっていた。 ・夜になると、水が三角茶屋付近まできており、斉藤病院、警察署にも人が避難してくるようになった。 ・夜間、門脇地区と蛇田地区の方向が火災で明るくなっているのを見た。					
中央交番	・ガス漏れが発生した。 ・電話は通じなかった。 ・夜がくると、雪が降ってきた。 ・津波の第2波が到達（20時頃）。	・市街地（国道398号付近）は、瓦礫の山となっていた。 ・中里バイパスは冠水していた。				・周囲が水没し、中里小学校、住吉中学の校舎が島のようになっていた。
蛇田交番	・住宅の損壊があった。 ・電線が道路へ垂れ下がっており、歩行が困難だった。 ・道路は陥没している箇所があった。 ・貞山堀から海側は浸水が深く進めない状態だった。 ・道路はひび割れていた。 ・信号が停電していた。 ・地震による倒木があり、道路が閉鎖していた。 ・津波が到達した（15時40分頃と記憶している）。 ・道路は冠水、津波残存物で（牡鹿）半島の先端方向への通行が困難となった。 ・夜間、市街地方面の空が火災で赤く染まっていた。	・朝5時に万石橋が渡れる程度に水がひいた。 ・渡波地区は、停電で暗かった。 ・国道398号の駅周辺は流された車で塞がっており通行困難な状態だった。 ・稲井地区の水田も浸水していた。				
矢本交番	・停電でテレビは使えなかった。 ・暗くなり水が出始めた（17時か18時頃）（水は流れるより下から上がってくる感じ）。	・道路はかろうじて車が通れる程度の浸水深だった。 ・東北電力周辺では車が水没していた。				
石巻駅前 交番	・周辺はプロパンガスボンベが倒れるなどし、ガス漏れがひどかった。 ・水押踏切の遮断機が下りたままとなっていた。 ・住吉→立町→中里へ来たとき、背後に津波が迫っていた。 ・マンションに上がったところで、津波が到達し川のように水が流れてきた。 ・水位は、次第に上昇していった。 ・水は濁っていたが、匂いはなかった。		・水位が下がらなかった。	・駅前側は既に水が引いていた。 ・駅裏側の水深は胸より下だった。		

表-3.54 警察部門ヒアリングからの【社会基盤の被害状況、救助活動、地域住民の様子などの社会現象】(その1)

日 所属部門	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日 以降	行動時点が特定できないもの
大街道交番	・大街道は数分で渋滞した。 ・外の住民が「車が流れてきた」というのを聞き、津波と認識した。 ・周辺の避難者が2階以上ある建物（トヨペット、北京飯店）に避難するのを見た。 ・ラジオと警察無線から情報を得た。 ・津波警報を防災無線から聞いた記憶はなかった。	・救出者3名各自帰宅した（朝10時頃、低体温の症状が回復したため）。 ・住民からの問合せは特になかった。				・捜索活動中、住民との接触は殆どなかった。
刑事第一課	・6mの津波の警報があった。 ・牧山トンネルを抜け左折する地点で、渋滞に巻き込まれた。 ・防災無線は記憶になかった。 ・津波警報は、警察無線、車載ラジオで知った。 ・興味本位で津波を見に行く人もいて、避難の呼びかけに応じない人もいた。 ・人の流れは中里から蛇田方向へ向かっていて、全体的に内陸方向へ移動しているようだった。 ・車で移動する人が多かったが、水が急に來たので水没する車も多かった。 ・地震のことなどを立ち話している様子もあった。	・仙石線の線路上が浸水していなかった。 ・総合体育館が遺体の安置所になった。 ・12日か13日には既に自衛隊の姿があった。				・大街道付近の住民は家に残っている人もいて、避難を呼びかけても応じない人もいた。 ・大街道のある地区では、集団で避難していた。 ・遺体の搬入作業は自衛隊が行い、検視と遺族へ返す手続きは警察が行った。 ・身元不明の遺体は、身元が判明すれば警察から遺族へ返すことができる。 ・遺体の数が多いため、検視に時間がかかった。
交通課	・地震発生直後は、周辺の住民も家の外に出てきて様子をうかがっていた。 ・防災無線は聞こえていた（防災無線により大津波警報を知る）。 ・国道398号線はそれほど渋滞していなかった。 ・自動車で避難する人がほとんどであった。 ・渡波付近では歩いて山の方へ逃げる人も見受けられた。 ・どの方向に向かう道も渋滞が起っていた。 ・津波のおそれがある南浜町方向への侵入は規制していた。 ・津波の直後は日和山の上に逃げた車が多く混雑していた。 ・南浜町方面では火の手が数箇所確認できた。 ・山の上から市街地方面へ降りようとしたが浸水により降りられなかった。					・食料調達場所については詳しく把握は出来ていなかった（食料調達場所について聞いてくる住民がいたが）。 ・日和山の上に避難した住民は、朝になると徒歩や自転車で降りてきて食料を調達し、日が暮れる前に坂を上がって戻るという行動を繰り返していた。
自動車 警ら係	・湊町に黒煙が上がるのが見え、火災と思った。 ・10mの津波が10分から15分で到達するとの連絡があった。 ・内海橋は渋滞していた。 ・門脇地区に着いたときは、既に人影はなく車も見当たらなかった。 ・日和山の上は人と車が渋滞しており、交通機動隊が交通整理をしていた。 ・警察無線により日和山から付近の状況を確認し報告するよう指示をうけた。 ・神社へ向かう途中で石巻高校校長に呼び止められ、校舎が危険な状態だが、避難者が入ろうとしている、何とかしてほしいと言われた。 ・周辺の住民はゆっくりと避難しており、切迫した感じは受けなかった。 ・避難所に来た人は、着の身着のままだった。 ・避難所には人が殺到するほどではなく、30～40人が雪をしのぐために建物へ入りたがっている様子だった。 ・防災無線を聞いた記憶はなかった。	・新潟県の救助隊が到着した（夜）。 ・新潟県の救助隊が低体温症の高齢者を斉藤病院に搬送した。				・浸水した家屋の2階やアパート、マンションには人がいると聞いた。 ・警察署付近では、冠水した地域を歩く人の姿もあった。 ・地域でまとまって炊き出しを行うなど、地域住民が協力しているところもあった。料理屋でも炊き出しが行われていた。 ・スーパーは配布も行っていた。 ・全体に混乱とまでは至っていない印象がある。 ・2日から3日間は市域の被害状況も分からず、住民等に聞かれても伝えられる情報が少なかった。 ・自衛隊のヘリコプター、ボートが到着し、救助救出が本格的に始まっていった。 ・周辺の商店ではガラスの破壊、盗難があった。 ・市の職員の活動はあまり見えなかった。 ・市の救助活動の状況を間接的に自衛隊から聞くこともあった。 ・自衛隊の救出活動は、高齢者や災害時要援護者を優先していた。 ・避難所では避難者の代表、担当を決めて活動していた（学校の先生の提案、避難の長期化により）。 ・市の職員が常駐していた（3ヶ月ほどたったころ）。

表-3.55 警察部門ヒアリングからの【社会基盤の被害状況、救助活動、地域住民の様子などの社会現象】(その2)

日 所属部門	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日以降	行動時点が特定できないもの
中央交番	・防災無線で大津波警報が放送されていた。 ・周辺は車が渋滞しており、どの方向にも進めない状態だった。 ・歩いている人はほとんど見かけず、大半は車で移動していた。 ・周辺の人は、立体駐車場や山の方へ向かって逃げていた。 ・津波が来て、腰まで水につかりながら避難している人がいた。 ・逃げ遅れて家に残された人、車中に取り残された母子がいると通報を受けた。 ・50人以上の避難者が山のふもとで被害を免れた家に収容された。 ・湊中学校、湊第二小学校までは肩まで水につからないと進めない状態だった。					・中里の土手道は、人で溢れていた。 ・徒歩で移動中、民家の2階に避難している人から、食料、水がないか聞かれた。 ・湊地区では、避難所や道路上に人が集まって焚き火などをしていた。 ・渡波小学校では、教員がリーダーとなり支援物資の配布などを行っていて、住民がまとまっていた。 ・地震直後から津波到達までの間には、高台へ避難する人より自宅を見に行く人が多かった。
中里交番	・大津波警報をラジオより知る。 ・市街地は渋滞していた。 ・住宅地では避難しない人もいた。 ・警察無線より女川、湊まで津波が来ているとの情報を得る。 ・浸水が始まり一斉に避難が始まった。 ・中里で浸水が始まり、車の運転手は車を捨てて避難を始めた。 ・ホームックの階上など高い建物に避難する人を見かけた。 ・警察署への連絡は取れなかった(警察署も被災したと判断)。 ・津波警報を防災無線で聞いた記憶はなかった(ラジオ、警察無線で津波警報を知る)。					・女川清水町で救出活動に当たるように指示を受けた。 ・事案が多発し通報が多かった(食べ物の盗難、ATMの破壊、市職員への突き上げなど)。 ・住民から安否確認の問い合わせが多かった。
蛇田交番 A	・道路の陥没や信号停電により大渋滞となった。 ・小学校に避難者が集まっていた。 ・防災無線を聞いた記憶はなかった。					・外国人の泥棒が地域に侵入しているとの噂があった。 ・避難所内では食べ物配布の不公平や知らない人同士の衝突があった。 ・生協、スーパー再開時、食べ物を求めて多数の人が来店した(行列できる)。
蛇田交番 B	・食品工場の従業員が工場から飛び出してきた。 ・防災無線は聞いた記憶はなかった(山地の道路を通ったせい)。 ・車載ラジオで大津波警報を知った。 ・道路は市内方向、牡鹿半島方向の両方へ向かう車がいた。 ・揺れによる倒木があり道路が閉鎖したため渋滞していた。 ・桃浦駐在所付近の住民は大半は避難したが、一部避難していない人もいたとのことだった。 ・万石橋付近の住民は、自宅周辺を見回っていた(消防か消防団が付近にいた)。	・安否確認、被害状況、浸水・道路の状況、ガソリンの入手可能な場所などの問合せがあった。 ・スーパーマーケットの一部は、震災翌日から営業を再開していた。				・道路状況の問い合わせが続いた(地震発生当日から1週間ぐらい)。 ・道路の復旧、開通情報が交番へ入ってこなかった。 ・被災者は、避難所または被災していない親族、知人の家に避難していたようだ(1週間目から2週間目ぐらいまで)。 ・スーパーマーケット(イトーヨーカ堂、ヨークベニマル)生協などは行列ができていた。 ・ガソリンスタンドも行列ができていた。

表-3.56 警察部門ヒアリングからの【社会基盤の被害状況、救助活動、地域住民の様子などの社会現象】(その3)

日 所属部門	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日以降	行動時点が特定できないもの
矢本交番	・道路は渋滞が激しかった(通常の3倍の時間がかかった)。 ・官舎では防災無線がはっきり聞こえた。 ・ラジオと防災無線で津波警報を知った(10mの津波)。 ・警察署内に避難者が来ていた。 ・女川と気仙沼の情報を警察無線で知った。 ・三角茶屋近隣で木造建物が倒れ、通行止めになっていた。 ・避難者の多くは車を利用、徒歩者は少なかった。 ・避難せず自宅に残る人も多かった(壮年層も多く避難できないわけでもなさそうだが)。 ・中央交番付近の川の近くでは車が止まっているのを確認した。 ・水位が高くなりパトカーのエンジンはかからなかった。 ・パトカーは天井の赤色灯まで水没していた。	・日和山周辺には市職員やマスコミがいた。 ・火災があったが消防ホースがとどかず、消火が困難だった。 ・足場が悪く釘の踏み抜きに注意が必要だった。				・山下小学校では食糧は配布されていた。
石巻駅前交番	・住民は家の外に出て、地震について立ち話をしているようで、直ちに避難する気配はなかった。 ・防災無線はパトカーに乗車していることもあり記憶になかった。 ・警察無線で大津波警報を聞いた。 ・住民は避難の呼びかけに反応し、日和山、羽黒山方向へ避難していた。 ・中里から貞山方向へ向かったが、渋滞で進めなかった。 ・付近の人の大半は避難指示に従ったが、従わなかった人もいた。 ・マンションから周辺を観察すると、ほとんど無人状態だった。	・マンション周辺は胸から肩あたりまで冠水しており、移動できなかった。 ・水位が下がったので徒歩で警察署を目指した(昼頃)。 ・浅いところを探して移動したが、足がつかないところもあった(頭まで水没した)。 ・移動中、人は見かけなかった。 ・水深が深くなり進めなくなる(付近にマンションがあったため、水からあがり、当該マンションの住民からガスコンロを借りて暖をとらせてもらった)。	・マンション周辺は胸から肩あたりまで冠水しており、移動できなかった。 ・遠くに水押(中里)の土手道に人が歩いているのが望見できた。	・駅前側には自転車や徒歩で移動している人がいた。 ・自宅は本棚が倒れていたが、窓ガラスが割れるなどの被害はなかった。	・自宅の2Fに残っている高齢者が搬送されることが多かった(3/15以降)。	・自動車が冠水にはまる事故があった。 ・電話がつながらないため、警察官を通じて通報することがあった。 ・津波や地震の危険が解除されていない時期にも、自宅の様子をみに帰る人が多く、避難誘導に従わない人がいた。

表-3.57 警察部門ヒアリングからの【その他、ヒアリング対象者の見解または感想、その他、市への要望等】整理表

ID	所属	日	区分	発言内容
kst0019	蛇田交番	-	その他	津波に関する啓発
kst0020	蛇田交番	-	その他	津波に関する周知
kst0021	蛇田交番	-	その他	津波に関する訓練
kst0052	大街道交番	-	その他	海岸の防波堤を早く直してほしい
kst0074	中里交番	-	その他	避難者には配給を2人分取る人、避難所を幾つも回って2重3重に受け取るなど不平等が生じていた
kst0077	中里交番	-	その他	食料支給場所の広報が重要
kst0078	中里交番	-	その他	連絡体制の強化が重要
kst0079	中里交番	-	その他	災害に強い通信機器の整備
kst0080	中里交番	-	その他	警察では装備資機材の充実が必要（バッテリー充電に困った）
kst0129	矢本交番	-	その他	高齢者は避難をためらう傾向があるようだ
kst0130	矢本交番	-	その他	山下小学校では子供のいる家族は一室に集められていて良かったと思う
kst0160	交通課	-	その他	水とガソリンが足りないと感じた
kst0161	交通課	-	その他	市としても水やガソリンを備蓄しておく必要があるのではないか
kst0162	交通課	-	その他	医療体制も確立する必要がある（市立病院が浸水して機能を果たせていなかったため）
kst0197	蛇田交番	-	その他	ハザードマップの見直しをした方がいい
kst0198	蛇田交番	-	その他	ハザードマップ上に高台はどこになるのかを示したものがほしい
kst0199	蛇田交番	-	その他	避難訓練などで住民の意識付けが必要
kst0200	蛇田交番	-	その他	今回の津波の前にチリ津波があり、住民は津波の恐ろしさを過小評価していたかもしれない
kst0234	刑事第一課	-	その他	大切なことは、忘れないようにすることだと考える
kst0277	自動車警ら係	-	その他	住民からの問い合わせが多かったが回答する情報がない（市民から提供してもらった情報しか伝えられない）
kst0278	自動車警ら係	-	その他	救援の見通しを行政から知らせてほしかった
kst0279	自動車警ら係	-	その他	自宅に残留している人と避難所などにいた人では、情報（飲料水・食料の配布）の入手に差が出ていただろう
kst0280	自動車警ら係	-	その他	住民各自が最寄の避難所を把握しておくべき
kst0281	自動車警ら係	-	その他	防災倉庫が浸水して使えないところもあった
kst0282	自動車警ら係	-	その他	防災倉庫の設置場所、鍵の管理（市職員がいないと開かない）など再考の余地がある
kst0312	中央交番	-	その他	場所によっては、津波でも2階に逃げたほうがいいこともある
kst0313	中央交番	-	その他	排水を迅速に行うことも必要
kst0315	中央交番	-	その他	自宅から高台へ至る道を住民が知っておく必要がある（市が明示してはどうか）
kst0316	中央交番	-	その他	牧山へ上がる道があったほうが良い
kst0317	中央交番	-	その他	牧山を津波の避難所として使えないか
kst0356	石巻駅前交番	-	その他	道路の通行規制は早めに実施した方が、事故の防止になるのでいいだろう
kst0361	石巻駅前交番	-	その他	自分の安全は自分で守ってほしい
kst0362	石巻駅前交番	-	その他	地域の危険箇所の周知、認識は地域の力するのが理想

3.6 医療機関（医師会、災害拠点病院）の活動

市は災害発生時には、県及び関係機関と連携・協力して災害時医療救護体制を確立し、救護所を必要に応じて設置した上で、救護班による医療救護活動を速やかに行う必要がある。

このためには、市は、県、指定公共機関、指定地方公共機関は元より、指定災害時点病院である石巻赤十字病院や救護班を構成する石巻市医師会及び桃生郡医師会との連絡・調整、医療資機材や薬剤等の確保を適切に行い、効率的な医療資源として投入し、活動にあたる必要がある。東日本大震災では、津波によりライフラインが広域に寸断され、また市域の医療機関も被災したため、医療救護活動には大きな支障が生じた。その中で、被災を免れた災害拠点病院である石巻赤十字病院が中心となり、医療救護活動を展開したところである。

こうした背景から、今回の災害時における医療活動を担った医療機関の被災状況、活動状況、その活動時における課題・問題点、石巻市への災害時の医療活動に関する今後の要望等を把握するために、ヒアリング及びアンケートを行った。

災害拠点病院である石巻赤十字病院に対しては、ヒアリングを行い、地域医療の担い手である診療所に対しては、石巻市医師会を通じてアンケートを行った。

表 3-58 医療機関のヒアリング対象者

区分	対象	ヒアリング	アンケート
診療所	石巻市医師会	—	55 人 (78 人発送 回収率 70.5%)
災害拠点病院	石巻赤十字病院	1 病院 (16 人)	—

3.6.1 災害拠点病院（石巻赤十字病院）

(1)方法（ヒアリング）

災害時医療拠点として活動した石巻赤十字病院の各部門に対してヒアリングを行った。

基本的に市職員へのヒアリングと同様に傾聴ヒアリングの手法を用いて行い、災害時の病院内及び病院外（地域、避難所）での医療活動の状況及び石巻市への要望について聴取した。

傾聴ヒアリングは、1 部門 2～4 人を 1 単位として行った。

ヒアリングの記録は、音声として記録し、音声は別途文字に書き起こした。

(2)期間

2012 年 1 月 25 日、26 日の 2 日間で行った。

(3)対象者

対象者は、災害拠点病院において医療活動に携った関係者及び病院外（地域、避難所）で医療、衛生活動に携った関係者を対象とした。

対象とする部門及び人数は次のとおり。

表 3-59 災害拠点病院のヒアリング対象者

順番は、実施日順

番号	部 門	対象者	実施月日
1	避難所救護部門	2 名	1 月 25 日
2	透析部門	3 名	1 月 25 日
3	総括部門	2 名	1 月 25 日
4	薬剤部門	3 名	1 月 26 日
5	避難所救護部門	1 名	1 月 26 日
6	公衆衛生部門	1 名	1 月 26 日
7	来院者対応・避難所生活	4 名	1 月 26 日

(4) ヒアリング結果

ヒアリングの結果については、インタビューから書き起こしたメモを元に、東日本大震災に関する事項について 1 文として整理し、

(1) ヒアリング対象者が 3 月 11 日の地震発生後から取った行動

(2) ヒアリング対象者が 3 月 11 日の地震発生後から覚知した地震、津波、浸水、地面の亀裂等の自然現象

(3) ヒアリング対象者が 3 月 11 日の地震発生後から覚知した社会基盤の被害状況、救助活動、地域住民の様子等の社会現象

(4) ヒアリング対象者の見解または感想、市や災害対策関係機関への要望、その他の項目に大きく分類した上で、時系列で整理した。

次ページ以降に、表として整理する。

表-3.60 医療（病院）部門ヒアリングからの行動整理表（その１）

日 所属部門	3 月 11 日	3 月 12 日	3 月 13 日	3 月 14 日	3 月 15 日以降	行動時点が特定できないもの
避難所運営 A	・ 渡波の避難所に行っ て、そのまま救護所を 作った ・ 救護室を掃除して使用 した。			・ 発災後、3 日目で渡波 小学校で救護活動に入 った。		・ 渡波小学校の本部で、オカベ薬局が支援協力してくれ るの情報を得た。 ・ 心臓手術後のワーファリン等の薬は、看護師の判断では 出せなかった。 ・ 医師 1 人が不定期でも渡波小学校にいてくれたら助かる と思った。 ・ 医師会の救護班の支援を受けて薬を処方した。 ・ 開業医や医師会に渡波小学校での救護支援をお願いし た。 ・ 処方する期間がわからなかったので 3 日分を処方できる 形にした。 ・ 榎壇地区の AED 機器を確かめた。 ・ 救急要請時には、ボランティアの人に通信・連絡に走っ てもらった。 ・ 救護対応に追われて、避難所全体の要救護情報を把握で きなかった。 ・ 在宅の要救護者は区長を通して救護要請をしてくださ いと伝えた。 ・ 水の緊急配分を、防災無線を使って連絡するようにお願 いした。 ・ 自力で動けない要援護者の情報を集約した。 ・ 受入施設を手配し自衛隊に患者移送をお願いした。
避難所運営 B	・ 家族と共に大街道小学 校に避難した。 ・ 町内の人に防災無線で 避難指示が出たと言っ た。 ・ 一番先に大街道小学 校の避難所に着いた。 ・ 避難所で待機してい た。 ・ 大街道小学校の本校舎 2 階、3 階に避難した。 ・ 津波到達を大街道小学 校校舎の 2 階、3 階か ら見ていた。 ・ 門脇小学校の火災を一 晩中見ていた。	・ 車の外にいて倒れた人を先生と一緒に AED を 用いて救急蘇生した。 ・ 先生と一般の人と協働して、蘇生措置を続けた （先生の看護は的確だった）。 ・ 市立病院の看護師と大街道小学校校舎 2 階に救 護所を開設した。 ・ 3 月 11 日から 5 日間は、救護所で救護や緊急措 置をしていた。 ・ 保健室（ステート 1 本、自動血圧計）避難者が 自宅から持ち寄った家庭薬を調達し救護対応を した。 ・ 3 月 12 日と 3 月 13 日は主に避難者の負傷手当 を行った。 ・ 具合が悪いと症状を訴えた人の顔色の観察や症 状を市立病院の看護師と交替でヒアリングし た。 ・ 2 日目の食事は食パン 1/4 と湯飲み 1 杯の水を摂 取できた。		・ 病人の搬送や救急搬送 について自衛隊等と調 整した。 ・ 診察を要する人は、避 難所から直接開業医に 診てもらう様に指示し た。 ・ 群馬の赤十字の救護班 と救護室での薬処方の あり方について相談し た。	・ 校長先生に石巻赤 十字病院へ向かう と伝えた。(3/16) ・ 発災後 5 日目に石 巻赤十字病院に向 かった。 (3/16)	・ 先生方と共に 24 時間体制で救護活動を行った。 ・ 教室換気と D V T 予防のための運動を避難者に指導し た。 ・ 教室を再整理して、廊下で避難している人を教室内に入 れる様にお願いした。 ・ 先生方の朝ミーティングを救護室等と合同で行うように 提案した。 ・ ミーティングで各教室のリーダーを選出するようにお願 いした。 ・ ミーティング内容を各教室のリーダーに伝達する様に お願いした。 ・ 市立病院の看護師と先生と何時間もかけて避難者から情 報を収集した。 ・ 市の要請で派遣された開業医に救護患者に 2 日分ぐら いずつ薬を処方してもらった。 ・ トイレ横に水のくみ置きを置いた（手洗い励行を指導し た）。 ・ 部屋毎にリーダーを決めるようにお願いした。 ・ 必要な情報はラジオから 24 時間継続して取り込んだ。

表-3.61 医療（病院）部門ヒアリングからの行動整理表（その2）

日 所属部門	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日以降	行動時点が特定できないもの
来院者対応						・ 患者の後方搬送、後方との連携や退院・転院患者の調整をしていた。 ・ 安否情報室に情報を求めてやって来る方の対応をした。 ・ トリアージをした。 ・ 市内の病院状況を自分達で独自に確認に行った。 ・ 搬送手段として民間の介護タクシーを何社かお願いして確保してもらった。 ・ 受診患者の情報をパソコンでデータベース化した。 ・ 避難所の情報をもらいに専修大に毎日行っていた。 ・ 個人情報開示について、情報処理が手に負えないため受診患者情報のネット公開を進言した（ストップがかかった）。 ・ 患者が亡くなっているという情報は、遺族の方に直接伝えた（名簿にすると無関係な方の死亡状況も知られるので）。 ・ 人員スタッフを10数名集めて、交代制で24時間トリアージした（玄関の前の寒いところで、真夜中、来る人の対応をしていた）。 ・ 基本的に患者以外は院内に入れないように対応した。 ・ 市の職員に患者以外、避難所に移動してほしい旨伝えた。

表-3.62 医療（病院）部門ヒアリングからの【地震、津波、浸水、地面の亀裂等の自然現象】整理表（その1）

日 所属部門	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日以降	行動時点が特定できないもの
避難所運営 A	・ 学校の救護室は、被災して物が散乱していた。 ・ 渡波小学校の救護室は、最初停電していた。					
避難所運営 B	・ 自宅で揺れを感じた。 ・ 辺りが暗くなってから、校庭に津波浸水が始まり、駐車していた車が徐々に浮いていく状況だった。					

表-3.63 医療（病院）部門ヒアリングからの【社会基盤の被害状況、救助活動、地域住民の様子等の社会現象】整理表（その１）

日 所属部門	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日以降	行動時点が特定できないもの
避難所運営 A					・ 市が避難所の状況調査に来た。(3/17) ・ 発災約1週間後に医師会が大量の薬品を提供してくれた。	・ 渡波小学校は、高さもあり津波再来が予想される中で周囲の避難所より設置環境が良かった。 ・ 渡波小学校は教室が多く、待合スペース、物品を置くスペースが確保できた。 ・ 渡波小学校の校庭は、整理後ヘリコプターが着陸できるようになった。 ・ オカベ薬局が支払い不確定の中で軟膏類を提供してくれた。 ・ オカベ薬局は薬状（お薬説明書）を持っている人には、その場で薬を提供してくれた。 ・ 医師会の救護班の支援が1日得られた。 ・ 開業医の鈴木医師は鹿妻小学校で、本田産婦人科の医師は法山寺で看護師と診察していた。 ・ 渡波小学校には医師がいなかった。 ・ 避難所ではヘルパーや看護師、保健師、薬剤師、消防士は確保できる。 ・ 大街道小学校近くのクリニックでは初診患者には薬が処方されなかった。 ・ 薬局も後日市から薬代を回収できた。 ・ マスクや手袋、水は多少救護室にあった。 ・ 地区にはAEDが確保されていた。 ・ 地区のAEDはタイプが古く、使用方法が良くわからなかった。 ・ 住民には地域の全AED配置図などが作成並びに配布されてなかった。 ・ 何日か経過して避難所に簡易トイレが設置された。 ・ 簡易トイレ設置前は衣装ケースにトイレットしていた。 ・ 渡波中学校の先生が、毎朝歩いて渡波小学校に交通状況や生徒安否情報の交換に来ていた。 ・ 避難所から救急要請などの通信、連絡手段が十分で無かった。 ・ 通信機器操作ができる人は消防署に1名いた。 ・ 段取り上手なボランティアリーダーがいる事で、避難所運営が円滑に進んだ。 ・ ボランティアが看護師多忙を見越して最初の問診対応など支援した。 ・ 医療班が来所した際にはボランティアが避難者に周知して回っていた。 ・ 石巻社会福祉協議会が震災1ヶ月前に拠点にボランティアセンターを立ち上げる宣言をしていた。 ・ ボランティアセンター構想は、発災時点ではシステム化まではされていなかった。 ・ 大街道地区の避難所では中学生が一生懸命ボランティア活動を行った（部屋掃除やトイレ片付け）。 ・ 井内地区に要介護者を収容する避難所が開設された。 ・ 合同救護チームは活動初期に避難所情報が乏しく、寝たきりの方や精神疾患患者の対応に苦慮した。 ・ 精神疾患が多く、救護チームの対応が大変であった。 ・ 認知症患者は薬物による沈静化が図れず環境もあって目が離せなかった。 ・ 認知症患者の方は家族の人にかかりつけ病院に移送して頂いた。 ・ 各避難所に配置された市職員は、膨大な避難者への対応で効果的な動きが出来ていなかった。 ・ 地域により、区長の所掌事務内容が違っていた。 ・ 市の職員から防災無線は非常時のみだから物資要求等には使えないと言われた。 ・ 自助共助としての要望を伝える様をお願いしたら市職員に断られた。 ・ 市の看護師が避難先で救護活動していたら、市上層から活動先変更命令を受け拒否したら減給された。 ・ 医師の救護所への来所予定すら明確にできない状況が続いていた。 ・ 石巻市の自治会連合が避難所の主導を行う計画だったが上手く活動出来なかった。 ・ 事業所の人には地域貢献をお願いしていた(炊き出し支援が行われていた)。 ・ 衣料品を取り扱う事業所では、衣類や毛布の供出がなされた。 ・ 渡波小学校では、履き物が十分でなかったので土足対応となり、衛生的な面で課題があった。 ・ 1度倒れて病院に搬送された方が、退院後の不安から看護師のいる避難所への再移動を希望してきた。 ・ 要介護者の家族は、事前に対応可能な避難場所を探して対応していた。 ・ 今回の災害対応で福祉避難所の設定や運営がなされたのは有効だった。

表-3.64 医療（病院）部門ヒアリングからの【社会基盤の被害状況、救助活動、地域住民の様子等の社会現象】整理表（その2）

日 所属部門	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日以降	行動時点が特定できないもの
避難所運営 A						・ 蛇田地区の公民館では市に頼った避難所運営が続いていた。 ・ 道路復旧情報も全くわからなかった。 ・ 救護所で診察している医師から道路交通情報を得ていた。

表-3.65 医療（病院）部門ヒアリングからの【社会基盤の被害状況、救助活動、地域住民の様子等の社会現象】整理表（その3）

日 所属部門	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日以降	行動時点が特定できないもの
避難所運営 B	・ 直ちに避難する様に防災無線が聞こえた。 ・ 避難途中の周りの人や車で走行中の人には防災無線は聞こえていなかった。 ・ 大街道小学校に避難している人は少なかった。 ・ 先生と生徒が体育館に避難していた。 ・ 徐々に近所の人が体育館に避難してきた。 ・ 学校の先生が毛布を持ってきてくれた。 ・ 大街道小学校の体育館に津波が来るので本校舎の2階、3階に避難するように先生が的確な指示を出した。 ・ 大街道小学校の2階、3階では教室に避難した人、廊下の人、ベットも不規則な形で避難していた。 ・ 児童クラブのおやつを残りを先生が配分した（水はなかった）。 ・ 大街道小学校では3日目までは水は一人一口ずつ程度しか無かった（お年寄りと子供に優先）。 ・ 大街道小学校周辺の2階民家にも多数の在宅避難者がいた。 ・ 3月11日から5日間は津波浸水で病院へ出勤できなかった。	・ 車の外にいて倒れた人を家族と先生とで1階保健室に運び込んだ。 ・ 市立病院の看護師が来た。 ・ 先生が救急車を要請しようとしたが電話が不通だった（繋がっても津波浸水で、救急車は来られない状況）。 ・ 蘇生できなかった方（亡くなった方）は何日間か保健室に安置されていた。 ・ 3月12日と3月13日には避難者は水の中を自宅の状況確認に向かった。 ・ 自宅の状況を確認して避難所に戻った人は足等を負傷した人が多かった。 ・ 水に濡れて避難所に戻った人に先生が子供の体操着を提供した。 ・ 一般の人で協力的な人からの手伝いを受けた。 ・ 食料はPTA役員が水に浸かりながら近所の商店から調達してきた。		・ 3月14日頃から救護活動が苦しくなってきた（24時間救護体制の限界） ・ 群馬の赤十字の救護班や自衛隊が大街道小学校に派遣された。 ・ 開業医が診察を再開したという情報が入った。 ・ 診察に行った人の中で、診察を断られた人が居た（かかりつけの人だけ薬を出していた）。 ・ 3日目に自衛隊が水を搬入して助かった。 ・ 渡波支所では職員に適度な備蓄水の配給を進言したが、薬飲用とかに限定していて断られた。	・ 市の保健師が大街道小学校に派遣されてきた(3/16)。 ・ 校長先生は大街道小学校での継続した救護活動を要請し引き留めた(3/16)。 ・ 市の保健師に救護活動を引き継ごうとしたが、断られた。(3/16)	・ 浸水が収まった頃には風邪症状を訴える避難者が増加した。 ・ 大街道小学校の校長は出張不在であった。 ・ 先生は避難者対応で疲弊してきた。 ・ 市職員と学校とで現場の過酷さや緊急の状況を全く理解していない様子だった（クレームが出た）。 ・ 派遣された市の保健師も地域にある複数避難所の掛け持ち状態であった。 ・ 開業医から避難者の投与中の薬名、血圧を測ってくれば薬を提供すると言われた。 ・ 看護師では薬は処方できない（医師の存在が不可欠）。 ・ 渡波小学校では医師が常駐していて、看護師が派遣・常駐が交替支援するパターンだった。 ・ 避難していた中学生の卒業生が自主的に支援活動をした。 ・ 若い大人の男の人は動かなかった。 ・ 市立病院の看護師は市立病院が被災したので大街道小学校に残る事とした。 ・ 大街道小学校の避難者はお客様の様な状態だった（先生だけが疲弊した）。 ・ 大街道小学校でもトイレ環境が悪かった。 ・ 避難者は水がないので手洗いをしていなかった。 ・ 避難者は徐々にPTA関係の役員の方を中心に組織化し、避難所生活を始めた。 ・ 大街道小学校近隣の在宅避難者は2階から救援要請の旗を振っていた。 ・ 校長先生の救護継続依頼は命令責任の所在が全くわからなかった。 ・ 厚生労働省が72時間の救助活動時限（目安）を撤廃し、災害時要援護者救済の徹底を通達した。 ・ 学校の先生の救急対処はよく訓練されていた。 ・ 震災後、隣近所との付き合い方にも変化の兆しが認められる。

表-3.66 医療（病院）部門ヒアリングからの【社会基盤の被害状況、救助活動、地域住民の様子等の社会現象】整理表（その４）

日 所属部門	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日以降	行動時点が特定できないもの
公衆衛生						・ 避難所内の感染症の問題がクローズアップされてきたのが発災後２週間目くらいからだった。 ・ 避難所で、嘔吐・下痢やせきをしている人が徐々に増えていった。 ・ 仮設トイレのくみ取りが潤沢にされてなく不衛生であった。 ・ 不潔なトイレ使用後に、十分に手を洗うことができなかった（断水で）。 ・ 絶対的にトイレ数が不足していた。 ・ くみ取りの頻度が不足していた。 ・ 市の生活環境部が汲み取りの担当部署であった。 ・ 市の生活環境部は遺体安置所の管理で、手が回らない状況だった。 ・ 自衛隊から、くみ取りはできるという話はあった（市から依頼があれば）。 ・ ある避難所では仮設トイレ対策で、避難所裏に穴を掘り橋を渡し、用便することを実践していた（一番いい解決策だったと思う）。 ・ トイレが不衛生なために水分接種を控えトイレを我慢することで、膀胱炎や尿道感染症で具合が悪くなり運ばれてくるというケースが多かった（特に女性やお年寄り）。 ・ 「ラップボン」（自動でラップする水なしトイレ）を渡波小学校が一番最初に導入した。 ・ ある避難所では感染症や具合が悪くなった人を療養させる部屋を設けていた。 ・ 保健の先生が衛生管理を全て担っていた避難所があった（嘔吐下痢専用のトイレの設置、後始末の消毒、手の消毒など）。 ・ 学校の先生達が協力的に避難所運営に係わっていたところと、学校の方が全く避難所運営にタッチしないところがあった。 ・ 市の生活環境部の方が「バケツ１杯ぐらいの水で流すと、かえって途中の配管に汚物が詰まってよろしくないのでバケツ１０杯ぐらいの水で流してください」と指導していたが、かなりクレームがあった（面倒だから汚物をすくってゴミ袋にためていたところもあった）。 ・ 浄化システムを使って川の水を飲用水に変えるものを海外のボランティア団体が持ち込んでいた。 ・ 賞味期限切れの食料提供もあった。 ・ 保健所から避難所は管轄外なのでタッチしないとの回答を得た。 ・ 福島避難所では炊き出しに出たカレーでセレウス菌の食中毒を起こした。 ・ 石巻地区でもボランティアに食中毒患者が出た。 ・ 市から瓦礫撤去にかかわっていた人に破傷風の感染対策アナウンスがなされていた。 ・ マスクの専門業者が被災地に入り、学校関係の方を集めレクチャーしていた（余り効果がなかったように思う）。
総括						・ 開業医は自分のクリニックでの診察を最優先して頂いたことで対応は上手くいった。 ・ 開業医は自分のクリニックが被災しても、なるべく早く診察を立ち上げて周辺地元住民の方をカバーしてくれている。 ・ 市が健康福祉避難所を設置した。市職員の英断で
透析						・ 石巻市の方から、合同対策チーム案の提案について場所が確保できないと却下された。 ・ 医師会の計画では、市役所内の市民ルームに実務担当者を入れる計画がある。 ・ 東松島では市役所内で透析患者の車にガソリン入れた。 ・ 自家発電は３日分の燃料があった。 ・ 本来であればもう県外とか被災していないところに患者を移動して、落ち着くまでその地区でやってもらって戻ってきてもらうという形がいいと思うがスタッフがギリギリの状態なので出来なかった。 ・ 宏人会、石巻医療圏内、石巻市内の医療施設のネットワークを４、５年前に立ち上げて活動していた。 ・ 避難所には必ず保健師が配置される。 ・ 市の防災計画上、社会福祉協議会が災害時要援護者の安否確認を行うというのが記載されている。 ・ 市水道局から電話があり、「今回の震災で給水車が明らかに足らなかったんで増やしたい、透析患者さんの使う水の量と患者数を教えていただけないか」との問合せがあった。

表-3.67 医療（病院）部門ヒアリングからの【社会基盤の被害状況、救助活動、地域住民の様子等の社会現象】整理表（その5）

日 所属部門	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日以降	行動時点が特定できないもの
薬剤部門						・ 石巻薬剤師会は石巻市と防災協定を結んでいない（大手ドラッグストアと防災協定を結んでいる）。 ・ 宮城県では宮城県薬剤師会で集配や調剤する協定を結んでいる。 ・ 宮城県の場合、全国から薬剤師が来た。 ・ 薬を供給したのが一番多かったのが、薬問屋だった（協定しているドラッグストアではなく）。 ・ 発災当初は物がなく、門前町にある薬局さんから色々な物を借りて対応した（組織ではなく人と人のつながりがあったから）。 ・ 災害拠点病院ということで利用者が集中してしまった（800 から 900 人の件数で 5～6 時間待ち状態）。 ・ テレビやマスコミを利用して色々な病院から沢山の薬品を送っていただいた。 ・ NTT 電話は優先回線扱いであった（受信はあまりできなかったが）。 ・ 宮城県薬剤師会では調剤機能、薬局機能を持ったバスを今、製作している。 ・ 日本薬剤師会が東京から指示を送っていた（各県の支援班に支援先を指令、指名班が宮城県薬剤師会に行き応援として宮城県に入る、そして宮城県薬剤師会から石巻市に応援に行けという形の段階的な指示行動系統となっていた）。
来院者対応						・ 市内の病院がどうなっているか情報が全くなかった。 ・ 石巻地域の病院の人達で情報を発信する取り組みを始めている。 ・ 病院ネットワークと介護施設ネットワークは類似しているがリンクしていない。 ・ 県では情報集約、発信訓練を毎年 1 回は必ずやっていた（ただ今回の震災では活かされていない）。 ・ 民間の介護タクシーの業者の中で、後から請求に来た業者がいた（無償でお願いするつもりだった）。 ・ 自衛隊も最初は患者搬送を支援してくれたが、途中からしなくなった（本来業務ではないので）。 ・ 女川の場合は 3 月 20 日ぐらいに全国老人保健施設協会が来て広域に要介護者を外の地域に出すことをやっていた。 ・ 東京都の社会福祉士協会ではベッドの受入れ状況データベースを一回まとめたが、打診先がわからなかった。 ・ メッセージボードには安否情報以外に道路状況や避難所に誰が避難しているかなどの情報も求められた。 ・ 受診患者には「あいうえお」順に名前をソートして窓口で提示していた。 ・ 個人情報開示は病院上層部が意識していたが、患者情報のネット公開案は却下した。 ・ 家族を探している方に曖昧な情報は出せなかった。 ・ 仙石病院は医療を施す人だけを受け入れ他はシャットアウトした。 ・ 病院内に理由を言っでは入りこんだ一般人がいた（携帯電話の充電をする人が沢山いた）。 ・ 市職員はアナウンスしたがすぐに退席し、沢山のクレームがあった。 ・ クレーム対応は病院職員が受け、また避難所への移動説得も病院職員が行った。

表-3.68 医療（病院）部門ヒアリングからの【ヒアリング対象者の見解または感想、市や災害対策関係機関への要望、その他】整理表（その１）

ID	所属	日	区分	発言内容
byoi0204	薬剤部門	-	その他	石巻薬剤師会は防災会議のメンバーでもある
byoi0206	薬剤部門	-	その他	薬は医学的、薬学的知識がある人が係わって初めて物として機能する
byoi0210	薬剤部門	-	その他	単にものさえ持ってくればいいというのが石巻市の防災計画だったんじゃないか
byoi0214	薬剤部門	-	その他	他の場所に集積所とかをつくって薬を払い出せるような場所があってもよかったのではないかな
byoi0216	薬剤部門	-	その他	衛星携帯だけでもあれば良かった
byoi0218	薬剤部門	-	その他	薬品を保存できるスペースや専門知識を持った人が仕分けをできるスペースがあれば良かった
byoi0219	薬剤部門	-	その他	薬は保管状況が悪ければせっかくそろっても使えない
byoi0221	薬剤部門	-	その他	調剤機能、薬局機能を持ったバスを石巻市でも購入してほしい
byoi0222	薬剤部門	-	その他	石巻薬剤師会と石巻市が協定する（石巻薬剤師会の上部団体である宮城県薬剤師会なり、日本薬剤師会が支援に来る）
byoi0224	薬剤部門	-	その他	災害処方箋を作り、それを持っていけば薬局は処方する約束を決めれば良い（厚労省レベルの話かもしれないが）
byoi0229	公衆衛生部門	-	その他	1ヶ所の避難所で避難者数何人あたりに何基トイレが必要か市で把握しておく必要があると思う
byoi0234	公衆衛生部門	-	その他	東北でも被災していない県から、くみ取り業者の支援を求めてもよかったんじゃないかな
byoi0237	公衆衛生部門	-	その他	神戸では阪神大震災の後に新しいまちづくりで、マンホールに直接用を足し、その中に汚物が溜まる施設計画がある
byoi0239	公衆衛生部門	-	その他	仮設トイレの設置環境に配慮があるといい
byoi0241	公衆衛生部門	-	その他	バッテリー式の「ラップボン」があればいいと思う
byoi0242	公衆衛生部門	-	その他	すべての感染症において共通しているのが、手洗いが必要ということ
byoi0243	公衆衛生部門	-	その他	断水したときに何で手洗いを代替するか（拭き取れるウェットティッシュ的なものが備えとしては必要）
byoi0244	公衆衛生部門	-	その他	飲み水以外の水の供給を考えていただきたい
byoi0245	公衆衛生部門	-	その他	感染症が避難所で発生した場合、隔離という対策が必要
byoi0247	公衆衛生部門	-	その他	避難所の立ち上げの段階で緊急事態に備えるための1部屋を確保してほしい（感染症の隔離も含めて）
byoi0250	公衆衛生部門	-	その他	学校にいる衛生管理を担っている保健の先生が、避難所の衛生管理の指導者的な役割として避難所運営にもかかわっていただけたらいい
byoi0252	公衆衛生部門	-	その他	仮設トイレは協定があれど、バキュームカーの協定は盲点だったかもしれない
	公衆衛生部門	-	その他	濾過システムの導入（川水や海水を飲水や利用水にする）
byoi0261	公衆衛生部門	-	その他	マスクは必要なのか。マスクが必要だとした場合にこういったタイプのマスクがいいのかという検証が必要
byoi0263	公衆衛生部門	-	その他	市と保健所がうまく機能してなかったという感想
byoi0269	来院者対応	-	その他	市から近隣の病院がどうなっているかという情報を流していただければとありがたい
byoi0271	来院者対応	-	その他	客観的に第三者的な視点で公平に患者を振り分ける部門がどこかにあるのが望ましい
byoi0272	来院者対応	-	その他	福祉避難所的な場所がここに設置されていますとの広報をしてけると助かる
byoi0277	来院者対応	-	その他	搬送手段の確保という意味で、介護タクシー業者や介護事業所と協定を結んでおいたほうがよい
byoi0279	来院者対応	-	その他	介護車両は認可申請するとき、災害時の協力を約束しなさいという交換条件（でなければ免許発行しない）という仕組み
byoi0286	来院者対応	-	その他	集約した情報をパブリックスペースとなるところ（市役所、駅、病院など）に市から配布してもらおうといいのでは
byoi0285	来院者対応	-	その他	自衛隊も救助した段階で、名前と住所と生年月日ぐらいのリストをつくってほしい
byoi0286	来院者対応	-	その他	否定情報とか、安心情報はあると助かる
byoi0295	来院者対応	-	その他	コンシェルジュというのか対応係を用意しておくというのもある
byoi0296	来院者対応	-	その他	避難所か移送先候補で、どこには何人くらい、どれくらい空きがあるという情報があれば避難者に説明しやすかった
byoi0297	総括部門	-	その他	市から病院は公的な救護所であると広報してほしい（平官平民の様なある程度公的なものとして扱ってくれるとうれしい）
byoi0298	総括部門	-	その他	ソフトなりハードなり両方の面でご支援いただけるような連携がとれるといい
byoi0299	総括部門	-	その他	医療以外の公衆衛生的なことも含め、カウンターパートがいると大変助かる（何かをお願いすると直ちに市中枢部まで話が通るような）
byoi0300	総括部門	-	その他	保健師さんと一緒に連携できるといい（保健師は地元の住民の方に関する情報をよく知っているの）
byoi0303	総括部門	-	その他	薬剤師会も対策本部に入っていたいただいて連携をとっていくのがいい
byoi0305	総括部門	-	その他	休息などは上司が勧告、命令するみたいな形にするべき（不眠不休はかえって効率が悪くなる）
byoi0306	総括部門	-	その他	調整会議は一部の少数数でやった方が効率的だと思う
byoi0305	総括部門	-	その他	石巻医療圏に災害医療コーディネーターを1人置くのかどうか
byoi0309	透析部門	-	その他	透析というのは、1週間に3回やらないと生命に支障出てくる
byoi0310	透析部門	-	その他	燃料の優先供給が不可欠（優先車両しかガソリンスタンドには入れないことを徹底させる）
byoi0316	透析部門	-	その他	社会福祉協議会と避難所の保健師と医療機関との情報共有システムが必要と思う（個人情報保護からつまづき連携がとれない）
byoi0319	透析部門	-	その他	医療に専念するためには、やっぱりインフラが整備されていなどため
byoi0320	透析部門	-	その他	電源車の配備計画
byoi0321	透析部門	-	その他	電源車を拠点病院に配置するもしくは優先順位を決めて配置する
byoi0322	透析部門	-	その他	縦割り行政だと例えば電源車の取り扱いになるので優先順をマニュアルに記載してほしい
byoi0323	透析部門	-	その他	透析患者に必要な器具や機材は業者と事前協定を結んでしまう事が良い
byoi0004	避難所運営部門	不明	その他	救護室は避難者スペースと分離すべき
byoi0007	避難所運営部門	不明	その他	渡波小学校の裏手には自宅避難者がいて救護室の設置場所としても良かったと思う
byoi0020	避難所運営部門	不明	その他	普段から各地域での開業医との救護に関する提携が必要と思った
byoi0022	避難所運営部門	不明	その他	各地域で緊急時の調剤薬局も定まっていると良いと思う
byoi0023	避難所運営部門	不明	その他	地域の医師、看護師、薬局の連携ラインには二重・三重のセーフティがあると良いと思う
byoi0024	避難所運営部門	不明	その他	地域の医師、看護師、薬局の協力体制に関するマニュアル化が必要と思う
byoi0029	避難所運営部門	不明	その他	薬局と開業医間の提携の他にも、コンビニやスーパーとの提携があると医療用水の補給もできて良い
byoi0035	避難所運営部門	不明	その他	地域のAED設置場所、メンテナンスが確実に実施されている事が必要と思う
byoi0037	避難所運営部門	不明	その他	AEDの避難所での取扱いや操作については、最初は先生方が対応する他無いと思う
byoi0040	避難所運営部門	不明	その他	避難所マニュアルにはどこの施設にどんな備蓄物資があるかを示しておくべきと思う
byoi0045	避難所運営部門	不明	その他	一般のボランティアを登録制にして、事前の研修や対応分野を明らかにしておくべき
byoi0052	避難所運営部門	不明	その他	合同救護チームが来たときに、避難所内の救護情報を収集するボランティア活動があると良い

表-3.69 医療（病院）部門ヒアリングからの【ヒアリング対象者の見解または感想、市や災害対策関係機関への要望、その他】整理表（その2）

ID	所属	日	区分	発言内容
byoi0054	避難所運営部門	不明	その他	救護所の運営マニュアルが必要と思う（避難者名簿の作成様式の検討）
byoi0060	避難所運営部門	不明	その他	要介護者や精神疾患者は、1箇所の避難所（救護所）にまとめて医療資源を効果的に投入すべき
byoi0062	避難所運営部門	不明	その他	各避難所の収容可能人数を勘案して市の職員配置を事前に検討しておくべき
byoi0063	避難所運営部門	不明	その他	市職員の避難所配置ローテーションも、地域や人とのつながりとかに配慮し一定の地域内とすべき
byoi0064	避難所運営部門	不明	その他	防災無線で地域全体（在宅避難者）へ食料・水配給情報を伝達する事が必要
byoi0067	避難所運営部門	不明	その他	地域内の情報伝達が円滑で効率的に行える二重三重の組織作りが必要（区長、民生委員、他支援者）
byoi0072	避難所運営部門	不明	その他	市は緊急時には縦割り行政意識を取り払って対応して欲しい
byoi0073	避難所運営部門	不明	その他	市上層は対策会議対応に縛られずに現場をしっかりと見て、臨機応変の対応をして欲しい
byoi0075	避難所運営部門	不明	その他	市だけでなく、国、県、関係団体を含めて効果的な対応を統括、指揮、対応する広い組織作りが必要
byoi0076	避難所運営部門	不明	その他	市は統括指揮に関するダメージコントロール（危機管理体制）について再検討して欲しい
byoi0077	避難所運営部門	不明	その他	市は職員対応に縛られず、他市の支援要員、ボランティアとかと上手く連携して欲しい
byoi0078	避難所運営部門	不明	その他	指定避難所ではあらかじめ地域と連携したグループ編成を検討しておくべき
byoi0079	避難所運営部門	不明	その他	自主防災会長や学校の先生にあらかじめ市から避難所対応をお願いしておけば良いのではないか
byoi0081	避難所運営部門	不明	その他	避難所にいた人は地域の自主防災会員だけでは無く、外来者もいて、上手く機能しなかった可能性がある
byoi0082	避難所運営部門	不明	その他	事業所も巻き込んで有事の際の防災管理者、避難所管理者として研修・育成していくことが必要である
byoi0083	避難所運営部門	不明	その他	地域の人で協力してくれる意志がある人には災害時支援や研修をお願いをしておく事が不可欠である
byoi0084	避難所運営部門	不明	その他	不特定多数が集まる避難所で、それらの人を上手く組織化するマニュアルが必要だと思う
byoi0088	避難所運営部門	不明	その他	HOT患者（在宅酸素使用患者）に対しても各地域で自家発電機を完備した集約的施設があると良いと思う
byoi0089	避難所運営部門	不明	その他	HOT患者（在宅酸素使用患者）に対しては、火気使用についての配慮が必要である
byoi0090	避難所運営部門	不明	その他	介護の人や、ヘルパー、社会福祉協議会の人達が集中して対応できる福祉避難所整備が重要と思う
byoi0095	避難所運営部門	不明	その他	地域の中核的な福祉避難所（救護所も併設）があれば良いと思う
byoi0096	避難所運営部門	不明	その他	避難所内のスペースも医療、介護に各々専念できる環境作りが必要と思う（資源の効率的な投入）
byoi0098	避難所運営部門	不明	その他	救護者の情報のある程度カルテ様式を定めて、救護の情報として活用していくべきである
byoi0099	避難所運営部門	不明	その他	避難所運営の立ち上げ時にリーダー選出が不可欠であり、このリーダーが名簿作りを開始すると良い
byoi0101	避難所運営部門	不明	その他	市の各支所には衛星携帯が必要だと思う
byoi0102	避難所運営部門	不明	その他	防災無線（防災放送）の使用規定をもう少し柔軟に考えても良いと思う
byoi0103	避難所運営部門	不明	その他	水が支給されている地域情報の広報等は早期に広く周知して欲しい
byoi0106	避難所運営部門	不明	その他	夜間は歩かない旨の周知を防災放送を活用して広報した方が良い(夜間移動中の転落事故有り)
byoi0169	避難所運営部門	不明	その他	緊急時における薬の処方方針を取り決めておく必要がある（2日間分が最低なら2日間分とか）
byoi0170	避難所運営部門	不明	その他	今回の経験を活かして、桃生郡医師会も共通認識を持ってもらいたいと思う
byoi0184	避難所運営部門	不明	その他	地域で自主防災会が組織化されていれば、医療従事者への負担低減が図れたと思う
byoi0189	避難所運営部門	不明	その他	平時に市が地域の介護職に委嘱状を出しておいて、緊急時に避難所で対応できる仕組みが必要だと思う
byoi0190	避難所運営部門	不明	その他	救護所を緊急的に立ち上げるのは良いが、そこでの責任の所在が課題である
byoi0192	避難所運営部門	不明	その他	緊急時における避難所運営者の責任と権限を明確化しておく必要がある
byoi0194	避難所運営部門	不明	その他	市の職員は災害対応のコーディネートとかマネジメントに徹するべきである
byoi0195	避難所運営部門	不明	その他	避難所とする学校の備蓄を徹底して、食料・水の不安（生命維持の不安）を解決すべきである
byoi0196	避難所運営部門	不明	その他	コミュニティが希薄な中心部の防災意識高揚が課題である
byoi0199	避難所運営部門	不明	その他	市から避難所運営に尽力した学校の先生方ヘインセンティブの付与なども検討して欲しい
byoi0203	避難所運営部門	不明	その他	被災者は時間の経過と共に心が治癒しない。長いスパンでの心のケアや支援が不可欠と思う

3.6.2 診療所（石巻市医師会）

(1)方 法（アンケート）

診療所（石巻医師会）は、災害時においても医療活動を継続し、地域医療体制を維持すると共に、市と連携して救護班として避難所に設置された救護所で応急救護にあたる事となっている。そこで、今回の災害時の診療所の活動実態を把握する目的で、災害時に地域で医療活動を行った各診療所を対象にアンケートを行った。

アンケートの設問内容は無記名方式とし、以下の項目について質問した。

- 1) 回答者の年齢、居住地域、地震発生時の行動
- 2) 診療所の被害状況、再開状況（時期、再開に支障となった事項、支援体制等）
- 3) 応急的な救護活動状況（実施の有無、実施場所、実施体制、必要な情報等）
- 4) 石巻市の災害医療のあり方

なお、アンケート用紙の配布並びに回収は、石巻市医師会を通じて行った。巻末にアンケート用紙（質問）を添付した（巻末資料 2.2 129 頁参照）。

(2)期間

2012 年 2 月中旬から 2 月 27 日（アンケート回収完了日）まで

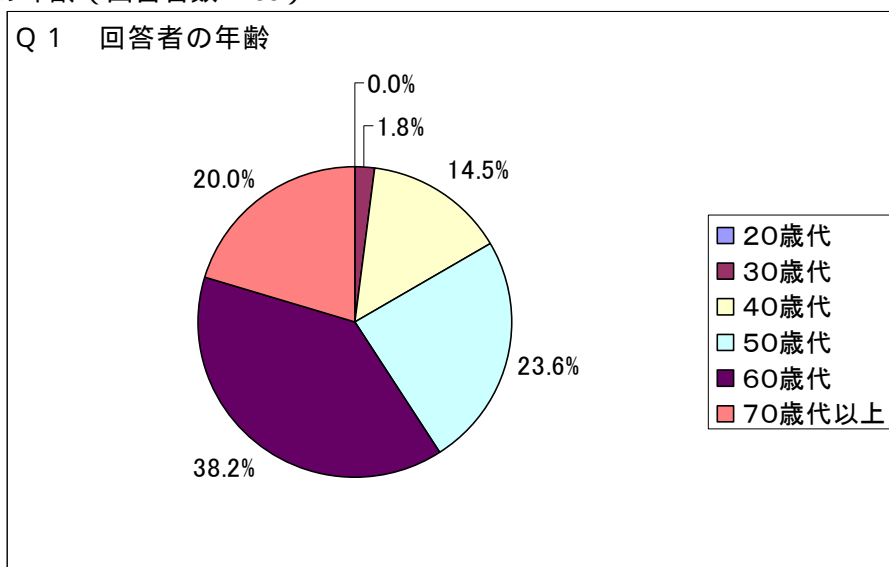
(3)対象者

アンケートの対象者は、石巻市医師会の会員（会員数 181 名）のうち 78 名にアンケートを送付し、55 名からの回答を得た（回収率；70.5%）。

(4)アンケート結果

以下にアンケート結果を示す。

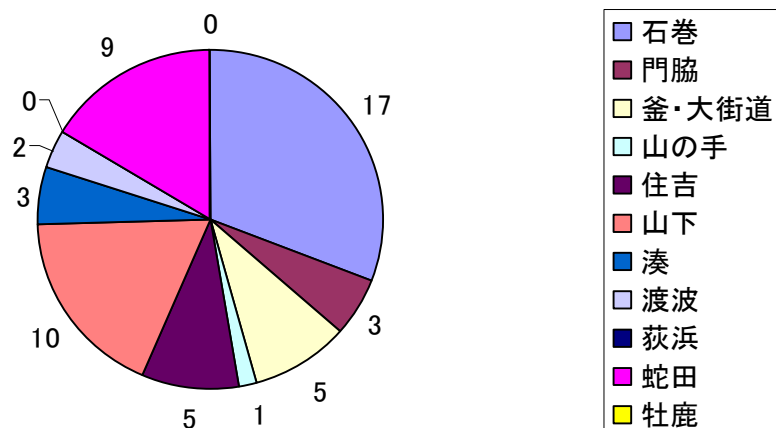
ア．回答者の年齢（回答者数 N=55）



- 1) 60 歳代が 38.2%(21 名)と最も多い比率を示す。
- 2) 60 歳代に続き、50 歳代が 23.6%(13 名)、70 歳代が 20.0%(11 名)と続く
- 3) 30 歳代と 40 歳代は計 16.3%であり、20 歳代は 0%である。

イ．回答者の居住地域（回答者数 N=55）

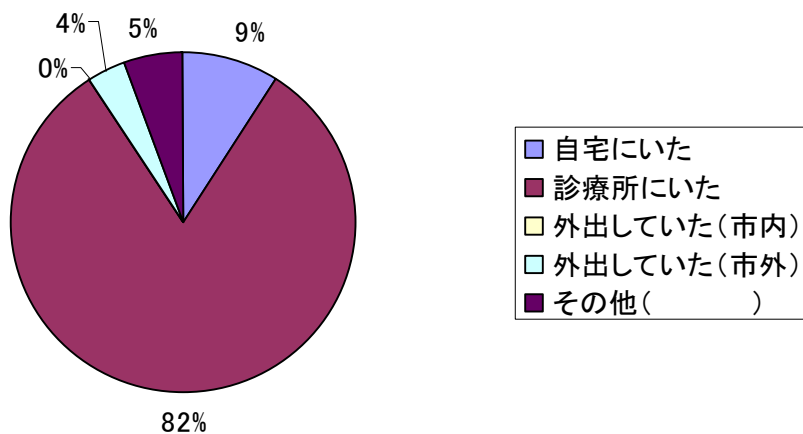
Q 2 居住地域



- 1) 石巻地区が 17 人と最も多く、これに続いて山下地区 10 人、蛇田地区 9 人となる。
- 2) 萩浜、牡鹿両地区は 0%である。

ウ．3 月 11 日の地震発生時にいた場所（回答者数 N=55）

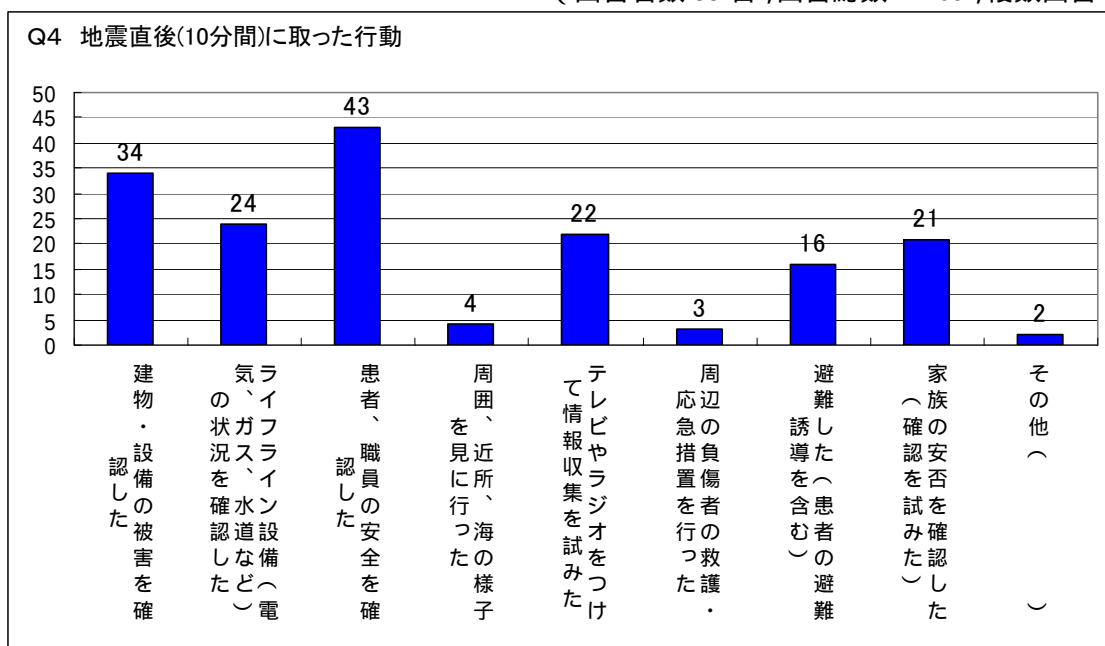
Q 3 地震発生時にいた場所



- 1) 82%(45 名)の方は「診療所にいた」と回答している。
- 2) 9%(5 名)方が「自宅にいた」と回答している。
- 3) 市内への外出者は 0%、市外への外出者 4%(2 名)、その他は 5%で「前勤務地で」、又は「別の施設で会議中に」との回答がある。

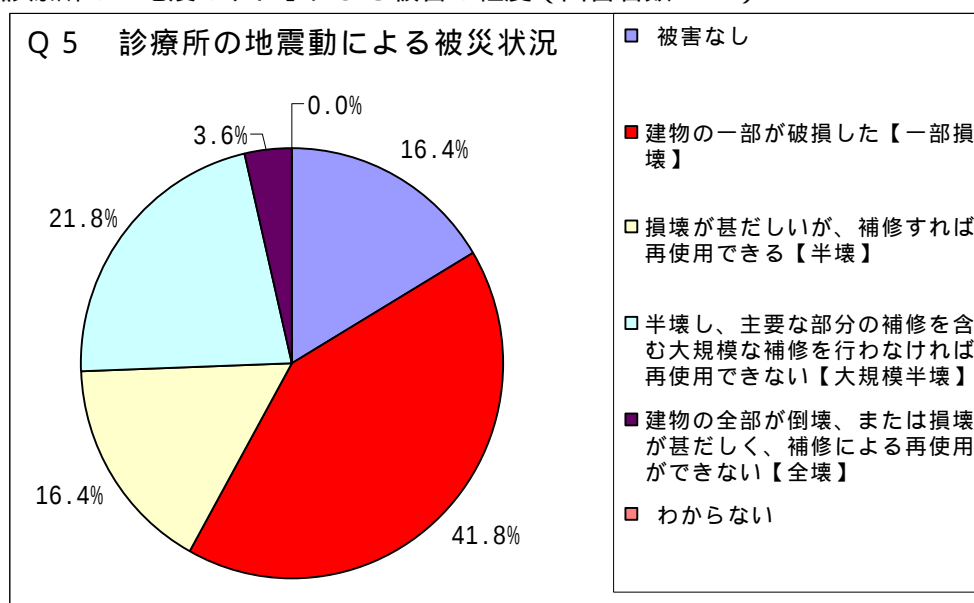
エ．地震の「ゆれ」の収まった直後（10 分間）に何をしたか

（回答者数 55 名，回答総数 N=169，複数回答）



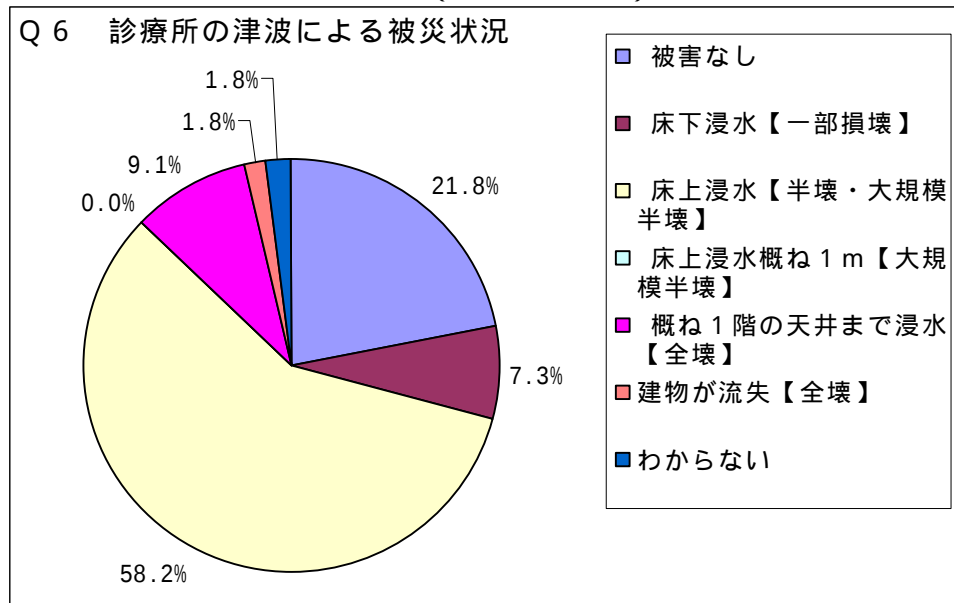
- 1) 「患者、職員の安全を確認した」方が 43 回答（総回答数の 25.4%）と最も多く、これに続き 34 回答（総回答数の 20.1%）が「建物、設備の被害確認を行った」と回答している。
- 2) 24 回答（総回答数の 14.2%）が「ライフライン設備（電気、ガス、水道など）の状況確認」を行っており、22 回答（総回答数の 13.0%）が「テレビやラジオをつけて情報収集を試みた」としている。
- 3) 「避難した（患者の避難誘導含む）」との回答は 16 回答で、回答数 N=169 のうちの 9.5%にあたる。

オ．診療所の「地震のゆれ」による被害の程度（回答者数 N=55）



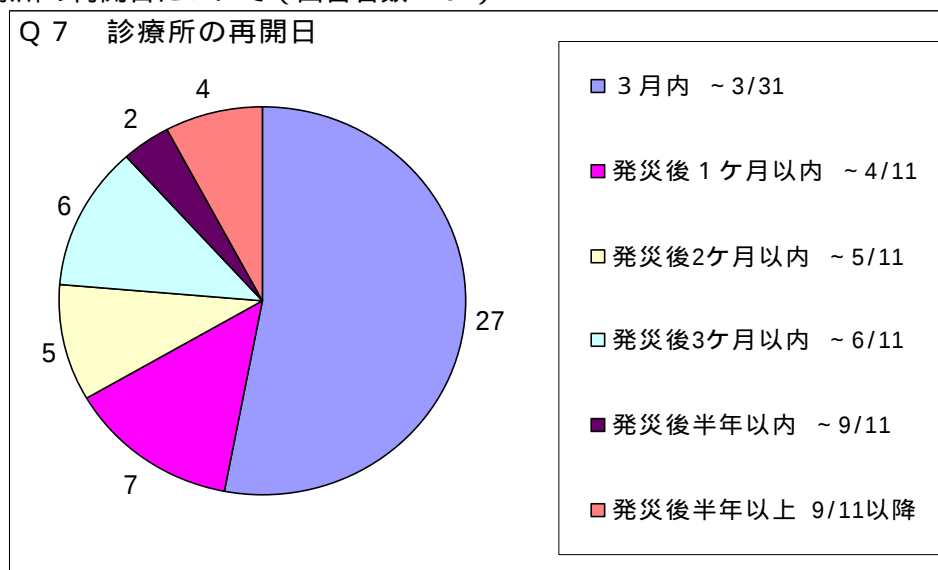
- 1) 41.8% (23 名) の方が「建物の一部が破損した【一部損壊】」の被害を被っている。
- 2) 建物の一部損壊に続き、21.8% (12 名) の方が「半壊し、主要な部分の補修を含む大規模な補修を行わなければ再使用できない【大規模半壊】」を、16.4% (9 名) の方が「損壊が甚だしいが、補修すれば使用できる【半壊】」の被害を被っている。
- 3) 「建物の全部が倒壊、または損壊が甚だしく、補修による再使用ができない【全壊】」の被害を受けた方は、3.6% (2 名) である。
- 4) 「被害なし」は 16.4% (9 名) である。

カ．診療所の「津波」による被害の程度 (回答者数 N=55)



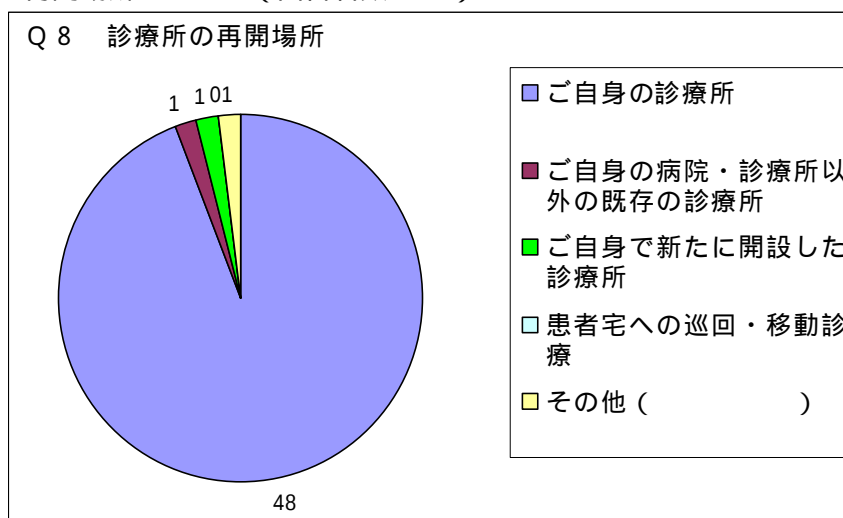
- 1) 全体の半数以上にあたる 58.2% (32 名) の方が、「床上浸水【半壊・大規模半壊】」の被害を受けている。
- 2) 9.1% (5 名) の方が「概ね 1 階の天井まで浸水【全壊】」、さらに 7.3% (4 名) の方が「床下浸水【一部損壊】」の被害を受けている。
- 3) 「被害なし」の方は、21.8% にあたる 12 名である。

キ．診療所の再開日について (回答者数 N=51)



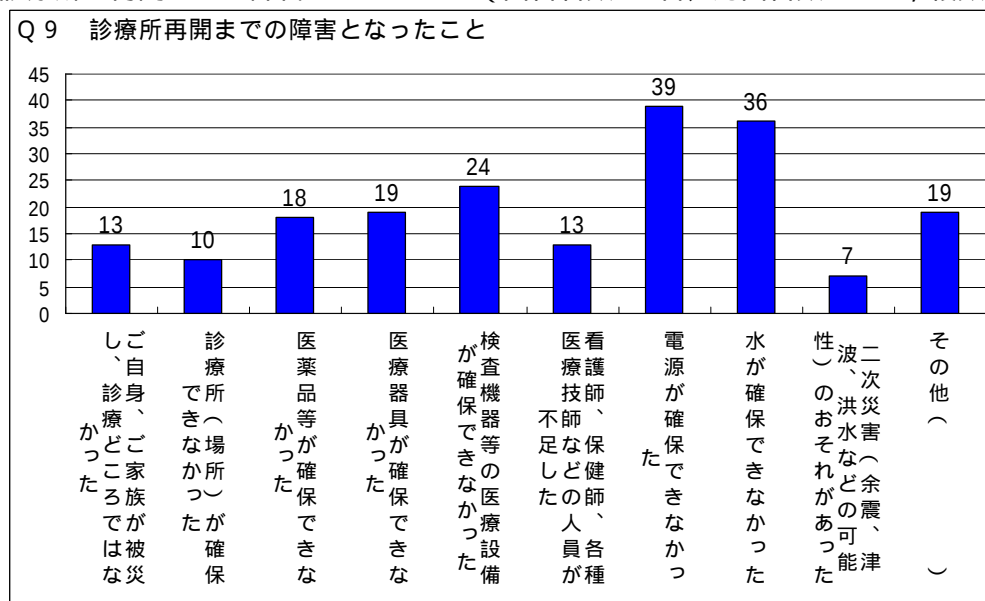
- 1) 27 名 (52.9%) の方が地震後、「3 月内」に診療所を再開している。
- 2) 上記 1) に続いて 7 名 (13.7%) の方が「発災後 1 ヶ月後以内」に、計 11 名 (21.7%) が「発災後 2～3 ヶ月以内」に、それぞれ診療所を再開している。
- 3) 「発災後半年 (9/11) 以降」に再開した方は 4 名 (7.8%) いる。
- 4) 「未だ診療所を再開していない」と回答した方は 0 名である。
- 5) その他回答として、4 月 11 日に自家発電機、配電盤、配水機 (2 階の人工透析医療室への配水)、エレベータ機械室、レントゲン装置のみを先行復旧させ、暫定的に診療所を再開せたと回答している方が 1 名、6 月 8 日に新規に開院したと回答した方が 1 名いる。

ク．診療所の再開場所について (回答者数 N=51)



- 1) 48 名 (94.1%) の方が「ご自身の診療所」にて診療を再開している。
- 2) 「ご自身の病院・診療所以外の既存の診療所」で再開された方は 1 名 (2.0%) である。
- 3) 「患者宅への巡回・移動診療」と回答した方は 0 名である。
- 4) その他回答として、1 名の方が「門前薬局内で処方を開始した」と回答している。

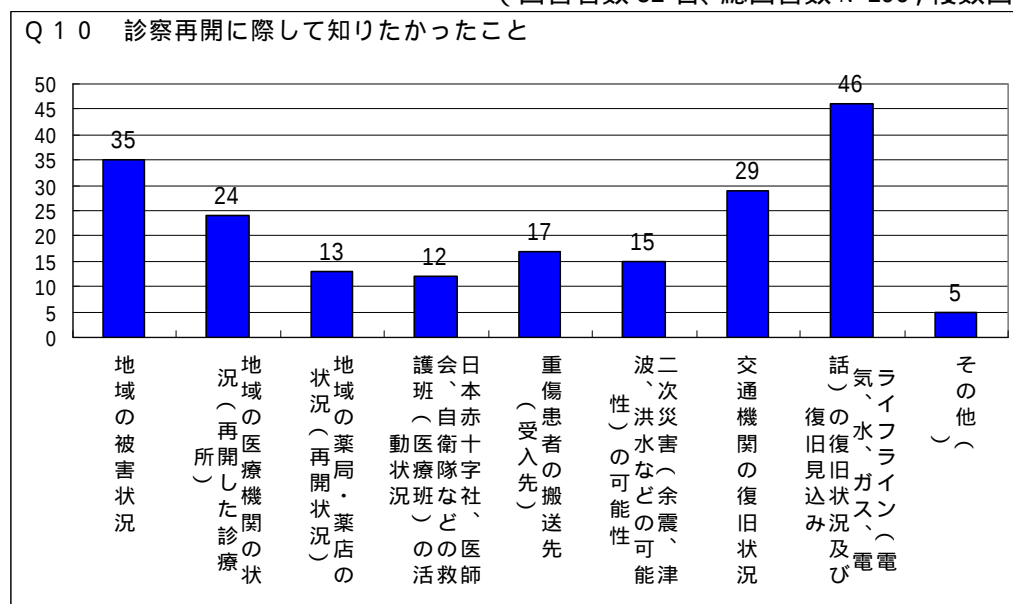
ケ．診療所の再開までに障害になったこと (回答者数 53 名、総回答数 N=198；複数回答)



- 1) 39 回答（総回答数の 19.7%）が「電源が確保できなかったこと」と回答している。
- 2) 上記 1) に続いて、36 回答（総回答数の 18.2%）が「水の確保ができなかったこと」を、24 回答（総回答数の 12.1%）が「検査機器等の医療設備が確保できなかったこと」と、それぞれ回答を上げている。
- 3) 19 回答（総回答数の 9.6%）が「医療器具の確保ができなかった」、またほぼ同数の 18 回答が「医薬品等の確保ができなかった」とそれぞれ回答をしている。
- 4) 「自身、家族が被災して診療どころではなかった」と回答を上げたのは 13 回答（総回答数の 6.6%）ある。
- 5) その他回答として、「電話が不通で連絡がとれなかった」、「被災で職員や自身の通勤手段が確保できなかった」等との回答が寄せられている。

コ．診療の再開にあたって、知りたかった情報について

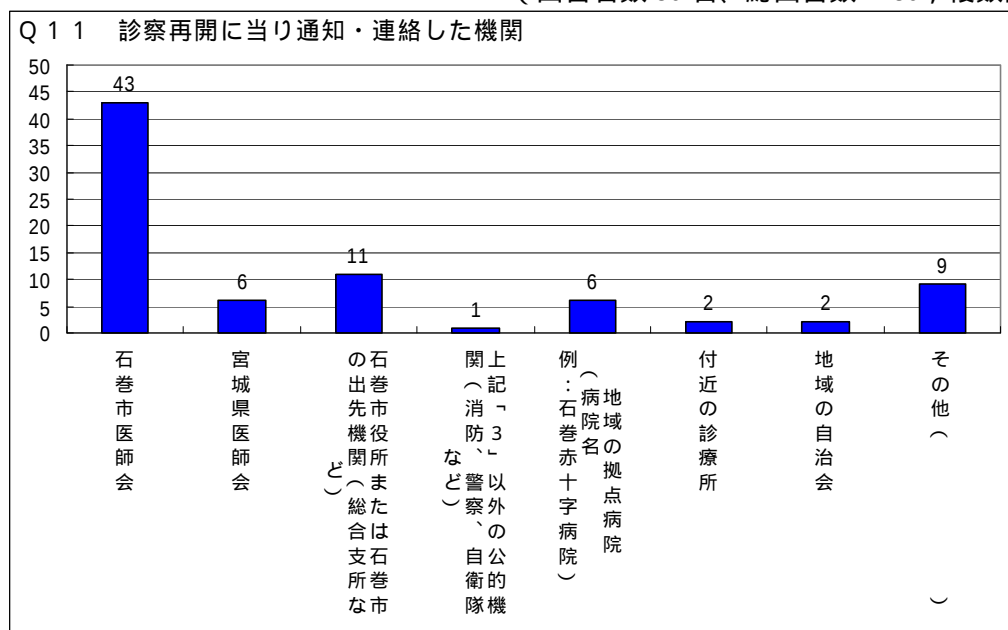
（回答者数 52 名、総回答数 N=196；複数回答）



- 1) 46 回答（総回答数の 23.5%）が「ライフライン（電気、水、ガス、電話）の復旧見込み」を、また 35 回答（総回答数の 17.9%）が「地域の被害状況」を知りたかったと、それぞれ回答している。
- 2) 29 回答（総回答数の 14.8%）が「交通機関の復旧状況」を、24 回答（総回答数の 12.2%）が「地域の医療機関の状況（再開した診療所）」を知りたかったと回答している。また、17 回答（総回答数の 8.7%）が「重症患者の搬送先（受入先）」に関する情報を求めている。
- 3) その他回答して、「ご自身が担当していた患者の安否に関する情報」や「居住が可能な地域であるのか」という情報等を欲していたと回答されている。

シ．診療の再開にあたって、再開を通知・連絡した機関について

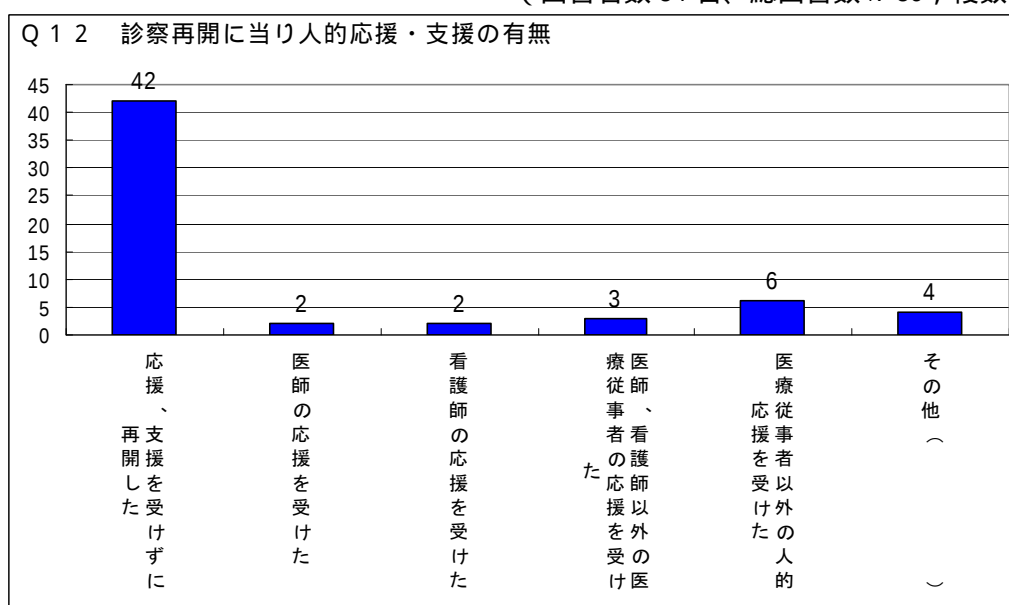
(回答者数 50 名、総回答数 N=80；複数回答)



- 1) 43 回答 (総回答数の 53.8%) が「石巻医師会」に通知・連絡を行っており、また 11 回答 (総回答数の 13.8%) が「石巻市役所又は石巻市の出先機関 (総合支所など)」に通知・連絡したと回答している。
- 2) 8 回答 (総回答数の 10.0%) が「宮城県医師会」、「石巻赤十字病院」に通知・連絡したと回答している。
- 3) その他回答として、「東北大学の整形外科医局」、「個人的つきあいがある方」へ通知・連絡したとの回答がある他、医療機関ではない「新聞社へ通知した」という回答が複数寄せられている。

ス．診療の再開にあたっての人的な応援や支援の有無について

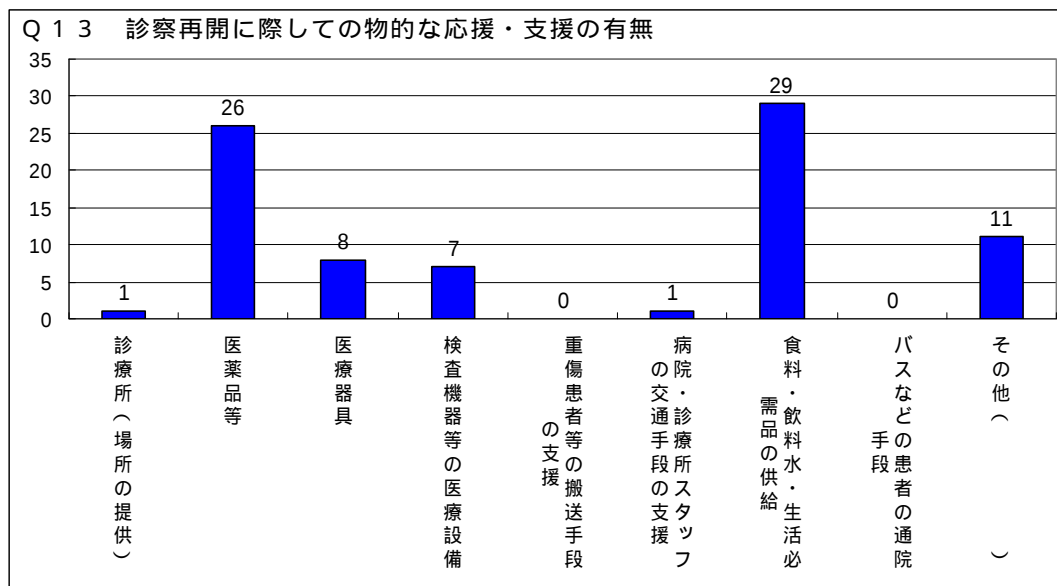
(回答者数 54 名、総回答数 N=59；複数回答)



- 1) 42 回答（総回答数の 71.2%）が「応援、支援を受けずに再開した」と答えている。
- 2) 6 回答（総回答数の 10.2%）が、「医療従事者以外の人的応援を受けて再開した」と答えている。
- 3) その他回答として、「薬剤師、レントゲン技師、受付事務員の支援を受けて再開した」という回答がある。

セ．診療の再開にあたっての物的な応援や支援の有無について

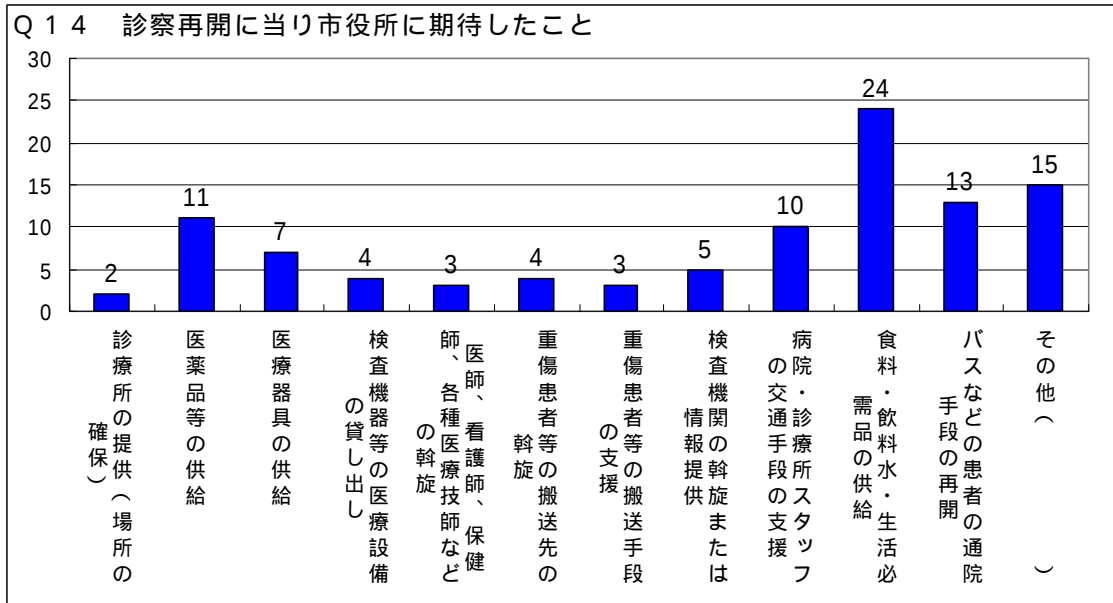
（回答者数 41 名、総回答数 N=83；複数回答）



- 1) 29 回答（総回答数の 34.9%）が「食料・飲料水・生活必需品の供給」を、26 回答（31.3%）が「医薬品等」の物的支援を受けたと、それぞれ回答している。
- 2) 8 回答（総回答数の 9.6%）が「医療器具」、概ね同数の 7 回答が「検査機器等の医療設備」の物的な支援を、それぞれ受けたと回答している。
- 3) その他回答として、「仮設トイレ 2 基の支援」や「取引先の会社からのガソリンの提供」との回答が寄せられている。

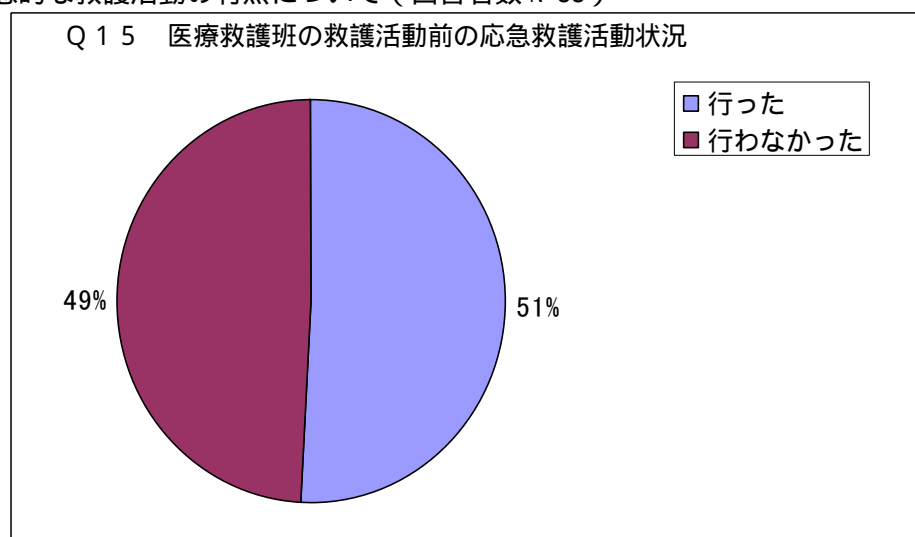
ソ．診療の再開にあたって石巻市（市役所）に期待したこと

（回答者数 44 名、総回答数 N=101；複数回答）



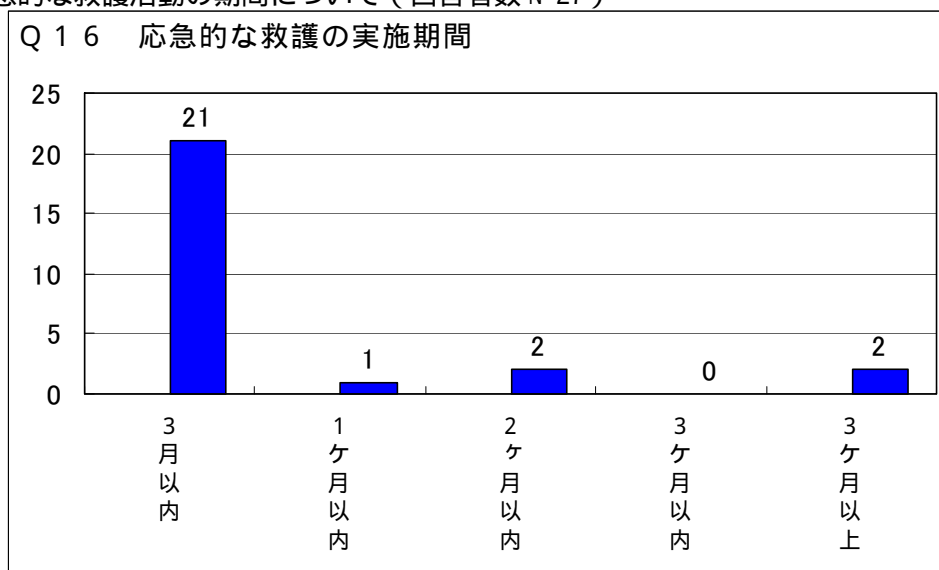
- 1) 24 回答（総回答数の 23.8%）が「食料・飲料水・生活必需品の供給」を、13 回答（総回答数の 12.9%）が「バスなどの患者の通院手段の再開」を、それぞれ市役所に期待している。
- 2) 11 回答（総回答数の 10.9%）は「医薬品等の供給」を、概ね同数の 10 回答が「病院・診療所スタッフの交通手段の支援」を市役所へ期待している。
- 3) その他回答として、「ライフラインの早期復旧」、「被害状況の情報や対策方針」、「夜間急患センター機能の早期復旧」、「がれき撤去やガソリン供給」等が市への期待として寄せられている。

タ．医療救護班（日赤、自衛隊など）の救護活動が始まるまでの期間における避難所等での応急的な救護活動の有無について（回答者数 N=53）



- 1) 回答者約半数の 51%（27 名）の方が、「応急的な救護活動を行った」と回答している。
- 2) 他方、49%（26 名）の方は「応急的な救護活動は行っていない」と回答している。

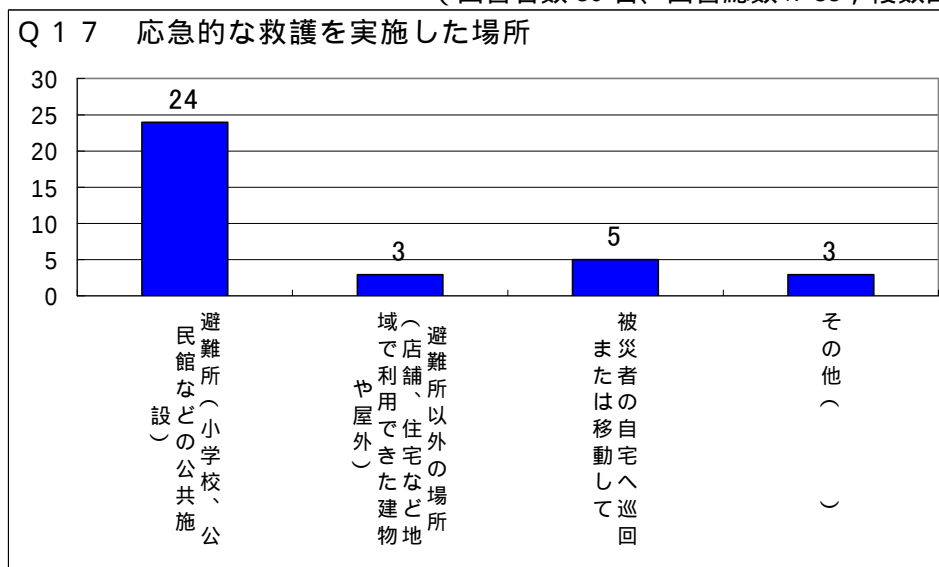
チ．医療救護班（日赤、自衛隊など）の救護活動が始まるまでの期間における避難所等での応急的な救護活動の期間について（回答者数 N=27）



- 1) 応急的な救護活動を実施したと回答した方 27 名のうちで、21 名（77.8%）の方が発災直後から 3 月末まで（3 月以内）の応急的な救護活動を行っている。
- 2) 4 名（14.8%）の方が、発災後 2 ヶ月以上の応急的な救護活動を行っている。
- 3) 回答付記として、「3 月 15 日に国の DMAT（国の災害医療派遣チーム）が到着したので自院での診療に専念するため、応急救護活動を休止した」との回答がある。

ツ．応急的な救護活動を実施した場所について

（回答者数 30 名、回答総数 N=35；複数回答）



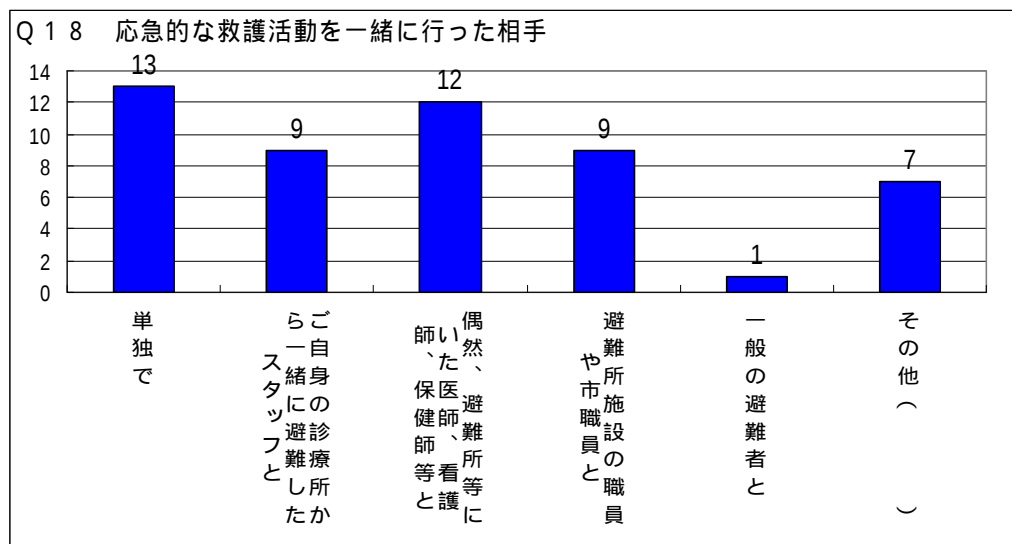
- 1) 24 回答（回答総数の 68.6%）が「避難所（小学校、公民館などの公共施設）」で応急的な救護活動を実施したと回答している。
- 2) 5 回答（回答総数の 14.3%）は「被災者の自宅への巡回または移動して」応急的な救護活動を実施したと回答されており、3 回答（総回答数の 8.6%）が「避難所以外の場所（店舗、住宅など地域で利用できた建物や屋外）」で応急的な救護活動をそれぞれ

実施している。

- 3) その他回答として、「市役所前、緊急的な外来受入の対応として」応急的な救護活動を行ったとの回答がある。

テ．応急的な救護活動を共に実施した相手について

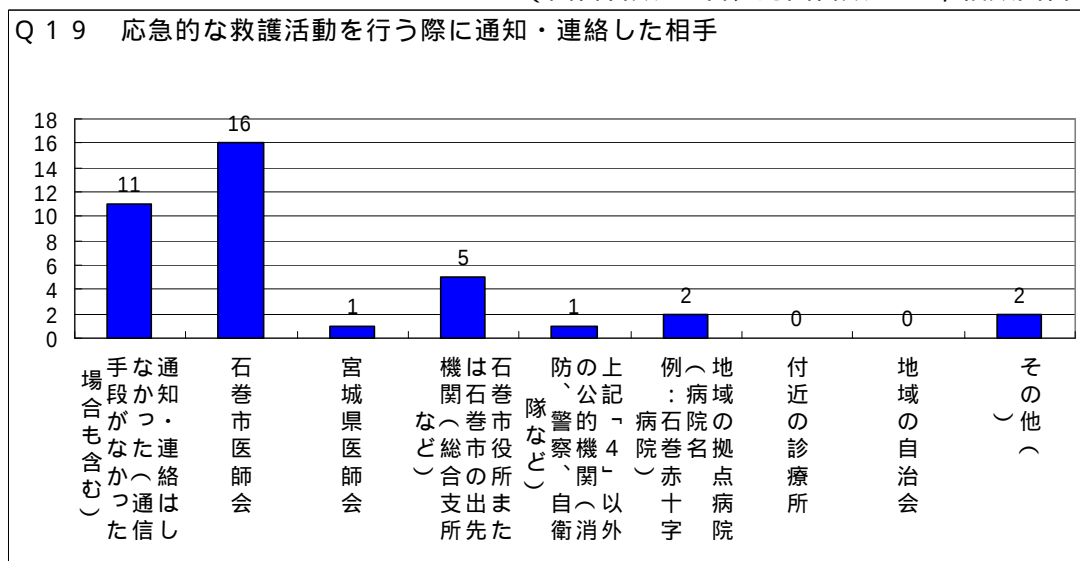
(回答者 27 名、回答総数 N=51；複数回答)



- 1) 13 回答 (総回答数の 25.5%) が「単独で」応急的な救護活動を行ったと答えており、「偶然、避難者等にいた医師、看護師、保健師等と共に応急的な救護活動を行った」との回答が 12 回答 (総回答数の 23.5%) ある。
- 2) 上記 1) に続いて、「避難所施設の職員や市職員と」、「自身の診療所から一緒に避難したスタッフと」応急的な救護活動をしたとの回答が、各々 9 回答 (総回答数の 17.6%) ある。
- 3) その他回答として、「医師会員と」、「市の保健師と」、「家族と共に」応急的な救護活動を行ったとの回答がある。

ト．応急的な救護活動を実施する際に通知・連絡した相手について

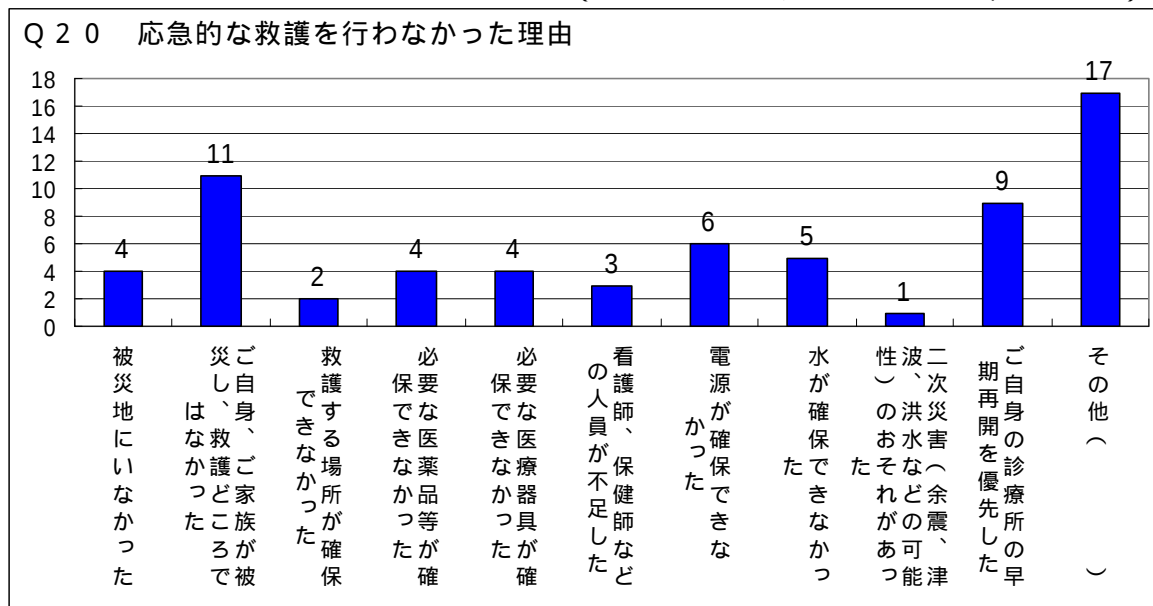
(回答者数 27 名、総回答数 N=38；複数回答)



- 1) 16 回答(総回答数の 42.1%)が「石巻医師会」に通知・連絡したと回答している。
- 2) 11 回答(総回答数の 28.9%)は「通知・連絡はしていない」と回答している。
- 3) 「石巻市役所または石巻市の出先機関(総合支所など)」への通知・連絡を行ったのは 5 回答(総回答数の 13.2%)である。「地域の拠点病院」へは 2 回答(総回答数の 5.3%)であり、その記入された病院名は、石巻赤十字病院と宮城県眼科医師会である。

ナ．応急的な救護活動を行わなかった(行えなかった)理由について

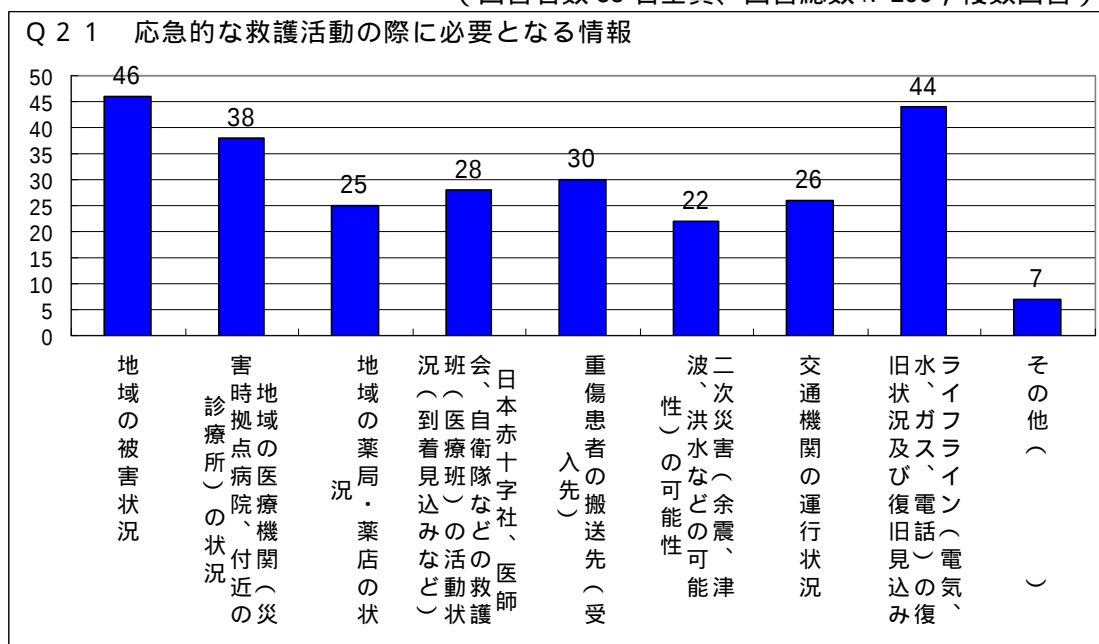
(回答者数 31 名、総回答数 N=66 ; 複数回答)



- 1) 11 回答(総回答数の 16.7%)が、「ご自身やご家族が被災してしまい、救護活動が出来なかった」と回答されている。
- 2) 1)に続いて、「電源が確保できなかったため」が 6 回答(総回答数の 9.1%)、ほぼ同数で「水が確保できなかったため」が 5 回答、「必要な医薬品や医療器具等が確保できなかったため」との回答が各々 4 回答(総回答数の 6.1%)ある。
- 3) その他回答が、17 回答(総回答数の 25.8%)と最も多く、「職員の安否確認のため」、「自院での患者診療の対応を優先したため」、または「自院での診療再開が石巻赤十字病院の後方支援になるから」、「既に他の医師達が活動を開始していたため」、あるいは「移動、通信手段が無く、連絡もなかったため」との回答が寄せられている。

二．応急的救護の実施の有無を判断するための必要な材料について

(回答者数 55 名全員、回答総数 N=266；複数回答)



- 1) 46 回答 (総回答数の 17.3%) が「地域の被害状況」、44 回答 (総回答数の 16.5%) が「ライフライン (電気、水、ガス、電話) の復旧見込み」に関する情報が必要な情報であると回答されている。
- 2) 上記 1) に続いて、38 回答 (総回答数の 14.3%) が「地域の医療機関 (災害時拠点病院、付近の診療所) の状況」、30 回答 (総回答数の 11.3%) が「重症患者の搬送先 (受入先)」に関する情報、さらに概ね同数の 28 回答が「日本赤十字社、医師会、自衛隊などの救護班 (医療班) の活動状況」に関する情報が、それぞれ必要だと回答されている。
- 3) その他回答として、「透析患者を搬送する為の詳しい道路情報」、「避難所の場所、人数、連絡方法、責任者名」、「薬の入手先」に関する情報が必要であるとの回答が寄せられており、さらに付記として「徹底的な情報不足であった」との回答も寄せられている。

ホ．その他、自由回答欄について

自由回答欄には、下記の様な回答が寄せられている。

- 1) 震災後の診療所から見た地域状況や応急的な救護活動に関する事項について
 - ア) 震災 6 日目には、薬を求めて雄勝町から石巻市中里町にある当院まで、山を越えて歩いてきた人がいた。また、震災後 6 日～10 日後には、医院前のヘド口除去掃除中に朝から数人が薬を求めて来院していた。
 - イ) 無理をして 3 月 21 日から医院窓口を開けて面談し、全てを失った人に薬を出し続けた。
 - ウ) 薬は半分水没したが、山の手地区にある薬品会社に対して医院職員の通話が可能な携帯を使用し頼んで届けてもらった。
 - エ) 震災直後の数日間、交通が寸断され、孤立した大街道地区で自由に動いていたのは自衛隊のみの印象でした。
 - オ) 診療所は被害状況により対応可否が大きく分かれるので、対応できる医療機関の把握が最も重要だと思われる。

- カ) 内科罹患は山の手地区がたくさんありそうですが、中心部の孤立で外科系の手が足りなかったと思います。
 - キ) 今回の震災で医師会職員の方々に支援頂き、早期に診療再開ができましたが、市役所 - 医師会間の連絡手段がトランシーバーであったため、上手くコミュニケーションが取れず、直接行って話を聞かなくてはならない事が多かった。このため、衛星回線用の電話等、他連絡手段を考えて欲しいと思います。
 - ク) 連絡手段が断たれた場合、救護活動行えるドクターやスタッフの集合場所は、あらかじめ決まっていると動きやすいかと思います。
 - ケ) 近くの避難所には行くことができたが、地域の被害状況やアクセスの状況がわからなかったのも、石巻市と石巻医師会との連絡が上手く行き、石巻医師会に連絡すれば行動できるシステムが欲しい。
 - コ) 市役所が 2 日間ほど津波のために孤立状態になってしまったのは残念であった。医師会と市とが連絡が取れるようになったのは 3 月 13 日であった。無線の配置などを準備しておくべきであった。
 - サ) 今回はとにかく情報が入らなかった。適切な情報を流して欲しい。流す側の情報網の確保が大切
 - シ) 今回は日赤が極めて重要な役割を果たしてくれた。大災害でも拠点病院が健在であれば何とかできることがわかった。複数の拠点病院が被災しても持ちこたえられるよう強化しておくことが肝要と思われた。
 - ス) テレビで見ました。市の職員の石井先生（石巻赤十字病院）の食料等の供給依頼に対しての返答が、あまりに役所的、非協力的でした。何とか努力してみますぐらいのことを言って欲しかった。全国的に石巻市役所の無能ぶりを披露するような結果になった。恥ずかしい思いをした市民も多かったのでは無いか？
 - セ) 時々、青葉中学校に行って様子を見ていました。
 - ソ) 日赤（石巻赤十字病院）がコーディネートしてくれましたが、石巻市の医療施設がある駅前山の手地区は、日赤と遠く、独自に動く事が可能だと思う。特に医療施設は、歩いてでも応援できる医師からとあらかじめ考えておく方が良いのでは無いか？
 - タ) 市にお願いするだけでなく、まず各医療施設での自前の対策を行っておくべきだったと今回強く感じた。
- 2) 今後の石巻市における災害時の医療体制等のあり方について
 - ア) 石巻赤十字病院以外の災害拠点病院（市立病院等）の整備が望まれる。
 - イ) 今回を教訓として諸問題点を吸い上げ、今後に生かしてもらいたい。
 - ウ) 避難所に備えて欲しい物品を各診療科別にうかがってはどうか？
 - エ) ライフラインの一日も早い復旧が早期の再開につながる。
 - オ) 新しい市立病院と共に具体案を作成して欲しい。
 - カ) 通信手段の確保が必要
 - キ) 余りにも大規模であったので市職員、市立病院、市民、医師会本所等、殆どが被災した事が大きい。今後、市立病院等は被災されないような構造にして欲しい。
 - ク) 今回のような大規模災害の際には、自衛隊が再開可能な医療機関（基幹病院以外）に情報と物資を自動的・優先的に届けるシステムになっていれば、地元の医療資源がより有効に活用できた様に思います。
 - ケ) 石巻市立病院の立地が交通面から大変問題である。もっと道路の広い伸展性

のある場所に建設すべきと思う。

- コ) 石巻市医師会が中心となってやるべき。通信手段の確保が必要である。
- サ) 津波型でない被災時の対応についても考えるべきである。
- 3) その他、個人的な見解、要望等
 - ア) 今回、石巻赤十字病院の活動には全く頭が下がります。日赤に参集された各都道府県から支援にこられた医師・看護師他のスタッフのご活躍にも感謝しています。
 - イ) 自衛隊の方々のご活躍には頭が下がります。自衛隊は救援隊では無いのですが、何時も大災害が発生しますと「自衛隊」に派遣が要請され、大変だろうなと日頃考えております。
 - ウ) 石巻地域にとって経済の早期復活なくしては衰退します。石巻経済の中心は水産加工業です。湊に市で大型共用の冷蔵庫なり場所を作って早期復興しなければ塩竈、宮古等の地域へ大型工場が移転されてしまいます。水産加工業の復活無くして石巻の医療復興も望めません。現在医療費減免で通院している方も減免後は通院困難な方も出てきます。水産加工業の復活ないしはそれに変わる経済の柱を早急にお願いします。
 - エ) 現状の災害医療の体制及び連携がわからない、災害後に医療機関の状況報告をする場所がわからない、医薬品や食料等の支援物資を提供する場所がわからない、もっと市は親切に情報提供すべきである。
 - オ) ある避難所では市長さんが全く顔を出していないと被災者の方は不満気でした。血の通った情けのある行政を望みたいです。
 - カ) 大震災などの災害時、どこかの医療機関が大丈夫かを行政が把握し、公的機関、民間機関関係なく支援・応援をして欲しい。早めの市としての対応を！

地域住民（自主防災会）の活動

災害による被害を低減するには、行政機関による「公助」はもとより、住民一人ひとりの「自助」、すなわち「自身の安全は自身がまず確保する」という事が大切である。

また、住民が組織する自治会や自主防災会は、「共助」として平常時には地域の防犯・防災や良好な地域コミュニティ形成を、さらに災害時には住民の安否確認を始めとして、初期消火活動や救助・救護活動、避難行動、さらに災害時要援護者の支援と言った初期の対応を行う事で、災害による被害を最小限に留める重要な役割を担っている。

さらに、避難が長期化した場合には、避難所での給食・給水活動、避難所で集団が秩序ある生活を維持していく為の基本的な組織となる。

以上から、今回の東日本大震災でとった各自主防災会の活動実態や行動、さらに震災前と震災後での状況変化、市への要望等を把握する目的でアンケート調査を実施した。

なお、アンケートは、以下の項目について質問した。

- 1) 自主防災会長の年齢、居住地区、被災状況や地震発生直後にとった行動等
- 2) 津波警報等の災害情報の覚知状況
- 3) 避難行動の状況（避難有無、避難開始時間、避難誘導・支援の有無、避難手段等）
- 4) 避難所での生活状況、避難生活を行う上での課題
- 5) 自主防災会としての活動状況（東日本大震災での避難誘導や避難所生活、課題等）
- 6) 自主防災会の活動状況（東日本大震災前の活動状況とその効果）
- 7) 自主防災会の現状と課題、今後に向けた対応
- 8) 自主防災会の今後のあり方、市への要望等（自由回答）

なお、アンケートは、「共助」組織としての自主防災会の活動状況や課題を把握する為に、市域 16 地区の全自治会長に対し実施したが、特に東日本大震災での地震直後からの各地域の状況とそこの住民や自主防災会長が実際に考え、起こした行動実態を得るために、アンケートと合わせて傾聴ヒアリングを行なう事とした。

表 3-71 地域住民の傾聴ヒアリング・アンケート対象者

区分	アンケート	傾聴ヒアリング
自主防災会長	157 人 (202 人発送 回収率 77.7%)	21 人

3.6.3 アンケート

(1)方法

災害時の地域状況、避難行動、防災活動（自主防災活動）の状況及び今後の課題や地域の要望等を把握するため、自主防災会長を対象としてアンケートを行った。

アンケートは、自主防災会長の年齢、居住地区、地震時にとった行動や避難行動並びに地区の自主防災組織の活動状況、さらに市への要望等（自由回答）についての大きく 3 項について設問を設けた。また、アンケートの発送・回収方法については、質問票と返信用封筒を同封して郵送し、返送を頂く形で実施した。

巻末にアンケート用紙（質問）を添付した。

(2)期間

2012 年 2 月 2 日発送から 3 月 5 日到着分まで

(3)対象者

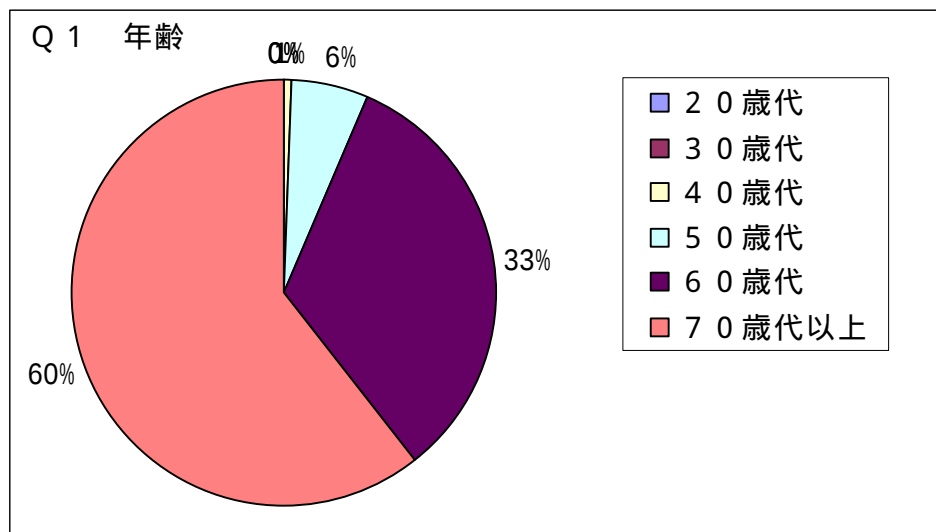
対象者は、各地域の自主防災会長とした。各地域の対象者数は次のとおりである。

表 3-72 自主防災会長のアンケート対象者

地区	発送数（人）	回収数（人）	回収率
石巻	2	2	100.0
門脇	8	7	87.5
釜・大街道	8	6	75.0
山の手	6	6	100.0
住吉	11	7	63.6
山下	12	10	83.3
湊	13	6	46.1
渡波	25	22	88.0
荻浜	4	3	75.0
蛇田	13	13	100.0
稲井	15	15	100.0
河北	9	5	55.5
雄勝	20	12	60.0
河南	26	23	88.4
桃生	20	13	65.0
北上	8	6	75.0
牡鹿	2	1	50.0
合計	202	157	77.7%

(4)アンケート結果

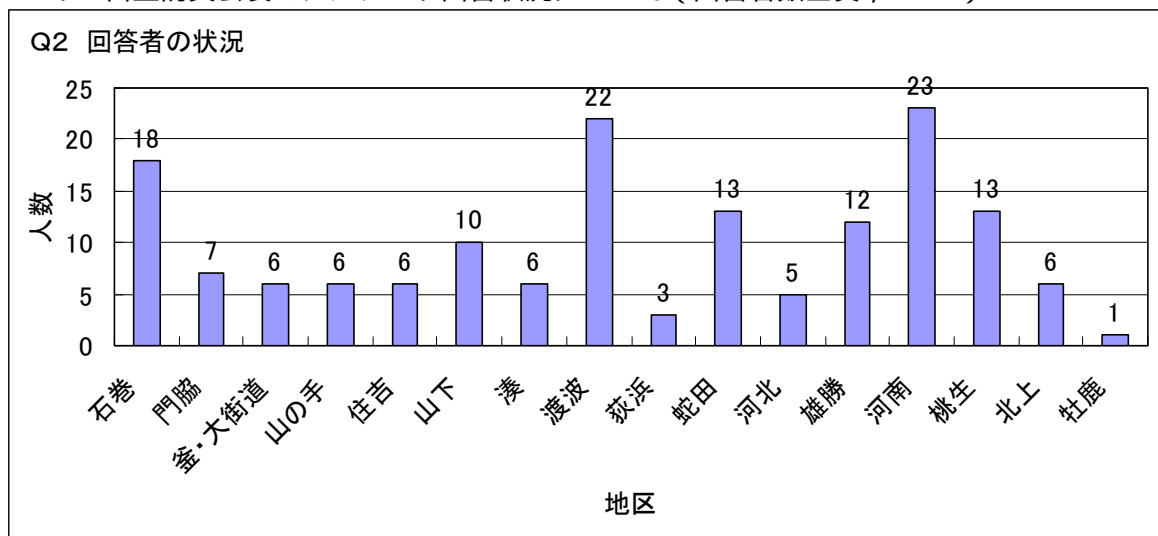
ア．自主防災会長の年齢について（回答者全員；N=157）



1) 60歳代～70歳代（以上の方もあり）の方が全回答者157人中の93%を占める。

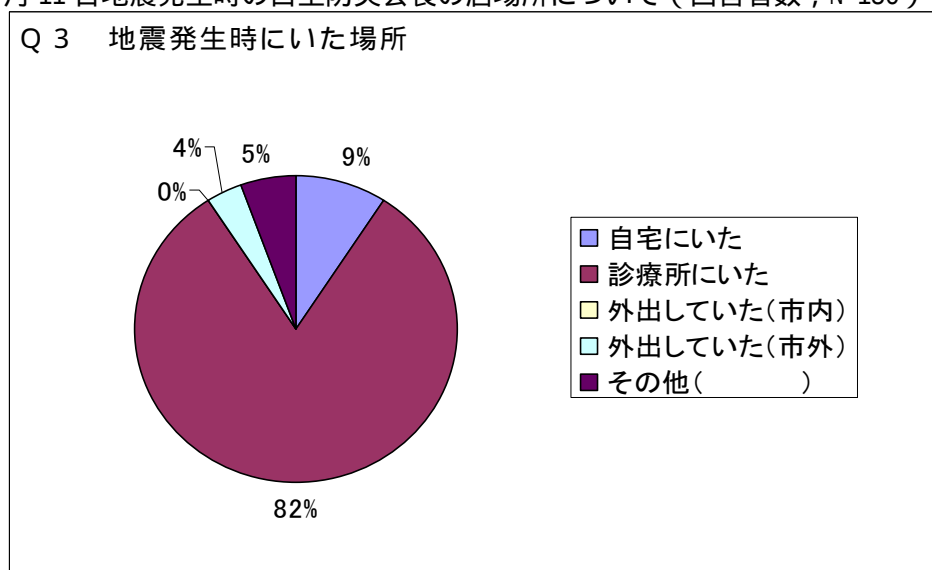
- 2) 特に 70 歳代以上は 60.5%(95 人)と全体の 6 割以上を占め、また 60 歳代は 33.1% (52 人) を占めている。
- 3) 20 歳代～30 歳代の若い世代は 0%であり、40 歳代は 0.6%(1 人) さらに 50 歳代は 5.7%(9 人)である。
- 4) 自由回答欄でも、日中の若手会員不在が自主防災会活動の迅速な立ち上げや避難広報(声かけ) さらに避難誘導や要援護者の保護等を妨げた課題として提起されている。(アンケート自由回答欄も参照)

イ．自主防災会長のアンケート回答状況について (回答者数全員；N=157)



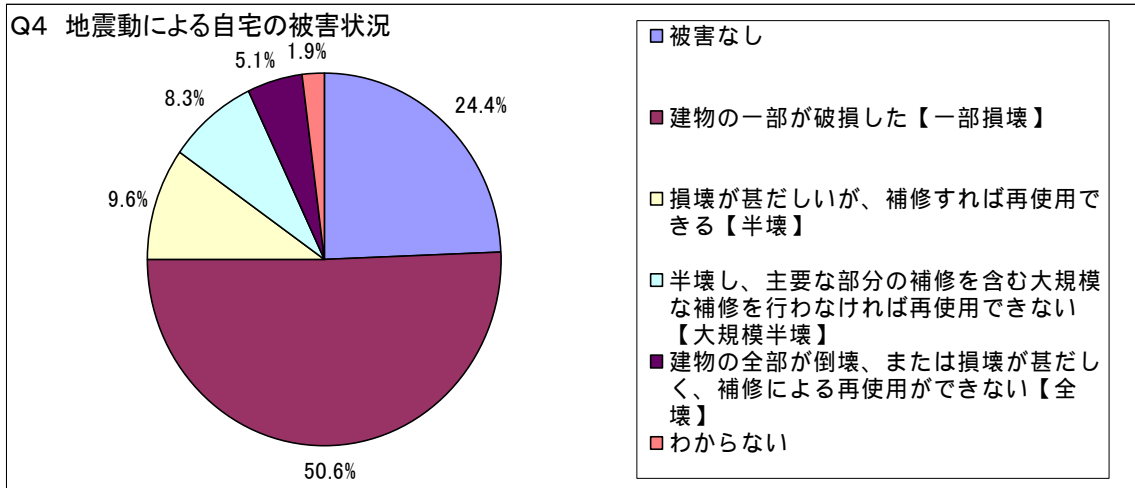
- 1) 回答は、全自治会数 202 に対して 157 であり、回答率は 77.7%である。
- 2) アンケート送付先不在【戻り】が 2 件、会長自身の被災(死亡)による回答回避が 1 件あった。
- 3) 河南地区が 23、渡波地区が 22、石巻地区が 18 と 3 地区からの回答が多い。これに続いて桃生、蛇田両地区(各 13)、雄勝地区(12)、山下地区(10)となる。

ウ．3 月 11 日地震発生時の自主防災会長の居場所について (回答者数；N=150)



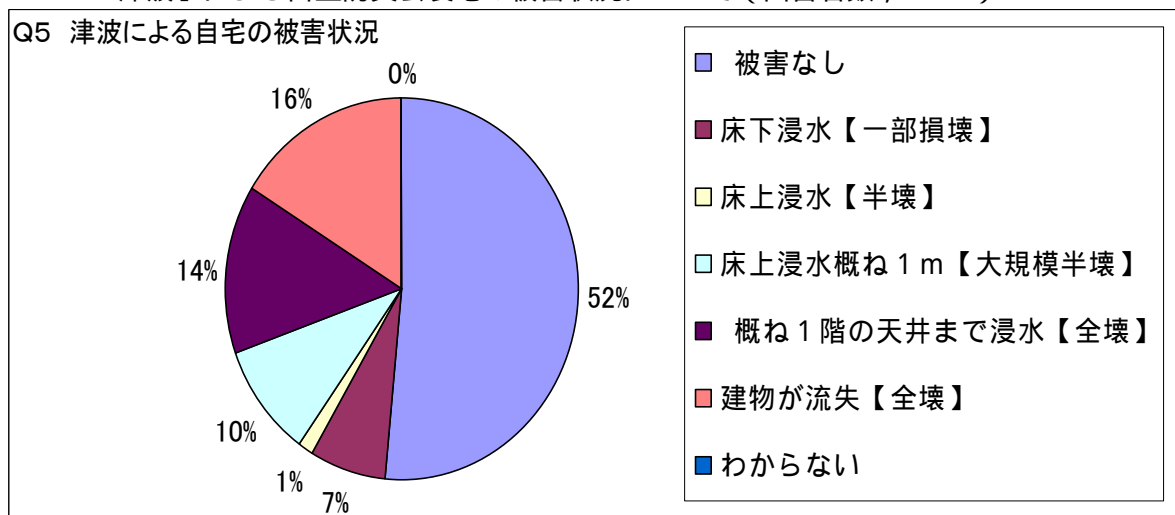
- 1) 自主防災会長は地震発生時には、全体の約 6 割強の方が「自宅」(51.3% ,77 人) または「自宅付近(徒歩 5 分以内)」(12% , 18 人)に居たと回答している。
- 2) 「自宅付近(徒歩 30 分以内)」は 6.7%(10 人)「市内へ外出していた」方は 24% (36 人)で全体の 30%を占めている。
- 3) 「市外へ外出していた」方は 6%(9 人)であり、自主防災会長の殆どは地区内、または近隣の場所に居た事になり、比較的短時間で自主防災会の初動活動(地区の見回り、避難誘導、要援護者の介護・支援等)に移行できたと推定される。

エ.「地震のゆれ」による自主防災会長宅の被害状況について(回答者数; N=156)



- 1) 「被害無し」は全体の 24.4% (38 人)である。
- 2) 「建物の一部が破損した【一部損壊】」方は、全体の約半数の 50.6% (79 人)に上っている。
- 3) 「損壊が甚だしいが、補修すれば再使用できる【半壊】」方は 9.5%(15 人)である。
- 4) 「半壊し、主要な部分の補修を含む大規模な補修を行わなければ再使用できない【大規模半壊】」並びに「建物の全部が倒壊、または損壊が甚だしく、補修による再使用ができない【全壊】」の方は全体の 13% (21 人)に達している。
- 5) 「わからない」と回答された方は、全体の 1.9% (3 人)であり、これは地震発生時に外出中であり、後確認となったためであるものと推定される。

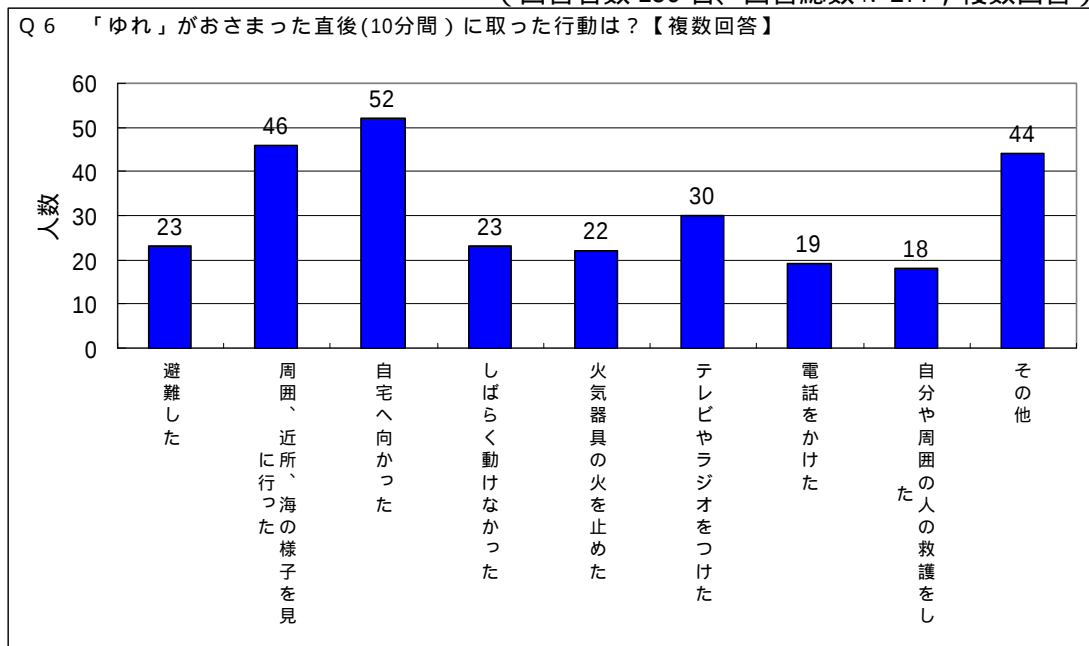
エ.「津波」による自主防災会長宅の被害状況について(回答者数; N=154)



- 1) 津波による何らかの家屋被害は、全体の 48% (75 名) に上っている。「被害無し」は 52% (79 名) である。
- 2) 「建物が流出【全壊】」は 16% (25 名)、「概ね 1 階の天井まで浸水した【全壊】」は 14% (22 名) であり、全壊の被害は全体の 30% を占める。
- 3) 「床下浸水【一部損壊】」は 7% (11 名) であり、「床上浸水【半壊】」は 1% (2 名)、「床上浸水概ね 1m【大規模半壊】」は、10% (15 名) である。
- 4) 「わからない」と回答した方は、0% である。

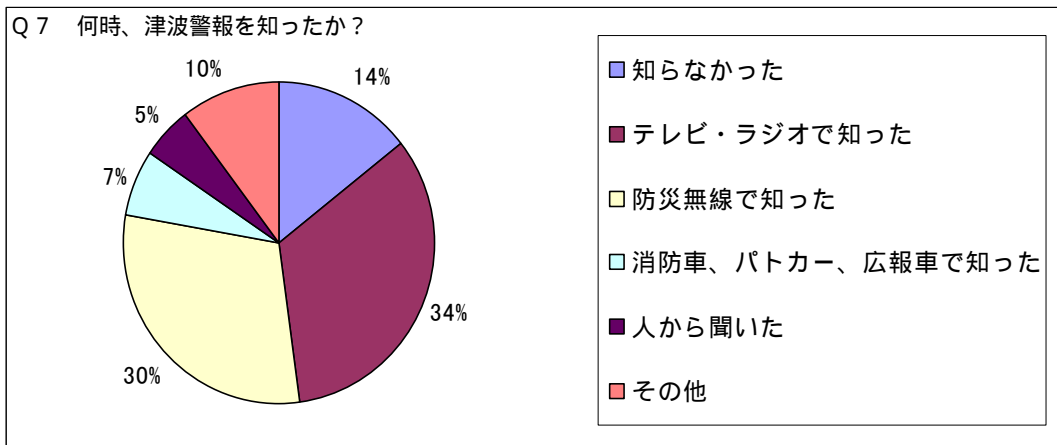
オ.「ゆれ」がおさまった直後 (10 分間) にとった行動について

(回答者数 156 名、回答総数 N=277 ; 複数回答)



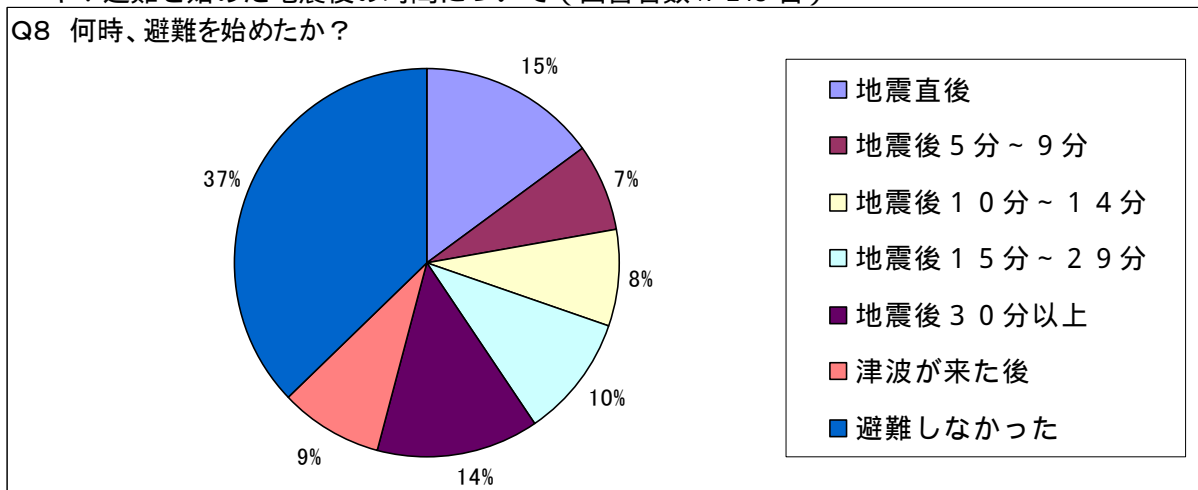
- 1) 「自宅に向かった」方が最も多く 52 回答 (総回答数の 18.8%) あり、これに続いて「周囲、近所、海の様子を見に行った」方が 46 回答 (総回答数の 14.4%) ある。
- 2) 「テレビやラジオをつけた」方が 30 回答 (総回答数の 10.8%) であり、「火気器具の火を止めた」方、「避難した」方、「しばらく動けなかった」方が、各 22~23 回答 (総回答数の約 8%) されている。
- 3) その他回答は、44 回答 (総回答数の 15.9%) と 3 番目に多く、「地区内の被害状況確認 (巡回) や安否確認をした」、「地区の高齢者等への声かけや支援をした」、「自宅に戻った」、「家族を送迎に言った」という行動が主に回答されている。

カ．「津波警報」をどの様に知ったかについて（回答者数 153 名、回答総数 N=167）
 単項回答の要請に対し、複数回答が発生しているため複数回答として考えている。



- 1) 「テレビ・ラジオで知った」方が回答総数の 34%（56 回答）、「市の防災無線で知った」方が同じく 30%（50 回答）であり、全体の 65%を占めている。
- 2) 上記 1)に続いて、「消防車、パトカー、広報車で知った」方が回答総数の 7%（11 回答）、「人から聞いた」方が 5%（9 回答）となる。
- 3) 他方、「知らなかった」と回答した方も回答総数の 14%（24 回答）いる。
- 4) 「その他」と回答した 10%（17 回答）のうち、「防災無線が良く聞こえなかった」と回答した方が 3 回答、または「地区の見回り中に、または消防無線から聞いた」と回答している方が 3 回答、さらに「津波到達で初めて状況を知った」と回答している方が 2 回答ある。

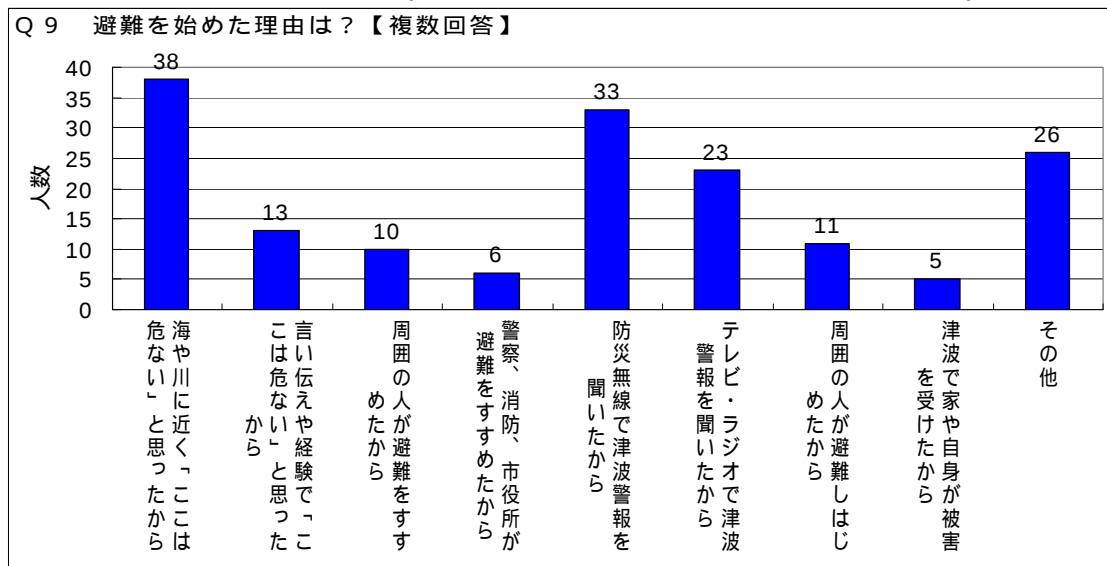
キ．避難を始めた地震後の時間について（回答者数 N=148 名）



- 1) 「地震直後」に避難したと回答した方は、148 名中の 15%（22 名）いるが、その一方で「避難しなかった」と回答している方は、その 2 倍以上の 37%（55%）にも達している。
- 2) 「地震後 30 分以上」経ってからと回答した方は、14%（20 名）さらに「津波が来た後」に避難したと回答された方は 9%（13 名）おり、両方で 23%を占める。
- 3) 「地震後 5 分～9 分内」で避難した方は 7%（11 名）「地震後 10 分～15 分内」で避難した方は 8%（12 名）さらに「地震後 15 分～29 分内」で避難したと回答し

た方は 10% (15 名) であり、「地震後 5 分～30 分内」に避難した方の合計は 18% (38 名) である。

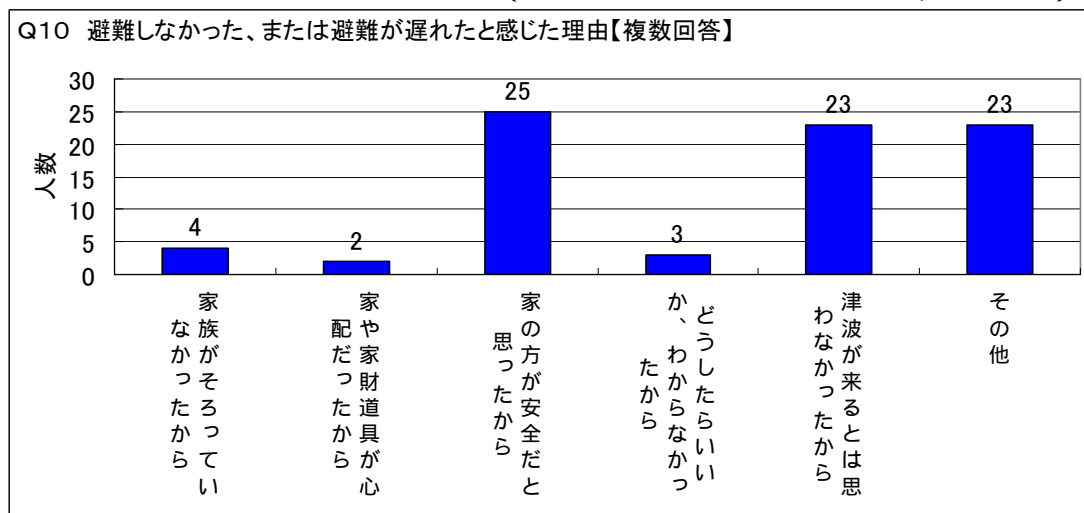
ク．避難を始めた理由について (回答者数 98 名、回答総数 N=165 ; 複数回答)



- 1) 「海や川に近く「ここは危ない」と思ったから」と回答した方が 38 回答 (回答総数の 23.0%) ある。
- 2) 「防災無線で津波警報を聞いたから」と回答された方は、33 回答 (回答総数の 20.0%)、「テレビ・ラジオで津波警報を聞いたから」と回答されている方は 23 回答 (回答総数の 13.9%) で、メディアや公共放送の情報により避難した方の合計は 56 回答 (33.9%) となる。
- 3) その他回答は 26 回答 (回答総数の 15.8%) と 4 番目に多いが、「過去の津波災害や自身の津波体験等から判断して」という方が 3 回答、「自治会での地震発生時の行動取り決めで」という方が 1 回答、さらに避難誘導中の津波に伴う異常現象 (引き潮、河川水面の異常な上昇、浸水の始まり等) によって避難したという回答が 5 回答ある。

ケ．避難しなかった、または避難が遅れた理由について

(回答者数 62 名、回答総数 N=80 ; 複数回答)



- 1) 「家の方が安全だと思ったから」と回答した方が 25 回答(回答総数の 31.3%) あり、これに続いて、「津波が来るとは思わなかったから」と回答した方が 23 回答(28.8%)ある。これらより、回答総数の約 5 割以上が大津波の襲来を 予見していなかった事がわかる。
- 2) その他回答は 23 回答(総回答数の 28.8%)と 2 番目同数で多い。内訳としては、「避難しなかった」、または「避難が遅れた」理由として「自宅や地震時の 居場所が内陸や高台部(山間地)にあるため避難の必要性を感じなかった」と した回答が 8 回答(総回答数の 10.0%)あるほか、「自宅に要援護者がおり避難 できなかった」との回答が 2 回答、または「地区の要援護者や家族避難を 優先させた」という回答が 4 回答(総回答数の 5.0%)、という主な理由が回答 されている。

コ．最初に避難した場所について（記入式；回答者数 95 名、N=95）

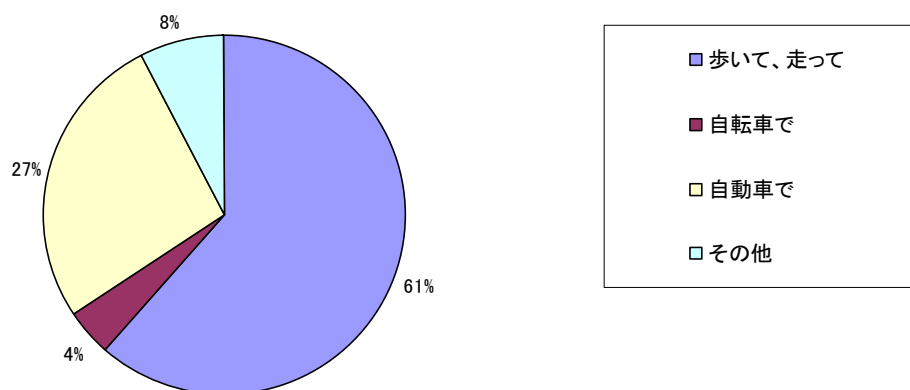
- 1)最初に避難した場所は、指定避難場所となっている「高校や小中学校へ避難し た」と回答された方が 23 回答（場所の重複有り）ある。すなわち、24.2%の方 が高校や小中学校と言った地域の教育施設に避難していた事がわかる。
- 2)「地区の公民館や集会所へ避難した」と回答した方は、10 回答(10.5%)ある。
- 3)「市総合支所や消防本部、または地域コミュニティーセンター等の公共施設 へ避難した」と回答した方は、同数の 10 回答ある。
- 4)その他、「民間施設、山や高台（ここにある神社仏閣含む）道路等に避難した」と 回答した方は、35 回答(36.9%)あり、「避難せず在宅避難（例えば自宅 2 階）」 としたと回答した方は、17 回答(17.9%)あった。

サ．最初の避難場所から次に避難した場所について（記入式；回答者数 89 名、N=89）

- 1)「高校や小中学校へ避難した」と回答した方は、38 回答（42.7%）ある。
- 2)「地区の公民館や集会所へ避難した」と回答した方は、7 回答(7.4%)ある。
- 3)「市総合支所や消防本部、または地域コミュニティーセンター等の公共施設 へ避難した」と回答した方は、18 回答(20.2%)ある。
- 4) その他、「民間施設、山や高台（ここにある神社仏閣含む）道路等に避難し た」と回答した方は 15 回答(16.9%)あり、「避難せず、または在宅避難（例え ば自宅 2 階）」とした方は 8 回答(9.0%)あった。

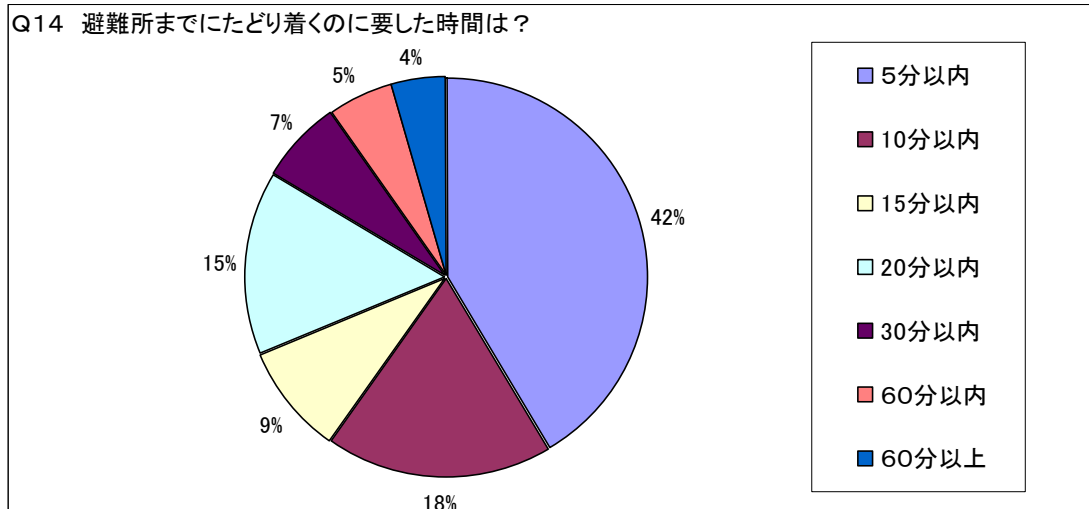
シ．避難所への移動手段について（回答者数 93 名、N=93）

Q13 避難所までどうやって移動したか？



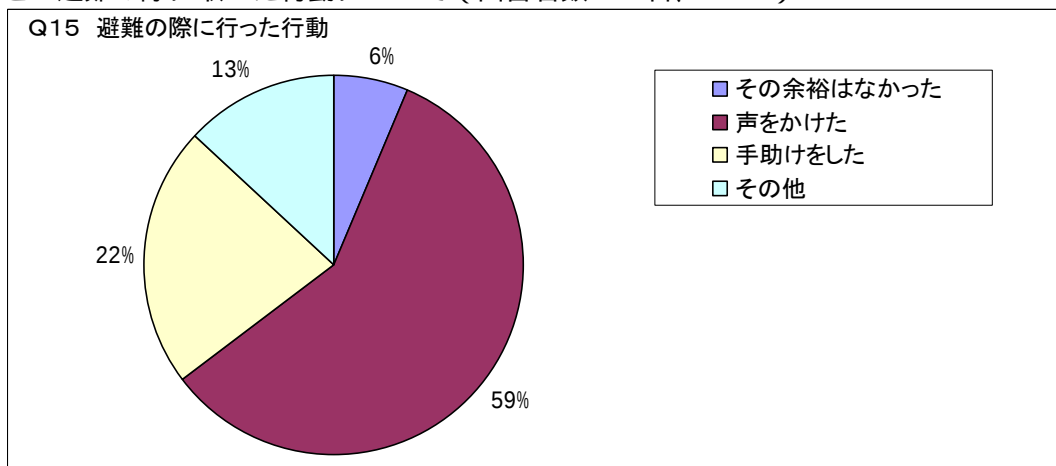
- 1) 回答者 93 人の方うち、61% (57 名) の方は、「歩いてまたは走って」避難したと回答している。
- 2) 「自転車で」避難したと回答した方は、4% (4 名) と少ない。
- 3) 「自動車で」避難したと回答している方は、「歩いてまたは走って」避難した方に続いて 27% (25 名) と多く、特記事項として「近隣者と同乗して、または家族 (孫) の送迎と併せて」との回答が複数ある。
- 4) その他回答として、「リヤカーにストープ、拡声器を積んでから」や「山林の中を住民と歩いてから」、「近所の歩道橋まで泳ぎ一時退避して」避難所へ再移動したという回答がある。

ス．避難所までたどり着くのに要した時間について (記入式；回答者数 92 名、N=92)



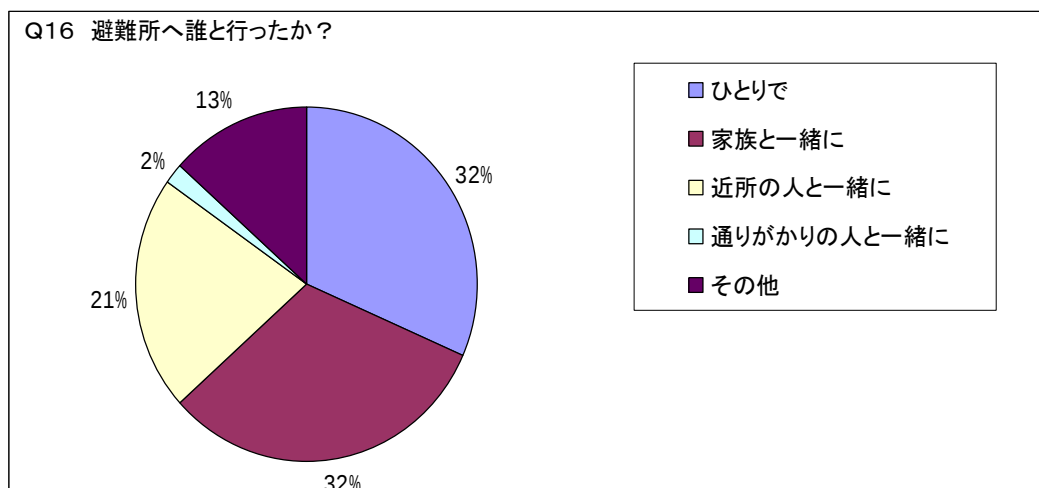
- 1) 回答者 92 名のうち、「5 分以内で」と回答した方は、42% (38 名) に上る。
- 2) 上記 1) に続いて、「10 分以内で」と回答した方は 18% (17 名) と多く、「15 分～20 分以内で」と回答した方が、15% (14 名) と続く。
- 3) 5 分以上～30 分以内の避難時間と回答した総数については、全体の約半分の 49% (45 名) となっている。
- 4) 記載された時間の最短時間は「約 1 分」であり、最長は「約 72 時間 (避難場所から動けなくなったケース)」である。

セ．避難の際に取った行動について (回答者数 108 名、N=108)



- 1) 避難の際に取った行動として、108 名中の 59% (63 名) の方が「近所への声かけ」を行ったと回答しており、22% (22 名) の方が「避難の手助けを行った」と回答している。
- 2) その他回答は 13% (14 名) あるが、その付記として「既に地区住民の避難が完了していた」、「集会所へ先着して避難の受入れ対応した」、「消防自動車避難者を送迎する様に指示した」並びに「地区外部からの避難者の手助けをした」等の回答がある。

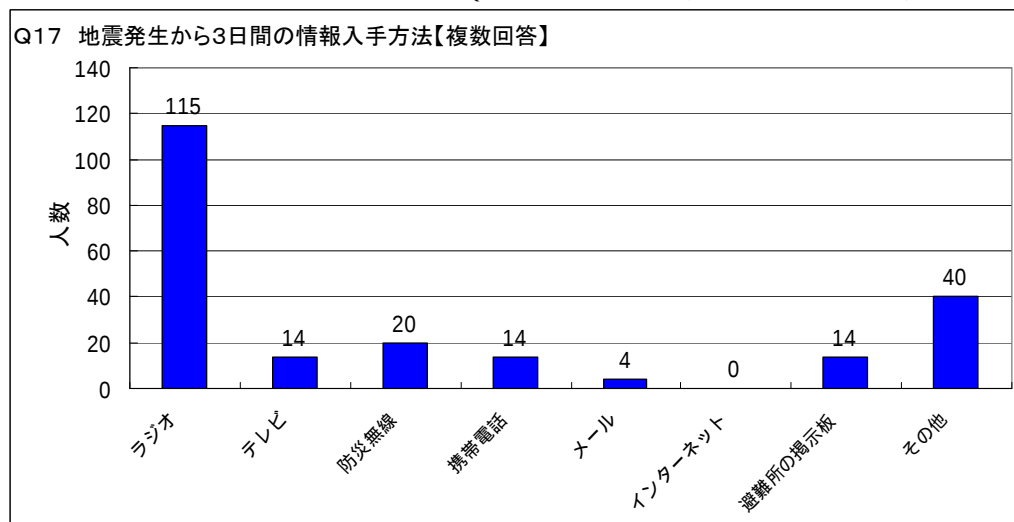
ソ．避難の際に誰と一緒に行動したかについて（回答者数 98 名、N=98）



- 1) 回答者 98 人のうち、「ひとりで」避難したと回答した方は 32% (31 名) いる。
- 2) 上記 1) と同数で、「家族と一緒に」避難したとの回答がある。
- 3) 21% (21 名) が「近所の人と一緒に」との回答があり、2% (2 名) の方が「通りがかりの人と一緒に」避難したと回答している。
- 4) その他回答は 13% (13 名) であり、「自主防災会の役員と一緒に」または「津波による地区の浸水状況を共に監視していた副会長と一緒に」という回答や、「逃げ遅れた者の再確認や地区内の被害状況を監視してから」、または「地区の被害状況を確認した後に」一人で避難したとの付記が 6 つある。

タ．地震発生から 3 日間の情報入手方法について

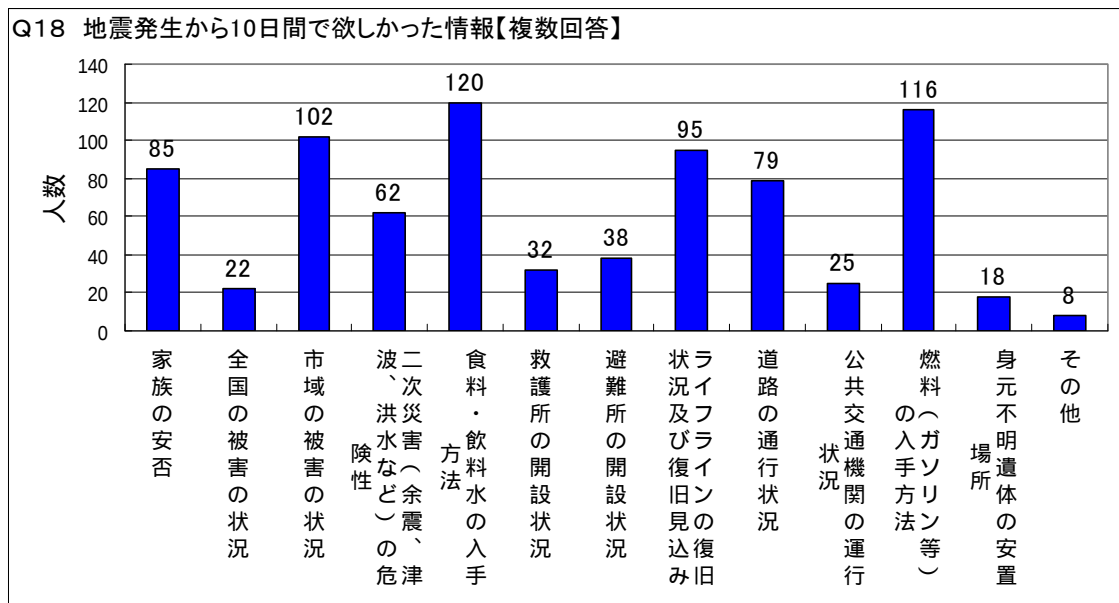
(回答者数 151 名、総回答数 N=221、複数回答)



- 1) 「ラジオ」から情報入手したとの回答は 115 回答（総回答数の 52.0%）あり、これに続き「防災無線」から入手したとの回答が 20 回答（総回答数の 9.0%）ある。
- 2) 「テレビ」からと回答した方の付記として、停電のために車のカーナビ付き TV からと回答している方が多い。
- 3) 「携帯電話」からの情報入手はテレビからと同数の 14 回答（総回答数の 6.3%）、
「メール」から情報を入手した方は 4 回答（総回答数の 1.8%）で、携帯端末による情報の入手は計 18 回答（総回答数の 8.1%）ある。
- 4) その他回答には、「警察・消防の広報から」、「人の行動（若い人が山越えして人力で情報収集した）による直接取得で」、さらに「避難所の炊き出し招集時や近所の人からの人づてで」等で情報を入手したとの回答がある。
- 5) なお、その他回答は 2 番目に多く、その 40 回答（総回答数の 18.1%）の中には、「殆ど、あるいは全く情報入手ができなかった」との回答が 7 回答（総回答数の 3.2%）ある。

チ．地震発生から 10 日間で欲しかった情報内容について

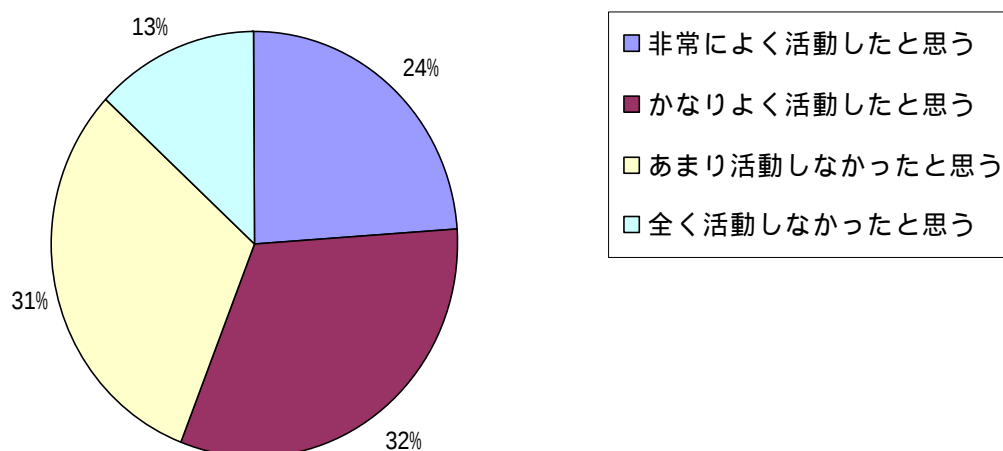
（回答者数 154 名、総回答数 N=802、複数回答）



- 1) 「食料や飲料水の入手方法」とする回答が 120 回答（総回答数の 15.0%）、これに続いて「燃料（ガソリン等）の入手方法」が 116 回答（14.5%）あり、避難時の生活に欠かせない食料や飲料水、さらに生活必需品等の物資関連の情報を強く欲していた事がうかがえる。
- 2) 上記に続き、102 回答（総回答数の 12.7%）が「市域の被害状況」の情報を欲しており、これに続き 95 回答（総回答数の 11.8%）が「ライフラインの復旧状況及び復旧見込み」、さらに 85 回答（総回答数の 10.6%）が「家族の安否」の情報となっている。道路の通行状況も 79 回答（総回答数の 9.9%）あり、孤立地区が発生していた事をうかがわせている。これらから、停電等による長期に亘る通信環境の断絶、津波浸水等に伴う人の移動（行動）制約により、市民には十分な情報が殆ど無かったことをうかがわせている。
- 3) その他回答として、「病人の搬送先」、「親戚・知人の安否」、「行方不明者」の情報が欲しかったとの回答がある。

ツ．今回の災害時における地域の自主防災活動の状況について（回答者全員、N=157）

Q19 地域の自主防災会の活動状況

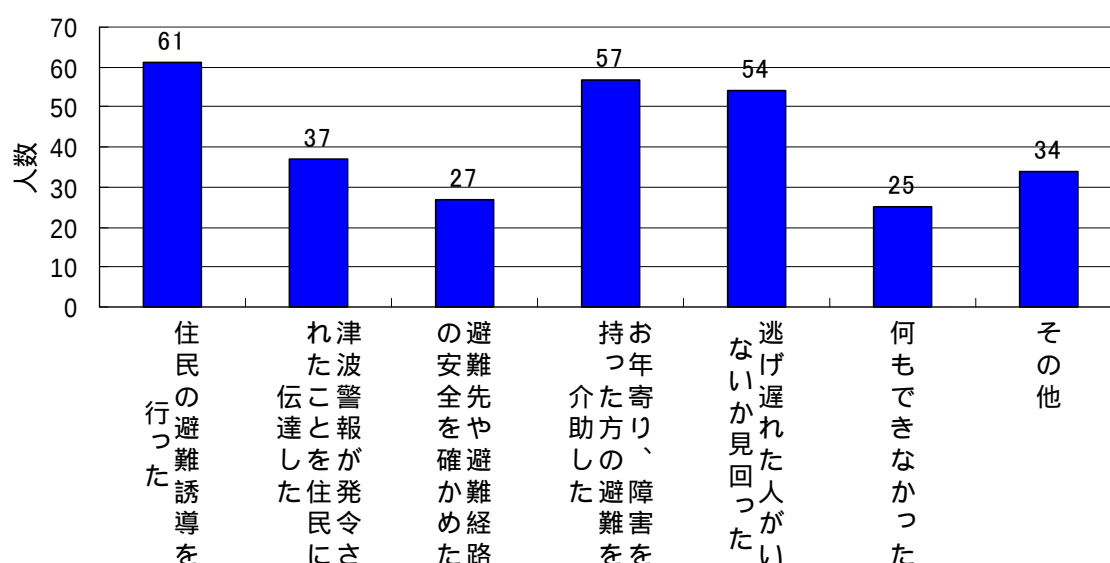


- 1) 全体の約 6 割弱（56%）の方が、「非常によく活動した」（24%） または「かなりよく活動した」（32%）と回答している。
- 2) 「あまり活動しなかった」との回答は 31%（48 名）「全く活動しなかった」とした回答は 13%（20 名）で合計 44%になる。
- 3) 自由回答他から、上記 2)の「あまり活動しなかった」及び「全く活動しなかった」が半分弱を占めている背景には、今までの防災訓練で想定していた災害規模とはかけ離れた突然の津波災害であったため、為す術が無かったこと、または地域の壊滅的被害で事実上、自主防災会の活動が出来なかったという趣旨も含まれているものと推察される。

テ．自主防災会の警戒避難行動の状況について

（回答者数 146 名、総回答数 N=295、複数回答）

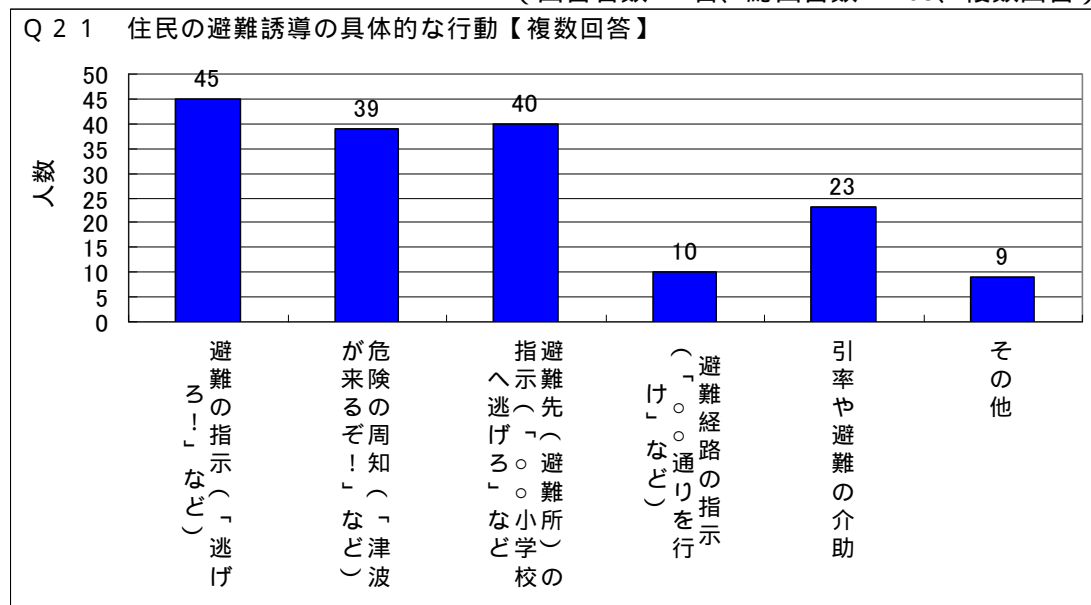
Q20 自主防災会の避難に関する活動内容【複数回答】



- 1) 「住民の避難誘導を行った」方が 61 回答（総回答数の 20.7%）、「お年寄り、障害を持った方の避難を介助した（要援護者の避難支援）」方は 57 回答（総回答数の 19.3%）あり、これらを合わせると 40%弱が自主防災会としての地区住民の避難誘導や災害時要援護者の避難支援を行ったと回答されている事がわかる。
- 2) 上記 1) に続き、「地区内で逃げ遅れた人がいないか見回った（巡回）」と回答した方が 54 回答（総回答数の 18.3%）あり、自主防災会活動として、地区内での警戒避難行動が取られている。
- 3) 「津波警報が発令された事を住民に伝達した」方が 37 回答（総回答数の 12.5%）、「避難先や避難経路の安全を確かめた」方が 27 回答（総回答数の 12.5%）ある。
- 4) その他回答では、「在宅避難者の確認」、「避難所での給水・食料運搬」、「炊き出し活動」などが上げられる一方で、「地域の被害自体が少なく、避難所での自主防災活動自体が低調だった」との回答もある。

ト．住民の避難誘導の具体的な行動について

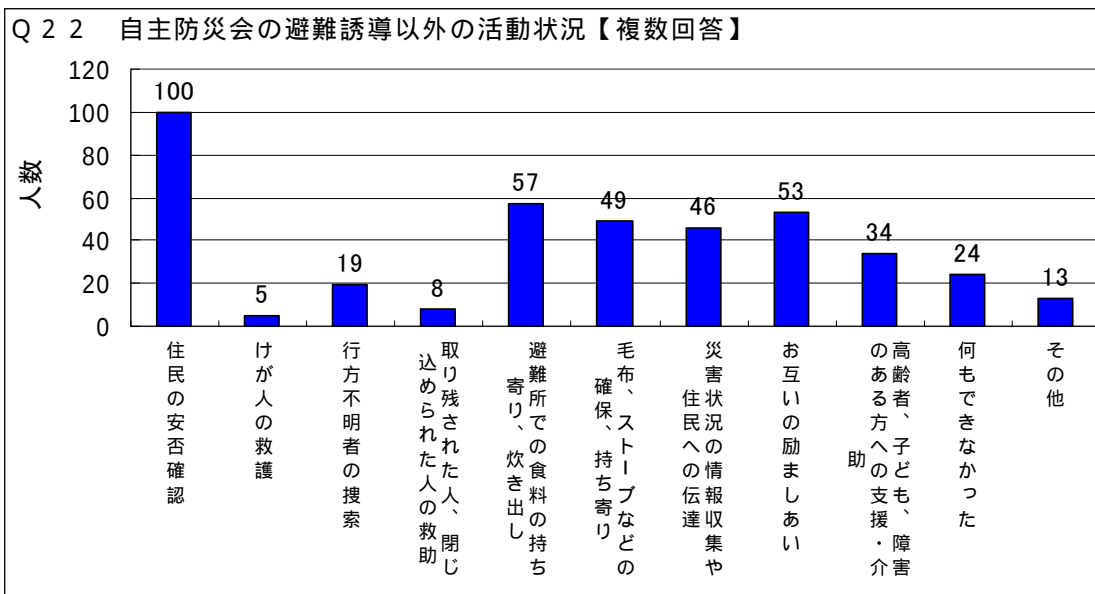
（回答者数 74 名、総回答数 N=295、複数回答）



- 1) 「避難の指示」を行ったが 45 回答（総回答数の 15.3%）、「避難先の指示など避難誘導」を行ったが 40 回答（総回答数の 13.6%）ある。これらに続いて、概ね同数の回答で「危険の周知」を行ったとの回答が 39 回答なされており、総回答数の 5 割弱が住民の避難誘導や危険周知を行っていた事がわかる。
- 2) 「引率や避難の介助」を行ったとの回答は 23 回答（総回答数の 7.8%）である。
- 3) その他回答として、「各戸（町内）巡回」や「自主避難を督促したとの回答」、何度も要介護者を引き連れて地区と高台を往復したとの回答がある。なお、避難経路の指示は 10 回答（総回答数の 3.4%）に留まっており、突然押し寄せた津波に対する避難行動が切迫していた状況にあった事をうかがわせる。

ハ．自主防災会の避難誘導以外の当日の行動について

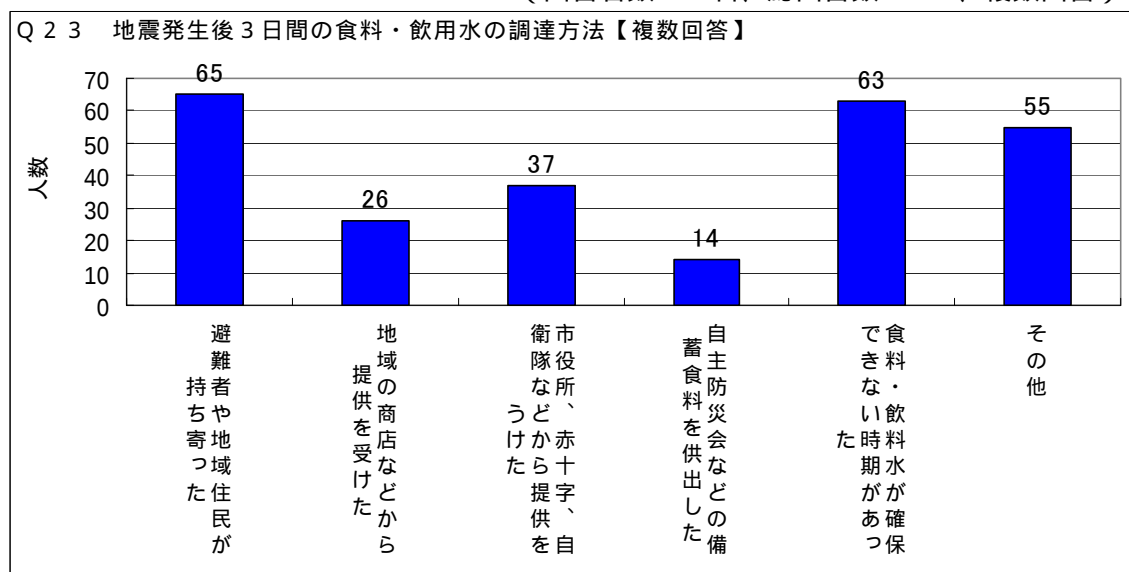
(回答者数 147 名、総回答数 N=408、複数回答)



- 1) 「住民の安否確認を行った」方は、100 回答(総回答数の 24.5%)と最も多い。
- 2) 上記 1)に続いて「食料や生活必需品の持ち寄り・炊き出し」を行った方が 57 回答(総回答数の 14.0%)、「お互いの励ましあい」、「災害状況の情報収集や住民への伝達」、「毛布、ストーブなどの確保・持ち寄り」が各 50 回答前後(総回答数の約 12.3%)である。
- 3) その他回答として、「他地区にいた地区住民の安否確認」、「近隣井戸からの生活雑用水の確保」を行ったとの回答がある他、自宅が津波浸水で孤立または甚大に被災してしまい、全く活動できなかったとの回答もある。

ヒ．地震発生から 3 日間の食料・飲用水の調達方法について

(回答者数 144 名、総回答数 N=260、複数回答)



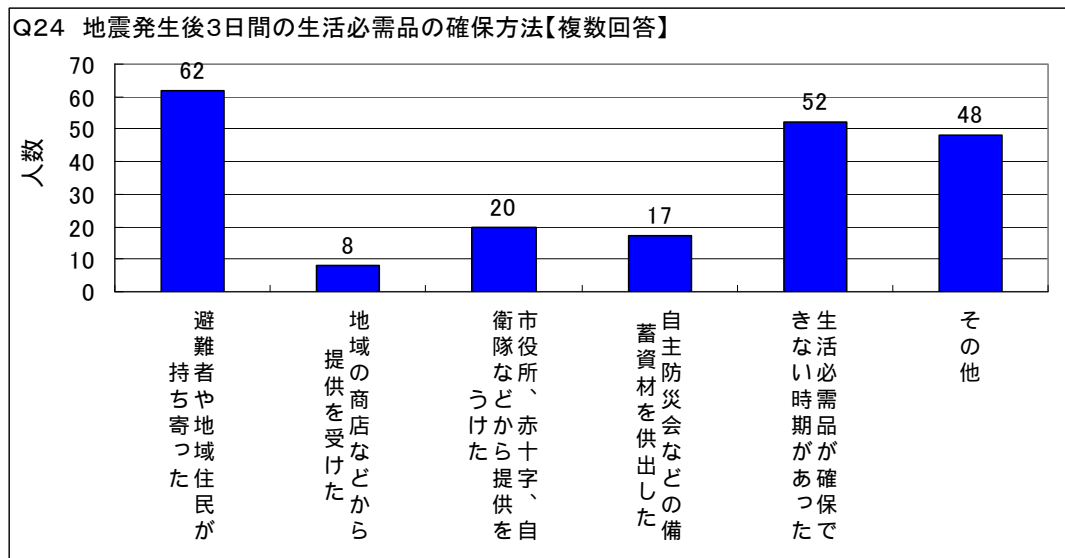
- 1) 「避難者や地域住民が持ち寄った」とする方が 65 回答(総回答数の 25.0%)あるが、

他方で「食料・飲料水が確保できない時期があった」とする方もほぼ同数の 63 回答(総回答数の 24.2%)あり、発災直後は地域に十分な食料・飲料水が少なく、住民の生命維持に苦心していた事をうかがわせている。

- 2) 上記 1)については、公的機関からの支援は発災後 3～4 日以降であったという回答が「その他」の項目にて多数寄せられている。
- 3) 「市役所、赤十字、自衛隊等から提供を受けた」とする方はやや少なく 37 回答(総回答数の 14.2%)、「地域の商店からの提供を受けた」とする方も 26 回答(10.0%)と総回答数の一割前後と少ない。
- 4) 「自主防災会などの備蓄食料を供出した」との方も、14 回答と少ないが、これについては、「その他」項目で「68 世帯のうち、8 世帯のみ家が残った。他は流出。自主防災会の備蓄物も流出」と回答されており、津波浸水で地区の備蓄物資を殆ど失ない対応できなかったケースも含まれているものと推定される。

フ．地震発生から 3 日間の生活必需品の調達方法について

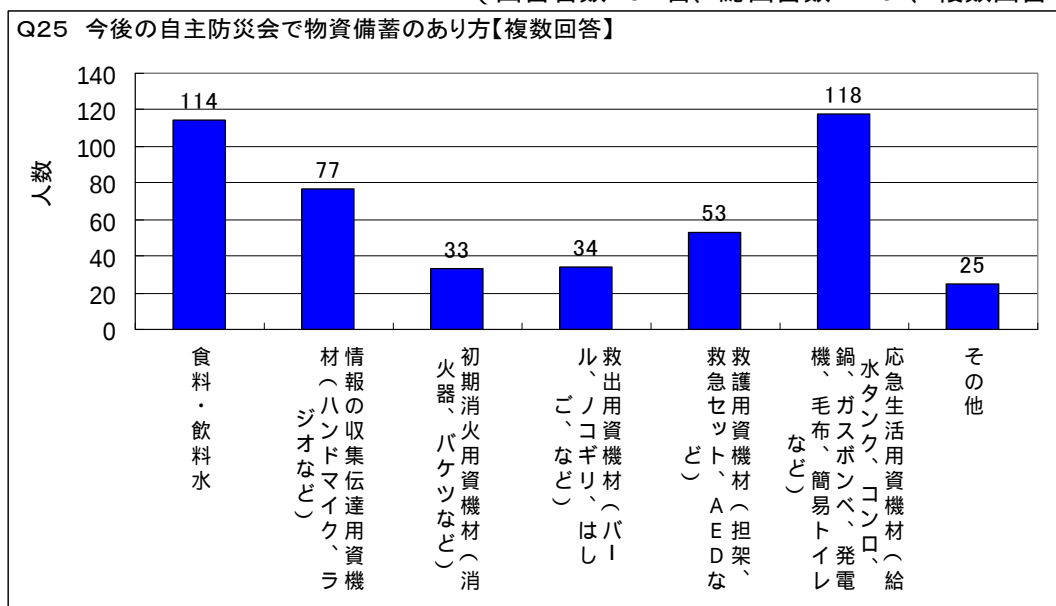
(回答者数 136 名、総回答数 N=207、複数回答)



- 1) 「避難者や地域住民が持ち寄った」が 62 回答(総回答数の 30.0%)あるが、食料品・飲用水の調達方法と同様に、「生活必需品が確保できなかった時期があった」とする回答も同レベルの 52 回答(総回答数の 25.1%)あり、解答用紙にも両項に○がなされているケースが多い。これは、住民持ち寄り対応でも支給限界があり、公的支援が遅れた事をうかがわせている。なお、その他回答にも、公的な支援は発災後 2～4 日以降から始まったという回答が多く寄せられている。
- 2) 「市役所、赤十字、自衛隊等から提供を受けた」は 20 回答(総回答数の 9.7%)、「自主防災会などの備蓄資材を提供した」は、ほぼ同数の 17 回答である。
- 3) その他回答として、「学校のカーテンを利活用した」、「地域外の親戚や知人から提供を受けた」、「流出家屋 2 階の未被災部分から調達した」という回答がある。
- 4) 燃料の調達については、その他回答として「一部分け合いで対応した」、「流出放置車両から抜き取って対応した」との回答がある。

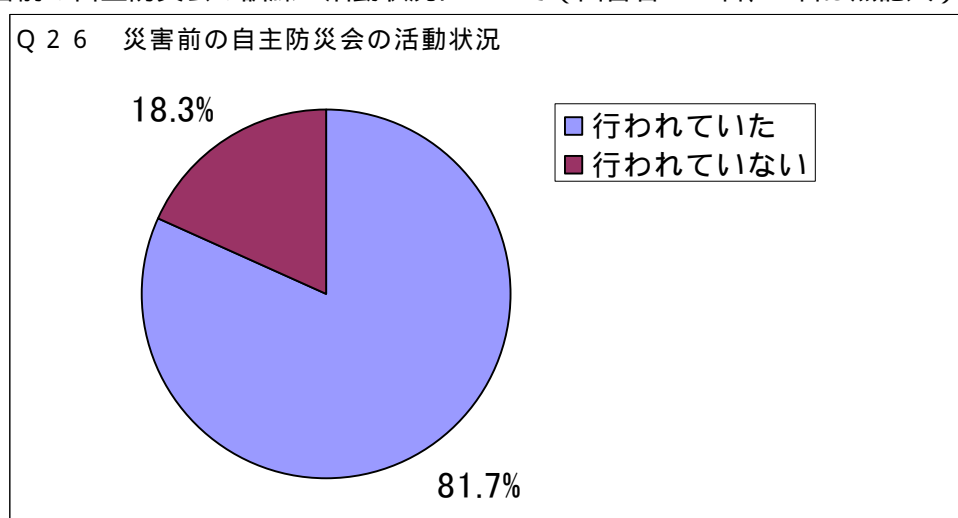
へ．今後の自主防災会での物資備蓄のあり方について

(回答者数 151 名、総回答数 N=454、複数回答)



- 1) 「応急生活用の資機材 (給水タンク、コンロ、鍋、ガスボンベ、発電機、毛布、簡易トイレなど)」の備蓄が必要との回答が 118 回答(総回答数の 26.0%)、また、ほぼ同数の 114 回答が「食料・飲料水の確保」が必要とされている。
- 2) 上記 1)に続いて、「情報の収集・伝達用の通信用資機材 (ハンドマイク・ラジオなど)」の備蓄が必要との回答が 77 回答 (総回答数の 17.0%)、救護用の資機材 (担架、救急セット、AED など) の備蓄が必要との回答が 53 回答(11.7%)ある。
- 3) その他回答として、「物資運搬調達用の 1 トン程度のトラックやリヤカー」、「充電用の乾電池」、「ブルーシート」などが必要という回答がある。
- 4) なお、自由回答には、津波浸水による水死 (溺死) が多かった反省から、救命具 (ライフジャケット) が必要であるの回答がある。

ホ．災害前の自主防災会の訓練・活動状況について (回答者 153 名、4 名は無記入)

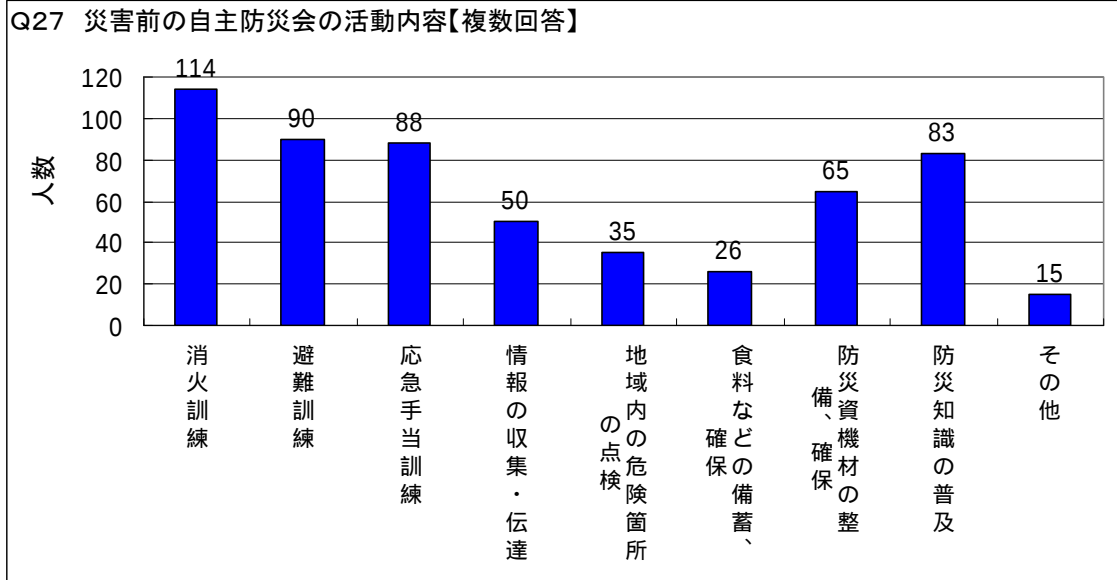


- 1) 回答数 153 名のうち、「行われていた」との回答は、約 81.7%の 125 名に上る。

- 2) 「行われていない」との回答は 18.3%(28 名)である。
- 3) 「行われていない」と回答した方には、特記として「自主防災組織を立ち上げたばかりである」との回答がある。

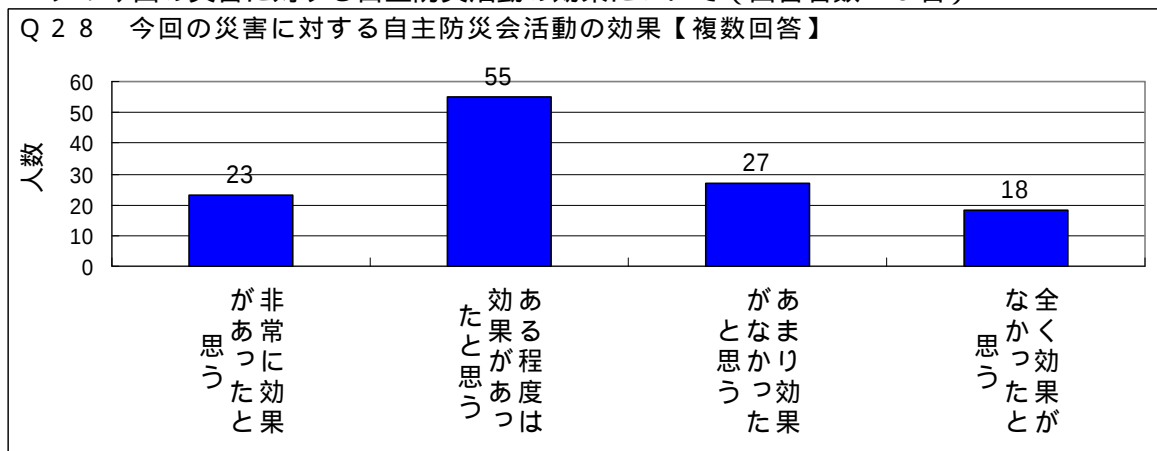
タ．災害前の自主防災会の訓練・活動内容について

(回答者数 127 名、総回答数 N=566、複数回答)



- 1) 「消火訓練」との回答が最も多く 114 回答(総回答数の 20.1%)、続いて「避難訓練」が 90 回答(総回答数の 15.9%)、「応急手当訓練」が 88 回答(総回答数の 15.5%)の順で必要で行われており、従前の自主防災活動が風水害対策や地震による火災対策を視野に入れていた事をうかがわせている。
- 2) 「防災知識の普及」との回答は 83 回答(総回答数の 14.7%)、「防災資機材の整備、確保」との回答は 65 回答(総回答数の 11.5%)である。
- 3) その他として、「炊き出し訓練」や「近隣者相互の安否確認」、「井戸の浄化」等と回答されている。

チ．今回の災害に対する自主防災活動の効果について (回答者数 123 名)

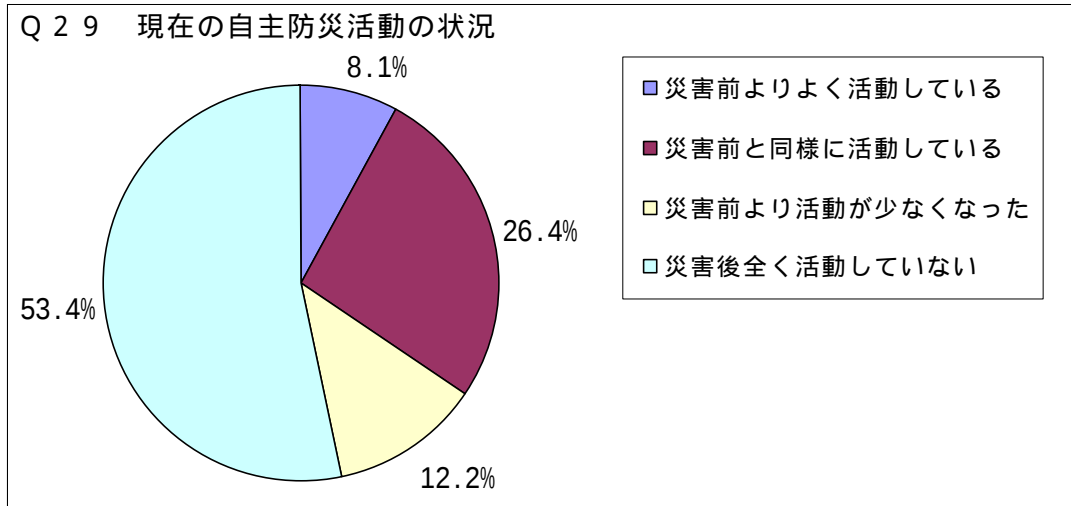


- 1) 「非常に効果があった (23 名)」または「ある程度は効果があった (55 名)」と

の総回答数は 78 名であり、総数 123 名のうち、63.4%にあたっている。

- 2) 「あまり効果がなかった」または「全く効果がなかった」との回答は、残り約 36.7% (45 名) になる。
- 3) 付記として、「想定を超えた大津波で地域全体が短時間に被災し、防災組織の活動立ち上げが全く不可能であった」、「通信の途絶等で通常の訓練通りの対応が出来なかった」との回答がある。

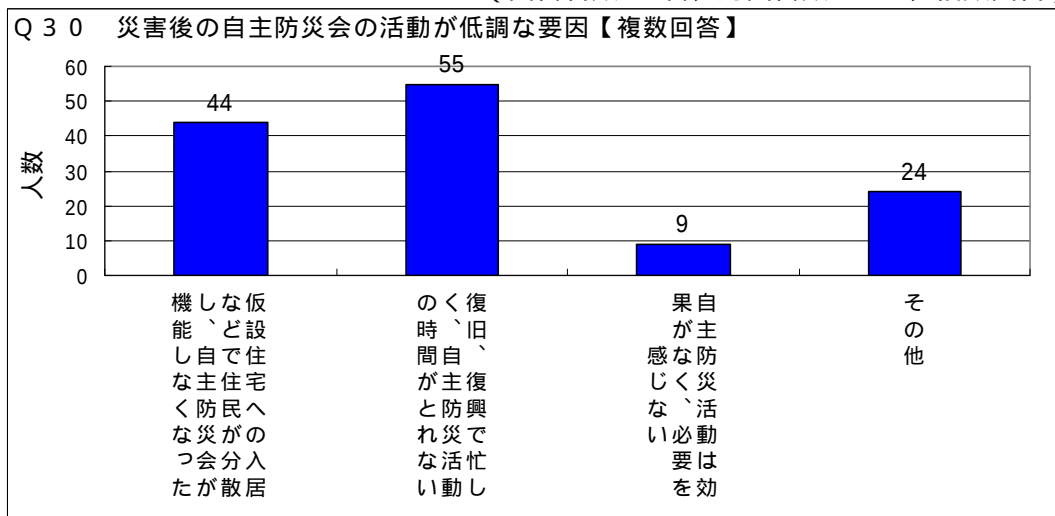
ツ．現在の自主防災活動の状況について（回答者数 147 名）



- 1) 「災害前よりよく活動している (8.1%、12 名)」、または「災害前と同様に活動している (26.4%、39 名)」と回答した方は、全体の 30%強にあたる 34.5% (51 名) である。
- 2) 「災害前より活動が少なくなった」は 12.2%(18 名)、または「災害後全く活動していない」との回答は 53.4%の 79 名に達している。
- 3) 活動していない理由として、「大規模災害に全く抗しきれなかったという無力感がある」という事が回答に付記されていた。

テ．災害後の自主防災会が低調な理由について

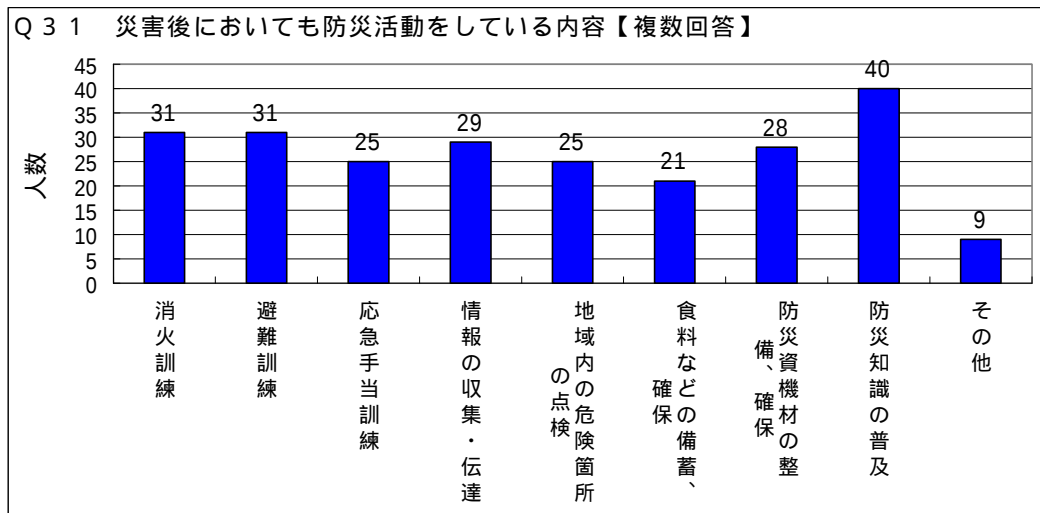
(回答者数 99 名、総回答数 N=132、複数回答)



- 1) 総回答数 132 回答のうち、55 回答(41.7%)が、「復旧・復興活動に忙しく活動の時間がとれない」からと回答している。
- 2) 上記 1)に続いて、44 回答(総回答数の 33.3%)が「住民が分散し、自主防災会が機能しなくなった」からと回答している。
- 3) 9 回答(総回答数の 6.8%)は、「活動効果が無く、必要を感じない」からと回答している。
- 4) その他回答として、活動が低調な理由として、「防災会幹部や役員、住民の気持ちはまだ十分でない(意識が薄い)」、「コミュニティー壊滅(地域が離散してしまった)で解散した」、または「会員の高齢化により会自体の運用に難がある」との回答等がある。

ト．災害後においても自主防災活動をしている内容について

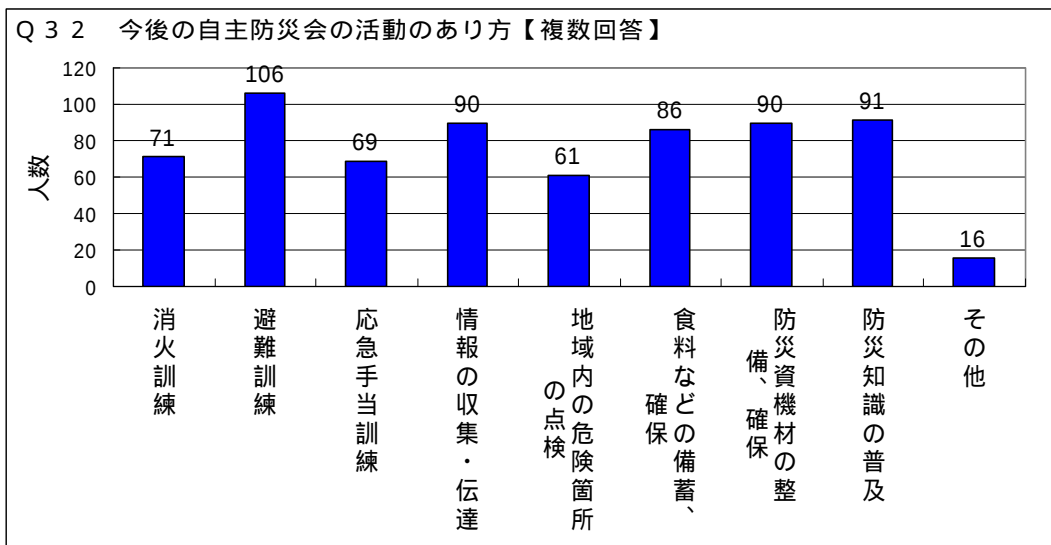
(回答者数 59 名、総回答数 N=239、複数回答)



- 1) 総回答数 239 のうち、25～30 前後の回答数(総回答数の 11.5%程度)で、概ね全ての活動について均等に活動(対応)を行おうとしている様子がうかがえる。
- 2) その中でも、今回の大震災を経験として「防災知識の普及・向上」に 40 回答(総回答数の 16.8%)が寄せられており、今回の東日本大震災を教訓として防災知識の一層の普及に活動力点を置こうとしている事がうかがえる。
- 3) その他回答として、「安否確認の訓練(安否確認票を用いた訓練)」、「声かけや励まし合いの励行」、「発災時における任務分担に関する再整理」、さらに「飲料水の井戸の再整備」や「防災マップ作成」などが活動内容として上げられている。

ナ．今後の自主防災活動のあり方について

(回答者数 143 名、総回答数 N=680、複数回答)



- 1) 総回答数 680 のうちで、「避難訓練」が 106 回答(総回答数の 15.6%)と最も多く、これ続き、「防災知識の普及」が 91 回答(総回答数の 13.4%)、ほぼ同数で「防災資機材の整備、確保」が 90 回答、さらに「食料等の備蓄、確保」が 86 回答(総回答数の 12.6%)と続いている。
- 2) 「消火訓練」は 71 回答(総回答数の 10.4%)、「応急手当訓練」は 69 回答、「地域内の危険箇所の点検」が 61 回答となっている。
- 3) その他回答では、「近隣互助意識の向上」、「発電機の備蓄」、「安全な避難場所の再検討」、さらに「全町レベルでの合同訓練の検討」等が必要と考えられるとの回答が寄せられている。

ハ．今後の自主防災会のあり方についての意見（自由回答；回答数 N=58）

以下に自由回答を「避難行動に関するもの」、「避難所運営や避難生活に関するもの」、さらに「自主防災組織の今後の運営面での課題や資機材の整備に関する意見、その他のもの」に大別した上で、その中でも注目すべき事項について抽出して示す。

なお、意見の記載については、原文の形で抽出する事を基本としたが、よりその主旨がわかるように、() として補足追記をした。

1) 避難行動に関するもの

- ・交通渋滞などで車内での死者が多かったと思います。浜通りから速やかに山側への避難道整備が必要と考える。
- ・地区内に津波は来ないと誰もが思っていた。火災、地震、津波の(災害形態に応じた) 訓練が今後必要と思った。
- ・震災後、学校から地域の方々と一緒に訓練をしたいと要請があったので検討したい。
- ・各種訓練、点検などを実施したが役に立たなかったのが、県や市の指導を頂きながら見直したい(防災訓練実施計画の見直し)。
- ・情報の収集、伝達を地域内早めに(お願いしたい)。
- ・まず、近所の人達に互いに声を掛け合い、子供・年寄りの方々の安否確認をする。
- ・今まで津波は来ないと思っている人が多く、私たちの区は海より離れているため、

ここまで津波は来ないと避難しない人が多かった。

- ・ 今回の大震災（は） 予想を遙かに超える信じられない津波の襲来（であり） 今まで実施していた防災組織及び認識を、根幹から考え直す必要があると反省している。
- ・ まず安全なところに逃げる（隣近所の広場なりに一時的に避難する）
- ・ 避難勧告が出たときには必要最小限の物資を持って避難所に行く（ことを徹底する）
- ・ 日頃の心構えとして、準備として水、食料、ラジオ、懐中電灯、乾電池などを最低 3～7 日間位の必要物資を用意する（事が大切）
- ・ 家族間での連絡方法を定めておくこと（が必要）
- ・ 日和三丁目町内会は地の利が良いため、現在地からの避難は考えていない。海拔 50m の日和山が津波に飲まれる時には石巻は全滅であり、みんなで手をつないで（津波に）のまれましよう指導している。
- ・ 今までは、消火訓練と応急手当訓練だけだったので、今後は地震と津波訓練でどこに避難するか、しっかりと訓練することが必要と思います。
- ・ 独居老人又は体の不自由な方の（身の安全を）確保（を優先する）
- ・ 折りたたみの出来る軽量リヤカーと車椅子、（これらを）各行政区に配置（する事）をお願いしたい
- ・ 社会福祉協議会等の指導・要望により、高齢者また介護者への災害時における避難支援者を地区で決め、今回もこの方々に地震後、津波の避難を促したが、受け入れられず、何名か（が）家に残った。このため、家が流出し、流されてしまいました。当地区は死亡者数 8 名です（5 名の方が家に残りました）。また、今回の津波が来る迄は、この様な大津波が来たことが信じられませんでした。本当に想定外でした。
- ・ 海岸から 5km の（内陸の）地域であるため、津波災害時の対応訓練が皆無であり、要検討（と考えている）
- ・ 罹災者（りさいしゃ）として（の立場から見ると） 救援ボランティア受入については認識不足であり、今後は研修が必要で市全域に共通（した課題と考える）
- ・ これまでも自主防災組織を立ち上げてから何年間も年 1～2 回は主に地震・津波対策を念頭に訓練を実施してきたけれど、3.11 被害から自助・共助の大切さは痛感しながらも、高齢者・介護者の救出は、ほんの一部だけ（近隣だけ）のようでした。それだけに、自主防災組織で行う訓練と共に、公共団体からの迅速・的確な情報、指示が最も望まれると思います。あの甚大な犠牲を出した宮城県大川小の児童達に、もっと的確な指示・判断があれば、幼い生命があれば失われ無かったのではないかと、近隣なだけに悔やまれます。
- ・ 一度避難したら忘れ物があっても戻らない（事を徹底すべき）。当地区では被災者は皆女性でした。
- ・ 敏速に対応できる様な情報網の整備が急務と考える。
- ・（今回の災害対応では）防災マップ作成によって、住民の死亡、不明者の確認が早く出来た。
- ・ 災害時要援護者の名簿登録により救出が早急に出来た。
- ・ 防災訓練により避難が早く行われた（老人の死亡者が少ない）
- ・ 高齢者の中に、チリ地震津波の経験により、旧北上川護岸住宅に居住する人の避難が遅れ、死亡する人が多くなった（と言う反省点がある）
- ・ 津波の大きさの想定はできない。チリ地震の場合で 2m 位であり、今回は 4m 以

上(であった)。行政の指導も不十分であり、説明(不足)も大きな課題である。

- ・ 自主防災会で避難訓練を実施したりしたのだが、防災意識が足りなくて訓練に参加しなかった人が今回の災害の犠牲者になった。
- ・ 防災機材は5部落にありますが、各家庭でも結構色々準備してあります。今後は(行政の方で)高齢者宅の巡回を増して欲しい。
- ・ 防災訓練を年1回~2回、強制的に参加を促し、地域ごとに行う必要があると思う。

- ・ 当地区は特に大きな被害はなかったのですが、沿岸地域からの避難者が急増し、小学校へ集まったので、その準備もなかった為、慌てました。

我々は、自分の地域の住民の助け合いを目的に防災会を作り、訓練をしてきましたが、今度のように他地域から150名もの避難者が来ることも想定して、対応すべきであったと反省しております。

- ・ 情報の早期周知他(が大切である)。
- ・ 津波等の訓練を実施していなかったので、避難の難しさを感じた。
- ・ 若い住民が仕事に出ていた時間帯のため、自主防災会があっても対応に問題が生じた(人間関係の希薄な地区に残っていた人は高齢者が多かったので、一部の有志だけの活動になってしまった。裏を返せば、自分の身を守ることが優先されたため(に自主防災会としての組織活動は不十分であったと思う))
- ・ 当町内会は年1回自主防災訓練を行ってきました。また、何年か毎に複数町内(釜・大街道全域)との合同訓練も行いました。

今回の東日本大震災、2mを超える津波で全ての訓練が全く機能せず、ただ唖然とした。防災無線の充実からスタートしたい(と考えています)。

- ・ 今回の様な規模に対しては、自主防災組織及び日常の防災訓練も無力であった。
 - ・ (防災資機材の活用などを)念頭に入れた訓練は基本的に必要ないものと思う。とにかく、安全な場所にいち早く避難する事に尽きる(と考えます)。
 - ・ 日頃より(避難について)シミュレーションしておくこと(が必要と思います)。
 - ・ 日頃の危険予知意識のレベルを上げる為の広報と、基本的な訓練を持続的に実施していく事が大切であり、そして今回の経験を末永く伝えていく事だと思う。
 - ・ 自主防災組織(の活動を)を立ち上げる前に、大津波の襲来の情報が入り、一部の役員に避難する様に指示したが、その後、電話・携帯が繋がらず、家族の避難が先となる。自主防災会では自分達の身を守ることが先であり、その次に救助活動をする事と取り決めておりましたが、有望な若手役員が(その)取り決めを守らず、地域の安全確認中に津波にのみ込まれて、尊い命を失いました。
 - ・ 当町内会では、大津波発生による家屋流出、並びに火災発生により、山の中腹にあった一軒が残り、全部消失し全滅となる。当町内は240世帯の小さな町内会でしたが、死者・行方不明者が約100名(に達したものと)推察する。
 - ・ 当町内では、地震によって負傷者や建物倒壊等の被害は無かったものの、9割を超す住宅が床上浸水の被害を受けた。その結果、自主防災会の役員も被災者となり、初動時の防災本部(会長宅)への参集者は4人であった。
- 手分けして町内の被害状況、安否確認活動を実施。被害無しの一報後、津波が運河を北上中という役員からの報告を受け、町内の低地に位置する旧用水堀の水位が上昇してくるのを視認して、町内の自主避難を決意し、「水位の上昇状況と自主避難の実施決定」を町内広報した。
- ・ 指定避難所が徒歩で20分離れた中学校のため、近所の年寄り10名程を、近くの小江山頂へ避難誘導を行った。(発災当日は)寒さが厳しく、避難場所として不

適当なので翌朝、近くの新聞社ビル3階に移動避難させた。

- ・徒歩5分～10分位のところに、緊急避難ビルを指定または設置する必要がある。
- ・今日までは津波訓練等はしませんでした。これからは逃げ場を考えています。山道の整備をと思っています。
- ・内陸部農村地帯ですので、(被害は)最小限で済みました。今後は行政区で防災マップを作成し、それに基づいて防災訓練を実施して頂きたいと思います。
- ・防災無線の災害情報や指示が非常に聞き取りにくいので、東松島市の様な各戸に防災ラジオ?(戸別防災無線機)が付いていれば良いと思う。
- ・各集落単位での防災組織(旧町単位の組織もあった)での訓練等であったが、学区(小学校)単位での協同組織も、今後は必要ではないかと思われる。
- ・防災無線は「大津波が来るから早く逃げろ」だけでいい!(と考える)。

2)避難所運営や避難生活に関するもの

- ・我が家の敷地内には、昭和30年、40年代に使用した簡易水道水源があり、自噴している。今回の津波、地震で(市の)水道(供給)が止まったため、その水が地域の飲料水として多いに役立った。
- ・学校へ、食料と毛布などの備蓄を強く望みます。
- ・担当役員を決めているが、自分の家の対策で2日～5日くらいは(自主防災会の活動が)機能せず。以後に、有志により町内会長の指示した用水、食料等の確保～配分実施と高齢者の対策を実施した。
- ・今回は自分のことで精一杯で区全体の活動は出来なかった。しかし、グループ(20名～30名)にして、何力所も協力して食事をとっていた。今後は、避難所だけでなく、家でがんばっている人(在宅避難者)の為に食料を届けて欲しい。
- ・災害時に対応する自己防衛のガード、認識が甘かった(個人の反省として)。
- ・私の地域には市の避難所(小学校)があり、避難を希望する人は避難所に行き、当面の生活を確保した。問題は、避難所に行けない高齢者や体調の悪い人が自宅に残った(事であった)。その人達を自主防災会(の活動のなか)で、どの様にフォローしていくか悩んだ。ライフラインの切れた中で食料や水等を確保したりしたが、絶対に手助けしなければならない人や、自立してやれるが援助を求める人との区別をつける難しさ等で悩んだ。
- ・当自主防災組織は、やがて来るであろうと言われていた三陸沖地震に備え、飲料水の確保と地域住民の安否に重点を置き、(防災組織が)設置されました。地域にはお年寄りだけの家庭も多くなりつつあるため、災害時に少しでも手伝い等が出来るようにしてあります。また、今回の災害では飲料水の確保のために揃えておいた1リットルタンク2基と20リットルポリタンク50ヶが各戸の飲料水確保に重要な働きをしました。それと年2回の井戸の浄化作業も生活雑用水として十分に使用する事が出来、このような活動が他地域においてもなされる事を望みます。
- ・当地区は直接津波が押し寄せた訳ではなく、第一次の被害は幸いにも少なく済みました。しかし、被災後に各家庭では、被災した方々を自宅で保護し、何ヶ月も生活を共にしました。多い方では十数人も保護した方もありました。私の家でも2家族(5人)を数ヶ月間二階に住んで頂いていました。これでは、アパートを探して入った方と探しても見つからない方の不平等差が出た様に感じます。ぜひ、(市は)この事についての説明をして欲しいと思います。
- ・日頃訓練に参加して防災グッズは用意しておきましたが、訓練では持ち出しても、今回は何も持たずに身1つで避難しました。

- ・ 42～43 家の部落が全部流出しましたが、火災は 1 件もありませんでした。
 - ・ まず、地震があったら直ぐ高台に避難する事だと思いました。ラジオ・水・食べ物、薬、衣類等が欲しかった。都会では火災（対策が）1 番だと思います。（避難後は）身内の支援だけでした。本当にありがたかったです。国の方は遅かったです。
 - ・ 自主防災組織があるから、町内会がまとまって動くことが出来たと思います。今後も市のアドバイスを受けながら、自主防災活動が続けていきたいと思います。
 - ・ 被災後（4 日後）には町民との連絡が取れ始め、救援物資支給活動、安否確認活動などができた。
 - ・ 公助が届くまで 3 日間は、凌げるようにという行政の指導は当てにならない事が（今回の災害で）実証された。対応策が必要（と考える）。
 - ・ 多数の在宅避難者への支援がもっと早く行われる体制が必要（と考える）。
 - ・ 3 月 14 日～3 月 24 日まで、市水道企業団より飲料水運搬給水（を開始）。3 月 24 日に水道は復旧しました。避難所には食料（非常食）食料水、（生活必需品の）備蓄（を進めていく事）と年 1 回防災訓練（を実施していく事）が必要と思う。
 - ・ 今回の大震災において、山の手地区では津波被害はなく、地震被害は最小とされます。今後の防災対応として、被害の少ない住民として何をすべきか（について）山の手地区連絡協議会と行政とが協議し協定を締結する（事を検討すべき）。
 - ・ 山の手地区の学校及び公共施設に備蓄用品を備える（事を検討すべき）。
 - ・（自主防災会の）組織としての活動は難しかった。自身の避難との兼ね合いもあった。平日の日中（の発災）であり、仕事で留守の人も多く、活動を始められたのは 2 日後からで、（地域が）水没した中での活動は非常に困難であった。しかし、食料・飲料水・寝具・暖房用品の確保など、近隣住民の助け合いは非常に嬉しく効果的であったと思う。
- 自分を守ると同時に、町や隣人を守る心は大切だが、二者択一を迫られた時の判断は非常に難しい問題であるとも思われる。これらの事からも、決められた支援者だけでなく、隣近所の支援を受けられる様に、常日頃からのコミュニケーションを心掛けておく事が大切であると思われる。
- ・ 居住地はこれまで大きな災害を経験した事が無かったので、すっかり油断しておりました。毎年の訓練と 3 日分くらいの食料・食料水の備蓄等を、地域住民へ啓蒙・普及を図りたい（各個人の備蓄の充実を図っていきます）。
 - ・ 当地区は特に大きな被害はなかったのですが、沿岸地域からの避難者が急増し、地区の小学校（避難所）へ集まったので、その準備もなかった為に慌てました。
 - ・ 当地区は津波の被害はありませんでしたが、地震発生と同時に避難場所である公民館で 10 日ほど避難生活を送りました。しかし、停電のためストーブも使う事が出来ず、また情報を得るためのテレビも見ることができませんでした。
- 今回は（地元の）建設業者から発電機を借り受ける事が出来たので大変助かりました。そこで、当地区としては発電機と飲料水の備蓄が必要だと思っています。
- ・ 自主防災組織があったため、発電機、ストーブ、畳、ジュタン、食器、ナベやヤカンなどの器具が（備品として）用意されていたので、5 日～1 週間過ごすのに役に立ったなと思った。また、毛布、フトン、シーツはお寺で合宿（の世話）をしていたおかげで借りられたが、毛布くらいは用意しておきたいところだ。
- 名振地区は残った人達一人一人が自分の得意とする分野で活躍してくれた所が良かったと思う。やはり一番は、避難所があった（確保出来ていた）と言うことが一番大事な事ではなかったのかな（と思う）。

- ・町内会員の安否確認と行方不明者等の確認と（地域の）情報収集と（を同時並行してすすめる必要があったが）その対応が困難だった。災害後の食料配布の際、高齢者が多く、各班に協力者がいなかったため、一部の人達が何度も協力（しなければならない等）大変だった。避難者同士が協力（して対応し）また中学生が自主的に各戸配達してくれて助かった。山の手なので運搬に車が必要だが、ガソリン不足で自転車とか一輪車以外は手荷物となり、大変だった。
 - ・役員の殆どが被災者になった状況下での（自主防災）活動としては、初期の（活動）目的は達せられたのでは無いか？と思っている。
 - ・避難場所への避難後は、避難者数、氏名の把握、要援護者の避難情報の収集、町内の浸水水位の変化情報の伝達、汚泥・震災ゴミ対策、消毒、炊き出し、支援物資の配布等、自主防災組織としての活動は多岐に及んだ。
何れの活動も人間に可能な範囲で取り組んだものであり、町内住民にとっては十分なものではなかったのかも知れないが、自主防災組織としてはこれで良いのではないかと考えています。
 - ・自主防災会委員の方の支援物資の配布活動（は負担が大きく課題である）
 - ・今回の震災では、自主防災組織の多くの人員が各職場等の災害対応に動員され（てしまい）、また地区（町内）の 1/5 の住居が床上浸水したため、この対応に追われて、自主防災組織としての実働人員は 10 名位（男 4~5 名、女 3~4 名）と少なく、被災者等への炊き出し等の救援作業に苦労した。今後は今回の震災を踏まえ、災害発生、特に町内で確実に活動できる人員を選出する等の見通しを図る必要があると考えております。
 - ・新栄防災会は、戸数 1,100、人数 3,000 人余りで、もしもの災害時には最低でも 1/3 の人数に炊き出しできる器具（応急生活用資材）を準備していました。
大震災では多いときで、1,200 人くらい避難者に食べ物について支援できました。自主防災活動は要援護者への支援活動、炊き出し活動を確実に行えるように訓練を重ねたいと思います。
- 3) 自主防災組織の今後の運営面での課題、資機材の整備に関する意見など
- ・（以下に自主防災会として）5 つの提案を行う。
 1. 地域に経験豊かなリーダーがいること（が不可欠である）。もし、そういう人が居ないときは（行政から）専門家が派遣される必要がある。
 2. 地域内の情報連絡体制が整うこと（が不可欠である）。地域リーダー的な人達のとの連絡体制が整うこと（が不可欠である）。
 3. 地域と災害対策本部（市）と連絡がし合えること（が不可欠である）。
 4. パソコン、携帯電話とソーラーバッテリーを備える（自主防災ステーション的な拠点施設）を用意しておく（事が必要である）。
 5. 防災ボランティアを（あらかじめ）指名しておき、地域リーダーの一員にしておく（事を検討すべきである）。
 - ・自主防災組織のあり方については地域によって異なると思う。山の手地区は高台のため、津波被害を受けることは考えられず、また地盤も固く地震にも強いが火災には十分配慮する必要がある。防災会としてまずは火災防止、及び避難誘導に重点を置いて、これまでもこれからも訓練を続けることになる（と思います）。
 - ・災害は歴史に学び、貞観津波を教訓にすれば、東京電力福島原発事故は防げたかもしれませんが。ある地域ではここより下に家を建てるな如く（の様な国家施策としての対応の検討も必要だと思います）。
 - ・仮設住宅、及び解体工事等でだいぶ無駄な公費を使っている様に思います。

- ・避難所の整備、充実（が必要と思う）。
- ・防災放送の改善が必要（聞こえない地区の解消）と思う。
- ・支援物資の搬送・受け取り方法の改善（が必要と思う）。
- ・自治体等で実施する防災関係の訓練は形式的な内容が多かったのでは？（ないかと思う）。
- ・（今回の震災では）地域によっても被害状況に差異があるが、（今後は）最大の震災を想定して相当な危機管理意識を持つ避難訓練を実施しておく必要がある（と思う）。しかし、今回の大地震で地域住民の（防災）意識は高まったと思う。
- ・今回の大震災、沿岸の自主防災組織は役立たず（であった）。家庭毎に防災無線の配備が必要ではないか（と思う）。現在の市の防災無線は聞き取りにくい。
- ・これからますます高齢化世帯が多くなるので、自主防災（の活動費）を町内会費から捻出（している）ため、（自主防災活動にも）限度がある。保管庫の建設や食料等の備蓄のため、行政側からの手厚い助成が必要である。
- ・町内の電話連絡網を全て流出（してしまった）。今後の万が一のため、一部を行政側で保管してはどうか（と思う）。
- ・震災後から6ヶ月間で行政側と町内会（自主防災）との連絡や連携は一度も無い。
- ・各団体等の連携及び情報の共有化並びに自主防災組織への支援【金】（援助が不可欠と思う）。
- ・災害時の自主防災会への役場からの情報、及び自主防災会への支援要請が必要と思う（今回は市役所から何も情報提供や要請がなかった）。
- ・高台に住んでおられる方への（防災）啓発運動も必要と思う。
- ・浜の住居は殆ど流出し、家財流出等によってあきらめている方が多いが、やはり全員が一丸となって（防災）訓練を進めていきたい。
なお、防災機材等も殆ど流出したので、やる気を無くしていると思う。女性の方々が中心となり、この度の災害を教訓にして、やっていくものとする。そのためにも、当局（市）よりの励ましがあれば、必ず意欲的に進めていけるものと思います。
- ・地域コミュニティ内での結びつきが当地区の防災の基本（です）。一刻も早く元に戻し、従前より強化できれば良いと思う。
- ・集会所が被害に遭い解体してしまい、一時的な避難場所がなくなったので、自主防災（活動）のためにもコミュニティ（ケーション）が取れるような場所の確保が必要になった。（自主防災）組織運営のための公的補助を求めます。
- ・住民の高齢化、現役世代は（地区に）日中不在の状況で、自主防災会を機能させる事は大変困難（な状況である）。
- ・正確な情報が確実に伝わる体制（づくり）が必要（と思う）。
- ・地震と津波とを想定した防災組織のあり方を早急に検討（すべきと考える）。
- ・公助が届くまで3日間は、凌げるようにという行政の指導は、あてにならない事が（今回の震災で）実証された。（公助の支援限界に対する自助側の）対応策（の検討）が必要だと思う。
- ・私たち住民が避難場所としていた箇所に、他地区からの避難者がバスで何度も何台も列をなして避難してきました（他地区からの避難者の受入対応をしました）。行政は何もしなかった。日替わりで職員1人配置（のみでした）。
私の家の足の踏み場も無い状況の中、15日間避難所で妻と救援活動（を行い）寝たのは板の上、その後連日物資の配給、風呂に入ったのは1ヶ月後、今災害で思いたいのは、行政は何の役にも立たない（と言うことです）。

3 日間自分達の身体の安全・安心は、地域の輪と自主防災組織で守る以外道はない(と思います)。今後、地域活動を継続致します。

- ・ 小学校は指定避難所では無く、耐震性もなく非常に心配されましたが、何とか持ちこたえました。
- ・ 今度の経験から、自主防災組織は自助・共助・公助の中、自助・共助の期間、助け合いの出来る最低の準備は、どの様なところでも必要であると思います。
- ・ 自主防災組織があっても、当日(防災会長や役員が)留守であったり、機材の使用(方法)がわからない等の弊害が生じる。私も、自主防災会会長であったが別会長、会計、消防分団長、前分団長等が地区に居なくて(自主防災会が立ち上がらなかったし)(自身も)名振地区に帰れなくて他避難所に居たため、名振地区に来たのが5日後とか一週間後とかであった。このため、自主防災組織があってもリーダーそのものが力を発揮出来なかったり(するケースがあるし)(避難所運営では避難者と直接面前で)ぶつかって見ないとどうなるかわからないと感じた。
- ・ 私たち家族は、現在北海道札幌に居住しているので、その後の被災地のことはわからない状態です。今回の東日本大震災の直撃を受けた地域は、防災組織そのものが、全く役に立たなかった事を、また自主防災組織で準備した必需品・備蓄品が何の役にも立たなかった事を申し添えます。
- ・ 自主防災発足して早6年となりますが、当初は補助予算で活動しておりましたが、その予算もなくなり区会予算に入れております。避難指定所は備蓄が必要とされている様です。その備蓄予算の確保は区会費なのか、市等の予算補助で行うのかお知らせください。
- ・ 私の地域では、現在仮設住宅に入居し、集落には誰も住んでいません。今後集落に戻りたい人は8世帯との事で自主防災組織(として)の機能が果たせなくなると思います。
- ・ 当地域には自主防災会の組織が無く、今後話し合って作りたいと思う。
- ・ 野外スピーカーの性能確認(が不可欠と思う)
- ・ 本庁 - 支所 - 町内会避難所間にトランシーバーが必要です。
- ・ 電気、電話、携帯では連絡出来ませんので、地域だけのトランシーバー・短波ラジオで地域の事を知らせる(通信網の確立が必要と思います)
- ・ (以下に自主防災組織についての)4つの提案(を行います)
 1. 消火・避難訓練の実施(が必要と思います)
 2. 避難場所の周知と道順(避難道)(の周知がそれぞれ重要です)
 3. 水・食料の備蓄と確保方法(について検討すべきと思います)
 4. 防災グッズの整備(を進めていくべきと思います)
- ・ 津波に対する情報が不足していた事と、市広報での津波報道(では)何れも空振りの実態があったので、また空振りと思った事が(住民の)行動に表れた。
- ・ 市の指定避難である「釜会館」には何も常備されていない状況であった。従前から通信手段等を要望していたが?(どうなっているのでしょうか)
- ・ 当地区は津波の被害もなく、また地震そのものの被害も比較的少なかった地区であります。自主防災と言えばさほどの活動は必要なかったとは思いますが、もちろん、家族の安否確認等それどころでは無かったところもあります。今後は自主防災組織としてボランティア等の手伝いに向かう等の意識があってもいいというふうに感じました。
- ・ (以下に自主防災活動について)6つの提案を行う。
 1. 2~3の町内会ごとに避難施設を兼ねた集会所(3~4階建て)が必要と思う。

2. 今回の教訓を生かした訓練が必要と思う。
3. 各町内において避難場所を決めておく事が不可欠だと思う。
4. 大地震があったときは、各自ごとに避難のこと（避難対応）を決めておく事が不可欠だと思う。
5. 高齢者を車で搬送する人を決めておく（必要がある）。
6. 行政側と緊密な連携・連絡が取れる体制・組織づくり（が必要と思う）。

傾聴ヒアリング

アンケートは、自主防災会の活動内容や実態などについて、質問者があらかじめ設問を設け、これを自主防災会長が選択または内容記入を頂く形で実施している。

今回の東日本大震災は、大地震に加えて広域的な津波災害を伴っており、石巻市の各地域における被災状況も、沿岸部や内陸部では異なっている。

したがって、地震直後からの各地域の状況、地域住民の取った行動や避難行動の実態、さらに避難所での状況や自主防災会が実施した活動などを把握するために、市域全 16 地域のうち各 1 名の自主防災会長を代表として選出して傾聴ヒアリング方式で、インタビューを行う事とした。

(1)方法

自主防災会長への傾聴ヒアリングは、基本的に市職員へのヒアリングと同様に、傾聴ヒアリングの手法を用いて、災害時の地域状況、自主防災会長の被災状況、地域の住民が取った行動、避難誘導や避難時、さらに避難所で自主防災会長が取った行動や自主防災会活動等について、以下の大枠だけ定めて傾聴した。

- 1) 地震発生時の自主防災会長の行動
- 2) 地震直後の自主防災会長のとった行動と周囲の様子
- 3) 津波警報などの警戒避難情報を取得した状況
- 4) 避難方法
- 5) 自主防災会の活動状況
- 6) 避難所での日を追った自主防災会や住民の活動（行動）状況
- 7) 日頃の自主防災会の活動で役立った事
- 8) 今回の災害を教訓とした今後の自主防災会のあり方
- 9) 防災活動に関する市への要望や見解

傾聴ヒアリングは、自主防災会長に本ヒアリングの実施目的を説明して、その趣旨に賛同を得た上で、事前に実施日時、場所等について電話調整を行い、1 人对 1 人の形式で約 1 時間弱の時間を設けて行った。傾聴ヒアリングの場所については、会長宅、会長勤務先、石巻市庁舎の情報公開スペース等のロビーにて行った。

なお、傾聴ヒアリングの記録については、自主防災会長に承諾を得た上で、音声と動画及び静止画として記録し、音声は別途文字として書き起こした。

図 3-5 に傾聴ヒアリングの様子を示す。

(2)期間

2012 年 2 月 14 日から 19 日までの 6 日間で行った。

表 3-71 に実施スケジュール表を示す

図 3-5 自主防災会長への傾聴ヒアリングの様子



(3)対象者

対象者は、各地域の自主防災会長から最低 1 地域あたり 1 人以上を目途として、全体で 21 人を抽出して行った。

表 3-72 自主防災会長の傾聴ヒアリング対象者

地域	自主防災会数	傾聴ヒアリング実施 (人)
石巻	2	0
門脇	8	1
釜・大街道	8	2
山の手	6	1
住吉	11	1
山下	12	1
湊	13	1
渡波	25	3
荻浜	4	2
蛇田	13	1
稲井	15	1
河北	9	1
雄勝	20	2
河南	26	1
桃生	20	1
北上	8	1
牡鹿	2	1
合計	202	21

(4)ヒアリング結果

ヒアリングの結果については、インタビューから書き起こした速記録をもとに、東日本大震災に関する事項について 1 文として整理し、

(5) ヒアリング対象者が 3 月 11 日の地震発生後から取った行動

(6) ヒアリング対象者が 3 月 11 日の地震発生後から覚知した地震、津波、浸水、地面の亀裂等の自然現象

(7) ヒアリング対象者が 3 月 11 日の地震発生後から覚知した社会基盤の被害状況、救助活動、地域住民の様子等の社会現象

(8) ヒアリング対象者の見解または感想、市や災害対策関係機関への要望、その他の項目に大きく分類した上で、時系列で整理した。

次ページ以降に、表として整理する。

表-3.72 自主防災会長の【行動】整理表（その１）

３月 11 日については、地震発生時～直後（約 1 時間）の行動とその後の行動とを大別して記載する事とした。

地区	３月 11 日		３月 12 日	３月 13 日	３月 14 日	３月 15 日	３月 16 日以降 *()内は日付	行動時点が 特定できないもの
	【地震発生時～直後(約 1 時間)】	【地震直後約 1 時間～夜】						
門 脇	・ 地区連絡協議会準備のため、車で家を出た。 ・ 大街道地区から車で帰宅中に地震にあった。 ・ 山下町 2 丁目交差点付近の駐車場で周辺の事態を見守った。 ・ 蛇田地区の娘宅へ行った。	・ 石巻市中心部に車で何度も行こうとした。（浸水に阻まれた） ・ 蛇田小学校に避難した。 ・ 門脇小学校の延焼情報を教育委員会の関係者に確認した。 ・ ３月 11 日から 5 日間は、食料は自己調達した。	・ 避難生活は避難所で 2 泊、娘のアパートで 1 泊、2 泊は車中泊だった。	・ 蛇田地区と石巻赤十字病院の間を自転車で行き来しつつ情報を収集した（３月 14 日まで）。 ・ 大型店で食料を調達した。 ・ 半日以上かかって衣類・靴等を調達した。	・ 南 浜 町 内 に 入 れ た の は 朝 4 時 半 だ っ た 。 ・ 避 難 所 回 り を 行 っ た 。	・ 日和山から市内一帯の被害状況が確認できた。	・ 石巻市長と面会して、南浜町に関する情報提供を行った（3/19） ・ ガソリン不足で 3 月後半まで自転車で行動した。	・ 治療薬の受取と南浜地区住民の状況（安否）確認のため、石巻赤十字病院に行った。 ・ 南浜町関係者の葬儀対応で月に約 10 日は菩提寺に詰めた。 ・ 南浜町が壊滅したため、自主防災活動等の役員活動は行っていない。
釜・ 大街道 A	・ 在宅していた。 ・ 家の前の畑に逃げた。 ・ 上釜会館へ徒歩で避難した。 ・ 避難途中で近所の知り合いにも声かけた。 ・ 上釜会館玄関前に来た人に、家族も連れて会館に避難するように指示した。 ・ 上釜会館 2 階に奥方と避難した。	・ ３月 11 日から 2 晩、会館の 2 階に泊まった。 ・ ペットボトル数本を飲料水として確保した。 ・ 会館のカーテンを全部外し、座布団と一緒に床に敷き詰めた。 ・ 会館内の衣類を出し暖をとった。 ・ 携帯ラジオから被害情報を確認した。 ・ 軽食を避難者に均等配分した。 ・ 会館 2 階のトイレ使用ルールを取り決めた ・ 救助、救急要請文を窓に貼りだした。	・ 飛来したヘリコプターに旗を振ったり、布を広げて救助要請した。	・ 会館の脇から縄はしごで屋上に上がった。 ・ 救助ヘリコプター 2 機に二組で分乗し、石巻赤十字病院に向かった。 ・ 専修大学、河南の東中学校、広淵小学校体育館とバスで回った。 ・ 河南の農業改善センターに避難した。			・ 河南の農業改善センターでの避難所生活は 4 月末まで続けた。 ・ 上釜町北側の民家に、避難所を出て、奥方と 2 人で住んだ。（4/30） ・ 6 月 10 日に仮設住宅に転居した（現在に至る） ・ 上釜町内で合同慰霊祭を行った。（7/11） ・ 四つの仮設住宅団地 200 世帯で自治組織を立ち上げた。 ・ 仮設住宅の自治組織と上釜町の会長を兼務している。	・ 安否確認は地震発生後 1 週間以降も継続して行った。 ・ 時々、米や野菜など地元の人達から差し入れ品を炊事して食べた。 ・ 上釜町内で居住可能な民家を知人に紹介するように依頼した。 ・ 市役所に行き、弁当支給を受けられるように配給手続きをした。 ・ 自宅に戻れたのは 3 月末くらいであった。
釜・ 大街道 B	・ 在宅していた。 ・ 来客者 8 名を帰した。 ・ 孫を迎えに徒歩で大街道小学校へ行った。 ・ 娘がラジオから得た大津波情報で避難準備をした。 ・ 車を車庫から出し、駐車場でエンジンを始動し待機した。 ・ 車中から車のボンネット高くらいの津波を確認した。 ・ 車中の子供を連れて自宅の 2 階に避難した。				・ 自宅 2 階から登米市の親戚宅に避難した。		・ 三軒屋東町内会の安否確認のため、登米市から車で自宅に戻った。（3/21） ・ 町内会班長 10 名に町内会員の安否確認と避難先の調査を依頼した。（3/21） ・ 安否確認は 8 月の盆前に完了した。	

表-3.73 自主防災会長の【行動】整理表（その2）

3月11日については、地震発生時～直後（約1時間）の行動とその後の行動とを大別して記載する事とした。

地区	3月11日		3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日以降 *()内は日付	行動時点が 特定できないもの
	【地震発生時～直後(約1時間)】	【地震直後約1時間～夜】						
山の手	蛇田地区を運転中	奥方と蛇田地区で車中泊した。	石巻赤十字病院の駐車場に移動し、車中2泊した。		- 自宅に戻った。 - 食事を摂った。		地区の在宅避難者に約1ヶ月間、救援物資を配布した(4/19～5/5)	- 日和山地区の連絡協議会で協議の上、在宅避難者に救援物資配布を市に要請した。 - 日和山地区は丘陵地のため、石巻中学校まで飲料水運搬に下りた。
住吉	- 在宅していた。 - テレビから大地震と津波情報を得た。 - 地区内を車に民生委員を同乗させて見回りに出た。 - 大橋町内に近い石巻消防署へ避難誘導した（半数は、住吉中学校に） - 見回りを終えて、車いす夫婦宅の避難状況を確認した。 - 石巻消防署に避難した。	- 自衛隊に石巻消防本部に600人避難している状況を伝えた。 - 消防署の備蓄物資を借用して避難者へ配布した。 - 日中は石巻消防本部で避難者支援を行い、夜は自宅または車中泊した。(4/3まで)	避難者支援は、朝食の用意、救援食料(日3回)と物資の配給の指示を行った。				- 避難者を石巻消防本部の大会議室1室にまとめた。(3/23) - 石巻消防本部での避難活動は4月3日までとした（以降、市の担当者に避難所運営を引き継ぎ） - 事前に避難者へ開北小学校への避難所変更を周知した(4/3に避難者退去を完了)	- 石巻消防本部は正規の指定避難所では無いことを避難者に周知徹底した。 - 避難者が一時滞在していた部屋を日毎に整理して、消防の応援部隊へ明け渡した。
山下A	- 在宅していた。 - 避難所に避難した（貞山小学校）。 - 町内の副会長2人と合流した。 - 自宅に戻り、山の手に所用があり車で向かった。車は好文館高校に置いた。 - 好文館高校へ避難した。	- 情報が全く無いまま2時間行動していた。 3日間は呆然としていた。	学校から段ボールをもらい、段ボールを敷いて寝た。		4日目から炊き出しを始めた。		- 各教室から代表を募り、避難所の自治組織を立ち上げた。(3/16) - 避難所を退去した。(3/30) - 避難所退去の際には清掃して出た。	- 食料、水、生活物資で苦労した。 - トイレは紙で舟の様なものを作って、用を足した後、別途捨てる様にした。 - プールの水でトイレを清掃した。 - 自衛隊の協力で人工透析、寝たきりの方の救助を実施した。 - 市長にご飯が食べたいと要望した。市に職員を2人派遣するように要望した。 - 町内会の約半数分の4,000食程度の物資を市に要望した。 - 教室の一室を物資の集積所に割り当てた。 - 学校の授業を再開させるため、自宅に戻る避難者は極力自宅に帰した。 - 在宅避難者の物資は山下体育館に集積し、各地区へ配分した。
山下B	- 在宅していた。 - 貴重品、懐中電灯、携帯ラジオを持って石巻工業高校に避難した。 - 避難時に、避難指示の声かけを独居老人や高齢者に対して行った。 - 石巻工業高校の本校舎3階の空き教室に避難した。 - 避難所でも、自主防災組織として避難者支援を行った。	石巻工業高校に2泊3日した。		- 自衛隊のボートとジープを乗り継ぎ、河南東中学校の体育館に避難した。 - 河南東中学校の体育館で2泊3日した。		3月25日まで登米市の娘の家に疎開した。	3月25日午前11時頃、自宅に戻った。 3月25日以降は、自宅2階で生活した。	- 新橋町内会の自主防災活動は、一昨年市と消防署と合同で防火訓練を行った。 - 好文館高校などの避難所回りを行って、町内会員の安否確認を行った。

表-3.74 自主防災会長の【行動】整理表（その3）

3月11日については、地震発生時～直後（約1時間）の行動とその後の行動とを大別して記載する事とした。

地区	3月11日		3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日以降 *()内は日付	行動時点が 特定できないもの
	【地震発生時～直後(約1時間)】	【地震直後約1時間～夜】						
湊	・仙台市へバスで移動中。 ・仙台市内から戻ろうとした。 ・終日、ラジオをかけっ放し状態で聴いていた。	・夜はバスの中で宿泊した。	・9時40分に仙台を出て、午後1時に蛇田ジャスコに到着した。 ・蛇田から自宅に歩いて帰った。(午後3時着) ・学校に避難したが入れず自宅に戻った。 ・ヨークベニマルの休憩室に避難した。 ・緑町町内会の人々とヨークベニマルの休憩室に泊まった。	・奥方の実家(鹿妻)に行き食事を摂った。 ・自宅に近所の人(約30人)を収容した。 ・自宅のストーブや布団を供出した。 ・照明はろうそくを使った。 ・食べ物を避難者で持ち寄った。				・飲料水は沢の水を加熱して飲んだ。 ・トイレの水は側溝の水を汲んで使った。 ・市役所に出向き、自宅を臨時避難所として届け出た。 ・緑町の町内会員の食料配給について市に要望した。 ・巡回医療班から薬をもらった。
蛇田	・在宅していた。 ・母親をディサービスに、さらに蛇田小学校の孫を車で迎えに行った。 ・地区を巡回し被害確認した。 ・近所の人に声かけした。 ・避難所に住民を集めて、暗くなるまで待機した。 ・谷地の地域住民に海の方へ見に行ったりしないように指示を出した。	・暗くなってから、地域住民を解散した。 ・隣近所と余震に気をつけようと話し合った。 ・足の不自由な母を車で避難所へ送って避難させた。 ・家に戻って、1階のものを2階に運んだ。		・町内会住民を集めて炊き出しを始めた。 ・炊き出し用具や材料は、各自持ち寄った。 ・炊き出しは、1日2回、蛇田小学校の避難者1,200人に対して行った。(当初は味噌汁のみ)				・炊き出しは6行政区の区長と連携して、交代で実施した。(約1ヶ月間) ・発災後2ヶ月目くらいに、支援物資を断った(地域が自立していけたので)。
稲井	・在宅していた。 ・2階から外に出た。 ・揺れが大きく、必ず津波が来ると思った。 ・車で奥方を高台の実家に逃がした。 ・避難所の稲井公民館に向かった。	・夕方、公民館に暖房器具を持って行った。					・市議を通じて市に食料支給を要請した。(3/21) ・市から1,700食500世帯分の食糧支給を受けた。(3/26～4/10まで)	・飲料水は簡易水道、井戸水を使った(公民館の避難者には生で飲まない様に伝えた) ・地区住民が食糧を持ち寄り、稲井公民館に避難してきた人に炊き出しを行った ・市職員は地域の実情がわからないので井内東部町内会として手伝った。 ・町内会として夜間パトロール、津波で流入した瓦礫の清掃等を手伝った。 ・市からの支給食糧は、ふれあい会館で仕分け、各班長を通じて各家庭へ配布した。

表-3.75 自主防災会長の【行動】整理表（その4）

3月11日については、地震発生時～直後（約1時間）の行動とその後の行動とを大別して記載する事とした。

地区	3月11日		3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日以降 *()内は日付	行動時点が 特定できないもの
	【地震発生時～直後(約1時間)】	【地震直後約1時間～夜】						
渡波 A	・在宅していた。 ・家の外に出て被害確認した。 ・防災無線から津波警報を知った。 ・地域住民に直ぐ避難する事を呼びかけた。 ・渡波支所の職員と住民の避難を誘導した（公民館ホールは直ぐに満員になったので渡波小学校へ誘導した） ・車で避難してくる人に車を置いて徒歩で避難する様に指示した。 ・津波を目視できてから、避難者を渡波小学校に戻るように誘導した（自動車は停車させた）。 ・渡波小学校に避難した。 ・渡波生協の2階付近にいた住民を誘導して、共に避難した。	・渡波生協で1晩避難した（渡波支所には戻れない）。 ・生協内の濡れていない衣類を借りて避難者に着せた。 ・生協内の濡れていない食料（お菓子）を避難者に持たせた。	・渡波生協にいた避難者を渡波小学校に誘導した（若い母親と乳児） ・渡波支所に戻り、支所長、職員と合流した。 ・渡波支所調理室に地区連合会と行政で対策本部を立ち上げた。 ・支所への避難者は2階会議室に収容した。 ・対策本部で避難者対応にあたった。					・渡波三丁目町内会の備蓄倉庫から食料、水を供出して支所に提供した。 ・渡波支所では、朝9時～12時までに配給を行った。 ・渡波支所では、在宅避難者も含めて7行政区、1,500食を配給した。炊き出しも同じくらい実施した。 ・地域の商店、飲食店からの食材提供、人員（料理人等）の提供と、町内会からの人員提供等で炊き出しを行った。 ・避難者でボランティア組織を立ち上げ、炊き出し、避難者の整理などを行った。 ・支所以外の避難所への自主組織、食料や人員の協働について指導した。 ・渡波支所では自立促進のため、物資、食料の配布を秋頃中止した（1ヶ月前から告示した）。 ・遺体回収には、ボランティア、町内会役員が共同してあたった。
渡波 B	・大街道地区で仕事をしていた。 ・車で戻る途中、ラジオで女川に津波の第1波が到達した事を知った。 ・車で港の国道398号を通過して自宅に戻った。 ・自宅2階に避難した（自宅到着後5分で津波が来た） ・自宅玄関を閉めようとしたが水圧で閉まらなかった。			・排水後、渡波小学校へ避難したが満員で入れなかった。				・自宅で避難生活を送った。 ・自主防災会としての活動は出来なかった（自分のことで精一杯） ・遺体は渡波公民館に収容した。 ・町内から救急箱3、AEDを渡波小学校に提供した。 ・20名前後の小規模な炊き出しをガスコンロで行った。 ・米を精米し、沢の水で炊いた（精米は蛇田、水は根岸に汲みに行った） ・避難所と交渉して、地区の在宅避難者1,000人分の支援物資もあわせて行政に要請する様に依頼した。
渡波 C	・牧山にサイクリング中 ・自宅に戻った。 ・防災無線で地震、津波警報を聞いた。		・自家用車で万石浦中学校へ飲料水を受取に行った（イオンの支援物資）					・移動中の帰宅困難者を集会所に迎え入れた。 ・水産会社から提供された魚は在宅避難者にも配分した。 ・水産会社から提供された食料余剰分は、渡波小学校へも配分した。 ・排水ポンプ操作のため、満潮時刻に合わせてスイッチを入れに行った。 ・報道を通じて行政へ支援を働きかけた。

表-3.76 自主防災会長の【行動】整理表（その5）

3月11日については、地震発生時～直後（約1時間）の行動とその後の行動とを大別して記載する事とした。

地区	3月11日		3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日以降 *()内は日付	行動時点が 特定できないもの
	【地震発生時～直後(約1時間)】	【地震直後約1時間～夜】						
荻浜	・県道2号の蛤浜停留所の近くで車中にいた。 ・自宅に戻り、2階に上がった。 ・荻浜地区を見回り、浜にも行った。 ・トラックにストーブや食料を積んで逃げた。 ・トラックと車を荻浜支所に持って行った。 ・舟を沖出しした。 ・お年寄りに早期避難を呼びかけた ・荻浜支所に避難し、住民に2階に避難するように指示した。 ・荻浜支所職員と連絡を取り合った。 ・支所2階も津波で危ないと思って外に出た。 ・支所倉庫からハシゴを持ってきて支所2階から山にハシゴを渡した。 ・山に住民を避難誘導した。 ・全員で道路を確保した。 ・県道沿いに上がって逃げた。 ・荻浜中学校へ避難した（子供20人くらい、部落の人達40人くらいの計60人くらいで）	・中学校3階まで上がって避難して一晩過ごした。 ・近くの家からストーブを借りて暖をとった。 ・自宅から持ってきた布団を敷いた。 ・カーテンを全部取り、身体に巻いて一晩過ごした。	・自衛隊のヘリコプターに救援要請の旗を振った。 ・荻浜中学校のグラウンドに椅子で「SOS」と書いた。 ・水確保のため、山に登り、山から水を引いた。 ・捜索に行った。	・商店主に自動販売機を壊して良いか頼んだ。 ・壊した自動販売機のジュースを飲んで過ごした。				・山に入って水出し（水運搬）をした。
河北	・在宅していた。 ・普通に歩けず、家の中をはらばって歩いた。 ・家の中の倒れた物を整理していた。 ・自宅2階に上がって避難した。 ・自宅2階から裏手を見た。 ・高台に避難した。 ・避難途中で避難誘導を行った。	・生活改善センターと民間施設の民芸ハウスを借り、自家発電で炊き出しをした。						・道路が通行不能だったので、通行車の停止誘導をしていた。 ・しばらくの間、ピックアップ、河北小学校、体育館等で避難生活をしていた。 ・仮設住宅に移動した。
雄勝 A	・海上にいた。 ・舟を係船した。 ・浜の状態を見に行った。 ・避難しなさいと声かけした。 ・家に帰り、ガスや電気を止めるように指示した。 ・避難所近くまで住民を避難させた。 ・指定避難所に避難誘導をした。 ・避難所に逃げた。						・飯野川小学校に移動した。(3/20)	

表-3.77 自主防災会長の【行動】整理表（その6）

3月11日については、地震発生時～直後（約1時間）の行動とその後の行動とを大別して記載する事とした。

地区	3月11日		3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日以降 *()内は日付	行動時点が 特定できないもの
	【地震発生時～直後(約1時間)】	【地震直後約1時間～夜】						
雄勝 B	・在宅していた。 ・コタツの中に隠れた。 ・祖母に避難所に行く旨を指示した。 ・祖母を避難所に送り届けた。 ・家に戻った。 ・車のエンジンをかけたまま、門前に駐車させた。 ・携帯や貴重品を持って家を出た。 ・沖にある島の様子を見に行った。 ・明神地区と船越地区の様子を見に行った。 ・避難所に避難した。	・発電機を直ぐに回した。 ・ファンヒータを回して暖を取った。	・大須地区の対策本部で朝昼晩の1日3回の会議に参加した。				・仮設住宅に引っ越した。(7/6)	・雄勝総合支所にトイレの汲み取りの依頼を行った。 ・雄勝総合支所に出向き、色々と話した
河南	・石巻農協で会議中 ・直ぐに自宅に戻った。 ・自動車学校の2階に全員で避難した。	・夜8時頃、帰宅した。		・市に救援物資の支援申請を行った。				・石巻北高校に支援物資を持って行った。
桃生	・石巻のホームセンターで買い物していた。 ・ホームセンターから車の中に入った。 ・車中なので防災無線は聞こえなかった。 ・自宅に戻った。 ・倒壊家屋が無いか、地区を見回った。		・桃生支所に行った。 ・桃生支所で対応関係の協議を行った。					・一人暮らしの人とコミュニケーションを取った。
北上	・在宅していた。 ・地区の半分くらい見回りをした。 ・山に走って逃げた。 ・「津波がくるから避難してください」と声かけして回った。 ・山を回った（奥方を助けるため） ・避難した。		・板に挟まれている人を助けようとした。					・沢水を運んだ。
牡鹿	・漁業組合で会議中 ・机の下に潜った。 ・自宅に戻った。 ・ロープを取りに浜に戻った。 ・生活センター（集会所）の様子を見に行った。 ・隣部落に行ってみた。 ・津波が上がって来たので逃げた。 ・逃げる途中で老婆を車に拾って避難した。	・津波の様子を見に行った。						

表-3.78 自主防災会長ヒアリングからの【地震、津波、浸水、地面の亀裂等の自然現象】整理表（その１）

3月11日については、地震発生時～直後（約1時間）の行動とその後の行動とを大別して記載する事とした。

地区	3月11日		3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日以降 *()内は日付	自然現象の確認時点が 特定できないもの
	【地震発生時～直後(約1時間)】	【地震直後約1時間～夜】						
門脇								・石巻市役所の周辺道路も津波浸水で通行不可だった。
釜・大街道 A	- 家の外見からは被害は確認できなかった。 - 家の中の家具も倒れていなかった。 - 隣家間のブロック塀が倒れた。 - 上釜会館2階から津波の到達を確認した。 - 津波は南側（海側）ではなく、東側からの勢いが強かった。 - 家が東から西に向かって流れてきた。 - 会館1階の天井ぎりぎりまで水は止まった。	- 上釜地区は高い地盤に挟まれているため、津波浸水が長く続いた（常時、胸高以上の水深）。 - 自宅の東側の大きな家は全部流された（東側から強い津波が来た）。 - 工業高校前の道路が津波の通り道になり、両サイドは酷く損壊している。 - 会館の回りには、津波とともに工場資材のコンテナやトラックコンテナ、車が大量に流れてきた。						- 上釜地区の海側では津波流が早く、家ごと流出した。 - 上釜地区に隣接する工業団地の資材等が流されてきた。 - 自宅2階は残存していたが、1階は全て破壊されていた。 - 町内は瓦礫だらけで車は全く走れなかった（3/20頃まで）
釜・大街道 B	- 地区内の地震での被害は無かった。 - 自宅も被害は無かった。 - 津波は自宅手前の低地に流れ込んだ。 - 津波の流入した水圧で家1階のドア類が全部閉まった。 - 自宅前の平屋4軒は津波で流された(JRの貨車が流れてきて全部破壊された)	夕方、自宅の門は（津波浸水で）水没していた。						- 石巻市中心部の方は、津波による浸水で移動出来なかった。 - 石巻市中心部の道路は、瓦礫の堆積で殆ど通行不可だった。
住吉	- 揺れが長く、家の食器棚が全て倒れた。 - 住吉小学校に地割れが出来ていた。 - 石巻消防本部3階から北上川を遡上する津波が確認された。(地震発生後約40分～50分) - 石巻消防本部は地盤高が周辺より高く、車のタイヤ付近程度の浸水で収まった。 - 津波到達時は水流の勢いは無く、静かに水面が上昇してきた。							
山下 A	- 地震による自宅の中の被害は無かった。 - 避難時の石巻工業高校付近の津波による浸水深さは約1.4m～1.5mだった。 - 津波は北上運河と海の2方向から住吉地区に到達した。							
山下 B	- 自宅の天井照明が天井板にあたるほど揺れた。 - 自宅に大きな被害は無かった。 - 町内の被害はブロック塀が2箇所倒壊した程度 - 大街道で渋滞中、側溝から黒い水が溢れてきた。	自宅で1.2m浸水した。						

表-3.79 自主防災会長ヒアリングからの【地震、津波、浸水、地面の亀裂等の自然現象】整理表（その2）

3月11日については、地震発生時～直後（約1時間）の行動とその後の行動とを大別して記載する事とした。

地区	3月11日		3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日以降 *()内は日付	自然現象の確認時点が 特定できないもの
	【地震発生時～直後(約1時間)】	【地震直後約1時間～夜】						
湊			・水押堤防の南側（中里）が水で一杯だった。 ・住吉中学校周辺も水で一杯だった。 ・石巻大橋の左岸（湊側）の道路はひび割れていた。 ・浸水は1階の天井まで上がった痕跡があった。 ・津波が2回かそのくらいあった。					・地域の家は2階の押し入れまで水が上がっていた。
蛇田		・家の前の道路に水がヒタヒタと来た（午後9時頃）						
稲井	・公民館まで水が来た。 ・家の車庫に10cm ぐらいの浸水 ・津波による家の被害は無かった。 ・地震の揺れでは玄関、2階に被害があった。（一部損壊）							
渡波 A	・渡波支所への津波は大宮町方面から来ていた。（地震後30分くらい） ・渡波小学校の周辺では家、車が流れていた。（バリバリと音が鳴っていた） ・渡波支所1階の天井まで津波が来た。							
渡波 B	・万石町のデイサービス施設では津波被害は無かった。 ・家に戻って5分位で津波が来た。 ・津波は西から東に来ていたと思う。 ・線路に囲まれていたので、若干津波の水流が弱かったのでは無いと思う。 ・自宅付近は胸高まで浸水した。 ・自宅付近は流速が早く、外へは出られなかった。							
渡波 C	・牧山では山から石が落ちてきた。 ・津波の被害を受けない家も多かった。 ・地震の揺れで、家具の転倒、ガラスが割れるなどで家に入れない人も集会所に集まった。	・海岸通りの住宅では床上60cm から70cm の浸水深だった。						
荻浜	・余りに大きな揺れだった。 ・荻浜支所2階に上がったとき、津波が来た。 ・道路が寸断されていた。 ・荻浜中学校の体育館は全滅していた。 ・津波で私財を全部持って行かれた。		・ガスは使えた。					・2010年2月にチリ地震津波があった。 ・51年前にチリ地震津波は体験していた。 ・荻浜地区の犠牲者は2人だけだった。 ・陸の孤島のような状態だった。 ・桃浦は被害が酷く、車は通れなかった。 ・女川は満潮になれば冠水していた。 ・山田地区に行くのに、笠織橋が落ちていた。

表-3.80 自主防災会長ヒアリングからの【地震、津波、浸水、地面の亀裂等の自然現象】整理表（その3）

3月11日については、地震発生時～直後（約1時間）の行動とその後の行動とを大別して記載する事とした。

地区	3月11日		3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日以降 *()内は日付	自然現象の確認時点が 特定できないもの
	【地震発生時～直後(約1時間)】	【地震直後約1時間～夜】						
河北	・北上川を上がって津波が来た。 ・エコキュート(400リットル入)タンクが倒れた。 ・ラジオで女川の津波が3mとか6mという情報を得た。 ・波が高く(2mくらい)真っ黒になっていた。 ・余震があった。	・自宅は床下浸水していた。 ・水門まで瓦礫が一杯になっていた。 ・道路に瓦礫が上がって車が通れなかった。						・ハサミ川とカモ川にも瓦礫が入っていた。
雄勝 A	・今まで無かったような地震だった。 ・潮が引き始めた。 ・自宅2階は色々なものが倒れていた。 ・玄関まで水が上がって来ていた。 ・一回目の津波は自然と上がって来た。 ・津波は3波くらい見えた。 ・一回目の津波で家が浮かされ、引き潮でみんな海に持って行かれた。 ・山のお不動さんまで津波が来た。							・地震前から海が黒くなっていた。 ・下(海岸側)にある避難所は、津波によって無くなった。 ・崖崩れがあった。
雄勝 B	・今まで体験したことのない震動だった。 ・屋根瓦が落ちてきた。 ・想像以上の津波が来た。 ・立浜地区の46戸の殆どが津波で流出した。	・周辺は流された家屋で一杯になっていた。 ・津波が雄勝病院の屋上を越えていった。						・道路は破壊されていた。 ・土手が寸断され車は通れなかった。 ・堤防が決壊した。 ・瓦礫の漂流で、舟が接岸できなかった。 ・津波の経験は今回で5回目だった。 ・町内で700艘あった舟のうち600艘が流された。 ・1m以上の地盤沈下があった。 ・海底から泡が一杯出てきた。
桃生	・石巻のホームセンターでは陳列棚から物がすごい勢いで落下してきた。 ・電気はショートして停電になった。 ・断続的な余震があった。 ・ブロック塀が数カ所倒壊していた。							
北上	・小さい津波が上がって来た。 ・高さ15mくらいの津波が上がって来た。 ・月浜の部落が水没した。	・避難所5ヶ所のうち3ヶ所がやられた。(死亡者有り)						・道路は殆ど通行不能になった。 ・国道398号が通行止めになった。
牡鹿	・津波で家が浸かっていた。 ・網地湾の中の水が無くなっていた。							

表-3.81 自主防災会長ヒアリングからの【社会基盤の被害状況、救助活動、地域住民の様子などの社会現象】整理表（その1）

3月11日については、地震発生時～直後（約1時間）の行動とその後の行動とを大別して記載する事とした。

地区	3月11日		3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日以降 *()内は日付	社会現象の確認時点が特定できないもの（上段） その他の状況（下段）
	【地震発生時～直後(約1時間)】	【地震直後約1時間～夜】						
門 脇	・地震発生時は、自宅から3kmほどの大街道地区にいた。 ・多数の車が山下町2丁目交差点へ走ってきた。 ・カーラジオから津波警報を知った(奥方は防災無線の一斉放送を聞いた) ・カーラジオから大津波到達を知った。(気仙沼、女川、鮎川方面) ・防災無線一斉放送が夕方4時～5時頃までであった。 ・前年のチリ地震時の経験から避難しなかった人が結構いた。 ・一旦避難した後に自宅に戻り、亡くなった奥方が結構いた。	・石巻市が被害甚大であることは、夕方6時頃までわからなかった。 ・夜7時半頃、蛇田地区と日和山地区間で携帯がたまたま繋がった。 ・通行人や蛇田小学校に避難中の人から門脇小学校が延焼中だと知った。(自宅も焼失)		・3月14日朝まで自衛隊、県警による通行規制がかかっていた。(蛇田地区-石巻市中心部間)	・離散していた南浜町の各役員と連絡が取れた。(3月14日以降)	・発災後5日間は蛇田小学校には救援食料は届かなかった。(3/15)		・農家からイチゴの差し入れがあった。 ・蛇田地区では飲料水を十分に確保できた。 ・蛇田地区の大型店が営業を再開した。 ・ガソリンは3月後半になって確保できた。 ・南浜町2丁目、3丁目では死亡は180名、650世帯、行方不明で90名いる。 ・1年前に門脇小学校が津波時の市の指定避難所となった。 ・町内役員、世話役、消防団には門脇小学校への避難を周知徹底していた。

表-3.82 自主防災会長ヒアリングからの【社会基盤の被害状況、救助活動、地域住民の様子などの社会現象】整理表（その2）

3月11日については、地震発生時～直後（約1時間）の行動とその後の行動とを大別して記載する事とした。

地区	3月11日		3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日以降 *()内は日付	時点が特定できないもの（上段） その他（下段）
	【地震発生時～直後(約1時間)】	【地震直後約1時間～夜】						
釜・大街道 A	- 地震発生時は、自宅で友達と将棋を指していた。 - 津波避難を指示する緊迫した声の防災無線が聞こえた。 - 上釜会館玄関前に町内の何人か顔を見せた。 - 最終的に20人弱が上釜会館の2階に避難した。 - 自衛隊の防音工事を受けている家では防災無線が聞こえない場合がある。	- 上釜会館1階から軽食（つまみ類）を見つけた。 - 携帯電話は、全く通じなかった。 - 上釜会館周辺の屋根上には、家族が固まって避難していた。	報道や偵察ヘリコプターが飛来した。	- 救助ヘリコプターが飛来して、上釜地区内の人達を救助し始めた。 3/13 午後に上釜会館屋上に救助ヘリコプターが着陸した。 - 石巻赤十字病院からバスに分乗して、それぞれ避難所に向かった。 - 奥方の薬処方のため、石巻赤十字病院にて地区の人と別行動となった。 - 河南の農業改善センターには、約200人が避難していた(畳1枚に2人くらいの密度)設備や避難環境は良好だった。 - 電気や水も入所当初は不通だった。				- 上釜会館に来なかった人の中には亡くなった人がいた。 - 避難翌日くらいから発電機が持ち込まれ、電気が使用できる環境になった。 - 消防団の人がポリタンクに水を運んだり、簡易トイレなどを設置した。 - 上釜町北側の借家前では、ボランティアが炊き出しをしていた。 - 仙台市に居住中の子供と連絡がついたのは、地震発生後1週間たってからだった。 - 上釜町内の死亡者は200数十人に上る。(上釜町内は震災前で約1,000世帯、人口3,000人) - 上釜地区では2階に逃げても2階ごと無くなり、家族全員が死亡した。 - 上釜地区では防火訓練と除細動器の講習会程度 - 上釜地区の人に連絡しようとしたが、離散しており困難を極めた。 - 上釜町内には殆ど人が居住していない状況である。 - 地震後に道路に避難して、近所の人と立ち話中に津波にのまれた人がいる。 - 友人は会長宅から自宅へ戻ったまま、亡くなっていた。 - 隣家男性から津波避難は不要と言われ在宅した老女は亡くなった。またそう助言した隣家男性も後日悔いて自殺した。 - 仮設住宅は開成地区と南境地区で約2,000戸あるが、地元の人がどこにいるかわからない。
釜・大街道 B	- 防災無線は全く聞こえなかった。(自宅、自宅と大街道小学校間) - 自宅から大街道小学校へ向かう周辺地域も避難の雰囲気は無かった。 - 大街道小学校では児童を迎えに来た父兄の車で周辺渋滞が激しかった。 - 家の戸締まりや毛布等の積み込みに家族が5分～10分を要した。 - 車外の奥方が自宅前に津波の到達を確認して、車内の会長に知らせた。	携帯電話は夕方5時頃になったら作動しなくなった。						- 三軒屋東町内会総会でも防災無線を聞いた人はいなかった(2011年6月)。 - 三軒屋東町内には自主防災組織は結成されている。(年1回活動)
								- 防災訓練の内容は、地震時の倒壊物からの救護や手当程度で、津波を想定していなかった。 - 民生委員が要介護者も把握していたが、突然の津波到達で確認することも不可能だった。 3月11日後、1週間経ってから石巻市の被害甚大状況を知った。

表-3.83 自主防災会長ヒアリングからの【社会基盤の被害状況、救助活動、地域住民の様子などの社会現象】整理表（その3）

3月11日については、地震発生時～直後（約1時間）の行動とその後の行動とを大別して記載する事とした。

地区	3月11日		3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日以降 *()内は日付	時点が特定できないもの（上段） その他（下段）
	【地震発生時～直後(約1時間)】	【地震直後約1時間～夜】						
山の手	・ 日和山地区は、殆どの人が日和山公園に避難した。 ・ 日和会の自主防災活動は3月11日から3日間は何もできず、各自で対応した。 ・ 3月11日から3日間は車中泊で食事できなかった。	・ 石巻赤十字病院には各地区からの患者搬送が続き、待合室は無かった。		・ 日和山地区の電話回線は不通、さらに断水、停電状態だった。	・ 石巻市中心部の道路通行が可能になったのは3月14日だった。			・ 日和山地区は、殆ど自宅避難であった。 ・ ライフライン復旧状況については、日和山地区内でも地域差があった。 ・ 防災無線は、館山、古館町から反響してくるので、途中で途切れてしまう。 ・ 丘陵地には住宅が220数世帯が分布している。 ・ 毎年、自主防災活動として、消防署と防火訓練を行っている。 ・ 自主防災会独自の防災マップを用いて避難箇所、避難経路、避難所の周知徹底を実施している。 ・ 日和会の自主防災組織は結成して6年目である。 ・ 日和山地区は都市ガスの整備が進んでいる。
住吉	・ 避難声かけ時には大橋町内会員は殆ど避難完了していた。 ・ 石巻消防本部3階から、緊急避難の呼声が聞こえた。 ・ 石巻消防本部に避難した直後は停電していた。	・ 防災無線は明瞭に聞こえた。 ・ 石巻消防本部へは初日は600名程度の避難者がいた。	・ 3月12日の避難者は約450名だった。	・ 3月14日の避難者は泊まりだけが約200名だった。	・ 3月15日の避難者は約166名だった。		・ 3月19日の避難者は約80名だった。 ・ 3月19日から3月25日の避難者は65名だった。 ・ 市の避難所担当者着任は3月23日だった。	・ 自主防災組織と避難した若い人が協働して給食事務を支援した。 ・ 石巻消防本部周辺では空き店舗への物資強奪による侵入が発生していた。 ・ 大橋町内会の商店からも、ボランティアでトイレトペーパーを供出した。 ・ 石巻消防本部は、市の正式な指定避難場所ではなかった。
山下A	・ 3時頃、若い女の人が避難指示をして回っていた。 ・ 防災無線は聞こえなかった。 ・ 新橋町内会員は殆ど石巻工業高校に避難した。 ・ 新橋町内会には自主防災組織があり、防災会会長も設置されている。	・ 石巻工業高校には飲料水・食料が全くなかった。 ・ 石巻工業高校は停電しており、ストーブだけが確保されていた。 ・ 携帯電話は全く通じなかった。 ・ 3月11日、3月12日は市からの救援物資は何も届かなかった。						・ 新橋町内会の連絡協議会でも防災無線が聞こえなかったという意見が多く出た。 ・ 錦町や清水町2丁目も石巻工業高校に避難していた。 ・ 新橋町内会の自主防災組織は、3～4年前に結成した。 ・ 4年前に防災倉庫を整備したが、資機材のみを保管している。 ・ 河南東中学校には、夜具が完備され、食事環境も良好だった（日3食）。 ・ 新橋町内会では、市内の数カ所に分散避難した。 ・ 新橋町内会の自主防災会役員は、17名在籍している。 ・ 新橋町内会の近くには防災無線のスピーカーは無い。 ・ 避難所では炊き出しは行っていない。 ・ 新橋町内会の指定避難場所は3ヶ所である。（バイパス側の資材置き場、マンション建設中の広場、石巻工業高校裏手の公園）

表-3.84 自主防災会長ヒアリングからの【社会基盤の被害状況、救助活動、地域住民の様子などの社会現象】整理表（その4）

3月11日については、地震発生時～直後（約1時間）の行動とその後の行動とを大別して記載する事とした。

地区	3月11日		3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日以降 *()内は日付	時点が特定できないもの（上段） その他（下段）
	【地震発生時～直後(約1時間)】	【地震直後約1時間～夜】						
山下 B	・ 地域住民が貞山小学校にかなり避難していた。 ・ 大街道が渋滞し、車で動けなくなった。 ・ 防災無線は聞こえなかった（サイレンも）。 ・ 避難はバラバラだった（「組織も何もないです 一瞬の出来事ですから」）。 ・ 防災倉庫が浸水し、使えなかった。 ・ 誰がどこへ逃げたか分からなかった（「散り散り」）。	・ 貞山小学校に避難した人は、夜のうちに自衛隊がボートで移動させた（他の避難所へ）。 ・ 学校（好文館高校）には生徒600人、教員70人、避難者500～600人程度が入っていた。	・ 2日目、3日目から物資が届き始めた。	・ 3/13 牛乳業者から牛乳パックの提供があった（5～6人で冠水地帯を越えてとりに行った）。 ・ 3日目におにぎりが一人一個配給された。				・ 三重県から個人で救援物資を持ってきた人がいた。（4日目頃） ・ 避難所（好文館）に市長が来た。 ・ 菓子パンと飲み物は届いたが、ご飯が届くのは遅かった。 ・ 地区内からは津波による犠牲者はいなかった。 ・ 避難してから1人、2人亡くなった人がいた。 ・ 備蓄機材で役に立ったのはリヤカーだった。（油が切れていたが） ・ ガソリンが不足し、行動が制限された。 ・ 地域の力では、人工透析、寝たきりの方の救助が出来なかった。 ・ 果物を要望したらバナナとイチゴが配給された。 ・ 自衛隊が来てからは3食提供された。 ・ 個人の支援物資もあった。 ・ 避難所への配給物資搬入予定が分からなかった（物資がどれだけ来るか分かれば配給もし易かった）。 ・ 余った物資が集積していった。 ・ 余った支援物資を返そうにも、運搬手段がなかった。 ・ 市の派遣職員は24時間交代で避難所対応をしてくれた。 ・ 避難所の自治組織で毎日6時に連絡会議を開いた。 ・ ボランティアが多く、対応できなかった。 ・ 自主防災組織を作り、8年間訓練をしていた（震災前）。
湊	・ 仙台市内の道路は渋滞していた。 ・ 仙台市から石巻方面の鉄道は止まっていた。 ・ 夜バス会社から乾パンとジュースの差し入れがあった。 ・ ラジオで荒浜あたりに死体は何十もあると聞いた。 ・ 電話は通じなかった。 ・ 地震から津波到達まで40分から1時間ぐらいかかったと湊地区の住民が言っていた。	・ 電気が消えて防災無線が聞こえなかったと地区住民が言っていた。 ・ 11日から12日は食べ物には困らなかった（持ち寄りでしのぐ）。	・ ガソリンスタンドで渋滞していた。 ・ 中里小学校に生徒と父兄が小さい船で行ったり来たりしていた。 ・ 自宅2階に人の足跡があった（誰かが上がった？）。 ・ ヨークベニマルの休憩室には緑町町内会の人が多いいた。	・ 夫人の実家（鹿妻）は津波の被害はほとんどなかった。 ・ 3日目頃から食料がなくなってきた。			・ 4/9に臨時避難所（自宅）から住民が出て行った（4/15から出て行く予定だったが、早く出て行った）。	・ 自宅を臨時避難所として届け出てから食料が届くようになった。 ・ 走れる車はあったが、ガソリンがなく、行動を抑制した。 ・ 緑町町内会の在宅避難住民から食料配給についての要望があった。 ・ 自身（自治会長）への地域住民の相談が多かった（行政から自宅の臨時避難所分（30人）と付近の在宅避難者分（70人）を合わせて100人分の食料配給があった（4/9まで））。 ・ 70戸のうち51人が亡くなった。津波で助かって、後日、疲労、安心で亡くなった人がいた。 ・ 医療班の診察を受けたら血圧が上がっていた（薬を飲まなくてもいいと思っていた）。
蛇田	・ 日本製紙が津波の被害を受けたと聞いた。 ・ 蛇田地区は余り大きな被害はなかった。 ・ 停電していた。 ・ 避難者から大きな被害が起きていることを知った。	・ 防災無線は聞こえたが、意味が聞き取れなかった（大変だと言うことはわかった）。 ・ 防災無線からは津波が来たと言うことはわからなかった。	・ 2日目に大災害であることに気づき出した。					・ 市から簡易担架、ハンドスピーカーなどの支援を受けた。 ・ 蛇田地区の各世帯では避難者を多数受け入れた。 ・ 支援物資は十二分に来ていた。 ・ 支援物資には全く必要ないものも多かった。

表-3.85 自主防災会長ヒアリングからの【社会基盤の被害状況、救助活動、地域住民の様子などの社会現象】整理表（その5）

3月11日については、地震発生時～直後（約1時間）の行動とその後の行動とを大別して記載する事とした。

地区	3月11日		3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日以降 *()内は日付	社会現象の確認時点が特定できないもの（上段） その他の状況（下段）
	【地震発生時～直後(約1時間)】	【地震直後約1時間～夜】						
稲井	・避難所（稲井公民館）にはあまり人はいなかった。 ・自主防災会の役員は、職場から戻れない人もいて、あまり集まらなかった。 ・住民の中には、安全な場所がどこなのかわからない人がいた（わめいている人がいた）。 ・地域内でも場所により防災無線が聞こえない場所があった（公民館通りから新栄二丁目は震災当日に津波警報が聞こえなかった。新栄一丁目は聞こえた）。 ・停電でテレビが見られず、津波が来るという情報はわからなかった。	・1日目の晩は新栄地区の住民300人位が避難所（稲井公民館）に集まった。	・2日目に避難所の地域住民はほとんどが自宅へ戻った。 ・2日目に大瓜前、西部、湊の方から着の身着のままで避難してきた人が約200人収容された（稲井公民館）。 ・稲井地域外からの避難者は、稲井公民館、稲井小学校、稲井中学校に分かれて収容された。 ・稲井公民館への地域外からの避難者は市の指示で避難してきた。 ・自主防災会は役員が不足、極めて多忙だった（てんてこ舞い）。 ・トイレの確保、水、食料確保が大変な作業だった。 ・ガスはプロパンガスが使えた。					・給水車が来た（3日目後だったか、5日後だったか）。 ・稲井公民館には公民館の職員3人、保育所の職員5～6人、稲井支所の職員も避難していた。 ・市にガソリン、灯油、食料等を要請しようとしたが、連絡が取れない（通信手段がない）。 ・2、3日前の地震津波(高さ約1m)をみて、みんな油断していたのではないと思う。 ・稲井東部は平成14年から自主防災組織がある。 ・地域の自主防災訓練には市から防災対策課、消防署、消防団が参画している。

表-3.86 自主防災会長ヒアリングからの【社会基盤の被害状況、救助活動、地域住民の様子などの社会現象】整理表（その6）

3月11日については、地震発生時～直後（約1時間）の行動とその後の行動とを大別して記載する事とした。

地区	3月11日		3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日以降 *()内は日付	社会現象の確認時点が特定できないもの（上段） その他の状況（下段）
	【地震発生時～直後(約1時間)】	【地震直後約1時間～夜】						
渡波 A	・ 渡波支所に集合した連合会役員は会長(自身)、副会長1人、幹事1人だけだった。 ・ 渡波支所に集合していない役員、各会長には連絡が取れなかった(携帯が不通)。 ・ 高齢者は一次避難所(渡波支所)に避難し、若い人は少し先の渡波小学校へ避難した。 ・ 渡波支所では、職員を海岸に派遣し、津波を監視していた。 ・ 渡波小学校を通り過ぎて渡波支所に避難して来る人もいた。 ・ 住民の避難を誘導中に、津波に囲まれた。	・ 渡波小学校に避難した人が1階に留まり、後続の避難者が入れなくなっていた。 ・ 石巻市の市街地は、避難者が行き場を失い輻輳していた。 ・ 携帯電話は通じなかった。 ・ 会長(自身)は亡くなったと役所では思っていた(後で聞いた話)。 ・ 避難所では一週間支援物資は来なかった。 ・ 渡波小学校には食料の備蓄があった(乾パン、レトルトが1,500食)。 ・ 渡波小学校には水が備蓄されていたが、消費期限が過ぎていた。	・ 渡波小学校は満員で空きスペースはなかった。 ・ 生協から渡波小学校の道は、車が山になっていた。 ・ 渡波駅では、津波に乗って屋根に逃がれて助かった人がいたと聞いた。 ・ 市役所本庁と連絡が取れなかった。 ・ 市役所から支所の防災無線を通じ、地域の被害状況確認があった。					・ 自衛隊が食料、水を搬送してきた(大体、一週間ぐらい)。 ・ 渡波支所には、期限切れの備蓄食料に対して試食会をした際の余剰分が備蓄されていた。 ・ 渡波地区では、渡波支所が食料が一番多かったと聞いた(後日談)。 ・ 1ヶ月ぐらいして市から物資が届いた。 ・ 支所以外の避難所から支所の炊き出しに対する誤解や批判があった(役所だから物資があると誤解、実際は地域の持ち寄り対応)。 ・ 学校で火は使ってはいけないと教育委員会から内示があった(炊き出しに不都合)。 ・ 学校の避難所では火気取扱い(炊き出し)許可を得るのに2ヶ月を要した。 ・ 渡波支所以外の避難者も支所の炊き出しに並んだ(複数の炊き出し、配給場所を回る人がいた)。 ・ 配給場所を回って食料や物資を集めて貯め込んでいる人もいた。 ・ 渡波小学区に地区の医療関係の本部が設置された。 ・ 市の職員が相互に感情的になっていた(連絡の支障になった)。 ・ 津波対策モデル地区では、区長が一軒一軒声かけしたが、それでも避難しない人がいた(チリ地震津波程度と過信したので当該地域は犠牲が多かった)。 ・ 震災時神戸から人が来て支援物資を置いていった。 ・ 神戸からの支援は今でも続いている(24年2月現在)。 ・ ボランティア団体(オンザロード)が支所で100人体制、4～5ヶ月間支援活動をしてくれた。 ・ 遺体の仮安置場所がなく困った(市、警察では渡波は渡波で対応してもらうように言われた)。 ・ 遺体の仮安置を一時、公民館ホールで行った。 ・ 警察から鑑識の方が来て、渡波公民館で遺体の鑑識を行った。 ・ 海上自衛隊の艦船で風呂の提供があった。陸上自衛隊は万石浦中学校に風呂を開設した。 ・ 1ヶ月後から2ヵ月後に自衛隊から給水があった。 ・ 事前の防災訓練で自主避難の浸透に努めていたことは効果があった。 ・ 自主避難だけでなく、近所間の声かけ(相互で避難の促し)浸透に努めていたのが効果があった。

表-3.87 自主防災会長ヒアリングからの【社会基盤の被害状況、救助活動、地域住民の様子などの社会現象】整理表（その7）

3月11日については、地震発生時～直後（約1時間）の行動とその後の行動とを大別して記載する事とした。

地区	3月11日		3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日以降 *()内は日付	社会現象の確認時点が特定できないもの（上段） その他の状況（下段）
	【地震発生時～直後(約1時間)】	【地震直後約1時間～夜】						
渡波 B	・線路近くの家は流された車が衝突して被害が出た。 ・防災無線のサイレンは聞こえたが、話している内容はわからなかった。 ・港の国道398号は余り混んでいなかった（渋滞していなかった）。 ・鹿妻小学校の前は、渋滞していた（保護者が児童を迎えに行ったのではないかと思う）。 ・渡波小学校に児童を迎えに行った保護者の車が駅の線路に何十台と重なっていた。 ・「津波が来るから逃げましょう」と言っても逃げない人がいた（家の片付けなどをしていた）。	・渡波駅に重なった車には見た限り人はいなかった。 ・線路からトンネル（大和田トンネル）の間に犠牲者が4人いた。 ・犠牲者の遺体収容は地域の力ではできなかった。		・渡波小学校は排水後、1階にブルーシートをひいて避難者を収容した。 ・犠牲者の遺体収容は3日目に消防団が行った。 ・当該地区は排水が遅く、外に出られたのは3日目頃（渡波地区全体の排水状況は早かった）。				・自主防災会は出来たばかりで組織化されていなかった。 ・自主防災会の防災訓練には参加者が少なかった（500世帯から35人が参加）。 ・避難所の運営は学校の教員が行っていた。 ・石巻赤十字病院の婦長が渡波小学校に詰めていた。 ・在宅の避難者への物資の配給が少なかった。 ・地区での物資の配給ができたのは1週間後ぐらい。 ・（牡鹿）半島からの道路が開通すると、避難者が渡波に移動してきた（1日に100人ぐらい）。 ・電気は10日ぐらいで復旧した。水道は電気の後復旧した（電気は10日程）。 ・自主防災会の会員が避難所に離散し、自主防災会に参画できなかった。 ・ストーブは冠水して使用できなかった。 ・ガソリンが入手できなかった。 ・地域の業者が救援物資を避難所に供給してくれた（アイノヤ、冷凍物）。 ・渡波小学校には非常食、ブルーシート（150組）毛布（150か200）が備蓄されていた。 ・避難所として最後に残ったのは「うしお荘」というところだった。 ・避難所には行政から誰も来なかった（避難所担当職員）。 ・AEDの講習は日ごろ行っていた（40人以上が免許を持っていた）。 ・支援物資の配送はヘリコプターだった（物資が少なかった）。 ・自主防災会の会員の多くは職場に行き、自主防災活動には参画できなかった。 ・公民館の避難者は、自分たちで活動して食料を確保していた。 ・各家庭の備蓄食料は発災後1週間ほどで尽きた。 ・公的な支援（物資、食料）以外に、地域団体などから支援があった（電気商組合、寺院など）。 ・地震発生後3日か4日後に、町内会長の連合会会議があり、情報交換ができた。 ・行政との交渉は市支所ではできず、市役所本庁へ行く必要があった。 ・市役所本庁へ交渉に行く必要があったが、交通手段がなかった。 ・在宅の避難者と避難所収容者に支援の格差があった。

表-3.88 自主防災会長ヒアリングからの【社会基盤の被害状況、救助活動、地域住民の様子などの社会現象】整理表（その8）

3月11日については、地震発生時～直後（約1時間）の行動とその後の行動とを大別して記載する事とした。

地区	3月11日		3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日以降 *()内は日付	社会現象の確認時点が特定できないもの（上段） その他の状況（下段）
	【地震発生時～直後(約1時間)】	【地震直後約1時間～夜】						
渡波C	- サイクリングから自宅に戻った時には祝田地区の住民は集会所に集合していた。 - 祝田地区の住民が小型発電機を集会所に設置した。 - 津波に浸かり濡れた人は祝田二区内にはいない。	集会所には70人近く集まった。	飲み水は万石浦中学校から支給された(イオンの支援物資)。				排水ポンプ操作が自動化された(10/30)。	- 地震前から、県道（鮎川道路）に一時避難し、落ち着いてから集会所に集まるよう地域の人と話していた。 - 避難所では沢の水が使える（沢が二本あり、一本は飲料、一本は洗濯と使い分けた）。 - 避難所では水産関係の人が水汲みを担当してくれた。 - 避難所では女性が炊き出しを担当してくれた。冷蔵庫にあるものを避難所に持ち寄った。 - 女性が炊き出しし、暖かいものが食べられた（カレーなど工夫してくれた）。 - 男性は山で木を切り出して薪にした（炊事用の発電機のガソリンが枯渇した）。 3日から4日かして、自衛隊が支援物資を持ち込んだ（水、米、味噌、醤油、野菜、毛布など）。 - 水産会社から魚の提供を受けた（何十キロ）。 - ワカメのメカブ（カップ入り）の提供を受けた。 - 加工工場のタンクから水の提供を受けた。 - 飲み水に不足はなかった。 - 集会所を避難所として指定する旨の回答があった（市職員が避難所として適しているか調査に来た）。 - 農家から嫁いだ人が多いため、各戸に米の備蓄が多かった（米に不足はなかった）。 - 地域の助け合いは円滑だった。 - 飲料水は沢水を薪で沸かして確保していた。 - 集会所への避難者は最終的に10人ぐらいとなった（1ヵ月後ぐらい）。 - 台風15号で自宅が床上浸水した。 - 足の悪い人も集会所に避難した（防災訓練の効果の例示として）。 - 万石橋は通行止めにならなかった。 - 万石橋から渡波側に渡れず、車中泊している人が多かった。 - 携帯電話の復旧は1週間から10日ぐらいかかった（場所によってはつながった）。 - 集会所の前に携帯電話の移動中継局が設置された。 - 外からの情報はラジオだけだった（テレビは不可、新聞は河北新報が早かった 朝日は遅かった）。 - 足の不自由な人は背負う形が一番早く避難できた。
								- 浸水区域とがけ崩れのマップを配布したことがある。 - 防災訓練は2年に1回やっていた（消火訓練、救護活動）

表-3.89 自主防災会長ヒアリングからの【社会基盤の被害状況、救助活動、地域住民の様子などの社会現象】整理表（その9）

3月11日については、地震発生時～直後（約1時間）の行動とその後の行動とを大別して記載する事とした。

地区	3月11日		3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日以降 *()内は日付	社会現象の確認時点が特定できないもの（上段） その他の状況（下段）
	【地震発生時～直後(約1時間)】	【地震直後約1時間～夜】						
荻浜	- 消防団の人たちが水門を閉めていた。 - 市職員が子供をおんぶして屋上に上がってくれた。 - 荻浜中学校の避難者は100人近くいた。 - 市の防災無線は、最初は聞こえたが、その後一切聞こえなかった。 - 逃げようとしなかった人が何人かいた。		- 自衛隊のヘリコプターで病人を搬送してもらった(4人くらい)。 - 電気・水道は使えなかった。	- 泥の中から自動販売機を壊して、ジュースやタバコを持って行った。 - 電気が使えないのでロウソクで過ごした。 - トイレ用の水をプールの海水を汲んで、樽に貯めていた。				- 声かけは皆でしていた。 - 物資をもって色々な人が避難所に来てくれたので食べ物には不自由はしなかった。 - 車は鍵をつけて置いていってくれた人がいた。 - 物資は自衛隊がずっと提供してくれた。 - 携帯電話、電話が一切使えなかった。 - ソフトバンクが中継局の工事をした。 - 一番最初に来てくれたボランティア（長野県の住職）が重機を提供してくれた。 - 神戸のボランティアからはフォークリフトをもらった。 - トイレ用の水は子ども達は何回もリレーして汲んでくれた。 - 病人を早めに搬送してもらった。 8月ぐらいになり避難所は40人くらいになった。 - 自衛隊が1、2週間毎に1回避難所に来てシャワー提供支援を行った。 - 魚を採っても売れない風評被害があった。 - ボランティアの皆さんの手が無かったら、上手くやっていけなかった。 - 避難訓練はやっていた（震災前）。
河北	- 防災無線による津波警報は聞こえなかった。 - 停電になった。 - 生活改善センターと民間施設の民芸ハウスには30人くらいが泊まっていた。							4、5日は炊き出しをしていた。 - 市や自衛隊、日本赤十字から物資支援がきた。 - 避難所は5、6月頃帰った人たちもいたし、まだいる人もいた。 - 小学生が相当犠牲になったので消防の捜索活動があった。 - 生活改善センターには70名～80名が一晩泊まり、ピックアップに移動した。 - ダンプや重機を持っている人達で片付けをした。 - 平成23年1月1日に自主防災会を立ち上げていた。 - 平成23年3月6日の訓練で役割分担を確認していた。
雄勝A	- 電気も何もない状態だった。 - 避難所に人がだんだん集まってきた。 - 避難所には大体100人から150人くらいいた。 - 防災無線は聞こえた。	3月11日だけ水道が使えなかった - プロパンは使えた - 燃やすストーブ（湯沸し式）は10台くらいあった（寒い思いはしなかった）。						- 避難所は最終的に189人になっていた。 - 避難所で漁夫連が買ってくれた畳を引いた。 - お寺にあった毛布や布団、シーツ（70くらい）を皆で運んだ。 1組の布団を3人で使い雑魚寝した。 - 消防の方たちは各戸の戸をたたいて避難誘導していた。 - 色々な医療チームが毎日のように診断してくれた。 - 水は断水していた。 - 市の水道管につないで水道を使えるようにした。 - トイレは簡易水洗なのですぐに溜まった。 3日目あたりにショベルカーでの道路修復作業が始まった。 3月末頃から自衛隊から燃料補給を受けた。 - 震災前に高さ6mくらいの津波が来ると想定し、柱に印をつけていた（こんなものがあるかと疑問視していたが）。 - 毎年、防災訓練は実施していた。

表-3.90 自主防災会長ヒアリングからの【社会基盤の被害状況、救助活動、地域住民の様子などの社会現象】整理表（その10）

3月11日については、地震発生時～直後（約1時間）の行動とその後の行動とを大別して記載する事とした。

地区	3月11日		3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日以降 *()内は日付	社会現象の確認時点が特定できないもの（上段） その他の状況（下段）
	【地震発生時～直後(約1時間)】	【地震直後約1時間～夜】						
雄勝 B								・ 自衛隊の人たちが道路の瓦礫を啓開してくれた。 ・ 自衛隊は一生懸命、瓦礫の処理をしていた。
河南	・ 防災無線は聞こえなかった。							・ 仮設住宅は2011年の10月～11月頃に建った。 ・ 電気が使えなくて発電機を使っていた。 ・ 被害が余りなかったので自宅待機していた。
桃生	・ 石巻市の防災無線が鳴っていた。 ・ 夕方は停電していた。	・ 水道は断水していた。 ・ ガスはプロパンだったので使えた。						・ 輪番制で炊き出しをした。 ・ 給水車が来た。 ・ 市の職員が被害調査に来た。
北上	・ 防災無線はよく聞こえなかった。		・ 月浜中学校の体育館に40人くらいが避難した。 ・ 夕方くらいに支援物資がきた。					・ 女川という部落では津波の被害がなかった。 ・ 女川の部落で炊き出しをした。 ・ 水道は使えなかった。 ・ 発災後10日くらいはもらった毛布でごろ寝していた。 ・ 電気は使えなかった。 ・ 給水車がきた（1週間くらい経ってから）。 ・ 電気は1ヶ月くらいで復旧した。 ・ おにぎりやパンの支給がきた（発災後10日位経ってから）。 ・ 部落の人たちで仮設道路を作った。
牡鹿	・ 津波警報は出ていた ・ 自主防災会として避難誘導はしていない（地区住民の人数も少なく一声かければまとまる）。							・ 15mの津波を想定した講習や研修はしていた（でも活かされていない）。 ・ 3年前から防災訓練をしていた（避難訓練、火災訓練）。 ・ 支援物資は発災後2、3日で来た。

表-3.91 自主防災会長ヒアリングからの【ヒアリング対象者の見解または感想、市や災害対策関係機関への要望、その他】整理表（その１）

ID1	地区	日	区分	発言内容
jichi0756	稲井	-	その他	自主防災、自主防犯ではなく、町内会の組織がしっかりしていればすぐ機能する
jichi0757	稲井	-	その他	町内役員で井内東部地域の災害危険箇所を見回り、市に対策を要望しようとしている
jichi0763	稲井	-	その他	防災無線の聞こえない地域を解消して欲しい
jichi0765	稲井	-	その他	避難所に飲料水、食料、毛布、ストーブ、灯油を備蓄して欲しい
jichi0766	稲井	-	その他	仮設トイレ、ガソリンなど市と業者が協定を結んでいて民間に回らなかった。公平になるように改善して欲しい
jichi0767	稲井	-	その他	地域の中央公園に災害用トイレを設置して欲しい
jichi0359	荻浜	-	その他	復興作業はもう少し早いペースでやってほしい
jichi0360	荻浜	-	その他	仮設住宅ももう少し良い場所があれば良かった
jichi0361	荻浜	-	その他	荻浜地区に仮設集会所を建ててほしい
jichi0365	荻浜	-	その他	避難所では頭になる人が2人も3人もいると派閥を作って上手くいかない
jichi0368	荻浜	-	その他	防災無線は完全なシステムにしてもらいたい
jichi0369	荻浜	-	その他	避難道路を優先して整備して欲しい
jichi0376	荻浜	-	その他	「今日は何が必要ですか？」という問いかけは非常に良かった
jichi0377	荻浜	-	その他	車があってもガソリンがなかった
jichi0492	雄勝	-	その他	指定された避難場所は結局、津波でダメだった
jichi0493	雄勝	-	その他	身をもって避難訓練をしないといけない
jichi0494	雄勝	-	その他	発電機があれば良い
jichi0495	雄勝	-	その他	ヘリコプターで降りられる広場があれば良い
jichi0463	雄勝	-	その他	とにかく油と水の確保が不可欠である。
jichi0467	雄勝	-	その他	自主防災会として物を用意していたのは助かった
jichi0471	雄勝	-	その他	防災無線を直してもらいたい
jichi0446	雄勝	震災前	その他	10年ぐらい前から自主防災会を作れと市から言われていた
jichi0604	牡鹿	-	その他	自主防災会が特別役にたったことはない（人数が少ない、すぐまとまる）
jichi0605	牡鹿	-	その他	毛布や非常食があれば良い
jichi0606	牡鹿	-	その他	発電機は幾つあっても良い
jichi0607	牡鹿	-	その他	情報は全く得られなかった
jichi0608	牡鹿	-	その他	連絡手段が何も繋がらなかった
jichi0609	牡鹿	-	その他	緊急的な電話回線の確保
jichi0002	門脇	-	その他	夕方6時に門脇地区町内会長の連絡協議会を予定していた
jichi0026	門脇	-	その他	自主防災活動は防火対策と北上川の増水対策、さらに高潮対策を想定して行っていた
jichi0046	門脇	-	その他	浸水した石巻市中心部、日和山、鰐山などの山地、津波被害を免れた内陸間での連絡網寸断が大きな課題である
jichi0047	門脇	-	その他	津波から被災を免れる内陸部と日和山、石巻市の中心部を結ぶ避難幹線道路完備は絶対に必要
jichi0048	門脇	-	その他	集団移転を余儀なくされる人達にも地区情報を継続して提供していきたい(約1400世帯分が復興計画で公園敷となる)
jichi0051	門脇	-	その他	南浜町は先人は住まなかった不毛の地帯にできた戦後の新しい町である
jichi0052	門脇	-	その他	大津波がくる様な危険な場所に町を作って、そこで立派な防災組織を立ち上げても効果は無い
jichi0053	門脇	-	その他	津波災害に関する事例マニュアル化、データベース化による教育・啓発システムを作っていくべきである
jichi0513	河南	-	その他	津波から避難するのはやっぱり高台である
jichi0514	河南	-	その他	高台に通じる道路の整備が必要
jichi0515	河南	-	その他	市としての迅速な対応が望まれる
jichi0061	釜・大街道	3/11	状況B	二度目の強い地震が来た
jichi0138	釜・大街道	-	その他	平坦な土地での大津波襲来時の避難経路、緊急避難場所（建物）の確保検討が必要
jichi0139	釜・大街道	-	その他	石巻市と避難所間との相互情報連絡体制が不十分だった
jichi0140	釜・大街道	-	その他	石巻市の普段の防災対策に油断があった（通信機器の浸水等）
jichi0170	釜・大街道	-	その他	三軒屋東町内会総会でも防災無線の充実が市への要望事項で上げられた。
jichi0180	釜・大街道	-	その他	市域を完璧に網羅する形での防災無線設置が不可欠である。
jichi0181	釜・大街道	-	その他	防災無線を不要不急な時に使わない様、平時の使用方法を再検討すべき
jichi0143	釜・大街道	不明	その他	市の指定避難所は遠すぎるので、段階的な避難策検討が必要
jichi0408	河北	-	その他	自主防災会として、情報部や消防部、救出・救護部と分担しており役にたった
jichi0413	河北	-	その他	指定避難場所の選定は高台を希望する
jichi0414	河北	-	その他	資機材、発電機、収納庫の導入をお願いしたい（備品も含めて）
jichi0415	河北	-	その他	車の燃料の確保が不可欠
jichi0416	河北	-	その他	証明書（購買ができるような）を発行してほしい
jichi0417	河北	-	その他	子ども達も交えて防災マップ作りや防災訓練をやれば良いと思う
jichi0406	河北	不明	状況A	道路が寸断されていた。
jichi0564	北上	-	その他	防災訓練そのものが大きな津波を想定していなかった
jichi0566	北上	-	その他	防災訓練は活かされてなかった（想定外の地震、津波）
jichi0578	北上	-	その他	市の対応は本当に遅かった
jichi0579	北上	-	その他	仮設住宅は冬は寒いし夏は暑い
jichi0584	北上	-	その他	避難所は高台に設置することを希望する。
jichi0244	住吉	-	その他	自主防災活動は一つの訓練として活動を続けるべきである
jichi0245	住吉	-	その他	災害発生後、直ちに市職員が連絡員を各避難所へ配置すべき
jichi0246	住吉	-	その他	小学校、中学校の避難所では先生方が支援に入っている

表-3.92 自主防災会長ヒアリングからの【ヒアリング対象者の見解または感想、市や災害対策関係機関への要望、その他】整理表（その2）

ID1	地区	日	区分	発言内容
j ichi0247	住吉	-	その他	物的支援対応より人的配置対応を優先すべき
j ichi0248	住吉	-	その他	各自主防災組織にも避難所からの市の対応窓口（市部署）を事前に通知、明示しておくべき
j ichi0249	住吉	-	その他	市の方で避難所対応をマニュアル化しておくべき
j ichi0711	蛇田	-	その他	日ごろの訓練の想定を超える災害だった
j ichi0712	蛇田	-	その他	訓練では自分たちが被災者になることを想定したが、今回は救助に回った（救助を想定していなかった）
j ichi0715	蛇田	-	その他	地域の会館で被災者を受け入れたが（仮入居）、もっと早く受け入れられた（市から早い指示がほしかった）
j ichi0717	蛇田	-	その他	各世帯で受け入れた避難者への行政からの支援が避難所の避難者に比べ薄かった（厚くしてほしい）
j ichi0718	蛇田	-	その他	アパート等に仮入居した人には補助金があったが、自宅に受け入れた人は自腹となった（今後検討して欲しい）
j ichi0722	蛇田	-	その他	農業など地域産業の再生を行政で支援して欲しい
j ichi0723	蛇田	-	その他	蛇田地区には耕作していない農地があるので、被災者の移転を進めてはどうか
j ichi0657	湊	-	その他	公園に避難するのはみんな嫌だ
j ichi0659	湊	-	その他	津波では防災訓練は役に立たない
j ichi0660	湊	-	その他	今までやっていた防災訓練はなんだったのかと思う
j ichi0661	湊	-	その他	1年に1回の訓練で救護訓練、人工呼吸とかを実施したが忘れてしまう
j ichi0662	湊	-	その他	防災訓練は実際には役に立たなかった
j ichi0665	湊	-	その他	40分から1時間あれば速くまで逃げられると思う
j ichi0666	湊	-	その他	今回のような津波の怖さを判らない人が多かったと思う
j ichi0668	湊	-	その他	防災無線を停電時にも使えるようにしてはどうか
j ichi0669	湊	-	その他	津波が来るとなったら、地域に声をかけて自身もすぐに逃げるほかない
j ichi0671	湊	-	その他	身内の遺体をどうしていいのかわからなかった
j ichi0672	湊	-	その他	遺体の搬送先などの情報もほしかった
j ichi0674	湊	-	その他	飲料水がほしかった
j ichi0676	湊	-	その他	電気、水道の復旧は早くしてほしい
j ichi0677	湊	-	その他	インターネットを使わない人は震災後の対応が不利だったと思う
j ichi0682	湊	-	その他	一番の要望は防災無線だ
j ichi0683	湊	-	その他	津波が来るとは言われていたが、まさか来るとは思わなかった
j ichi0536	桃生	-	その他	自主防災組織の細分化が必要
j ichi0537	桃生	-	その他	自家発電機や投光機が非常に役に立った
j ichi0538	桃生	-	その他	テレビがあれば尚更良かった
j ichi0541	桃生	-	その他	一人暮らしの方の名簿作成が必要
j ichi0542	桃生	-	その他	自主防災会費の徴収も必要
j ichi0543	桃生	-	その他	自主防災会運営費の捻出が大変
j ichi0544	桃生	-	その他	最低限のマニュアルを作っておく必要がある
j ichi0545	桃生	-	その他	初動体制の徹底
j ichi0546	桃生	-	その他	2、3日分くらいの非常食の備蓄
j ichi0547	桃生	-	その他	防災に対する資機材が必要
j ichi0548	桃生	-	その他	資材置き場などの防災用の倉庫が必要
j ichi0549	桃生	-	その他	防災の備蓄倉庫の購入に市のほうで何とか援助してもらいたい
j ichi0550	桃生	-	その他	防災講座みたいなものを積極的にやって欲しい
j ichi0551	桃生	-	その他	行政も含めて協議会的なものを早く設立してほしい
j ichi0552	桃生	-	その他	行政も含めて協議会的なもので意見を交換することが大事
j ichi0553	桃生	-	その他	備蓄倉庫が必要
j ichi0539	桃生	震災前	その他	タンス、茶ダンスの倒壊・転倒防止金具を付けていたたいので役に立った
j ichi0291	山下	-	その他	防災倉庫に保存食や燃料の備蓄が必要である（アルファ米とか缶詰類、飲み物、薪）
j ichi0293	山下	-	その他	防災訓練を実施する場所の提供をお願いしたい(100坪程度)
j ichi0295	山下	-	その他	新橋町内会周辺に防災無線が1ヶ所でも欲しい
j ichi0296	山下	-	その他	自治会長からは個人宅向けの個別受信機の設置が要望として出ている(自治会役員宅のみでも可)
j ichi1033	山下	-	その他	助け合いのまちを目標に自主防災会をやっている
j ichi1035	山下	-	その他	防災無線（屋外型）の出力を上げて欲しい
j ichi1036	山下	－	その他	防災無線（戸別型）を整備して欲しい
j ichi1037	山下	－	その他	避難所に避難所である旨の看板を設置して欲しい
j ichi1038	山下	－	その他	避難場所には水、食料、寝具、発電機、簡易トイレを備蓄して欲しい
j ichi1040	山下	－	その他	寒さ対策が十分でなかった（暑さ対策も今後必要だろう）
j ichi1044	山下	－	その他	支援物資の搬入予定を事前に通知して欲しかった
j ichi1045	山下	－	その他	災害の映像を記録にとどめて、防災教育に使いたい
j ichi1046	山下	－	その他	津波の到達した地点に表示を作りたい（モニュメント？、表示板？）
j ichi0184	山の手	-	その他	日和山は丘陵地で、東側は崖地形となっており、土砂崩壊防備林に指定されている
j ichi0190	山の手	-	その他	日和会は自治会、町内会と緊密な連携体制の強化を図り、防災・防犯活動を担っている
j ichi0811	渡波	-	その他	渡波は石巻市の自主防災活動のモデル地区として活動していた 自費で出費も多かったが、地域は災害で壊滅し、行政の支援は発災後一週間もかかった 今後、自主防災組織を強化するといっても方法が思いつかない
j ichi0828	渡波	-	その他	食料や物資の配給は避難者の自立心を阻害するおそれがある
j ichi0831	渡波	-	その他	行政の連絡網が不備だった（改善して欲しい）
j ichi0846	渡波	-	その他	自衛隊の活動を早くから国で指示してくれるといい

表-3.93 自主防災会長ヒアリングからの【ヒアリング対象者の見解または感想、市や災害対策関係機関への要望、その他】整理表（その3）

ID1	地区	日	区分	発言内容
jichi0943	渡波	-	その他	避難所に指定されていないところでも、どこに人が集まっているかを早く行政で把握し、支援して欲しい
jichi0957	渡波	-	その他	地震後、集会所に住民が避難したのは防災訓練の効果だと思う
jichi0959	渡波	-	その他	小さな浜には小さな避難所を指定し、きめ細かい援助をして欲しい
jichi0960	渡波	-	その他	復旧の土木工事は、小出しにせず一気にやって欲しい（何度も役所に行くのが不便）
jichi0968	渡波	-	その他	市の避難訓練マニュアルには足の不自由な人をリヤカーに乗せるとあるが、山がちな渡波地区では難しい
jichi0894	渡波	-	その他	犠牲になった人は自宅に残ったか、避難中に津波に流されたのではないかと思う
jichi0895	渡波	-	その他	自主防災会はある程度の被害であれば機能するが、被害が大きいと役に立たない
jichi0896	渡波	-	その他	今後は避難所だけでなく、在宅避難者への支援も検討しておく必要がある
jichi0909	渡波	-	その他	防災無線を戸別に設置して欲しい（停電時にも使える充電式で）
jichi0910	渡波	-	その他	各戸に防災無線を設置できないのであれば区長など地区に一つ欲しい
jichi0911	渡波	-	その他	防災備蓄を充実して欲しい
jichi0913	渡波	-	その他	仮設への入居は地区のコミュニティーに配慮して欲しい
jichi0773	渡波	不明	その他	自身が渡波地区の連合会長をつとめており、地震発生時には連合会の役員は渡波支所に参集する取り決めになっていた
jichi0871	渡波	不明	その他	チリ津波のときの渡波地区の被害は小さかった（それが先入観になっていたと思う）